

トイレのオールジェンダー利用に関する意識調査2022 報告書（公開用資料）

Public Report on the “2022 Study of Attitudes Regarding Restrooms for All-Gender Use”

トイレのオールジェンダー利用に関する研究会(編)

（国立大学法人 金沢大学・コマニー 株式会社・株式会社 LIXIL）

Research Group on Restrooms for All-Gender Use (Kanazawa University, COMANY INC., LIXIL Corporation)

2026年3月



はじめに

「トイレのオールジェンダー利用に関する研究会」の前身である「オフィストイレのオールジェンダー利用に関する研究会」は、2017年7月に発足しました。その5年後の2022年に公共施設も対象に加えた調査を実施するにあたり、研究会名称を「トイレのオールジェンダー利用に関する研究会」に改め、活動を継続してまいりました。

2022年調査の結果を取りまとめる本報告書の編集中であった2024年11月7日、座長の岩本先生がご逝去されました。ジェンダー学・社会学・統計学の観点から本研究に多大なご助言を賜っていた先生を失い、その後の取りまとめにおいては、先生の知見を踏まえつつ、残されたメンバーで慎重に検討を重ねました。

作業着手から3年以上を要しましたが、本報告書を完成し公開できる運びとなりました。

ここに、2017年の研究会発足当時に金沢大学の研究代表者であった岩本先生が、研究会の活動趣旨として寄せられたメッセージを掲載します。

本メッセージは、先生のご生前の問題意識と本研究会の出発点を示す記録として、研究会の責任において掲載するものです。

初心に帰るとともに、先生のごこれまでのご貢献に深く感謝し、心からご冥福をお祈りいたします。

この研究会発足のきっかけは、今年、コマニーから石川県の性的マイノリティの団体を通じて私にアドバイスを求められたことでした。これまでもLIXILと特定非営利活動法人虹色ダイバーシティが昨年4月に発表した「性的マイノリティのトイレ問題に関するWEB調査結果」にて、性自認によっては職場でのトイレ利用が困難なことが判明しています。

今回この問題を深掘りし、両社とともに、本研究会をスタートすることになりました。さまざまな職場での状況や取組みを踏まえ、トイレ空間と利用者の両面から、どのようなジェンダーの人にも安心して快適なトイレが社会に広まることを目指して活動します。

本報告書から引用される際のお願い

本報告書から引用される際には、必ず下記の表記をお願いします。

和文： トイレのオールジェンダー利用に関する研究会2022（金沢大学、コマニー、LIXIL）

英文： Research Group on Restrooms for All-Gender Use 2022 (Kanazawa University, COMANY INC., LIXIL Corporation)

※金沢大学、コマニー、LIXILの3者は対等な立場であり順番に優劣はありません。
一部を省略することを禁じます。

CONTENTS

1. 「トイレのオールジェンダー利用に関する研究会」について	 4
2. 調査実施概要	 6
3. 調査結果報告	 17
3-1. トランスジェンダーの割合	 17
3-2. 就労状況・プライベート状況	 21
3-3. トイレの利用状況（オフィス・公共施設）	 32
3-4. カミングアウト状況と利用しているトイレ	 38
3-5. トイレ利用のストレス・不満点、小便器間の仕切り（オフィス・公共施設）	 43
3-6. 「多機能トイレ」に関する意識・利用状況（オフィス・公共施設）	 57
3-7. 「男女共用個室トイレ」の利用に関する意識（オフィス・公共施設）	 75
3-8. 「男女共用個室トイレ」の設備・機能（オフィス・公共施設）	 90
3-9. 「男女共用個室トイレ」のレイアウト（オフィス・公共施設）	
①「男女共用個室トイレ」を含むレイアウト：5パターン比較	 97
②「男女共用個室トイレ」の並列レイアウト：3パターン比較	 115
3-10. トイレのサイン：男女別トイレ・男女共用トイレ（オフィス・公共施設）	 122
3-11. トランスジェンダーに対するシスジェンダーの意識（オフィス・公共施設）	 129
3-12. ダイバーシティに対する企業の取り組みへの意識	 148
4. 補足資料（用語解説、参考文献等）	 151

1. 「トイレのオールジェンダー利用に関する研究会」について

トイレのオールジェンダー利用に関する研究会について

国立大学法人 金沢大学、コマニー株式会社、株式会社LIXILの3者による、産学共同研究会です

研究会からのメッセージ

トイレ利用は、人間の尊厳にも関わる人権のひとつでもあります。本研究は、研究会メンバー3者の知見を掛け合わせることで、「オールジェンダーに対してあるべきトイレ」を追求し、すべての人のトイレ利用に関する人権が尊重される社会環境実現の一助となることを目指しています。

利用者一人ひとりの性自認やプライバシーが尊重され、尊厳が保障されること、そして、利用者の意思に沿う選択肢があること、それらを利用しやすい環境を整えることが重要です。また、オフィスのように特定の人が利用する場合は、利用者に寄り添った個別対応も求められます。

そうした社会環境の実現には、設備などのハードを整備することはもちろん、啓発や教育により偏見をなくし、すべての人が正しい知識とダイバーシティ、エクイティ&インクルージョン（DE&I：多様性と公正性、包摂性）の視点を持つことも大切です。

ひとりでも多くの人が、トイレで悩むことがなくなるように願っています。

発足

2017年8月、オフィスに焦点を当てた「オフィストイレのオールジェンダー利用に関する研究会」を発足。

2022年5月、オフィスに加えて公共施設のトイレも調査するため、研究会名称を「トイレのオールジェンダー利用に関する研究会」に改め再発足。

主な活動

- 2017年の調査報告書を2019年5月に公開
- オフィストイレのオールジェンダー利用に関する研究成果の一部を書籍に寄稿
『SDGsとトイレ（進化するトイレシリーズ）』（日本トイレ協会編、柏書房、2022年8月発行）、第3章-4「性的マイノリティとトイレ」
- 2022年の調査結果の一部を、速報として2023年6月8日にプレスリリース
- 各種学会、セミナーなどにて調査結果を報告

2. 調査実施概要

調査の背景と目的

背景

- 近年、ダイバーシティ&インクルージョンの取り組みが進むなか、トランスジェンダー等性的マイノリティの働きやすい職場づくりの一環として、「職場でのトイレ利用」が大きな課題のひとつとなっている。
そこで、2017年10月～11月には顔見知り同士が利用することで、課題がより深刻になりやすいオフィスのトイレに焦点を当て、「オフィストイレのオールジェンダー利用に関する調査」を実施し、2019年5月に結果を公開。
- さらに、多様性と公正性、包摂性のある社会を目指し、性の多様性についても理解が徐々に広がりを見せるなか、前回調査を実施した2017年当時と比べ、LGBT等性的マイノリティを取り巻く社会環境も変化しつつある。
オフィスだけでなく、公共施設においても性別を問わず利用できるトイレ（男女共用トイレ）の設置が検討され始めている。
- 一方で、未だにLGBT等性的マイノリティへの差別が解消されないなど課題があるのも事実であり、SNS等でトランスジェンダーへの誹謗中傷が加速している。特にトランスジェンダーのトイレ利用については大きな論争となっている。

調査の目的と方法

- 性自認（ジェンダー・アイデンティティ）に関わらず、**誰もが『安心して、快適に利用できるトイレ環境』を明らかにすること**を目的とし、前回の調査から5年が経過した2022年11月に、再度調査を実施した。
- 今回は、オフィストイレに加えて駅・ショッピングセンターなど不特定多数の人が利用する公共施設のトイレについても調査を実施した。
- 日本在住の有職者であるシスジェンダー、トランスジェンダー両方を対象に「**WEB調査**」を実施。
＊これらの調査は、金沢大学人間社会研究域「人を対象とする研究」に関する倫理審査委員会の承認を得た。

本研究における「トランスジェンダー」の定義

WHOなど国際機関と学会^(注)による報告書に沿って、下記のように定義

トランスジェンダー

自身のジェンダーを、出生時に付けられたジェンダーとは異なるものとして認識している人

(注) The World Professional Association for Transgender Health (WPATH)

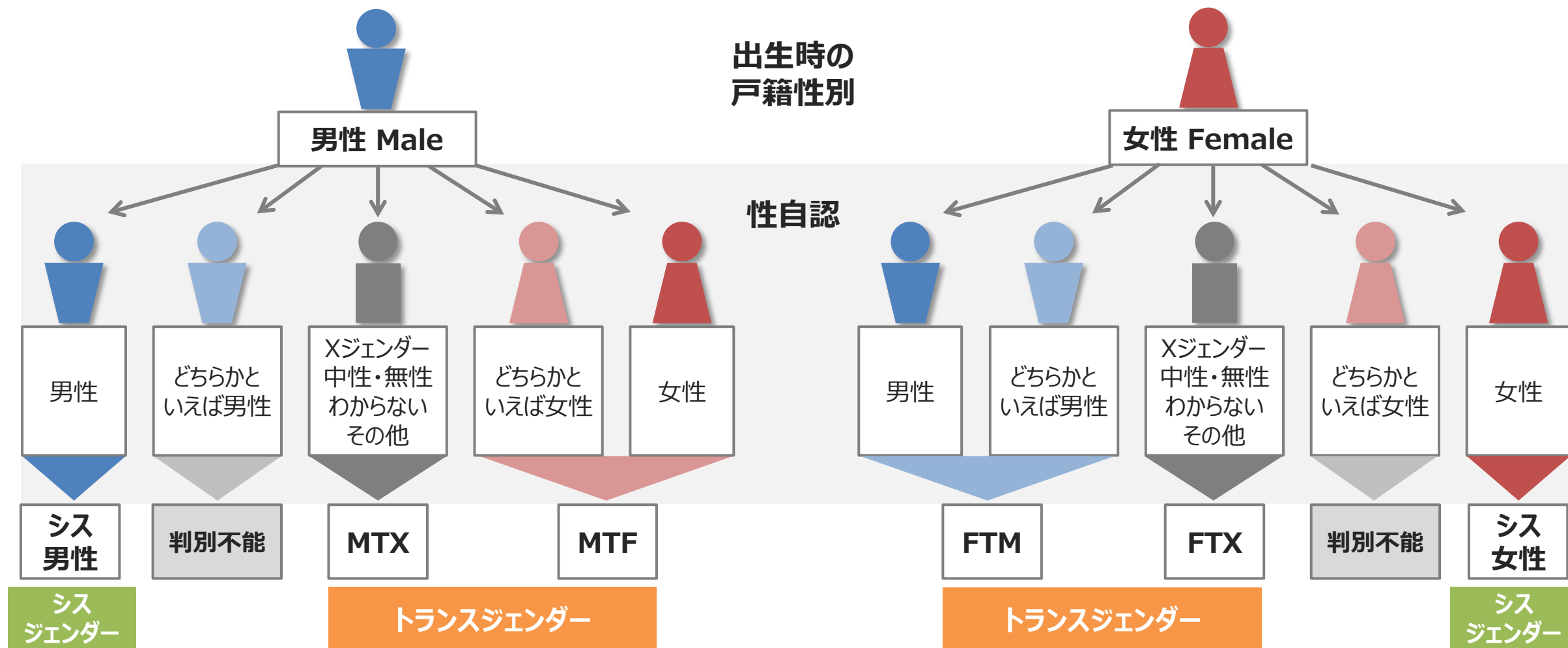
「出生時の戸籍性別」 $\neq$ 「性自認」 $\Rightarrow$ トランスジェンダー

「出生時の戸籍性別」 $=$ 「性自認」 $\Rightarrow$ シスジェンダー

※定義についての詳細は、p.9【調査におけるジェンダー区分の定義と分類】および
pp.10-11【補足：本研究における「トランスジェンダーの定義」について】を参照

調査におけるジェンダー区分の定義と分類

※図中の形や色分けは、わかりやすくするための便宜上のものです。型にはめたり多様性を無視するといった意図はありません。
※スペースの関係で、以降のページではトランスジェンダーをトランス、シスジェンダーをシスと省略している箇所があります。



出生時の戸籍性別と性自認から
構成されるトランスジェンダー4区分

MTX : Male To X-gender , **MTF** : Male To Female , **FTM** : Female To Male , **FTX** : Female To X-gender

補足：本研究における「トランスジェンダーの定義」について（1/2）

➤ 基本的な考え方：

WHOなど複数の国際機関・学会（WPATH：The World Professional Association for Transgender Health）が共同刊行した報告書に沿って、トランスジェンダーを「自身のジェンダーを出生時に付けられたジェンダーとは異なるものとして認識している人々」と定義して調査を行った。

※p.8【本研究における「トランスジェンダー」の定義】および p.153【参考文献 12）の p.xi】を参照

➤ トランスジェンダー回答者の判断方法：

回答者がシスジェンダーまたはトランスジェンダーのどちらに該当するかを確認するため、性別に関する以下の設問を設け、矛盾回答は「ジェンダー判別不能」とした。

Q.あなたの出生時の戸籍の性別をお知らせください。（単一回答）

選択肢：1.男性、2.女性

Q.あなたは、前問で回答した「出生時の戸籍の性別」と、現在のご自身の性別を同じだと捉えていますか？（複数回答）

選択肢：1.出生時の戸籍の性別と同じ（排他選択肢）、2.別の性別だと捉えている、3.違和感がある

Q.あなたが捉えている「現在のご自身の性別」として最も近いものをお知らせください。（単一回答）

選択肢：1.男性、2.どちらかと言えば男性、3.どちらかと言えば女性、4.女性、5.Xジェンダー・中性・無性など、6.わからない・決めたくない・その他、
7.答えたくない

※集計上の詳しい区分については、p.9【調査におけるジェンダー区分の定義と分類】を参照のこと。

補足：本研究における「トランスジェンダーの定義」について（２／２）

➤ Xジェンダーについて

Xジェンダーとは、出生時に付けられた性別にかかわらず、性自認が男性／女性に二分できない人、男女の枠にとらわれない性のあり方の人のこと。性自認は中性や、男女どちらにも属さない無性、どちらにも属する両性など、さまざま。

なお、Xジェンダーは日本独特の呼称であり、近年ではノンバイナリーということばが一般的になりつつある。今回の調査では、性自認を問う設問にて「Xジェンダー、中性、無性など」または「わからない、決めたくない、その他」を選んだ回答者を「Xジェンダー」として分類した。

選択肢の「わからない、決めたくない、その他」は、本来「Questioning／クエスチョニング※¹」や「Queer／クィア※²」に該当するが、今回はトイレに関する調査であり、性自認が男女二元論に当てはまらないという観点から、すべて「Xジェンダー」に含めた。

➤ シスジェンダーについて：

出生時の戸籍性別および性自認の回答が一致している回答者を「シスジェンダー」とする。

性的指向は尋ねていない。

※1. クエスチョニングとは、自己のジェンダーや性的指向が決まっていない人や模索している人を指す。

※2. クィアとは、元は「不思議な」「奇妙な」などを表す侮蔑的な言葉だが、1990年代以降性的マイノリティ全体を包摂する用語として肯定的に使用されている。

WEB調査概要

STEP1：トランスジェンダーの割合、就業状況やトランスジェンダーに対する意識などの実態把握

調査種類	モニター調査	
調査方法	インターネット調査／調査会社登録モニター(有職者)へ配信	
調査対象	日本在住の有職者20～59歳	
実施時期	2022年11月18日（金）～29日（火）の計12日間	
総回答数	60,000人	

STEP 2：トイレの利用実態や利用意向、レイアウトやサインに関する意識調査

就業状況等の条件に該当する人に対し、STEP 2 の調査を実施。

調査種類	モニター調査	
ジェンダー	シスジェンダー	トランスジェンダー
有効回答	男女各500人	FTM：50人、FTX：105人、MTX：83人、MTF：87人 ^注
	計1,000人	計325人

※調査実施協力：株式会社アビス

注：トランスジェンダー区分の詳細は、p.9【調査におけるジェンダー区分の定義と分類】を参照
※抽出条件詳細は、p.14【WEB調査概要：サンプリング一覧、STEP2への抽出条件】を参照

WEB調査概要：サンプリング内容

モニター調査：調査会社登録モニターを対象とした調査

- ・有職登録者に対して調査を依頼（専業主婦・主夫、学生、無職と回答した人は対象者から除外）
- ・STEP 1、STEP 2 の 2 段階の調査を実施。

STEP 1 サンプリング

- ・都道府県を全国 8 エリア（北海道、東北、関東、中部、近畿、中国、四国、九州）に分け、政府統計※に基づき20～59歳人口をそれぞれ5歳刻みで構成比を区分。そのエリア年代別構成比に沿って計60,000人の回答を得た。
- ・ただし、20代の回答者数が少ないエリアについては、他の年代の回答者で補完を行った。
- ・回答者は、出生時の戸籍性別、それに対する違和感の有無および性自認の回答の組み合わせにより、「トランスジェンダー」と「シスジェンダー」に区分（p.10参照）。
- ・回答者のジェンダー内訳は以下のとおり。
 - シスジェンダー：計56,361人（シスジェンダー男性：28,595人、シスジェンダー女性：27,766人）
 - トランスジェンダー：計906人（FTM：87人、FTX：376人、MTX：234人、MTF：209人）
 - ジェンダー判別不能2,733人

※政府統計：「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査 2022年1月」

※8エリア別の性別×20代～50代の構成比について、ウェイトバックあり／なしのデータと政府統計と相違があるか否かをカイ二乗検定（適合度検定）を実施。検定の結果、いずれも有意水準 5 %（誤差範囲：95%信頼区間）で棄却されなかったため、有意差は認められなかった。

STEP 2 サンプリング

シスジェンダー	・職場への出勤日数、職場のトイレ設置状況、就業するフロアの人数等に関する設問によりスクリーニングを行い、STEP2の対象者を抽出。 ・計1,000サンプル（20～59歳、性年代各125サンプル）の有効回答を得た。
トランスジェンダー	・職場への出勤日数、就業フロアの人数以外はシスジェンダーと同様のスクリーニングを行いSTEP2の対象者を抽出。 ・計325サンプル（FTM：50人、FTX：105人、MTX：83人、MTF：87人）の有効回答を得た。

WEB調査概要：サンプリング一覧、STEP 2 への抽出条件

【サンプリング一覧】

		STEP1 調査		条件により 対象者抽出 ⇒	STEP2調査	
		サンプル数	割合		サンプル数	割合
アンケート回答数		60,000	－		－	－
回答者 分類	シスジェンダー	56,361	93.9%		1,000 (※2)	75.5%
	トランスジェンダー	906	1.5%		325 (※3)	24.5%
	ジェンダー判別不能 (※1)	2,733	4.6%		－	－
合計		60,000	100.0%		1,325	100.0%

※1. 以下に該当する人を指す

- ・ 出生時の戸籍の性別に対し、「違和感がある」、「別の性別と捉えている」と回答したが、性自認を問う設問で「どちらかといえば」も含めて「出生時の戸籍性別と同じ性別」と回答した人（1976人）
- ・ 性自認を問う設問で「答えたくない」と回答した人（757人）

※2. 性年代均等割付で計1,000人抽出

※3. 内訳＝FTM：50人、FTX：105人、MTX：83人、MTF：87人

【STEP2 の調査への抽出条件】

主に働いている建物のトイレ設置状況	出勤日数	就業フロア人数（他社等も含む）
「建物内にトイレがない」、「建物で働いていない」、 「わからない」と回答した人を除く	シスジェンダー：2～3日／週 以上 トランスジェンダー：1日／週 以上	シスジェンダーのみ：30人以上

その他補足事項

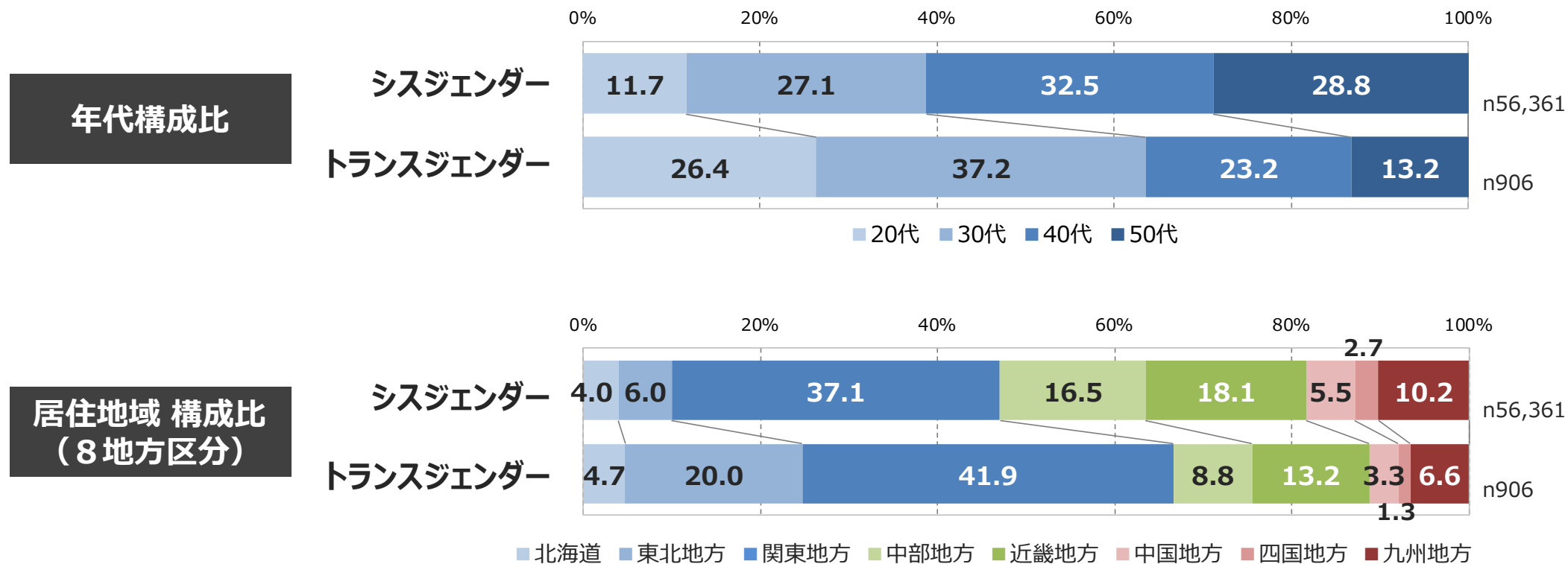
【調査実施機関】・調査企画・準備・実施・分析：トイレのオールジェンダー利用に関する研究会（金沢大学、コマニー、LIXIL）
・調査実施協力：株式会社アビス

【設問形式・回答者サンプル数についての備考】

- ・全員がすべての設問に回答しているわけではないため、設問により回答者サンプル数が異なる。
- ・単一回答項目：選択肢の合計値が100%となる（ただし、四捨五入による誤差あり）。
- ・複数回答項目：選択肢の合計は100%とならない場合がある。
- ・個別設問の全体サンプル数（n値）は、条件該当者のみの回答となっている設問もあるため、各ページを参照のこと。
- ・個別分析軸のサンプル数（n値）は、対象のみ抽出しているため、合計数は全体と一致しない。
- ・個別分析軸のサンプル数（n値） 30未満は参考値。

STEP 1 の回答者の属性（年代構成、居住地域構成比）

- 都道府県を全国 8 エリアに分け、政府統計に基づき20～59歳人口をそれぞれ5歳刻みで構成比を区分し、そのエリア年代別構成比に沿って配信した。ただし、20代の回答者が少ないエリアについては、他の年代で補完した。
- 回答者全体（20～59歳の有職者60,000人）における年代構成は、シスジェンダーでは20代の回答者が10%台と低く、30代、40代、50代はそれぞれ3割前後であった。トランスジェンダーでは30代が4割弱で最も多く、20代、30代の若年層が6割以上を占めた。
- 居住地域では、東北地方と中部地方で割合に差がみられ、東北地方はシス6.0%に対しトランス20.0%、中部地方はシス16.5%に対しトランス8.8%であった。



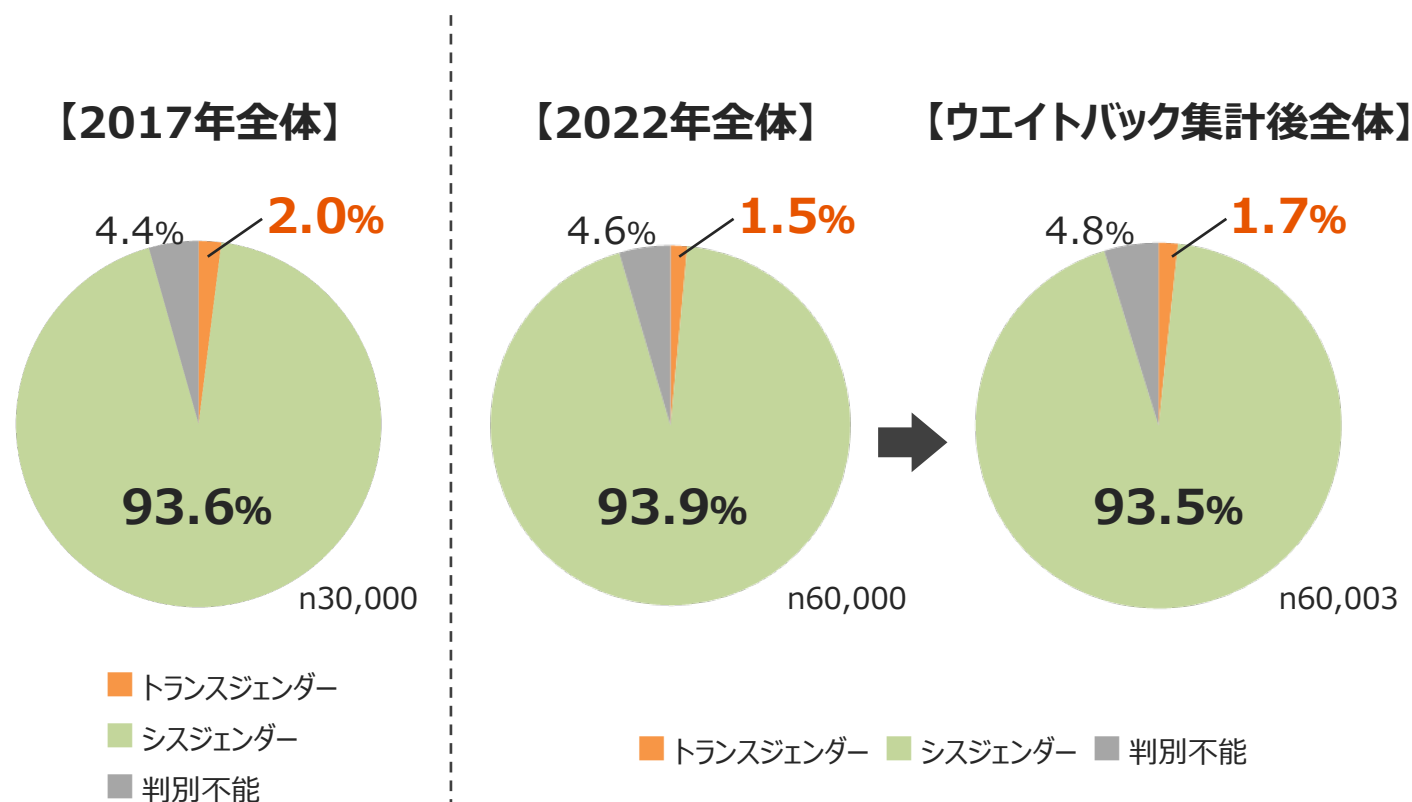
3. 調査結果報告

3-1. トランスジェンダーの割合

回答者におけるトランスジェンダー※の割合

※出生時戸籍性別と性自認の回答が一致しない人を総称して「トランスジェンダー」とした。
そのため、性自認をXジェンダー・中性・無性、わからない・決めたくないと回答した人も含む。

- 回答者全体（20～59歳の有職者60,000人）におけるトランスジェンダーの割合は1.5%であった。
- 20代の回答者数が少ないエリアについては、他の年代の回答者で補完を行ったこと、若い世代（20～30代）の方がトランスジェンダーに該当する回答者が多かったことから、ウェイトバック集計を行った。ウェイトバック後のトランスジェンダーの割合は1.7%であった。
- 2017年の調査では、尋ね方が異なるものの2.0%であり、2%弱程度は存在すると考えられる。
- 性別違和の程度はさまざまであり、性同一性障害や性別違和等で医療機関を受診していない人も多く含まれる。



- ✓ 「出生時の戸籍性別」と「自認する性別」の回答が一致しなかった人をトランスジェンダーとする注。
- ✓ 性別違和の程度により、トランスジェンダーをどう定義するかによって割合は異なる（次ページ参照）。

（注）下記設問②で「別の性別だと捉えている」または「違和感がある」と回答、かつ①と②の回答が一致しなかった人（詳細はpp.10-11参照）
ただし、2017年は①と③のみで②は尋ねていない。

設問①：あなたの出生時の戸籍の性別をお知らせください（ひとつだけ）
→ 回答選択肢：男性 / 女性

設問②：あなたは、前問で回答した「出生時の戸籍の性別」と、現在のご自身の性別を同じだと捉えていますか？（あてはまるものすべて）
→ 回答選択肢：出生時の戸籍の性別と同じ（排他） / 別の性別だと捉えている / 違和感がある

設問③：あなたが捉えている「現在のご自身の性別」として最も近いものをお知らせください（ひとつだけ）
→ 回答選択肢：
男性 / どちらかといえば男性 / どちらかといえば女性 / 女性 / Xジェンダー・中性・無性など / わからない・決めたくない・その他 / 答えたくない

回答者におけるトランスジェンダーの割合：トランスジェンダーの定義の仕方による違い

※定義の仕方については、
pp.10-11【補足：本研究における
「トランスジェンダーの定義」について】参照

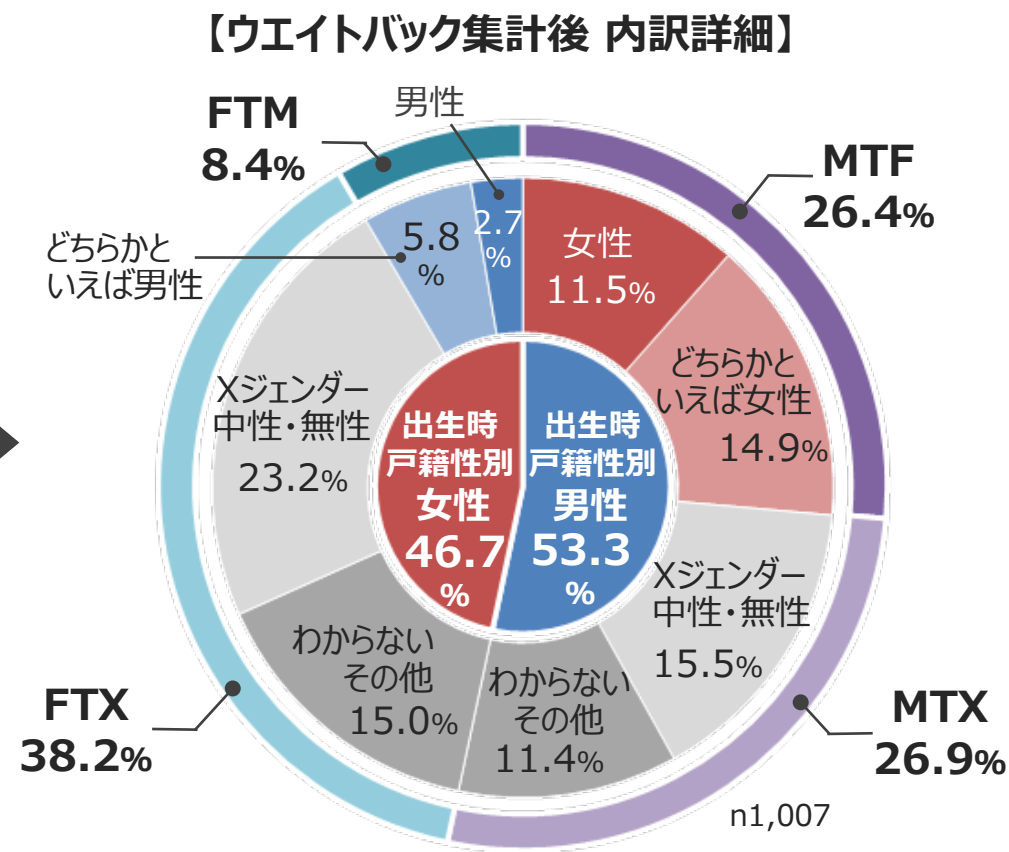
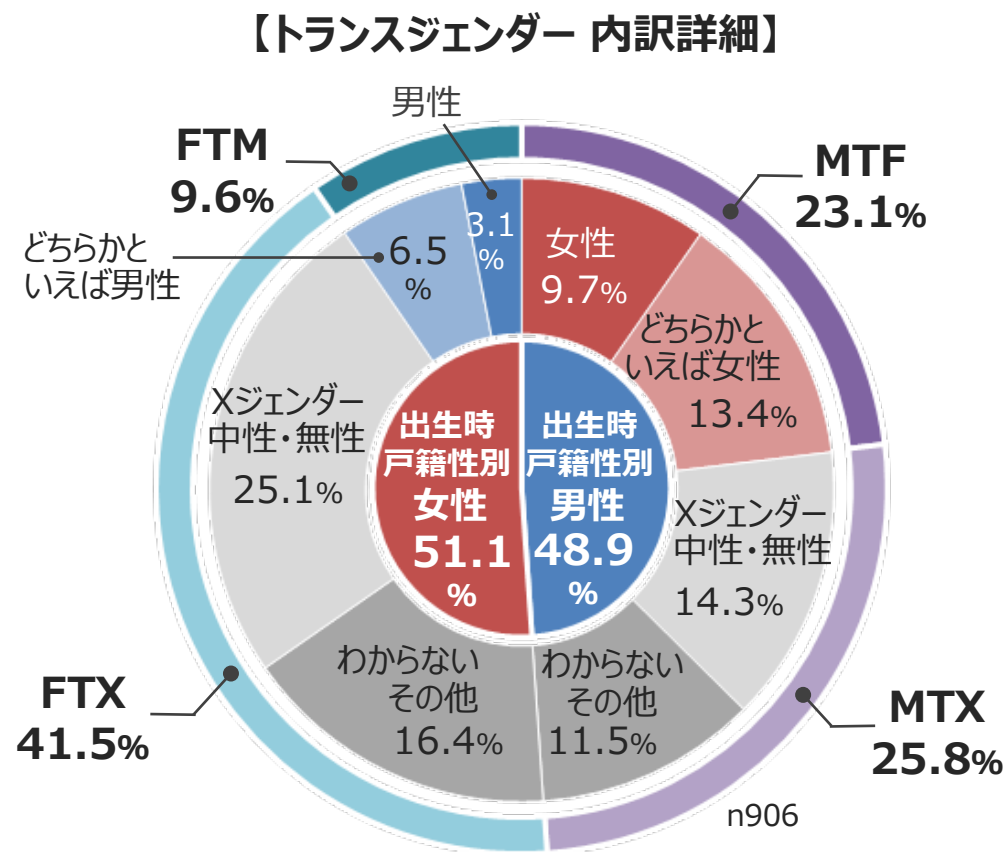
- トランスジェンダーの定義の仕方（どのような性自認か、性別違和の程度など）により、割合に違いが出る。
- ウェイトバック後のそれぞれの割合は、性自認が「女性」または「男性」のどちらかに寄っている回答者（性自認がバイナリーであり、「Xジェンダー」や「わからない」等の「ノンバイナリー」や「クエスチョニング」等は含まない）の割合は0.59%であった。
- さらに「どちらかといえば男性、または女性」を含まない、性自認が明確に男女どちらかと回答した人に絞ると0.24%であった。
- 性自認が男女の枠に当てはまらない回答者（参考欄）は、1.09%であり、性自認が男女どちらかに寄っている回答者より多い傾向にある。

ウェイト バック前	No.	トランスジェンダー定義	解釈	性自認 出生時 戸籍性別	男性	どちらかとい えば男性	どちらかとい えば女性	女性	Xジェンダー・ 中性・無性など	わからない・決めた くない・その他	答えたくない	出現率
	1	性自認が出生時の戸籍と異なる回答者 (Xジェンダー・中性・無性、わからない・その他含む)	広	男性	—	—	○	○	○	○	—	1.51%
				女性	○	○	—	—	○	○	—	
	2	性自認が男性寄りまたは女性寄りの回答者のみ (Xジェンダー・中性・無性、わからない・その他を含まず)	↑ ↓	男性	—	—	○	○	—	—	—	0.49%
				女性	○	○	—	—	—	—	—	
	3	性自認が男性または女性を選択した回答者のみ (どちらかといえば を含まず)	狭	男性	—	—	—	○	—	—	—	0.19%
				女性	○	—	—	—	—	—	—	
参考		性自認が男女の枠に当てはまらない回答者のみ (Xジェンダー・中性・無性、わからない・決めたくない・その他)	参考	男性	—	—	—	—	○	○	—	1.02%
				女性	—	—	—	—	○	○	—	

ウェイト バック後	No.	トランスジェンダー定義	解釈	性自認 出生時 戸籍性別	男性	どちらかと言 えば男性	どちらかと言 えば女性	女性	Xジェンダー・ 中性・無性など	わからない・決めた くない・その他	答えたくない	出現率
	1	性自認が出生時の戸籍と異なる回答者 (Xジェンダー・中性・無性、わからない・その他含む)	広	男性	—	—	○	○	○	○	—	1.68%
				女性	○	○	—	—	○	○	—	
	2	性自認が男性寄りまたは女性寄りの回答者のみ (Xジェンダー・中性・無性、わからない・その他を含まず)	↑ ↓	男性	—	—	○	○	—	—	—	0.59%
				女性	○	○	—	—	—	—	—	
	3	性自認が男性または女性を選択した回答者のみ (どちらかといえば を含まず)	狭	男性	—	—	—	○	—	—	—	0.24%
				女性	○	—	—	—	—	—	—	
参考		性自認が男女の枠に当てはまらない回答者のみ (Xジェンダー・中性・無性、わからない・決めたくない・その他)	参考	男性	—	—	—	—	○	○	—	1.09%
				女性	—	—	—	—	○	○	—	

トランスジェンダー回答者のジェンダー内訳

- トランスジェンダー回答者のうち、ウェイトバック後では、出生時の戸籍性別が男性の方が女性よりやや多く、半数を超えた。性自認では、Xジェンダー、わからない等の回答者が6割以上を占めた。
- 出生時の戸籍性別が男性の場合は、性自認が女性またはX等の割合がほぼ同率であったのに対し、出生時の戸籍性別が女性の場合は、性自認が男性よりもX等の方が圧倒的に多く、その比率は概ね1:4であった。



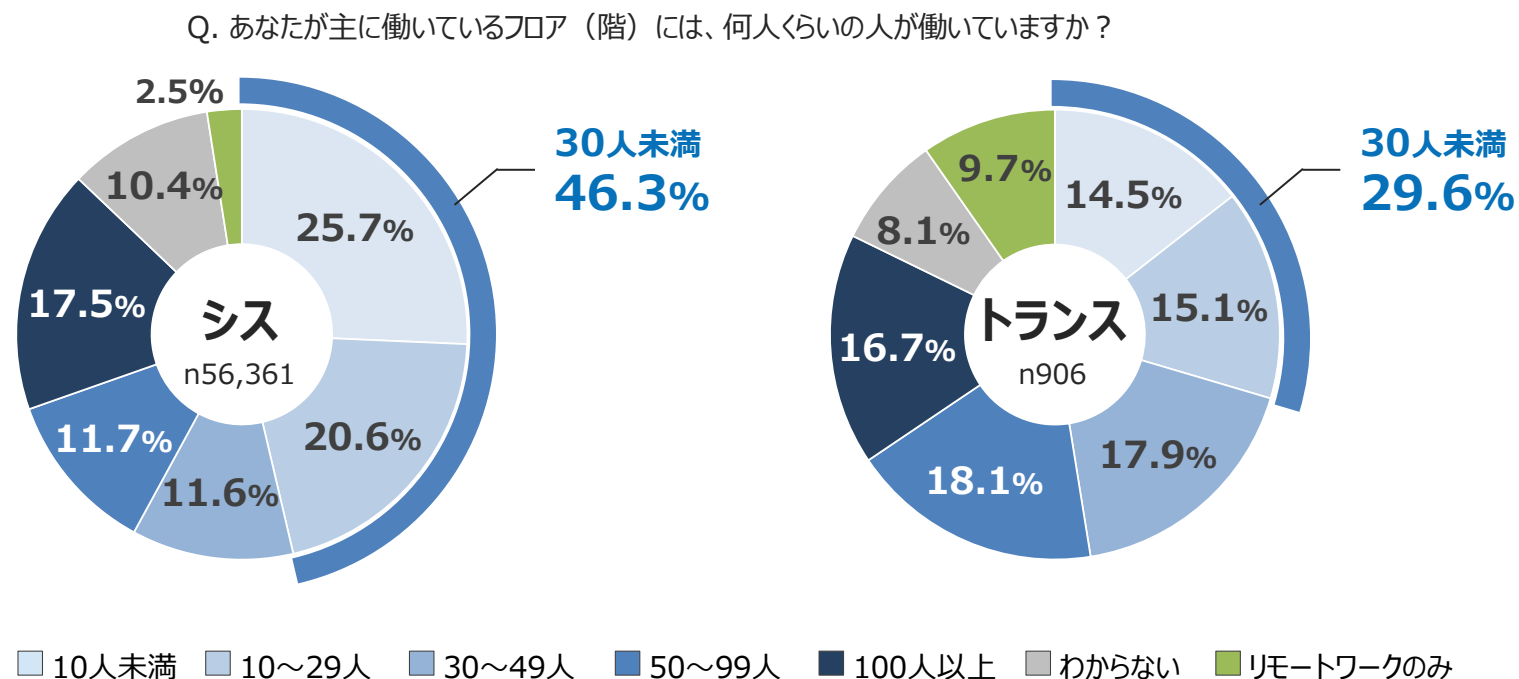
内円：出生時戸籍性別／中円：性自認／外円：トランスジェンダー 4区分

3. 調査結果報告

3-2. 就労状況・プライベート状況

就労状況：オフィスの規模／1フロアの就業人数（シス／トランス）

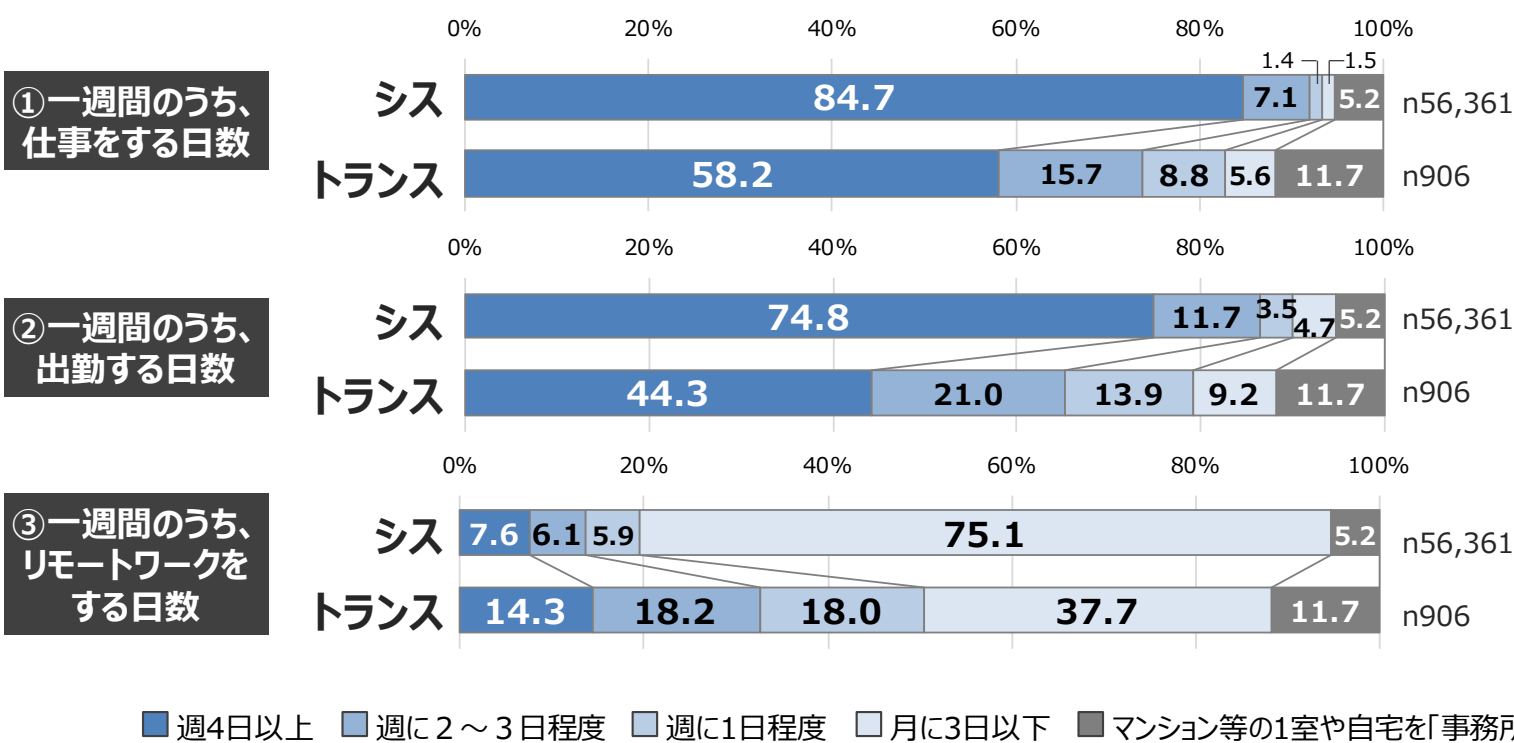
- 1フロア30人未満の比較的小さいオフィスに就労している人の割合はトランスよりシスの方が高く、シス46.3%に対しトランスは29.6%。
- リモートワークのみと回答した人は、シスよりもトランスの方が割合が高く、シス2.5%に対し、トランスは9.7%。



就労状況：一週間のうち、仕事をする日数と職場に「出勤」する日数、リモートワーク日数（シス／トランス）

- 週4日以上働いている人は、シスでは8割以上に対し、トランスは6割未満。マンション等の一室や自宅を事務所としているトランスは約1割に対し、シスは5%程度。
- 週4日以上職場に「出勤」している人は、シスでは7割以上に対し、トランスは半数に満たない。
- リモートワークをしている人は、シス・トランス共に月3日以下が最も多く、シスは7割以上、トランスは約4割。

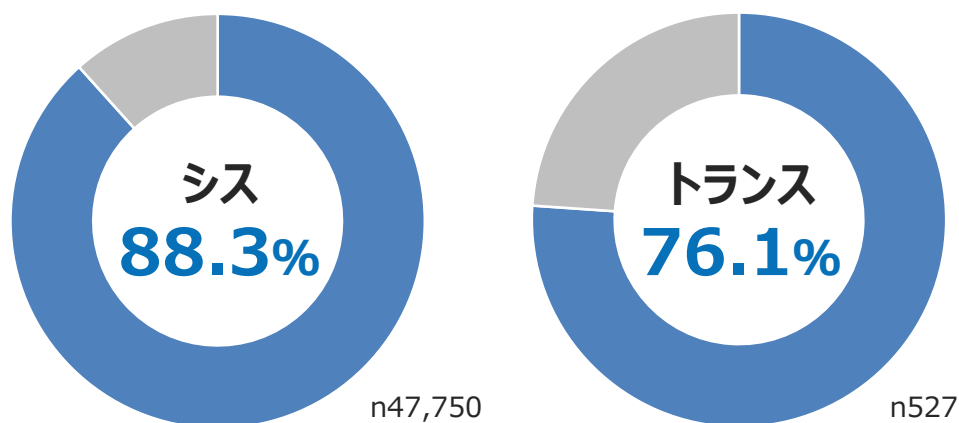
Q.あなたの勤務形態（働き方）をお知らせください。（SA）
一週間のうち、①仕事をする日数、②職場に「出勤」する日数、③「リモートワーク（テレワーク）」をする日数をお知らせください。



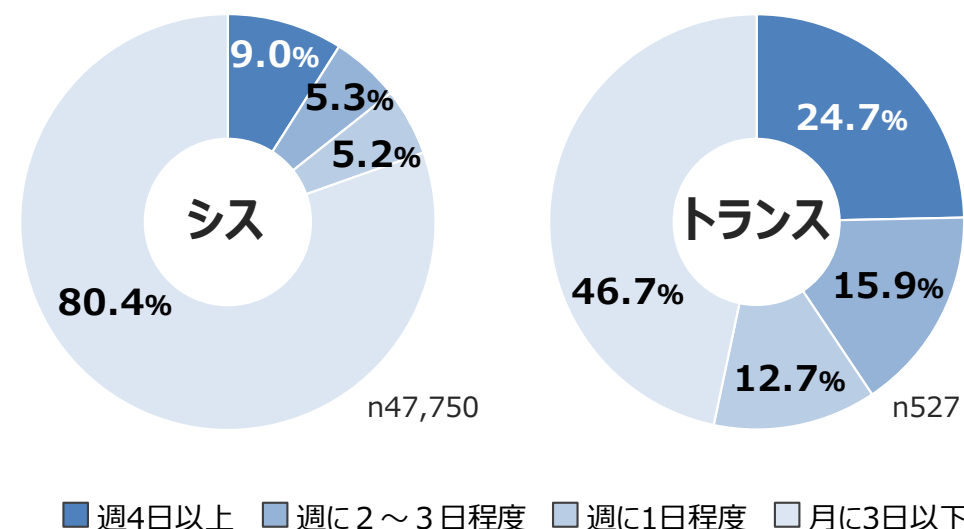
就労状況：週4日以上仕事をする人の「出勤」と「リモートワーク」の状況（シス／トランス）

- 週4日以上仕事をする人のうち、週4日以上「出勤」している人は、シスでは9割弱であるのに対し、トランスでは75%程度。
- 「リモートワーク」を週4日以上する人は、シスは1割弱であるのに対し、トランスは約25%。週2～3日程度では、トランスはシスの3倍、週1日程度では約2.4倍。
- 「リモートワーク」が月3日以下の人は、シスでは8割を占めたのに対し、トランスは半数未満。

週4日以上仕事をする人のうち、週4日以上「出勤」している人



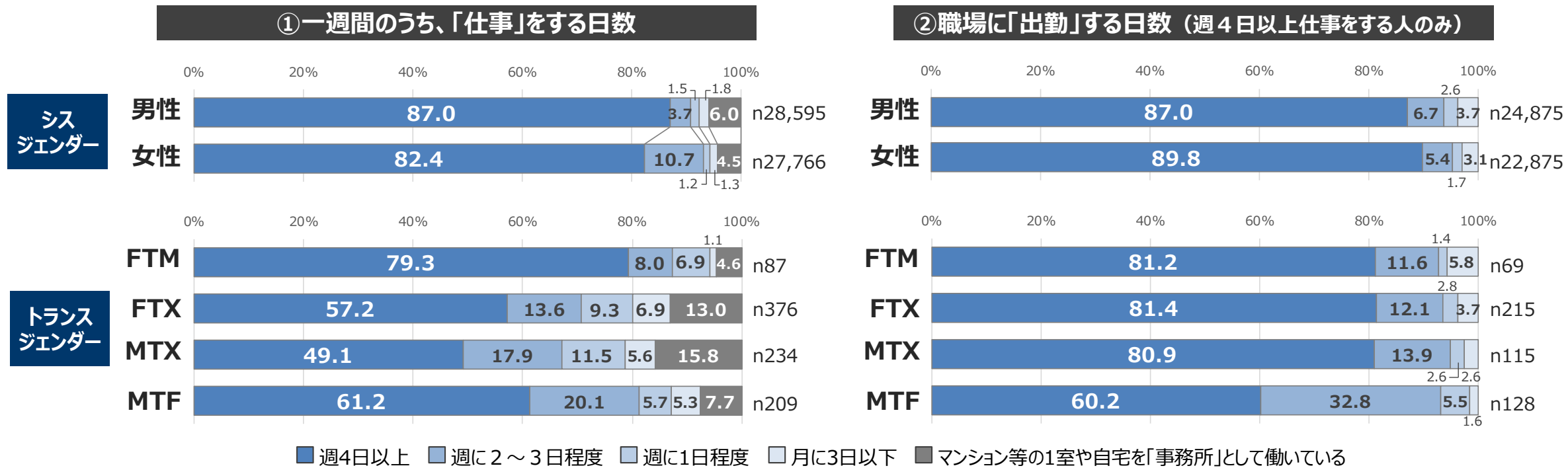
週4日以上仕事をする人が、「リモートワーク」をする日数



就労状況：一週間のうち、仕事をする日数と職場に「出勤」する日数（シス男女／トランス4区分）

- 週4日以上働いている人は、シスでは男性の方がやや多い。トランスではFTMが約8割で最も多く、FTXとMTFは6割前後、MTXのみ半数未満と少ない。
- 週4日以上働く人のうち、職場に「出勤」している人は、シスでは男女とも9割近い。トランスはMTF以外は約8割だが、MTFのみ約6割と他より顕著に低い。

Q.あなたの勤務形態（働き方）をお知らせください。一週間のうち、①仕事をする日数、②職場に「出勤」する日数をお知らせください。（SA）

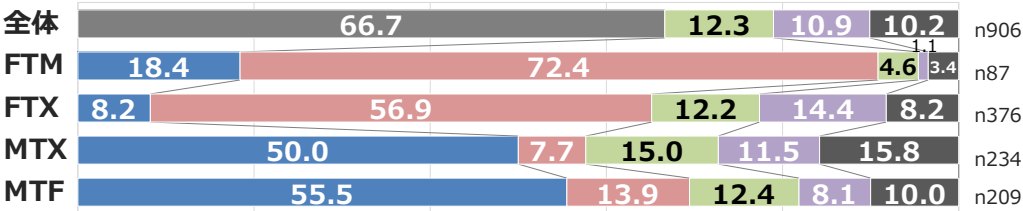


トランスジェンダーの職場とプライベートでの性別：「実態」と「希望」

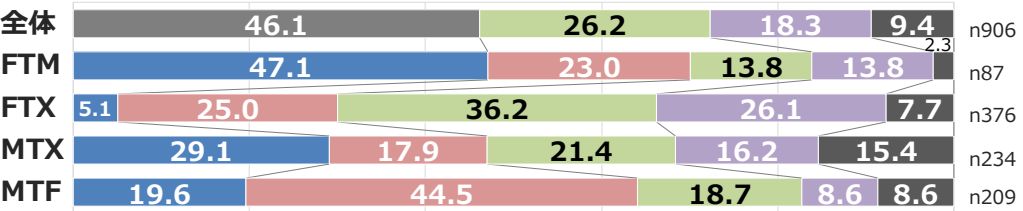
- 職場、プライベートの性別は「実態」、「希望」共にさまざまである。
- 職場での「実態」は、どのジェンダーでも「出生時の戸籍性別」で働いている割合が最も高い。一方、「希望」では、MTXを除き「自認する性別」が最も高く、「自認する性別」で働くことの難しさがうかがえる。
- プライベートでの「実態」は、職場に比べて「自認する性別」が高くなる傾向が見られた。「Xジェンダー」と回答した人の割合は、すべてのジェンダーで職場の「実態」よりも高い。「希望」では、「自認する性別」が最も高く、職場と比べて割合に大きな差はみられなかった。

職場で働いている性別／実態

Q.あなたは現在、「職場」ではどの性別で働いていますか？（実態）また、どの性別で働きたいと思いますか？（希望）※主に働いている職場について

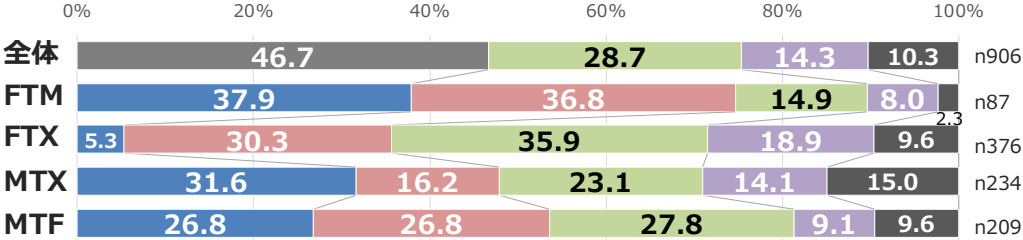


職場で働きたい性別／希望

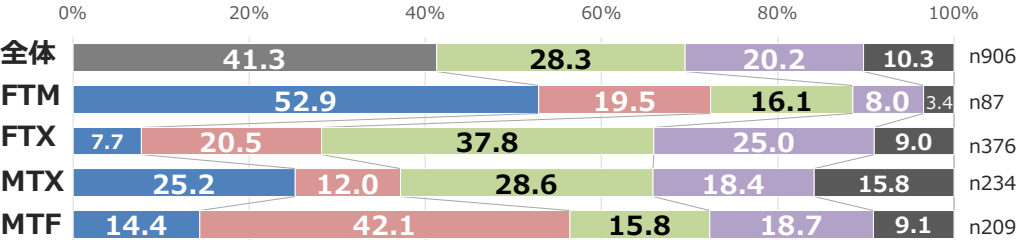


プライベートで過ごしている性別／実態

Q.あなたは現在、プライベートでの外出時はどの性別で過ごしていますか？ また、どの性別で過ごしたいと思いますか？



プライベートで過ごしたい性別／希望



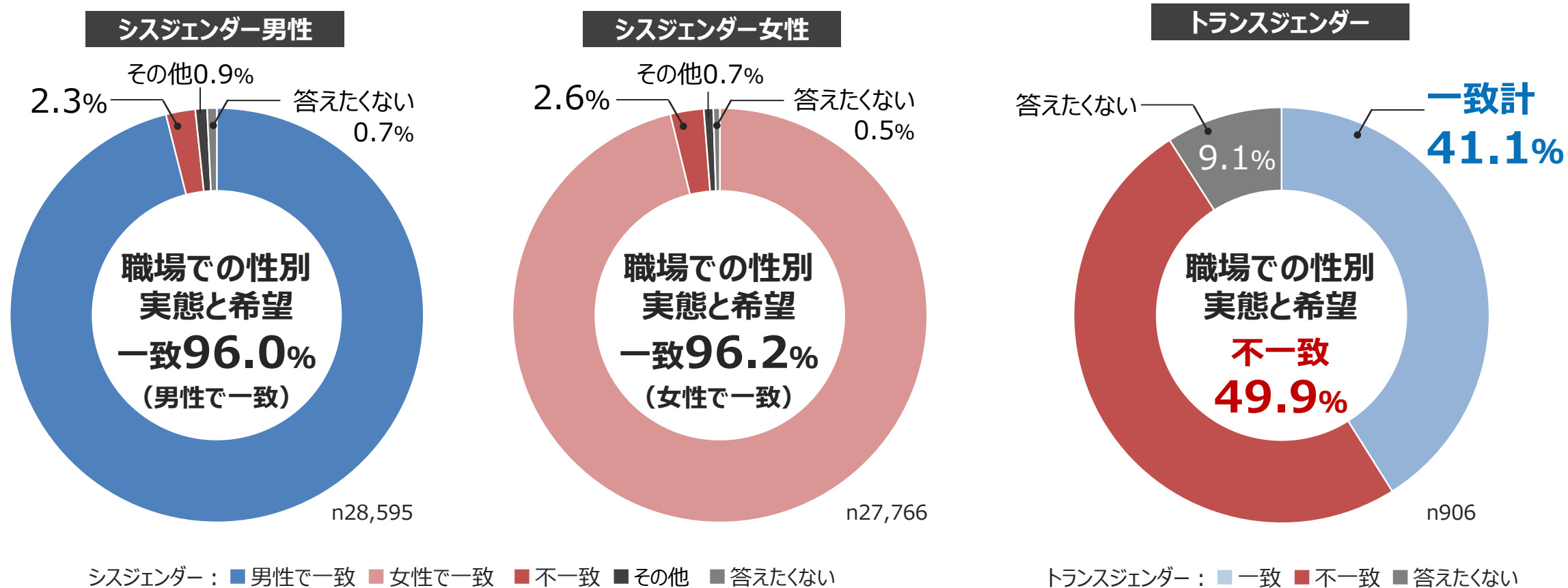
■ 男性 または 女性 ■ 男性 ■ 女性 ■ Xジェンダー・中性・無性など ■ わからない・決めたくない・その他 ■ 答えたくない

回答者の職場での性別：実態と希望の一致状況（シス男女／トランスジェンダー）

※実態と希望の一致・不一致の考え方に
ついては、p.31を参照

- 実際に働いている性別（実態）と働きたい性別（希望）は、シスジェンダー男女がほぼ全員「男性または女性」で一致しているのに対し、トランスジェンダーは約半数が「不一致」。

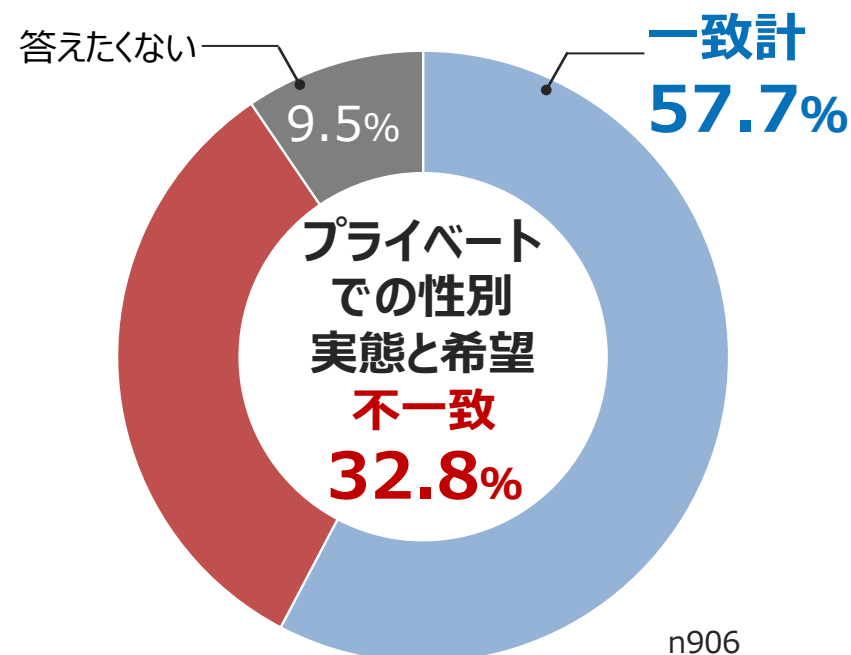
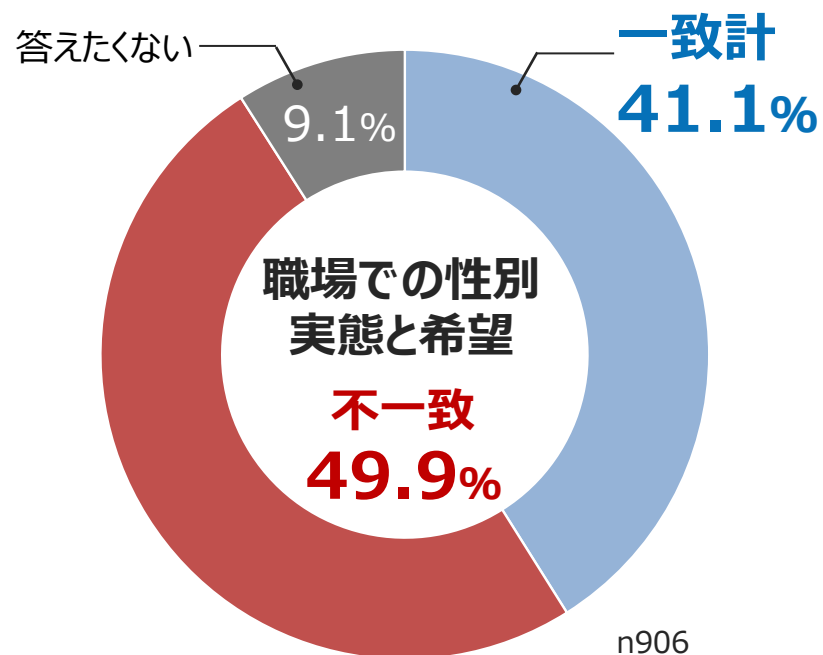
Q.あなたは現在、「職場」ではどの性別で働いていますか？（実態）また、どの性別で働きたいと思いますか？（希望）
※主に働いている職場についてお答えください。



実態と希望の一致状況：「職場」と「プライベート」の比較（トランスジェンダー全体／概要）

- 「一致」の割合は、職場では約4割に対し、プライベートでは約6割。
- プライベートでは、職場よりも希望する性別で過ごすことができる。

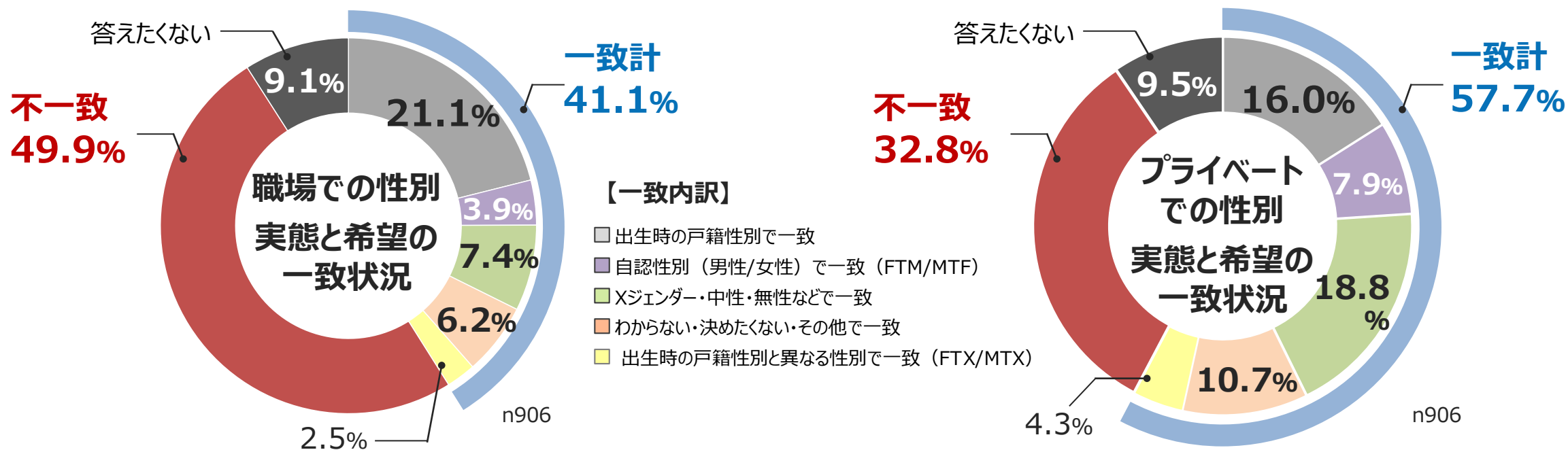
Q.あなたは現在、「職場」ではどの性別で働いていますか？（実態）また、どの性別で働きたいと思いますか？（希望）※主に働いている職場についてお答えください。
さらに、「プライベートでの外出時」における性別についても同様にお知らせください（実態／希望）。（SA）



トランスジェンダー：■ 一致 ■ 不一致 ■ 答えたくない

実態と希望の一致状況：「職場」と「プライベート」比較（トランスジェンダー全体／詳細）

- 「一致」のうち、「出生時の戸籍性別で一致」のみ職場の方が多く、「自認する性別」で働くことをあきらめていたり、割り切ったりしている人もいと考えられる。
- 職場では、「Xジェンダー・中性・無性など（ノンバイナリー）」、「わからない・決めたくない・その他（いわゆるクエスチョニング、クィア等）」で一致している人、「出生時の戸籍性別と異なる性別※」で一致している人が計16.1%、プライベートでは33.8%。 ※FTXの男性、MTXの女性

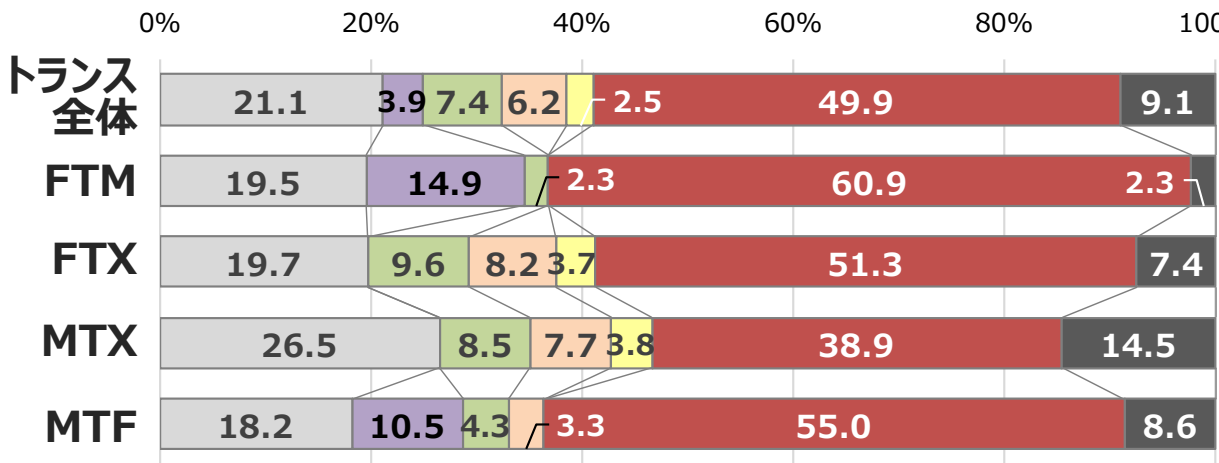


- ✓ 職場で性別を移行するには、何らかのカミングアウトをし、さらにそれが受け入れられることが重要だが、困難なことも多い。
- ✓ 「出生時の戸籍性別」で一致している人は、「性自認で一致」している人や「不一致」の人に比べ、服装や髪型などの外見を変えたり、ホルモン治療等を受けたりするなどの性別違和への対応をしていない人も多いと考えられる。しかし、対応していない場合でも、必ずしも性別違和が小さいとは限らない。

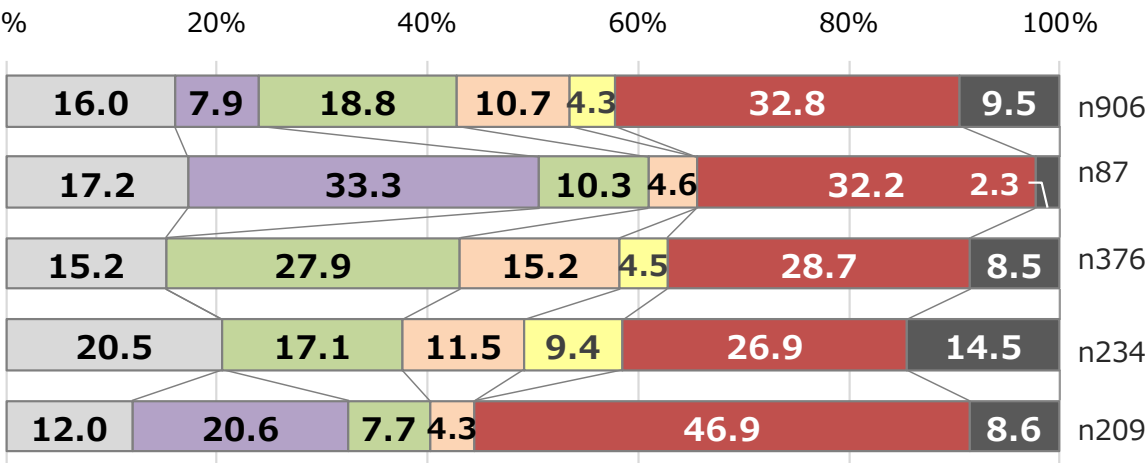
実態と希望の一致・不一致状況：職場とプライベート比較（トランスジェンダー4区分）

- 職場に比べ、プライベートでの「不一致」は全体的に減っているが、MTFは5割弱と依然高い割合。FTMでは「自認性別（男性）で一致」が約倍増した分、「不一致」は職場の約半数になっている。
- 「出生時の戸籍性別で一致」も、プライベートでは職場よりも減っている。
- FTMとMTFの「自認性別で一致」は、職場に比べてプライベートでは約2倍となる。
- プライベートでの「Xジェンダー等で一致」は、FTXでは約3倍、MTXでも約2倍。FTM、MTFでもその割合は増えている。

職場での性別：実態と希望の一致・不一致状況



プライベートでの性別：実態と希望の一致・不一致状況



■ 出生時の戸籍性別で一致 ■ 自認性別（男性/女性）で一致（FTM/MTF） ■ Xジェンダー・中性・無性などで一致 ■ わからない・決めたくない・その他で一致
■ 出生時の戸籍性別と異なる性別で一致（FTX/MTX） ■ 不一致 ■ 答えたくない

補足：性別の“実態”と“希望”の「一致状況」凡例について

「職場での性別」、「プライベートでの性別」における“実態”と“希望”の「一致状況」について、凡例の説明を以下に示す。

➤ 下記“実態”と“希望”の各設問に対する回答の一致状況により、分類を行った。

	設文内容	選択肢（単一回答）
実態	あなたは現在、どの性別で働いていますか？	男性 / 女性 / Xジェンダー・中性・無性など / わからない・決めたくない・その他 / 答えたくない
希望	あなたは、どの性別で働きたいと思いますか？	

【シスジェンダーの場合】

実態と希望の回答において、シス男性では「男性」、シス女性では「女性」以外の性別で一致している人は「その他」とした。

【トランスジェンダーの場合】

性自認はグラデーションであるとの前提から、希望と実態の回答において、FTM・MTFの「Xジェンダー等」、「わからない等」で一致、FTXの「男性」で一致、MTXの「女性」で一致、およびすべてのジェンダーにおいて「わからない・決めたくない・その他」で一致している人も、回答者の回答を尊重して「一致」に含めた。

一致の内容	実態と希望の回答状況
出生時の戸籍性別で一致	FTM・FTXでは「女性」、MTX・MTFでは「男性」で一致している人
自認性別で一致（FTM、MTFのみ）	FTMでは「男性」、MTFでは「女性」で一致している人
Xジェンダー・中性・無性などで一致	ジェンダーに関わらず、「Xジェンダー・中性・無性など」で一致している人
わからない・決めたくない・その他で一致	同、「わからない・決めたくない・その他」で一致している人（いわゆるクエスチョニングやクィアに該当と判断）
その他一致	FTXでは「男性」、MTXでは「女性」で一致している人
不一致	実態と希望の回答が一致しない人、および実態と希望のいずれかで「答えたくない」と回答した人
答えたくない	「答えたくない」で一致している人

3. 調査結果報告

3-3. トイレの利用状況（オフィス・公共施設）

おことわり

トイレ関連調査において、2017年と2022年では、トランスジェンダーの回答サンプルの特性が異なります。そのため、トランスジェンダーの回答結果や傾向に違いがあります。

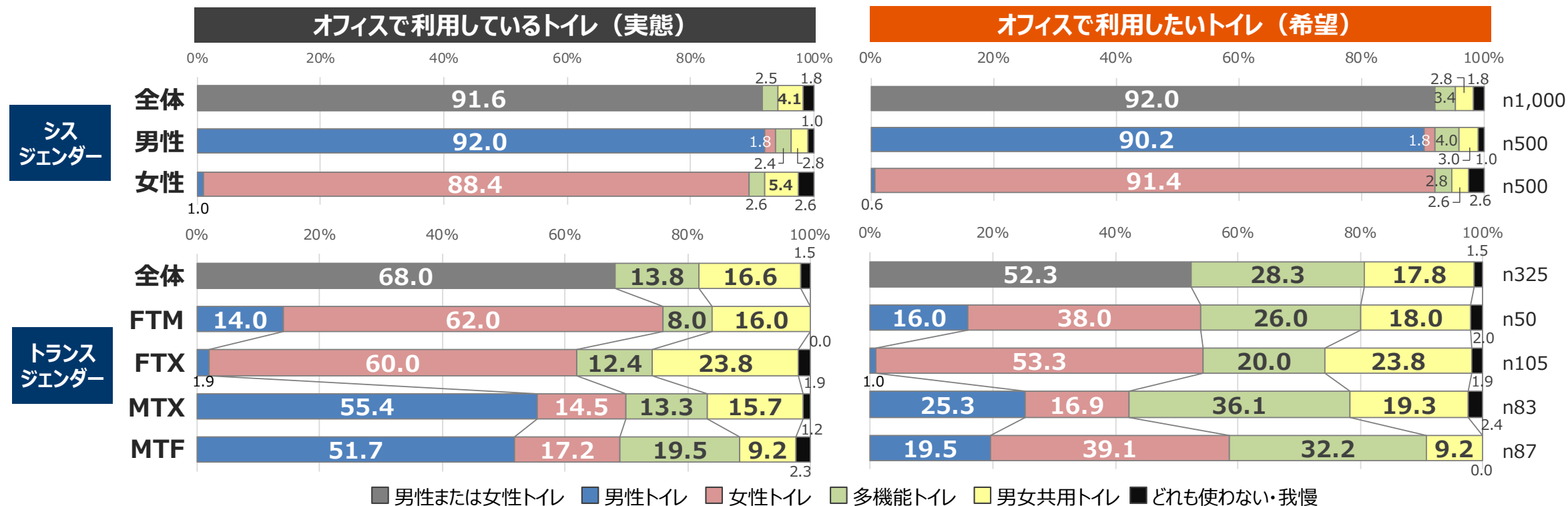
＊2017年調査：調査会社に登録しているモニター回答者（167人）に、LGBTQ+ 関連団体の協力を得て収集した回答者（132人）を加え、計299人の結果を集計。

＊2022年調査：調査会社に登録しているモニター回答者（325人）のみで集計。

「オフィス」で利用しているトイレ（実態）と利用したいトイレ（希望）の種類

- シスでは、実態・希望共に男性は「男性トイレ」、女性は「女性トイレ」が約9割を占めるが、トランスはさまざまである。
- トランスの実態では、「出生時戸籍が女性」のFTM、FTXでは「女性トイレ」、「出生時戸籍が男性」のMTX、MTFでは「男性トイレ」が最も多く、オフィスでは「出生時の戸籍性別のトイレ」を利用せざるを得ない傾向が示唆される。
- トランス全体では、実態・希望共に「男女別トイレ」が最も多いが、「実態」では7割弱であるのに対し、「希望」では約半数となる。その分、「多機能トイレ」を希望する人の割合が高くなり、全体では約3割を占めた。

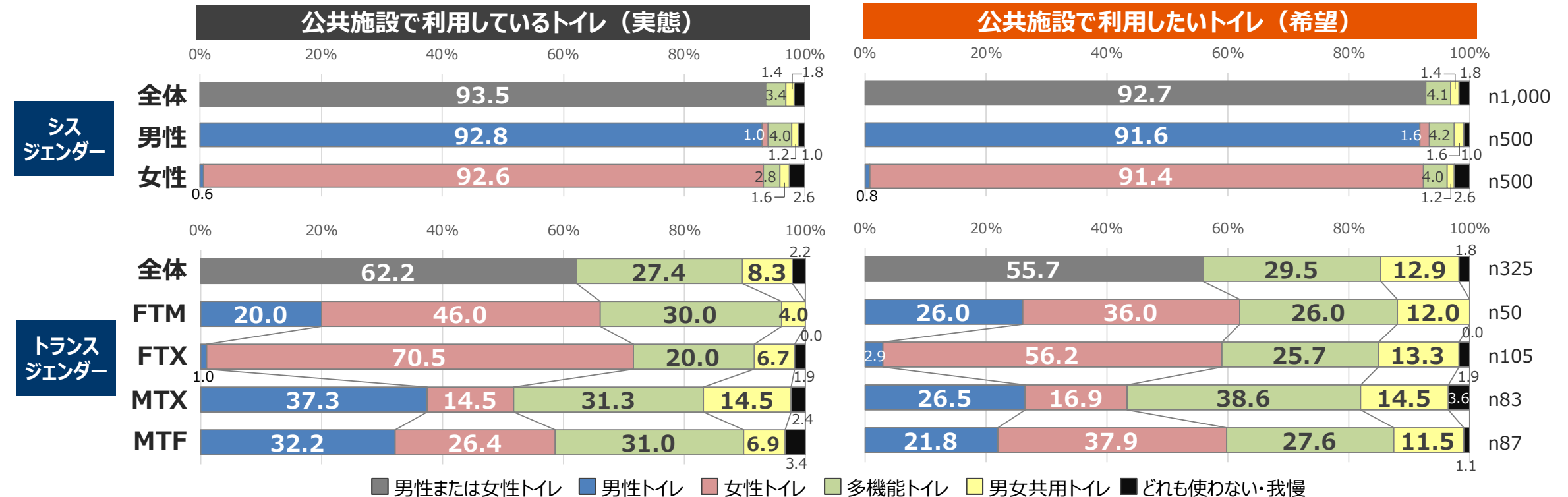
Q.あなたは、現在、職場では主にどのトイレを利用していますか？（実態）／ 職場ではどのトイレを利用したいですか？（希望）（SA）



「公共施設」で利用しているトイレ（実態）と利用したいトイレ（希望）の種類

- シス・トランス共に、実態・希望の全体的な傾向はオフィスと同様だが、トランスでは「出生時の戸籍性別のトイレ」を利用している人の割合はオフィスより低く、「自認する性別のトイレ（FTMの男性トイレ、MTFの女性トイレ）」の割合がやや高い。
- 「多機能トイレ」を利用している人は、オフィスの13.8%に対し27.4%で13.6ポイント高い。一方、「男女共用トイレ」を利用している人は、オフィス16.6%に対し、8.3%で半減する。
- トランス回答者のオフィスには小規模なものも含まれ、「多機能トイレ」が設置されていない、あるいは「男女共用トイレ」しかない状況が考えられる。また、公共施設では、現状「多機能トイレ」以外の男女共用トイレは少ないことが影響していると推察される。

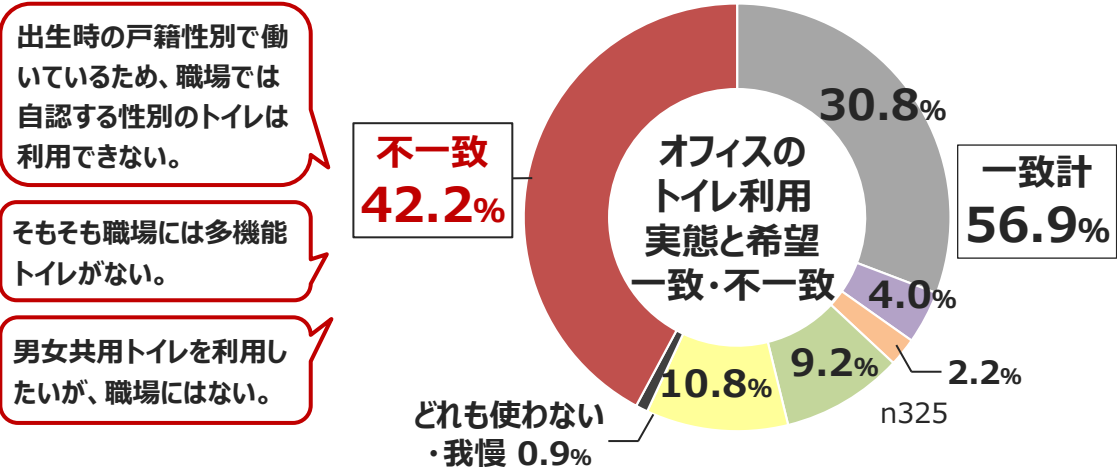
Q.あなたは、現在、公共施設では主にどのトイレを利用していますか？（実態）／公共施設ではどのトイレを利用したいですか？（希望）（SA）



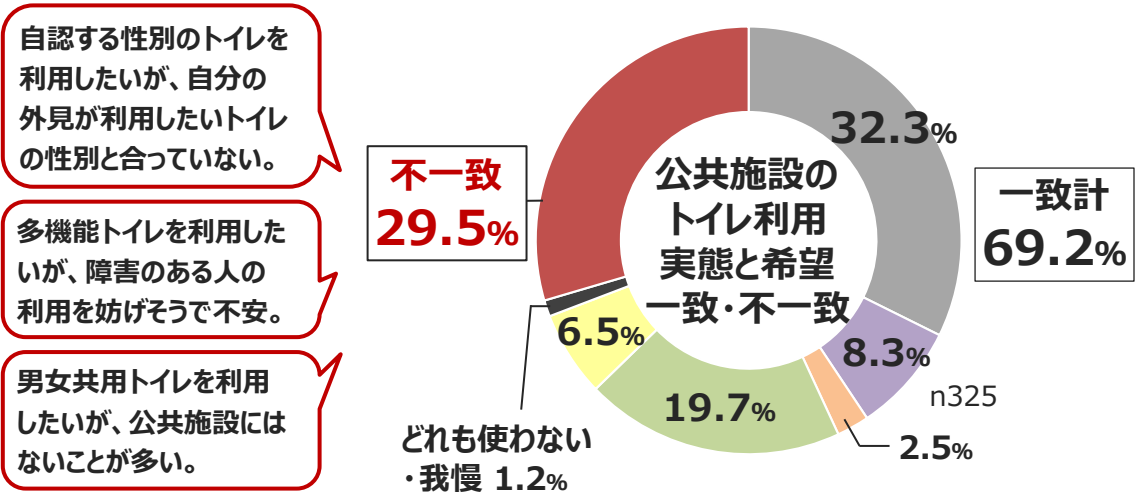
トイレ利用の実態と希望の一致・不一致状況：オフィス・公共施設（トランスジェンダー全体）

- トランスジェンダー回答者全体のうち、オフィスでは4割以上、公共施設では約3割が利用したいトイレを利用できておらず、その差は12.7ポイントであった。この傾向は、職場での性別とプライベートでの性別の不一致状況と同じ傾向である（p.28参照）。
- 希望するトイレはジェンダーにより異なり、実態と一致する場合でもさまざまなケースがある。オフィスよりも公共施設の方が「自認性別のトイレ」で一致している人は4.3ポイント、「多機能トイレ」で一致している人は10.5ポイント高い。一方、「男女共用トイレ」で一致している人は公共施設の方が4.3ポイント低い。
- 「不一致」の理由（自由回答）には、多機能トイレや男女共用トイレが設置されていないことによるものもみられた。

Q.あなたは、現在、職場では主にどのトイレを利用していますか？（実態）
職場ではどのトイレを利用したいですか？（希望）（SA）



Q.あなたは、現在、公共施設では主にどのトイレを利用していますか？（実態）
公共施設ではどのトイレを利用したいですか？（希望）（SA）



【一致内訳】

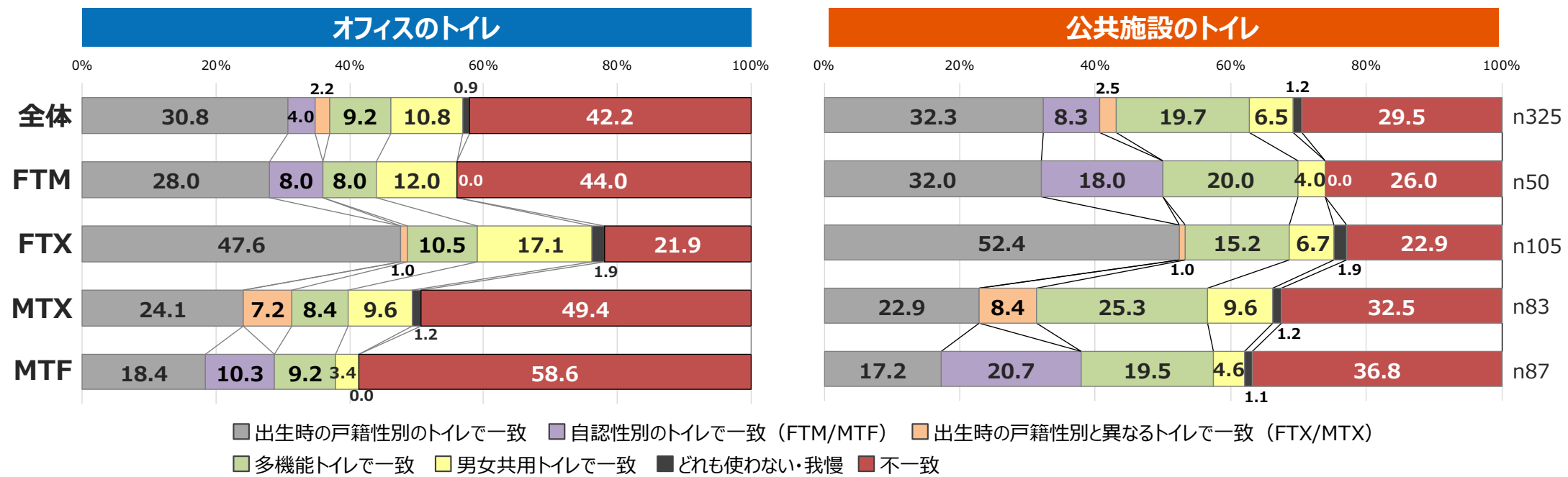
■ 出生時の戸籍性別のトイレで一致 ■ 自認性別のトイレで一致（FTM/MTF） ■ 出生時の戸籍性別と異なるトイレで一致（FTX/MTX） ■ 多機能トイレで一致 ■ 男女共用トイレで一致

トイレ利用の実態と希望
の一致凡例について
※詳細はp.31参照

- ・出生時戸籍性別のトイレで一致：FTM・FTXでは女性用トイレ、MTX・MTFでは男性用トイレで一致している場合。
- ・自認する性別のトイレで一致：FTMでは男性用トイレ、MTFでは女性用トイレで一致している場合（Xジェンダー用トイレはないため、FTX・MTXの場合は「性自認で一致」はない）。
- ・出生時の戸籍性別と異なるトイレで一致：FTXでは男性用トイレ、MTXでは女性用トイレで一致している場合。

トイレ利用の実態と希望の一致・不一致状況：オフィスと公共施設の比較（トランスジェンダー4区分）

- 一致しているトイレの種類はオフィス、公共施設共にさまざま、ジェンダー区分によっても異なる。
- 「自認する性別のトイレ」で一致する人は、オフィスより公共施設の方が多く、FTMではオフィス8.0%に対し、公共施設は18.0%、MTFではオフィス10.3%に対し、公共施設は20.7%。
- 不一致率は、FTXを除き、公共施設よりもオフィスの方が高い。また、「出生時の戸籍性別が男性」のトランスジェンダー（MTX、MTF）の方が、「同女性」のトランスジェンダー（FTM、FTX）より不一致率が高い傾向にあり、特にMTFはオフィスでは約6割、公共施設では約4割にのぼる。



【トイレ利用の実態と希望の一致凡例について】※詳細はp.37参照

- ・出生時戸籍性別のトイレで一致：FTM・FTXでは女性用トイレ、MTX・MTFでは男性用トイレで一致している場合。
- ・自認する性別のトイレで一致：FTMでは男性用トイレ、MTFでは女性用トイレで一致している場合（Xジェンダー用トイレはないため、FTX・MTXの場合は「性自認で一致」はない）。
- ・出生時の戸籍性別と異なるトイレで一致：FTXでは男性用トイレ、MTXでは女性用トイレで一致している場合。

補足：トイレ利用の“実態”と“希望”の「一致状況」凡例について

「オフィス」、「公共施設」のトイレ利用における“実態”と“希望”の「一致状況」について、凡例の説明を以下に示す。

➤ 下記“実態”と“希望”の各設問に対する回答の一致状況により、分類を行った。

	設文内容	選択肢（単一回答）
実態	あなたは現在、職場では（公共施設では）主にどのトイレを 利用 していますか？	男性トイレ / 女性トイレ / 多機能トイレ / 男女共用トイレ / どれも使わない・我慢する
希望	あなたは、職場では（公共施設では）どのトイレを 利用 したいですか？	

一致の内容	実態と希望の回答状況
出生時の戸籍性別のトイレで一致	FTM・FTXでは「女性トイレ」、MTX・MTFでは「男性トイレ」で一致している人
自認性別のトイレで一致 （FTM、MTFのみ）	FTMでは「男性トイレ」、MTFでは「女性トイレ」で一致している人。 「Xジェンダー用トイレ」はないため、FTX、MTXでは「自認性別のトイレで一致」はない。
出生時の戸籍性別と異なるトイレで一致 （FTX、MTXのみ）	FTXでは「男性トイレ」、MTXでは「女性トイレ」で一致している人。
多機能トイレで一致	「多機能トイレ」で一致している人
男女共用トイレで一致	「男女共用トイレ」で一致している人
どれも使わない・我慢	実態、希望共に「どれも使わない・我慢する」と回答した人
不一致	実態と希望の回答が一致しない人、実態と希望のいずれかにて「どれも使わない・我慢する」と回答した人

3. 調査結果報告

3-4. カミングアウト状況と利用しているトイレ

おことわり

ここからのページは、職場でのカミングアウトの有無が、職場のトイレ利用にどのような影響を及ぼすかを調べるために、比較・集計を行っています。

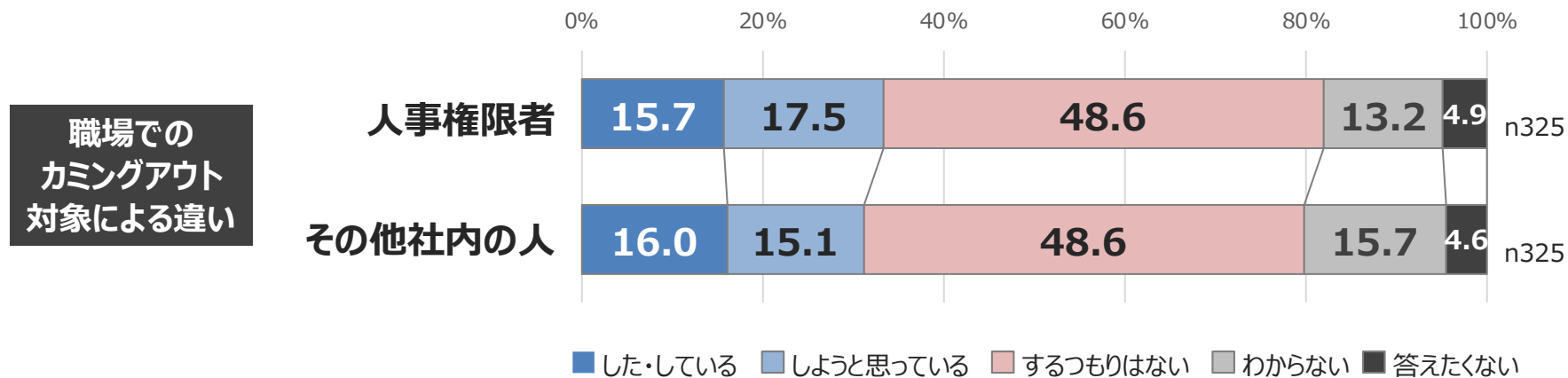
結果の如何に関わらず、職場でのカミングアウトを推奨したり、否定したりしているものではありません。

また、カミングアウトはあくまでも本人の意思に基づいて行うものであり、決して周囲が強制したり阻んだりするものではありません。

職場でのカミングアウト対象と状況（トランスジェンダー全体）

- 職場でカミングアウトするつもりはない、と回答した人が半数近くを占める。カミングアウトしている人は、人事権限者に対してもそれ以外の社内の人に対しても、16%程度に留まる。
- 「しようと思っている」と回答した人は、相手が人事権限者でもその他社内の人でも、その割合に大きな差はない。

Q.あなたは、出生時の戸籍の性別に対する違和感に対し、職場でカミングアウトを行いましたか？お差し支えない範囲でお知らせください。（SA）



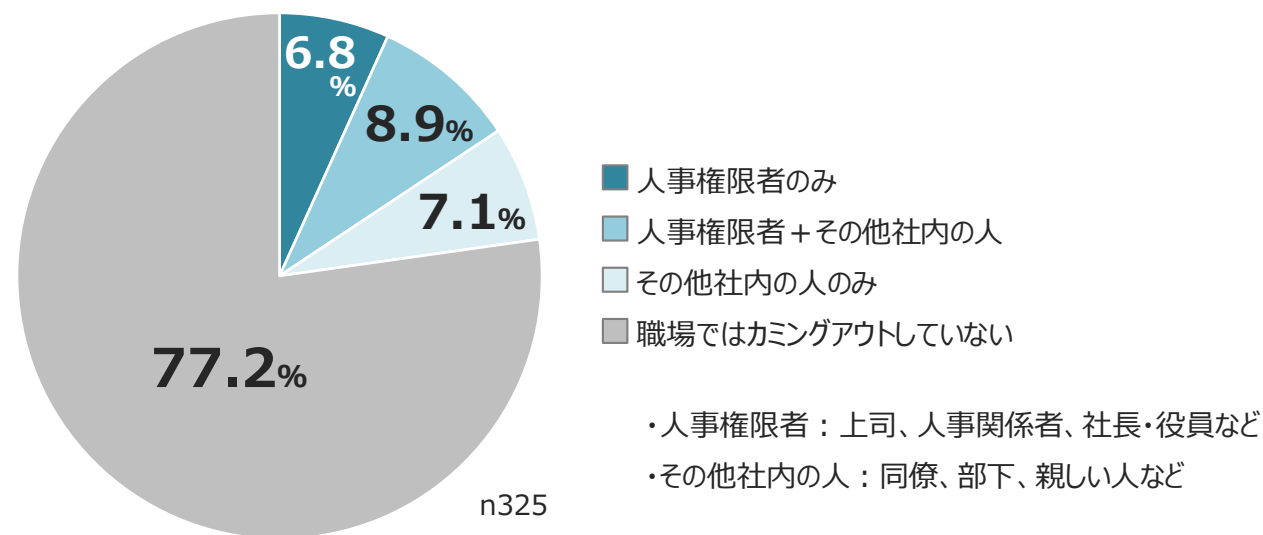
・人事権限者：上司、人事関係者、社長・役員など

・その他社内の人：同僚、部下、親しい人など

職場でのカミングアウト対象と状況（トランスジェンダー全体）

- 8割近い人が、職場の誰にもカミングアウトしていない。
- 人事権限者とその他社内の人両方にカミングアウトしている人は1割にも満たない。

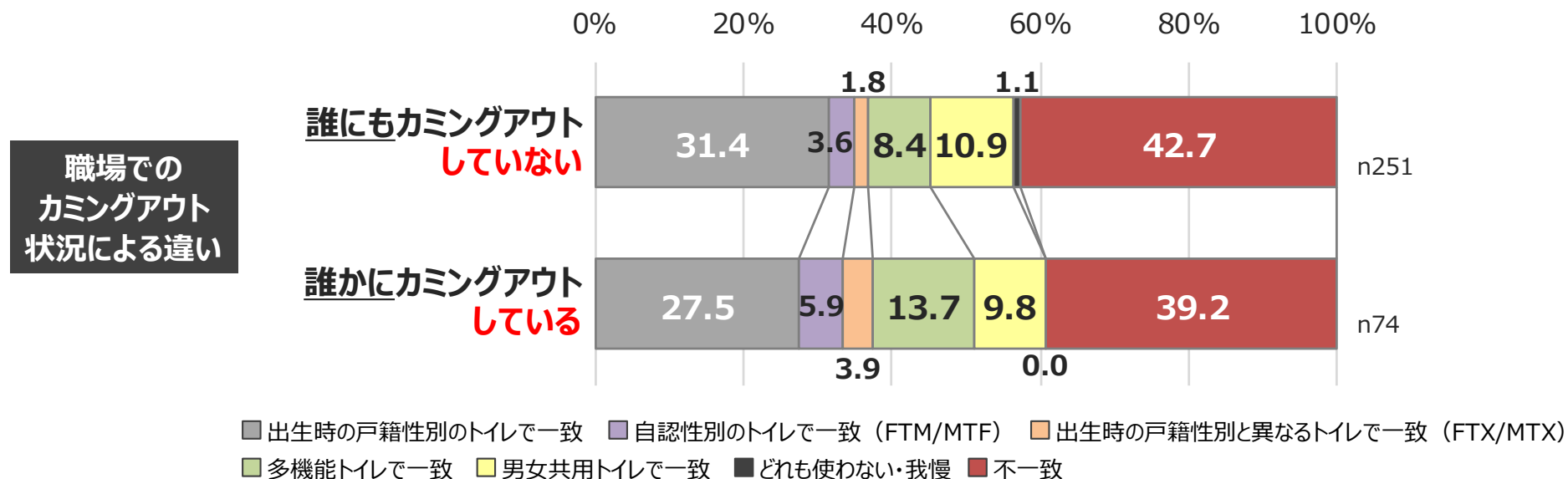
Q.あなたは、出生時の戸籍の性別に対する違和感に対し、職場でカミングアウトを行いましたか？
お差し支えない範囲でお知らせください。（SA）



オフィスで利用しているトイレの種類：希望と実態の一致度（カミングアウトの有無）

- 職場でカミングアウトしている人でも、4割弱がトイレ利用の希望と実態が不一致、誰かにカミングアウトしたとしても、4割強が不一致で大きな差はみられない。
- 「多機能トイレ」で一致する人は、カミングアウトしている人の方が5.3ポイント高い。

Q.あなたは、職場ではどのトイレを利用したいですか？（希望）／現在、職場では主にどのトイレを利用していますか？（実態）



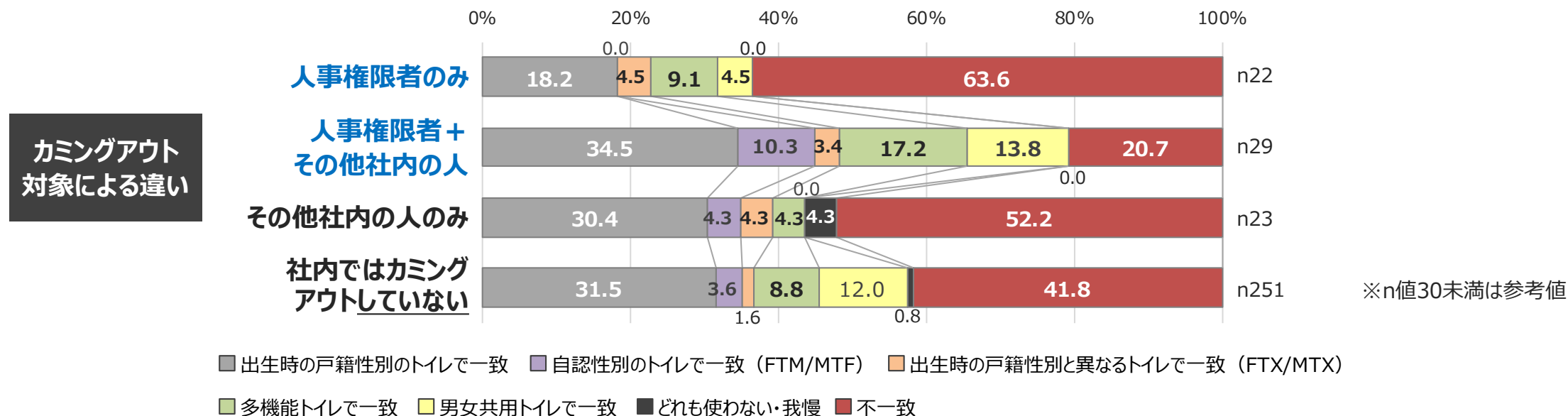
※「一致」に関する詳細は、p.37【補足：トイレ利用の“実態”と“希望”の「一致状況」凡例について】を参照

- ✓ カミングアウトせずに「自認する性別トイレ」や「出生時の戸籍性別と異なるトイレ」を利用している人の中には、現在の職場で働き始める前に性別を移行している場合もあると考えられる。

オフィスで利用しているトイレの種類：希望と実態の一致度（カミングアウト対象）

- 「不一致」の割合は、人事権限者のみにカミングアウトしている場合が最も高く6割以上。人事権限者に加え、その他社内の人にもカミングアウトしている場合が最も低く約2割。
- カミングアウト対象の範囲を広げることが、利用したいトイレを利用できることに繋がってはいるが、職場で利用したいトイレを利用するにはカミングアウトせざるを得ない状況も示唆される。
- 社内でカミングアウトしていない場合の方が、「その他社内の人のみ」にカミングアウトしている場合よりも不一致の割合が低い。自認性別のトイレで一致している人も数%おり、入社前に性別移行している可能性がある。

Q.あなたは、職場ではどのトイレを利用したいですか？（希望）／現在、職場では主にどのトイレを利用していますか？（実態）



※「一致」に関する詳細は、p.37【補足：トイレ利用の“実態”と“希望”の「一致状況」凡例について】を参照

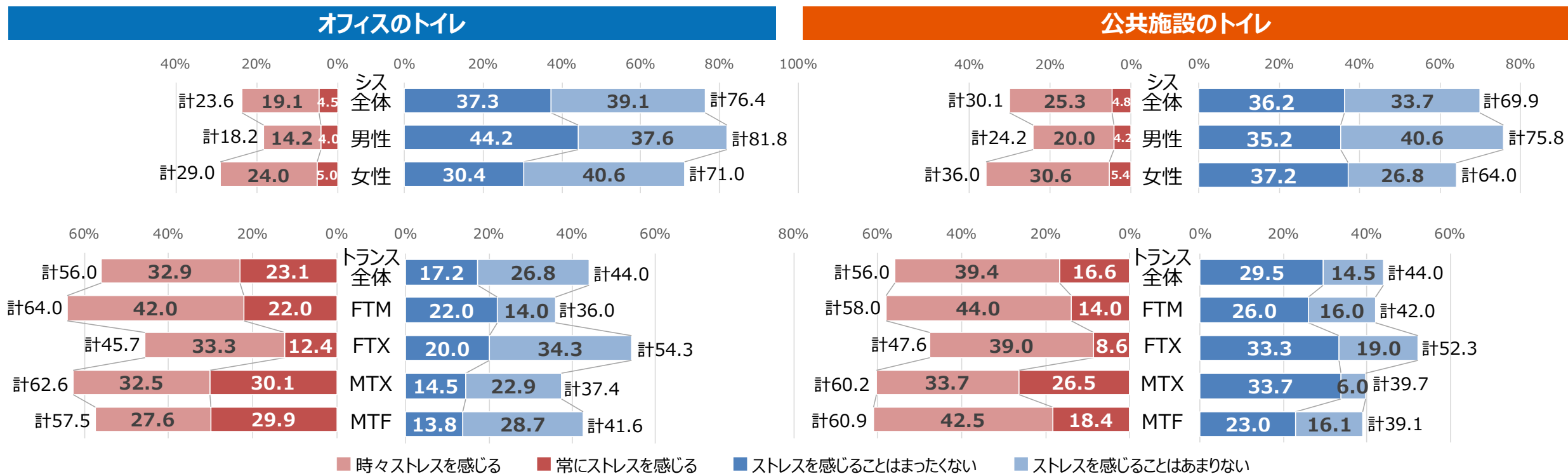
3. 調査結果報告

3-5. トイレ利用のストレス・不満点、小便器間の仕切り（オフィス・公共施設）

トイレ利用時のストレス有無：オフィス・公共施設（シス／トランス）

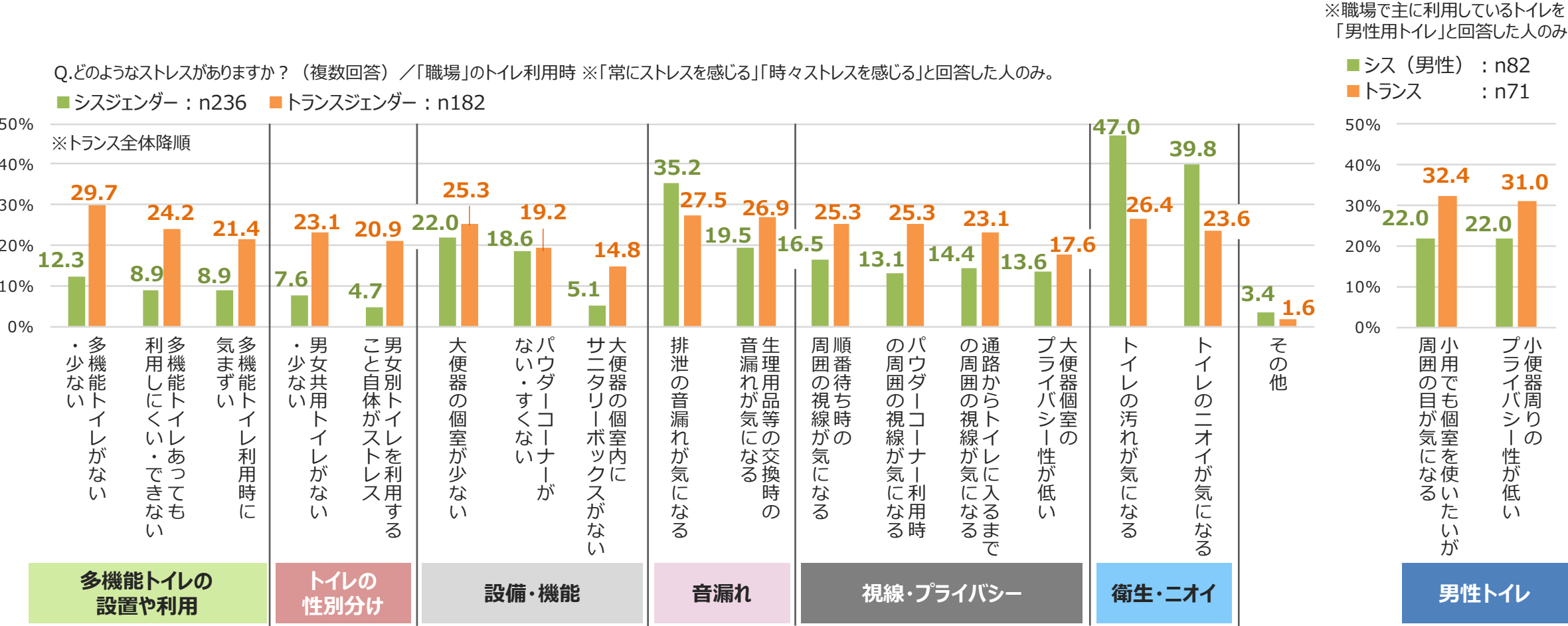
- オフィス、公共施設共に、シスよりもトランスの方がトイレにストレスを感じている割合が高い。
- シスでは、オフィスよりも公共施設の方がストレスを感じている割合がやや高く、6.5ポイントの差がある。男性よりも女性の方がストレスを感じている。
- トランス全体では、施設間での合計割合は同じだが、「ストレスを感じることはまったくない」と回答した人は公共施設29.5%に対し、オフィス17.2%で12.9ポイントの差がある。

Q.職場、および駅・ショッピングセンターなどの公共施設でトイレを利用する際、ストレスを感じることはありますか？（SA）



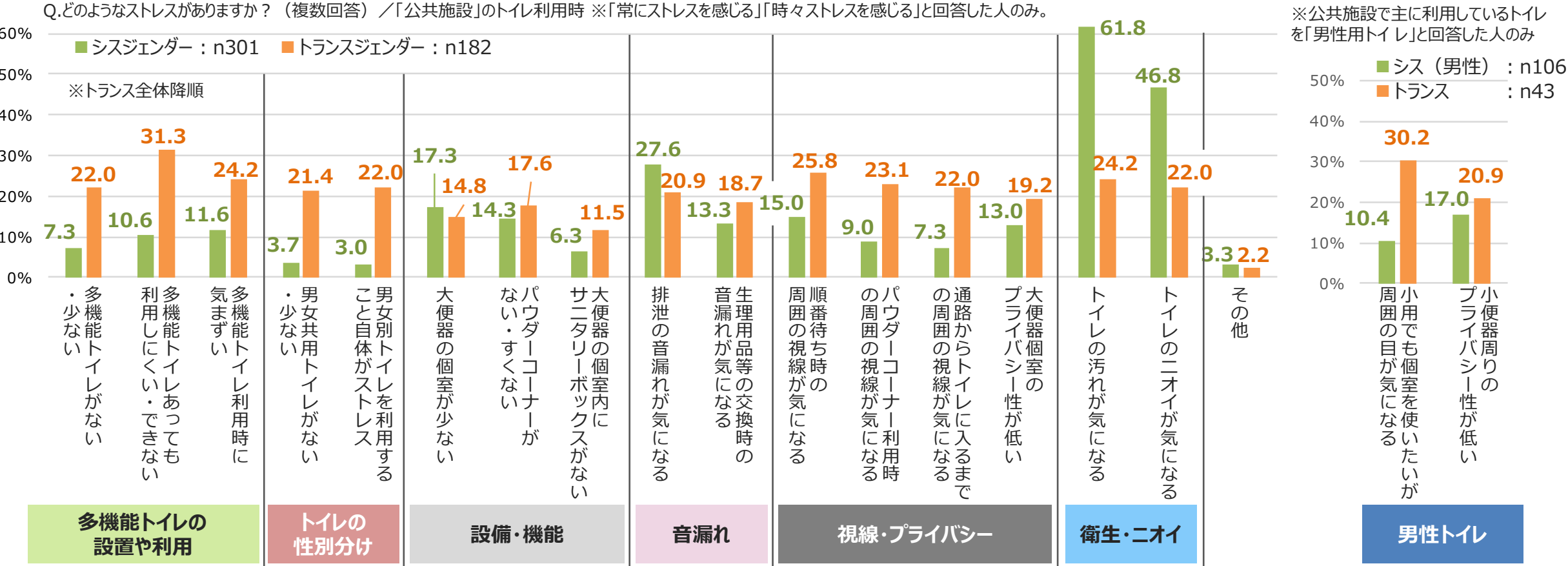
トイレのストレス・不満点：オフィス（シス全体・トランス全体）

- シスでは、衛生・ニオイに関する項目の割合が最も高く、「汚れ」が約5割で突出している。
- トランスの場合は、多機能トイレやトイレの性別分けに関することがシスよりも15ポイント前後高く、視線に関する項目は10ポイント前後高い。トランスは、衛生・ニオイ以前にトイレへのアクセス自体にストレスを感じている。
- 男性トイレに関する2項目は、トランスは3割以上だが、シスも2割以上がストレスに感じている。



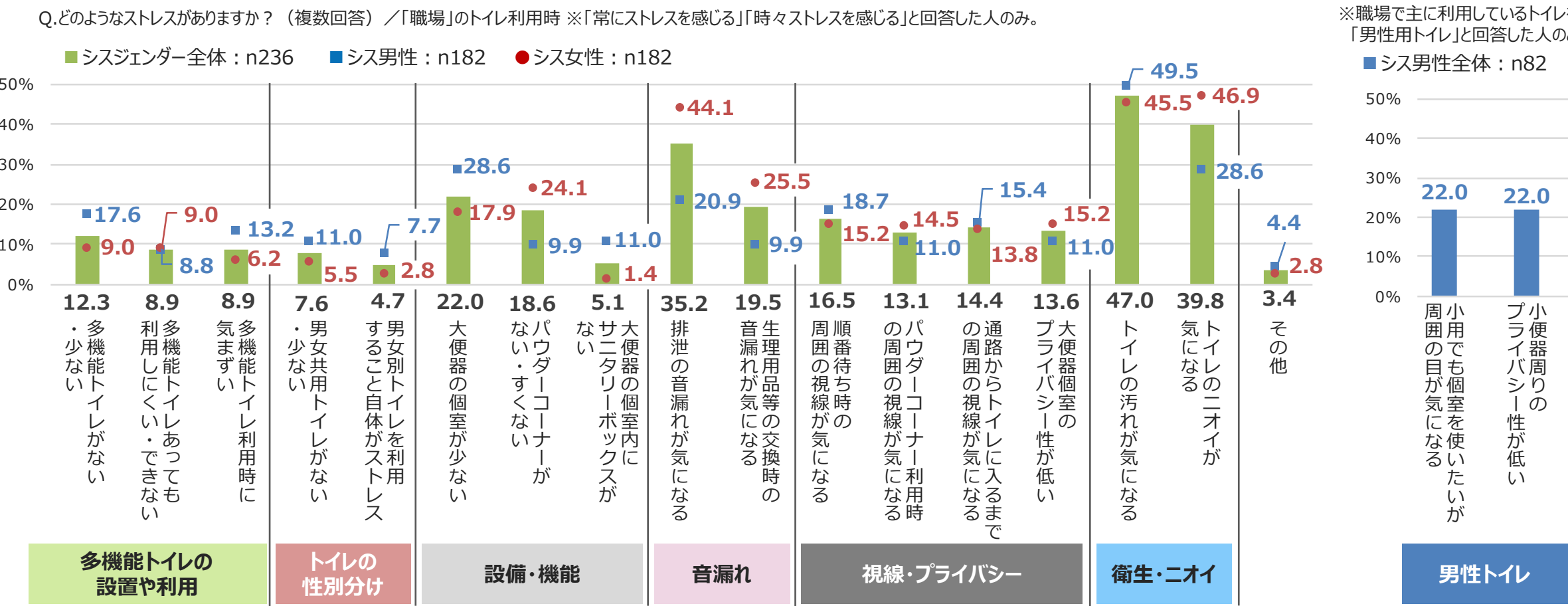
トイレのストレス・不満点：公共施設（シス全体・トランス全体）

- シスでは、オフィス同様、衛生・ニオイに関する項目の割合が最も高い。「汚れ」は約6割、「ニオイ」は約5割でオフィス以上に突出している。
- 多機能トイレやトイレの性別分けに関する項目は、公共施設以上にシスとトランスの差が開いた。両者共に、多機能トイレの「数」についてはオフィスよりも割合が低くなるが、「あっても利用しにくい・できない」については高くなり、トランスでは3割を超える。
- パウダーコーナーやトイレに入るまでの視線に関する項目は、トランスはオフィスとほぼ同程度だが、シスの割合がオフィスよりも低い。
- 男性トイレに関しては、シス・トランス共にオフィスよりも割合が低く、オフィスほど人目を気にしていないことがうかがえる。



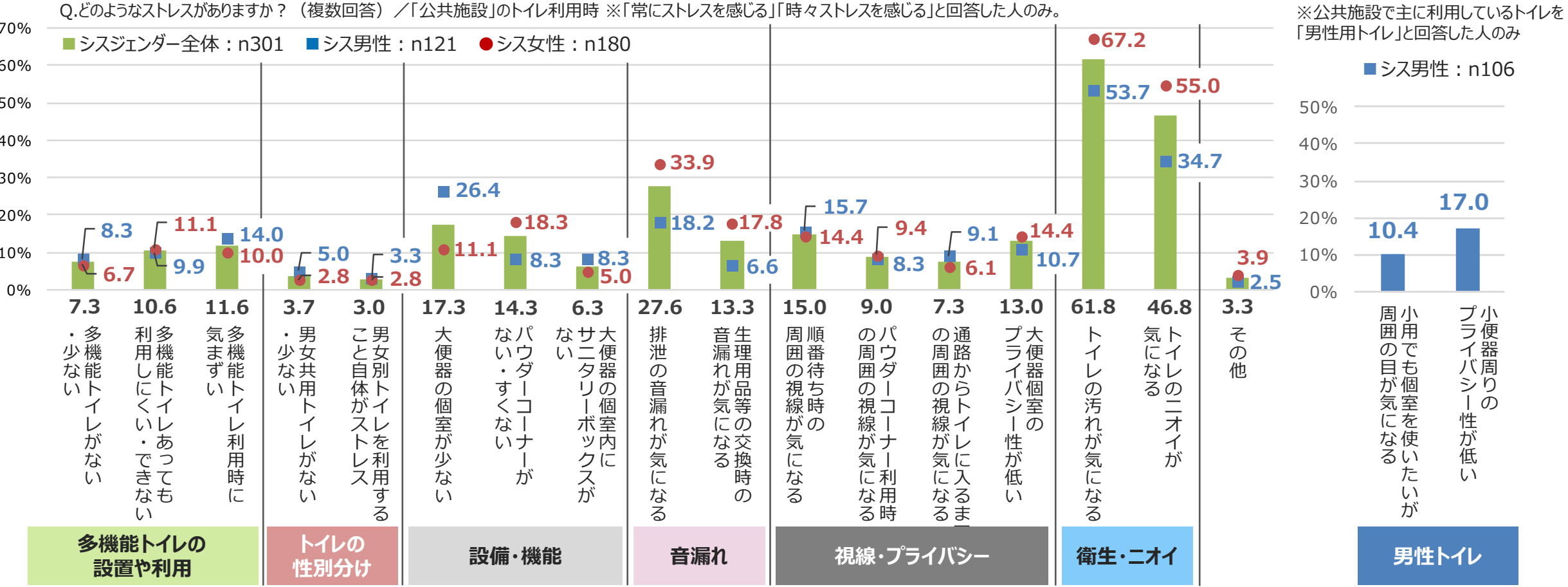
トイレのストレス・不満点：オフィス（シス全体・シス男女）

- 男性は大便器の個室の数や多機能トイレの数など、器具数の少なさに関することは女性よりもストレスに感じている人が多い傾向。
- 女性は、排泄の音漏れや生理用品の交換音などの「音」に関することや、「ニオイ」に関すること、「パウダーコーナーの少なさ」が、男性よりもストレスを感じている割合が特に高い。



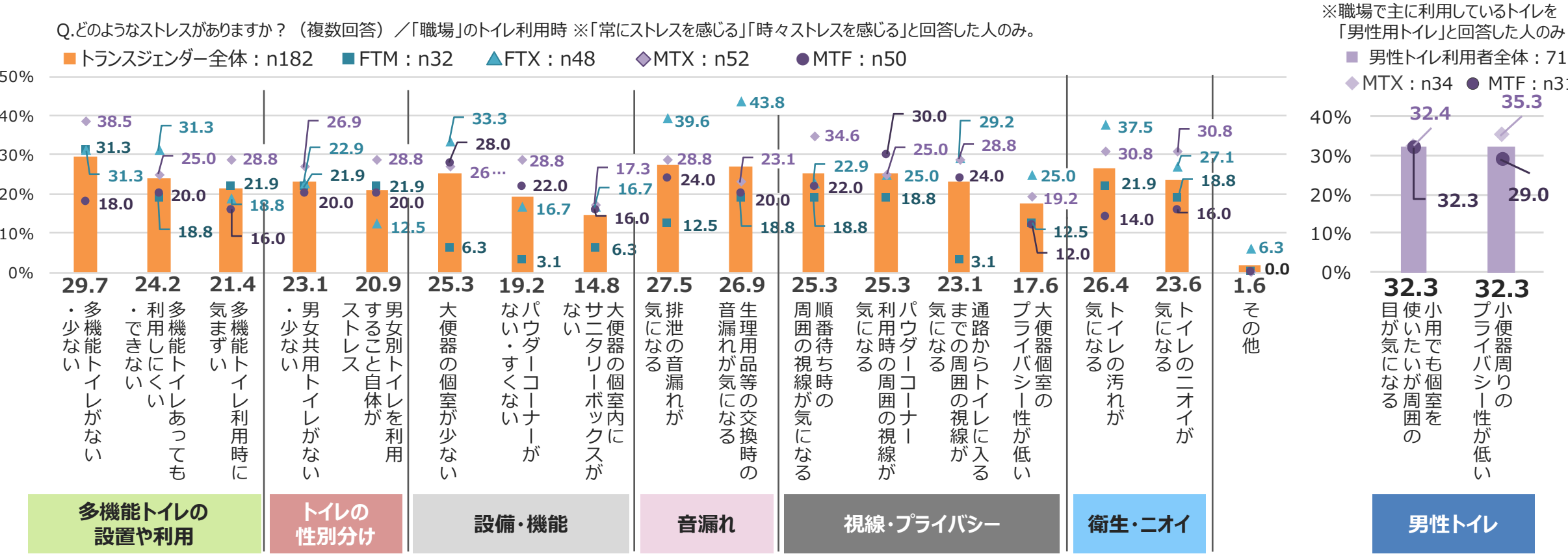
トイレのストレス・不満点：公共施設（シス全体・シス男女）

- オフィス同様、女性の方が男性よりも、排泄の音漏れ、生理用品等の交換音、パウダーコーナーの少なさ、ニオイに関する項目が高い。
- 女性は、排泄の音漏れについてオフィスより10.2ポイント低く、オフィスほど気にしていない傾向がみられた。公共施設は知らない人同士での利用であることが影響していると考えられる。
- 汚れやニオイについては、男女共にオフィス以上に不満に感じているが、その傾向は女性の方が特に強い。



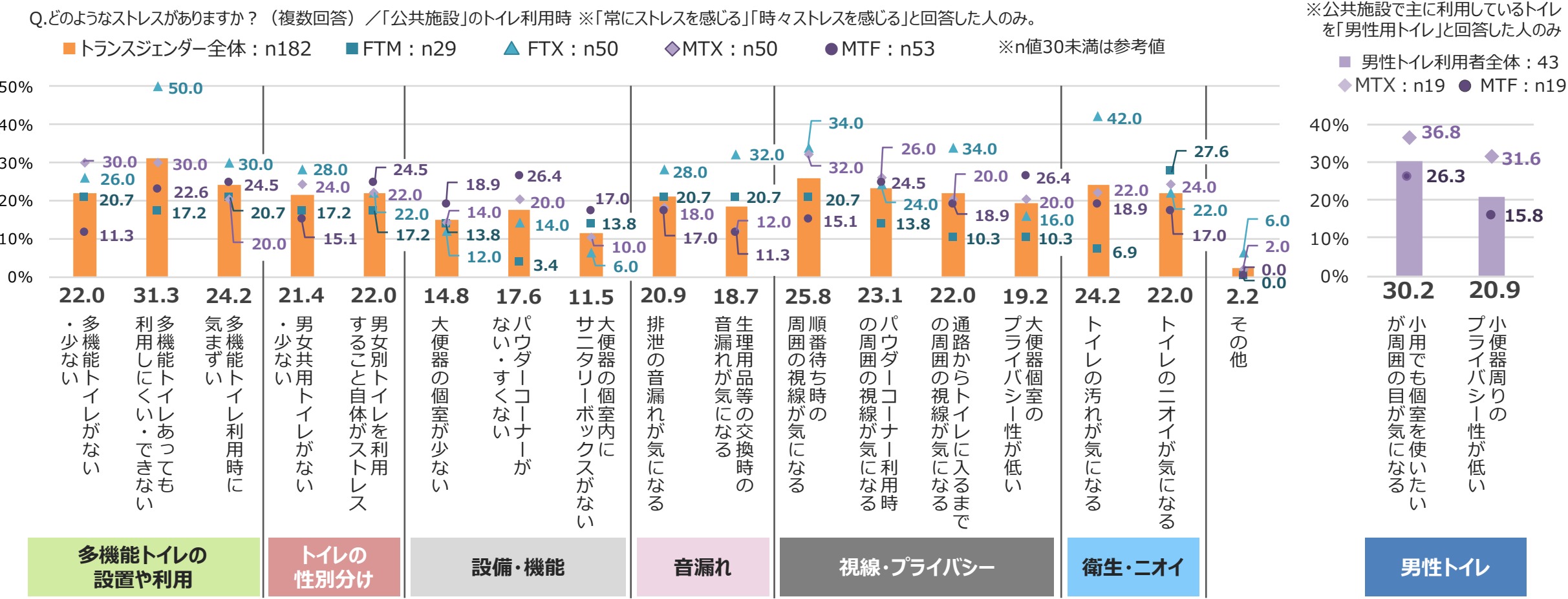
トイレのストレス・不満点：オフィス（トランス全体・トランス4区分）

- FTM・MTFよりも、FTX・MTXの方が全体的にストレスを感じている割合が高いが、ジェンダー毎にバラつきや割合差があり、ストレスのポイントが異なる。特に、多機能トイレの設置数、排泄音、汚れについてはジェンダー間の差が大きい。
- FTMは突出項目がなく、特に「設備機能に関する項目」は他のジェンダーより低い。MTFは、「パウダーコーナー利用時の視線」が他のジェンダーより高い。
- FTXでは「多機能トイレの利用しにくさ」、「大便器の個室数」、「音漏れ」、「大便器個室のプライバシー性」、「汚れ」、MTXでは「多機能トイレの数」と「利用時の気まずさ」、「男女別トイレの利用」、「順番待ちの視線」が他のジェンダーに比べて割合の高さが目立つ。



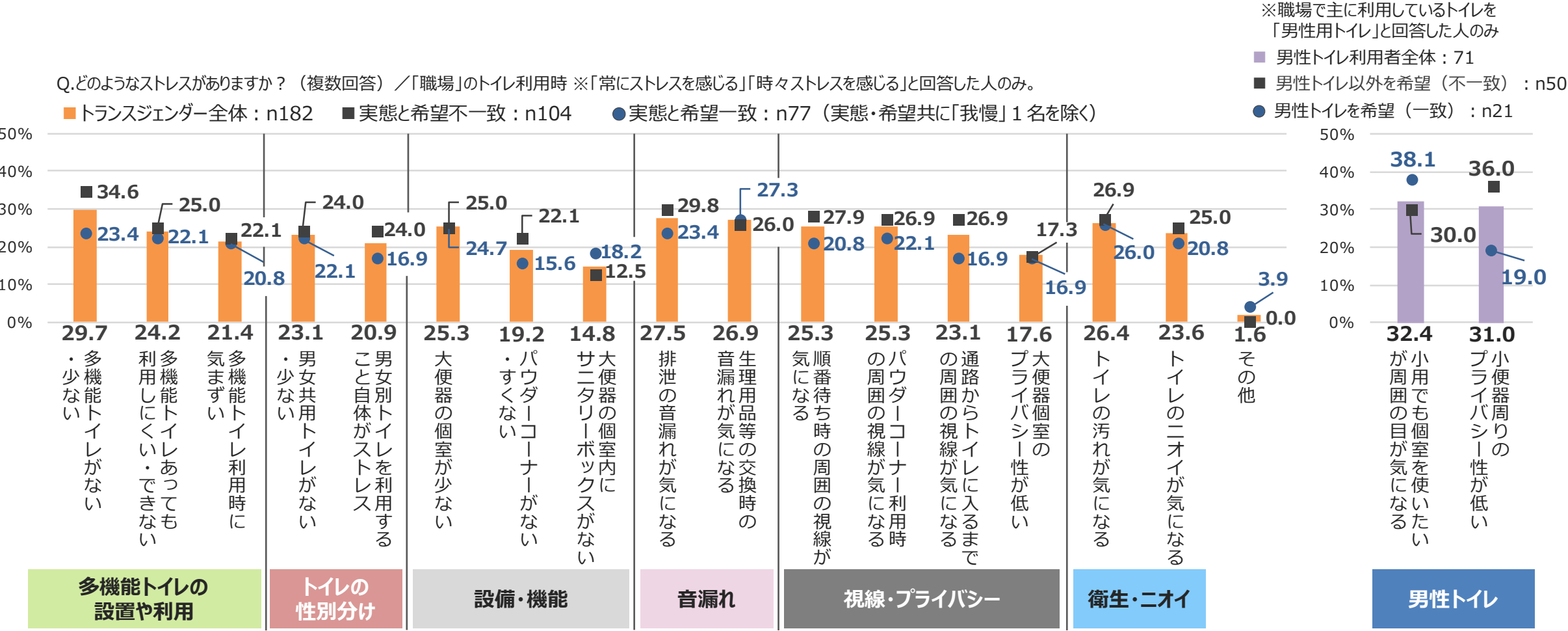
トイレのストレス・不満点：公共施設（トランス全体・トランス4区分）

- オフィス同様、ジェンダー毎にバラつきがあり、割合に差があるものも多く、ストレスを感じるポイントが異なっている。
- FTXでは多機能トイレがあっても利用しにくい・できない、音漏れ、トイレまでの視線、汚れに関する項目が他のジェンダーに比べて割合の高さが目立つ。



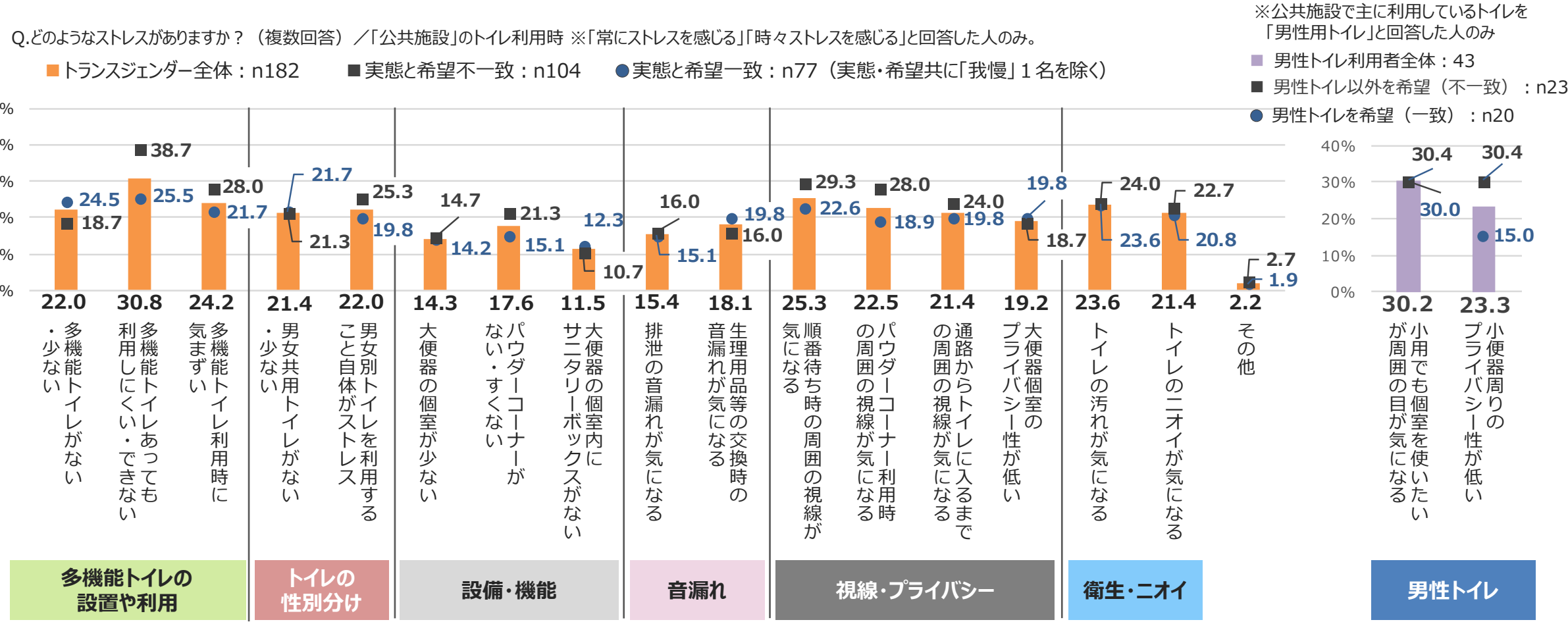
トイレのストレス・不満点：オフィス（トランス・トイレ利用：一致／不一致）

- 多機能トイレの少なさ、男女別トイレを利用すること、パウダーコーナーの少なさ、排泄音、視線に関する項目は、利用の実態と希望が一致している人よりも、一致していない人の方がストレスに感じている割合が高い。
- 男性トイレについては、小便器周りのプライバシー性について、一致が19.0%に対し不一致は30.0%で11ポイントの差であった。



トイレのストレス・不満点：公共施設（トランス・トイレ利用：一致／不一致）

- 多機能トイレが設置されていることが少ないオフィスに比べ、公共施設の方が「多機能トイレがない・少ない」の割合は減る。
- 一方、「多機能トイレがあっても利用しにくい・できない」の割合は増えている。
- 男性用トイレを主に利用している人では、「小用でも個室を使いたい」が周囲の目が気になる」が約3割であった。



トイレのストレス・不満点：オフィス（トランス・利用トイレ別）

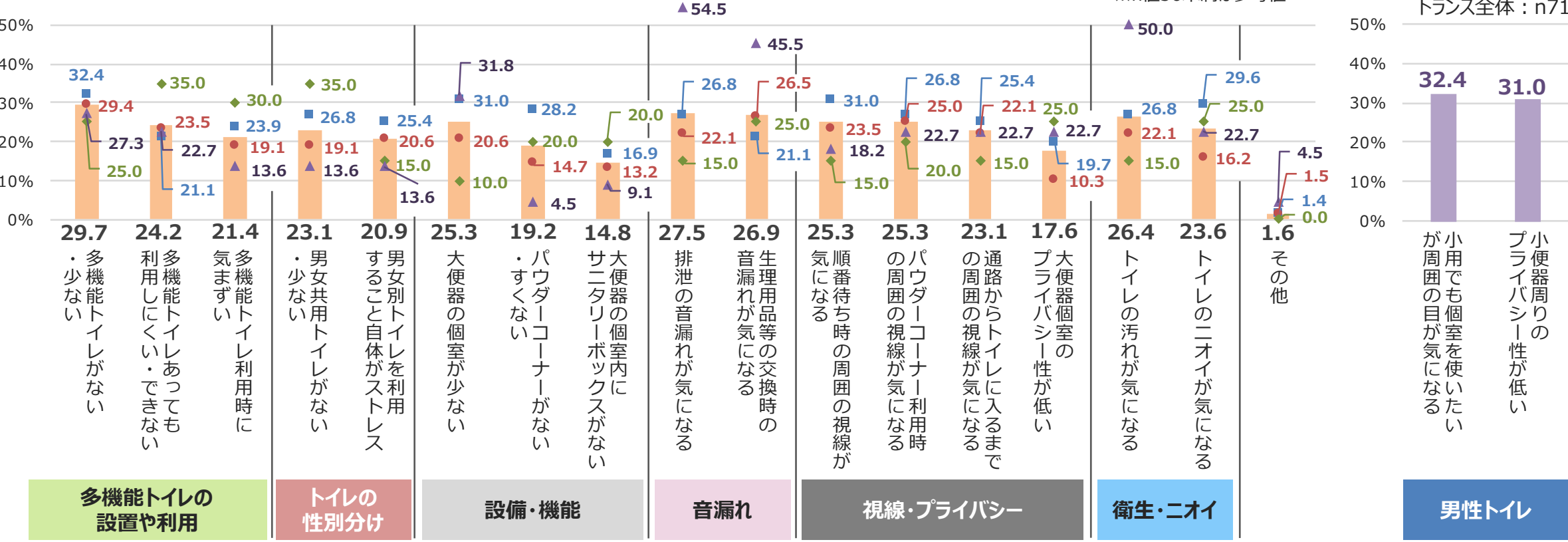
- 男性トイレを利用している人の方が、女性トイレを利用している人よりもストレスを感じている割合が高い傾向にある。
- サンプル数が少ないため参考値ではあるが、多機能トイレを利用している人では、「多機能トイレがあっても利用しにくい・できない」、「利用時に気まずい」、「男女共用トイレが少ない」ことをストレスに感じている割合が高く、ストレスを感じながら利用していることがうかがえる。男女共用トイレを利用している人では、「音漏れ」や「汚れ」を気にしている人の割合が突出している。

Q.どのようなストレスがありますか？（複数回答）／「職場」のトイレ利用時 ※「常にストレスを感じる」「時々ストレスを感じる」と回答した人のみ。

※職場で主に利用しているトイレを「男性用トイレ」と回答した人のみ

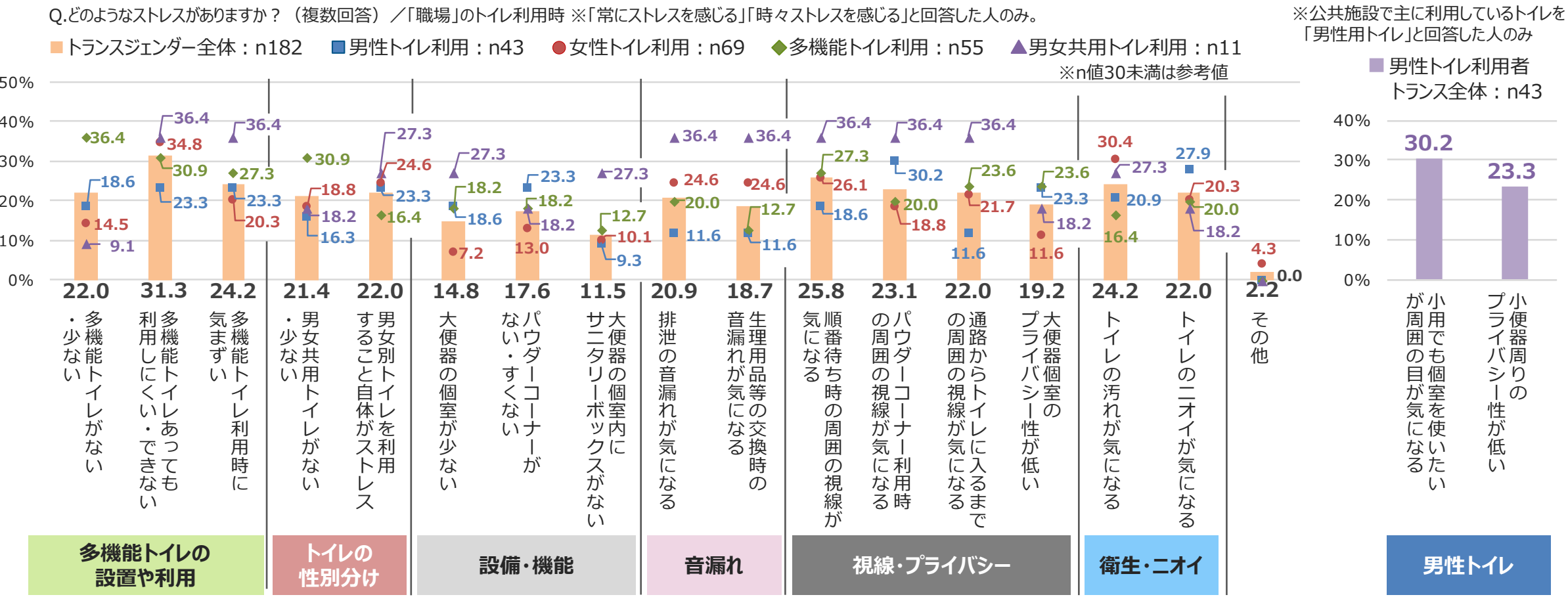
■ トランスジェンダー全体：n182 ■ 男性トイレ利用：n71 ■ 女性トイレ利用：n68 ◆ 多機能トイレ利用：n20 ▲ 男女共用トイレ利用：n22

※n値30未満は参考値



トイレのストレス・不満点：公共施設（トランス・利用トイレ別）

- オフィスに比べて多機能トイレの整備が進んでいる公共施設においても、多機能トイレを利用している人は、数の不足を感じている。また、男女共用トイレにおいても数の不足を感じており、そのために多機能トイレを利用している可能性もある。
- サンプル数が少ないため参考値ではあるが、「男女共用トイレ」を利用している人は、「多機能トイレがあっても利用しにくい・気まずい」と感じている割合が、他のトイレを利用している人に比べて高い。



小便器間の仕切りのニーズ：オフィス・公共施設（シス／トランス）

- オフィス、公共施設ともに仕切りが「あった方がよい」と回答した人は、シスでは約7割、トランスでは8割以上にのぼる。特に、「ぜひあった方がよい」ではシスが35%程度であるのに対し、トランスでは6割前後でありトランスの方が仕切りを希望している割合が高い。
- オフィス・公共施設共に、MTXの方がMTFよりも仕切りを望む回答がやや多い。
- MTFでは、オフィスの方が公共施設よりも「ぜひあった方がよい」が10ポイント以上高い。

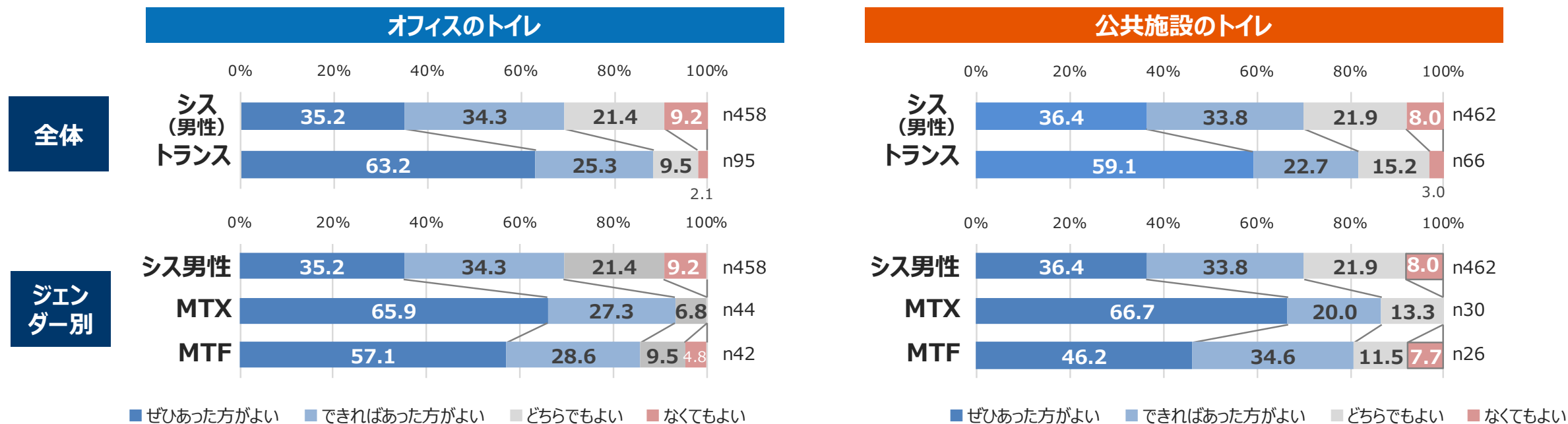
Q. あなたは、男性用トイレで小便器を利用する際、小便器との間に仕切りはある方がよいですか。

※主に利用しているトイレを「男性トイレ」と回答した人のみ。かつ、「小便器は利用しない」と回答した人※を除く。

※「小便器は利用しない」と回答した人

・オフィス：シス男性2名、MTX2名、MTF3名、

・公共施設：シス男性2名、FTM・MTX各1名、MTF2名。



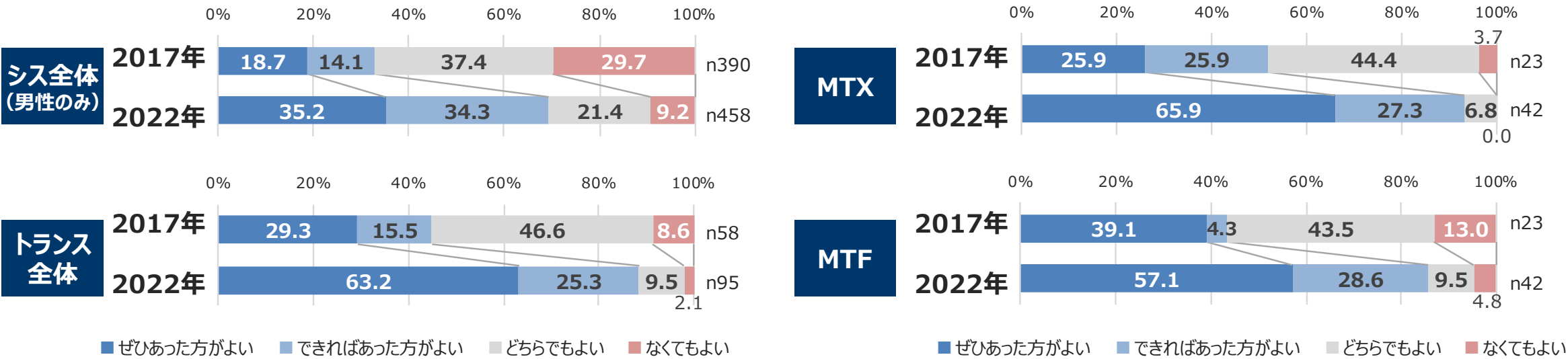
※FTM、FTXはトランス全体には含まれるが、サンプル数が非常に少ないためジェンダー別での集計は実施せず。

小便器間の仕切りのニーズ：オフィス / 2022年・2017年の比較（2017年は公共施設では実施せず）

- 2017年のオフィスの調査結果と比較すると、シス・トランス共に仕切りが「あった方がよい」と回答した人が増加。
- 「ぜひあった方がよい」と回答した人は、シス全体では2017年の18.7%に対し2022年は35.2%であり、16.5ポイント増、トランス全体では2017年の29.3%に対し、2022年では63.2%であり、倍増している。
- 「あった方がよい」の割合が顕著に増加していることには、調査を実施した2022年11月は「コロナ禍」であったことが影響していると考えられる。

Q. あなたは、男性用トイレで小便器を利用する際、小便器との間に仕切りはある方がよいですか。

※職場で主に利用しているトイレを「男性トイレ」と回答した人のみ。かつ「小便器は利用しない」と回答した人を除く。
※2017年のトランスジェンダー回答者はオープン調査で回収したサンプルを含むため、オープン調査回答者を除く調査会社モニター登録回答者のみで集計し、比較条件を揃えた。



※FTM、FTXはトランス全体には含まれるが、サンプル数が非常に少ないためジェンダー別での集計は実施せず。2017年のMTX・MTFは、n値30未満につき参考値。

3. 調査結果報告

3-6. 「多機能トイレ」に関する意識・利用状況（オフィス・公共施設）

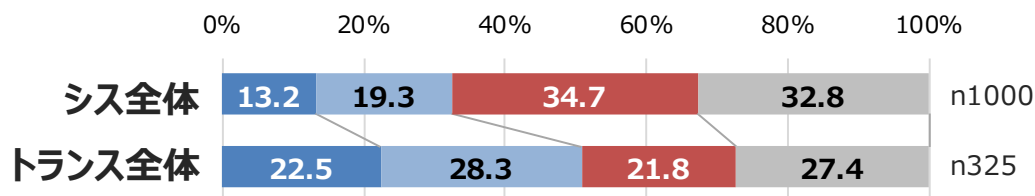
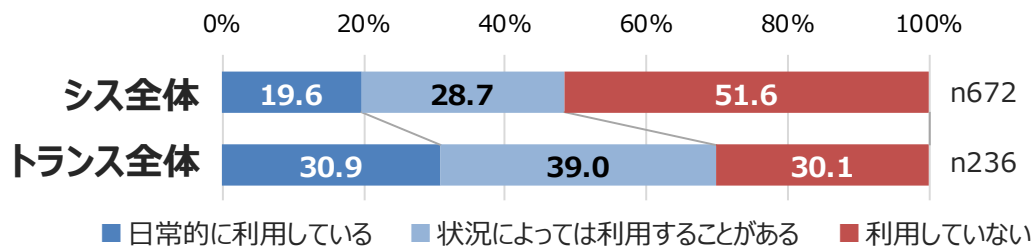
「多機能トイレ」の利用状況：オフィス・公共施設（シス／トランス）

- オフィスに多機能トイレがあると回答した人で比較をすると、両施設共に「日常的」「状況によって」を合わせて、シスでは約半数、トランスでは約7割が多機能トイレを利用している。
- 「日常的に利用」は、シス・トランス共にオフィスの方が公共施設よりも10ポイント程度高い。
- 「オフィスに多機能トイレがない」と回答している人は、シス・トランス共に3割程度であった。ただし、設置されていても認識していない可能性もある。

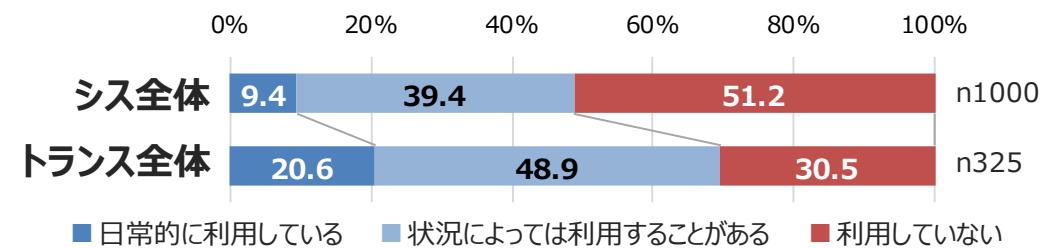
Q.あなたは、職場、および駅・ショッピングセンターなどの公共施設で多機能トイレを利用しますか。（SA）

オフィス

※「職場には多機能トイレがない」と回答した人を除く



公共施設

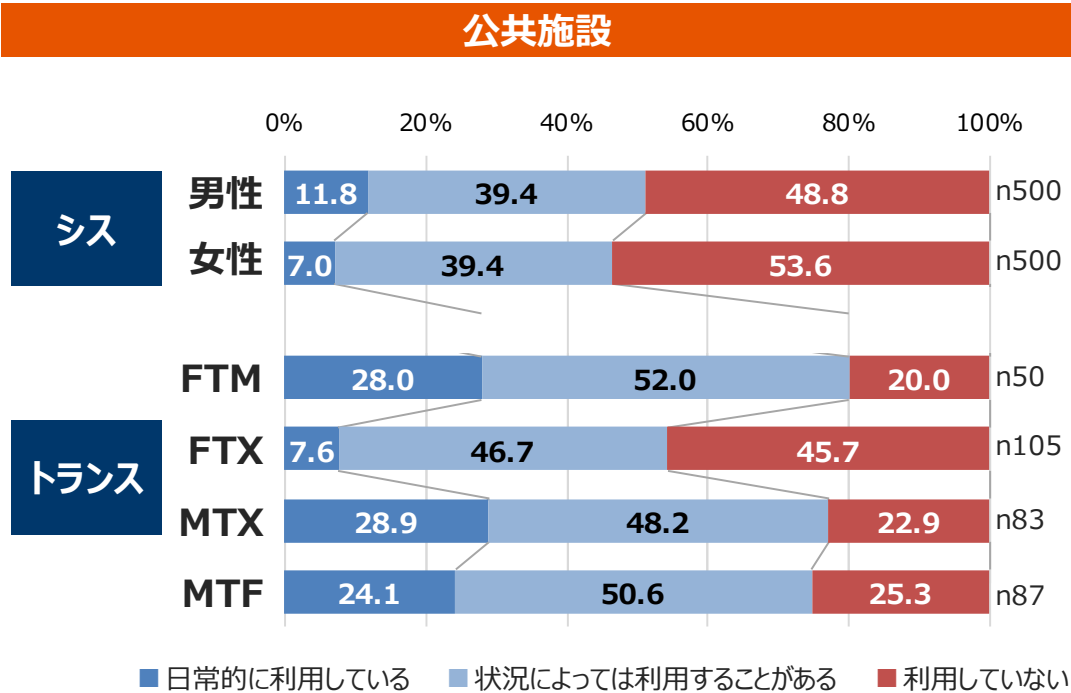
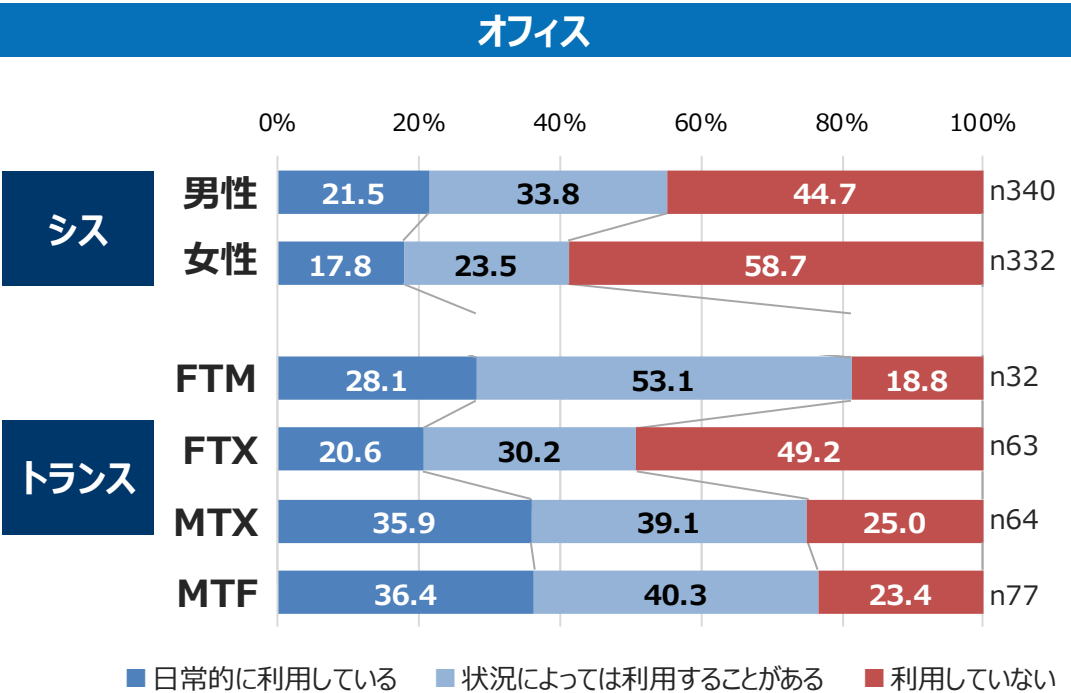


- オフィスでは、「多機能トイレの有無」でそれぞれ集計。
- オフィスと公共施設の比較は、オフィスにて「職場には多機能トイレがない」と回答した人を除いて実施。

「多機能トイレ」の利用状況：オフィス・公共施設（シス／トランス・ジェンダー別）

- シスでは、女性よりも男性の方が利用している割合が高い。「日常的に利用している」人は、男女共にオフィス2割前後、公共施設1割前後でオフィスの方が利用している人の割合が高い。
- トランスでは、オフィス・公共施設共に、FTXを除き8割前後が多機能トイレを利用している。
- シス・トランス共にオフィスの方が多機能トイレを利用している人の割合が高い。オフィスでは「多機能トイレがない」と回答した人を除いていることから、設置されていれば利用することがうかがえ、オフィスにも多機能トイレの設置が求められる。

Q.あなたは、職場、および駅・ショッピングセンターなどの公共施設で多機能トイレを利用しますか。（SA） ※オフィスの結果は、「職場には多機能トイレがない」と回答した人を除く

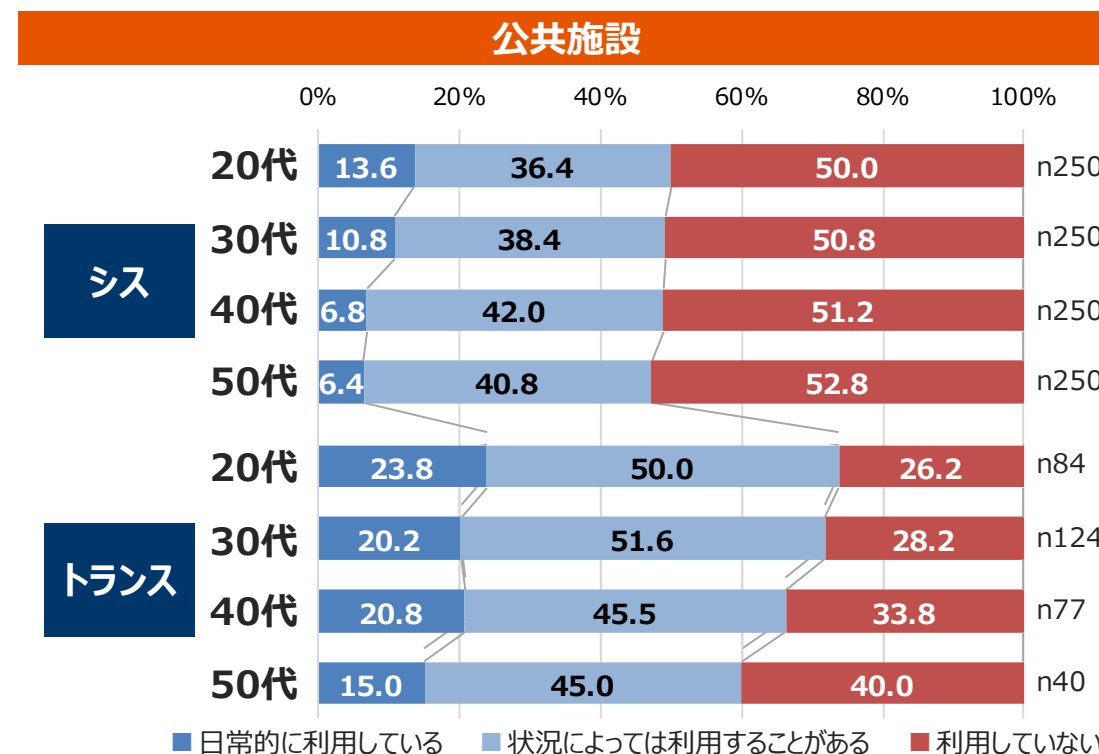
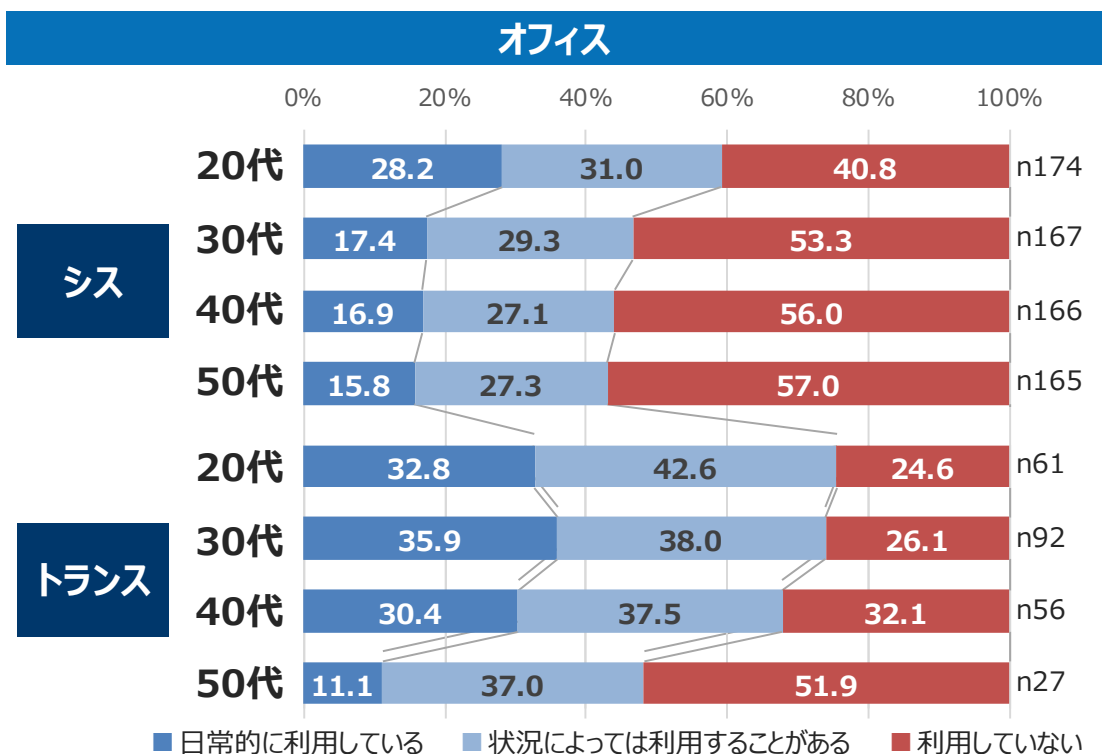


「多機能トイレ」の利用状況：オフィス・公共施設（シス／トランス・年代別）

- 全体的に、若い人ほど多機能トイレを利用している傾向がみられる。また、「日常的利用」は公共施設よりもオフィスの方が割合が高い。
- シスでは、オフィスの場合、20代は「日常的利用」が3割程度、「状況による利用」と合わせると約6割にのぼる。一方50代では「日常的利用」が1.5割程度、「状況による利用」と合わせると4割程度である。
- トランスでは、50代で「日常的利用」の割合が低い。その傾向は、特にオフィスにおいて顕著である。

Q.あなたは、職場、および駅・ショッピングセンターなどの公共施設で多機能トイレを利用しますか。（SA）

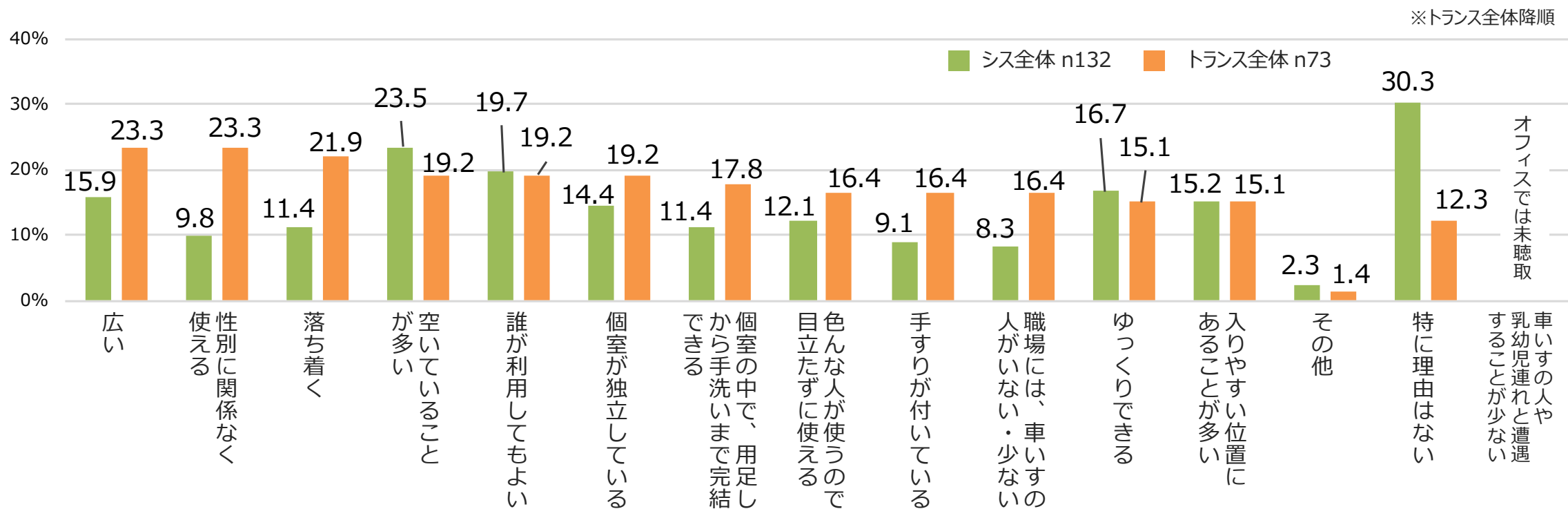
※オフィスの結果は、「職場には多機能トイレがない」と回答した人を除く



「多機能トイレ」を日常的に利用する理由：オフィス（シス／トランス）

- トランスの上位は、「広い」、「性別に関係なく使える」が23.3%で同率1位、次いで「落ち着く」が21.9%。
- シスは、トランスとは利用する理由が異なり、「特に理由はない」が30.3%で1位、「空いていることが多い」が23.5%で2位、「誰が利用してもよい」が19.7%で3位であった。
- シスとトランスで10ポイント以上の差がある項目は、「性別に関係なく使える」と「落ち着く」であった。前者はシス9.8%に対しトランスは23.3%で13.5ポイント差、後者はシス11.4%に対し、トランスは21.9%で10.5ポイント差であった。

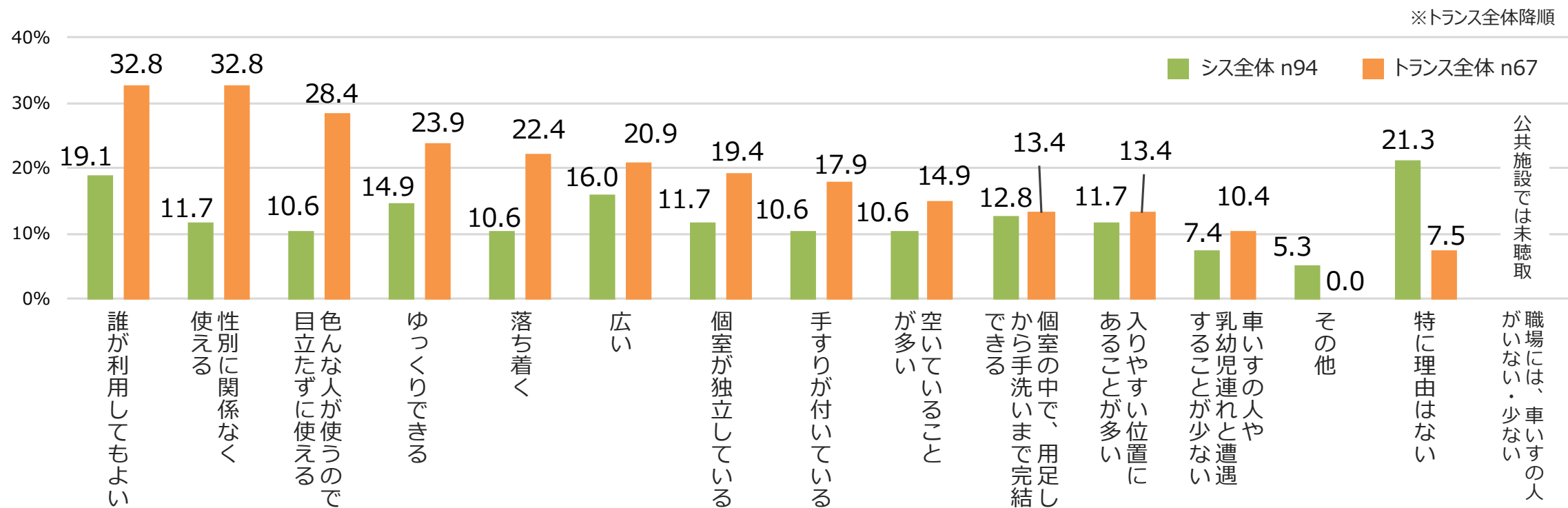
Q.多機能トイレを「日常的に利用している」と回答した方にお聞きます。多機能トイレを日常的に利用する理由として、あてはまるものをすべてお知らせください。（MA） ※「職場には多機能トイレがない」と回答した人を除く



「多機能トイレ」を日常的に利用する理由：公共施設（シス／トランス）

- トランスの上位は、「誰が利用してもよい」、「性別に関係なく使える」が32.8%で同率1位、次いで「色んな人が使うので、目立たずに使える」が28.4%であった。公共施設においては、“利用者が限定されないこと”が重要なポイントとなっていることがうかがえる。
- シスは、オフィス同様、トランスとは理由が異なり、「特に理由はない」が21.3%で1位、「誰が利用してもよい」が19.1%で2位、「広い」が16.0%で3位であった。

Q.多機能トイレを「日常的に利用している」と回答した方にお聞きます。多機能トイレを日常的に利用する理由として、あてはまるものをすべてお知らせください。（MA）

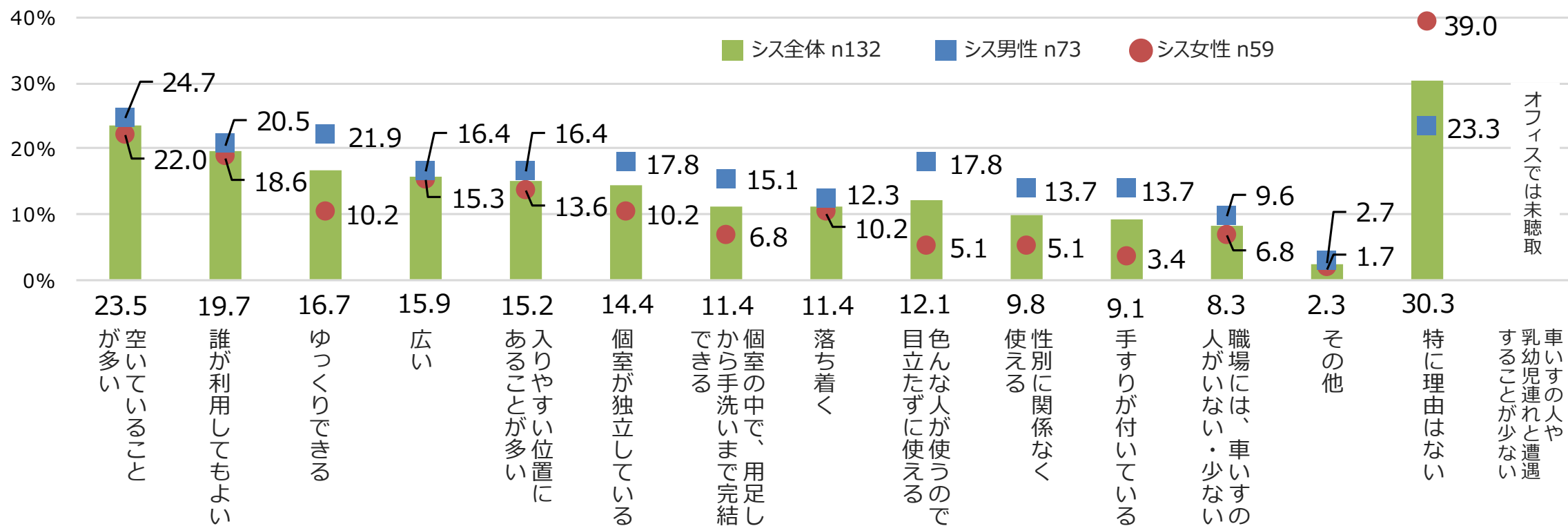


「多機能トイレ」を日常的に利用する理由：オフィス（シス全体・シス男女）

- 男女ともに、トップは「空いていることが多い」であり、男性は24.7%、女性は22.0%であった。
- 女性よりも男性の方が割合が高い項目は、「ゆっくりできる（11.7ポイント差）」、「個室が独立している（7.6ポイント差）」、「個室の中で、用足してから手洗いまで完結できる（8.3ポイント差）」、「色んな人が使うので、目立たずに使える（12.7ポイント差）」、「性別に関係なく使える（8.6ポイント差）」、「手すりが付いている（10.3ポイント差）」であった。
- 唯一女性が男性を上回った項目は「特に理由はない」であり、約4割を占めた。

Q.多機能トイレを「日常的に利用している」と回答した方にお聞きます。多機能トイレを日常的に利用する理由として、あてはまるものをすべてお知らせください。（MA）

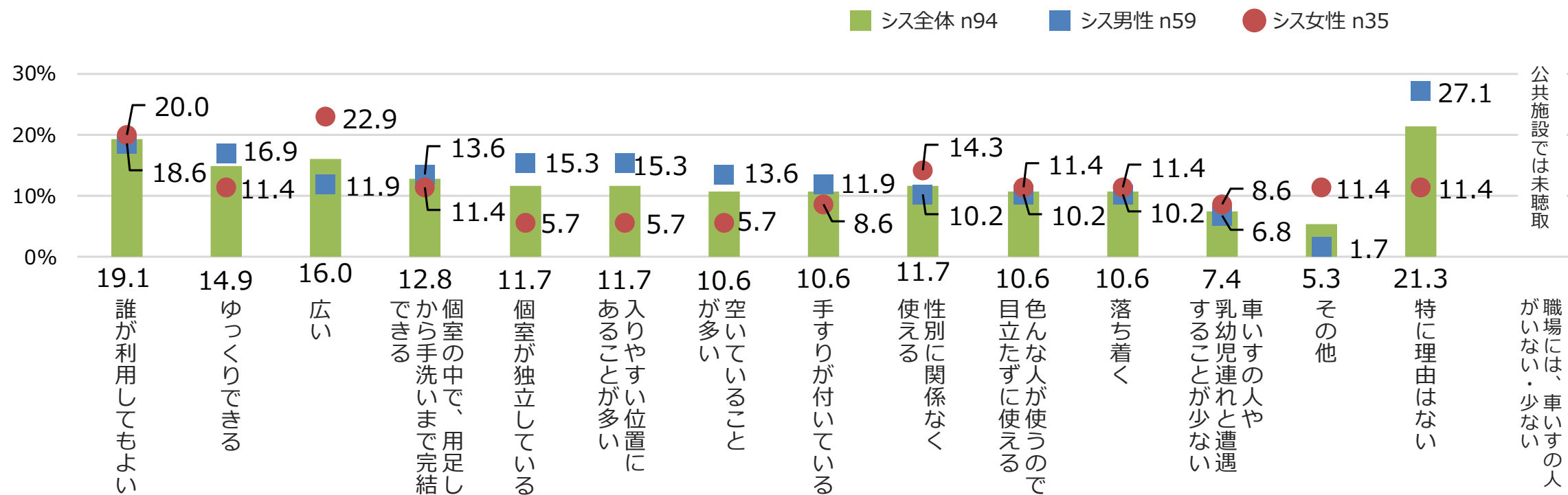
※「職場には多機能トイレがない」と回答した人を除く



「多機能トイレ」を日常的に利用する理由：公共施設（シス全体・シス男女）

- トップの項目は、男性では「誰が利用してもよい」の18.6%、女性では「広い」の22.9%であった。「広い」は男性では11.9%であり、11.0ポイントの差があった。
- 「その他」の自由回答では、女性にのみ「子どもと一緒に入る」がみられた。
- 「特に理由はない」は、オフィスと男女が逆転し、男性が27.1%、女性が11.4%であった。

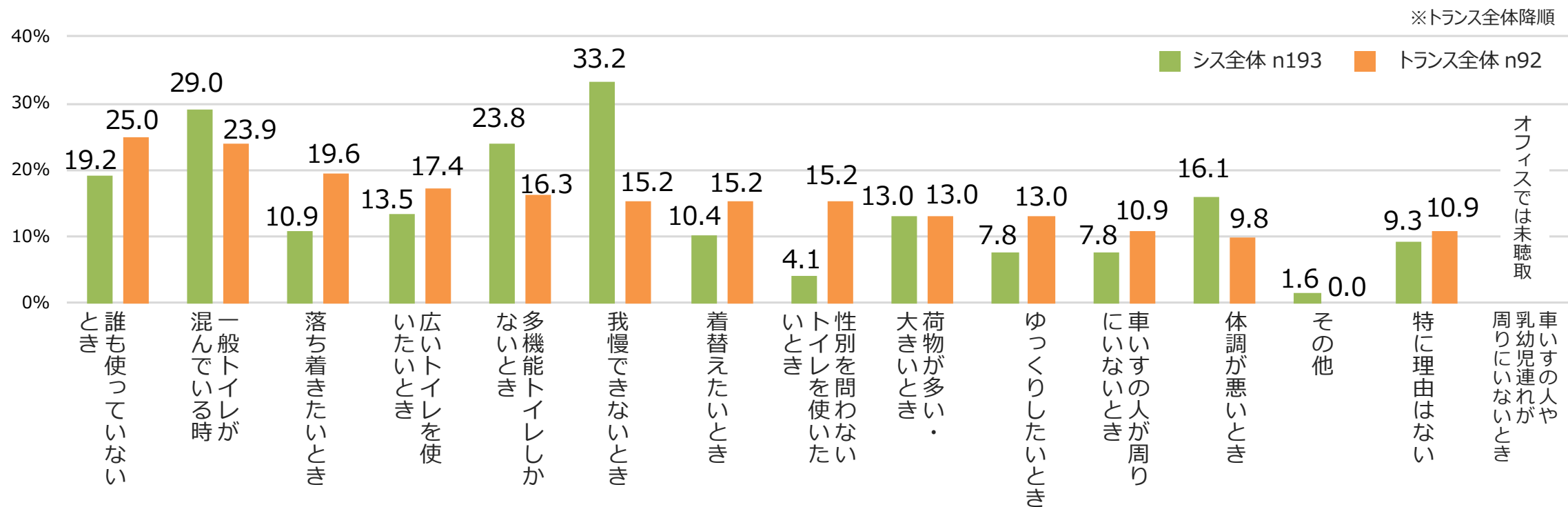
Q.多機能トイレを「日常的に利用している」と回答した方にお聞きます。多機能トイレを日常的に利用する理由として、あてはまるものをすべてお知らせください。（MA）



「多機能トイレ」を利用する状況：オフィス（シス／トランス）

- シスのトップは「我慢できないとき」の33.2%であり、トランスの15.2%とは18.0ポイントの差があった。
- トランスのトップは「誰も使っていないとき」の25.0%であった。シスでは19.2%で4位であった。
- シスよりもトランスの方が特に割合が高かった項目は、「性別を問わないトイレを使いたいとき（トランス15.2%、シス4.1%）」、「落ち着きたいとき（トランス19.6%、シス10.9%）」であった。

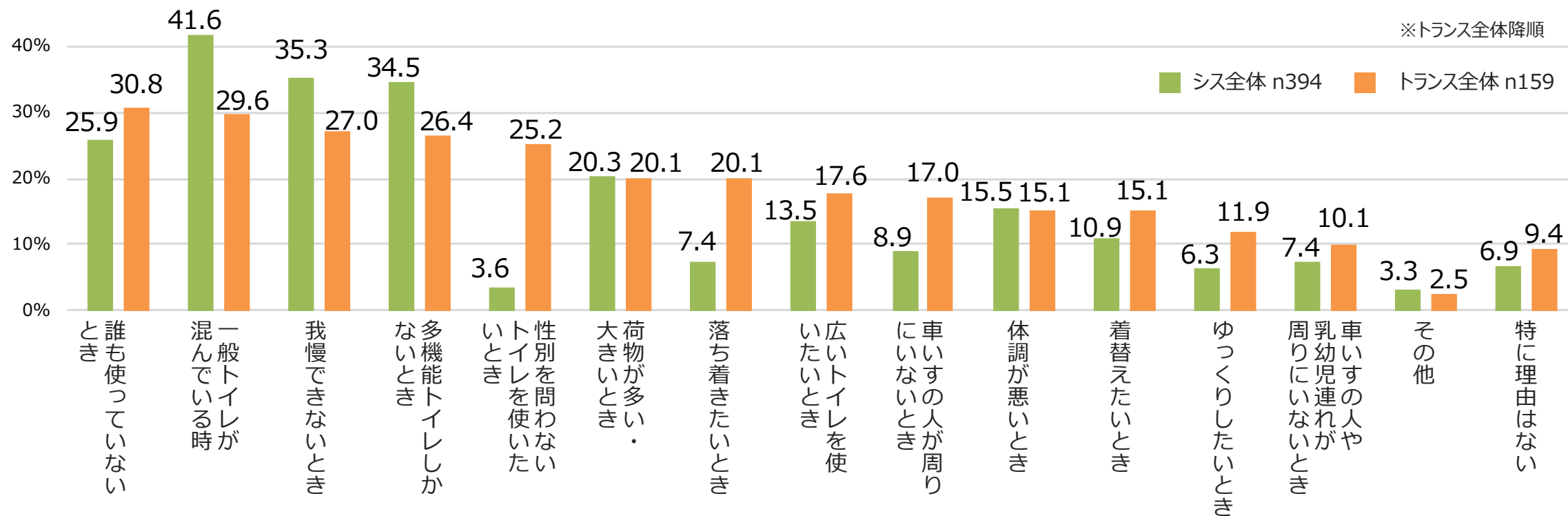
Q.多機能トイレを「状況によって利用することがある」と回答した方にお聞きます。多機能トイレを利用する状況として、あてはまるものをすべてお知らせください。（MA） ※「職場には多機能トイレがない」と回答した人を除く



「多機能トイレ」を利用する状況：公共施設（シス／トランス）

- 順位や割合は異なるものの、シスとトランス共に上位4項目は「誰も使っていないとき」、「一般トイレが混んでいるとき」、「我慢できないとき」、「多機能トイレしかないとき」であった。
- シスよりもトランスの割合が高かった項目は、オフィス同様「性別を問わないトイレを使いたいとき（トランス15.2%、シス3.6%）」、「落ち着きたいとき（トランス20.1%、シス7.4%）」で、その差はより顕著であった。

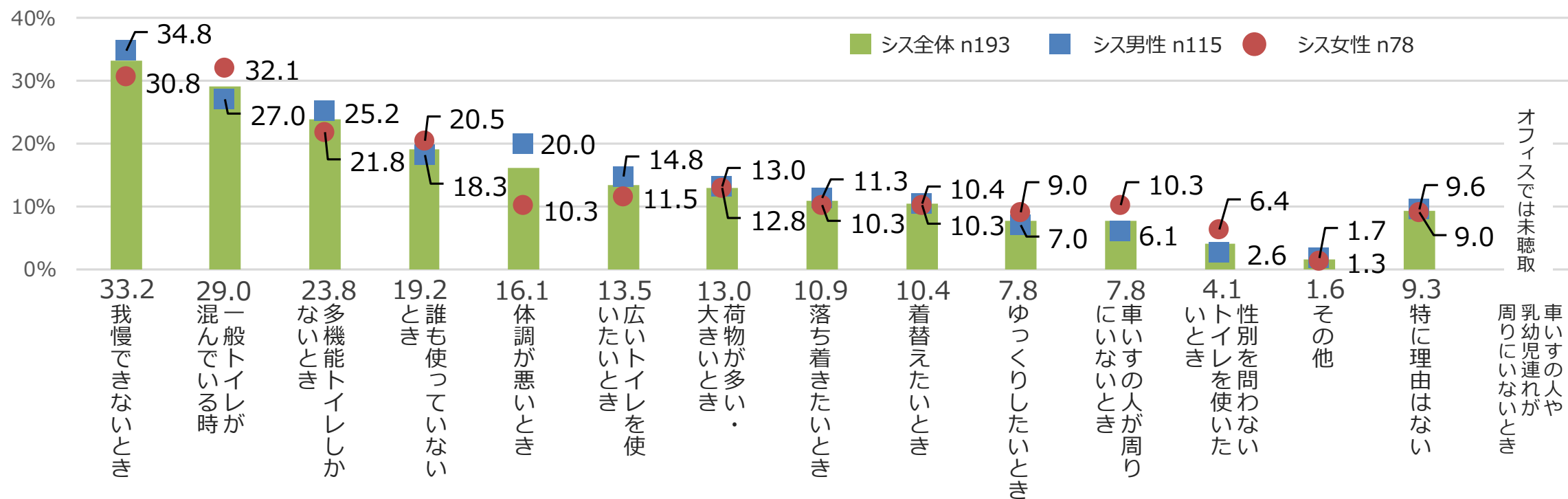
Q.多機能トイレを「状況によって利用することがある」と回答した方にお聞きます。多機能トイレを利用する状況として、あてはまるものをすべてお知らせください。（MA）



「多機能トイレ」を利用する状況：オフィス（シス全体・シス男女）

- 上位2位の「我慢できないとき」、「一般トイレが混んでいるとき」は、一般トイレのサブ的な利用理由であった。
- 男女差がみられたのは「体調が悪いとき」であり、女性が1割に対して男性は2割であった。

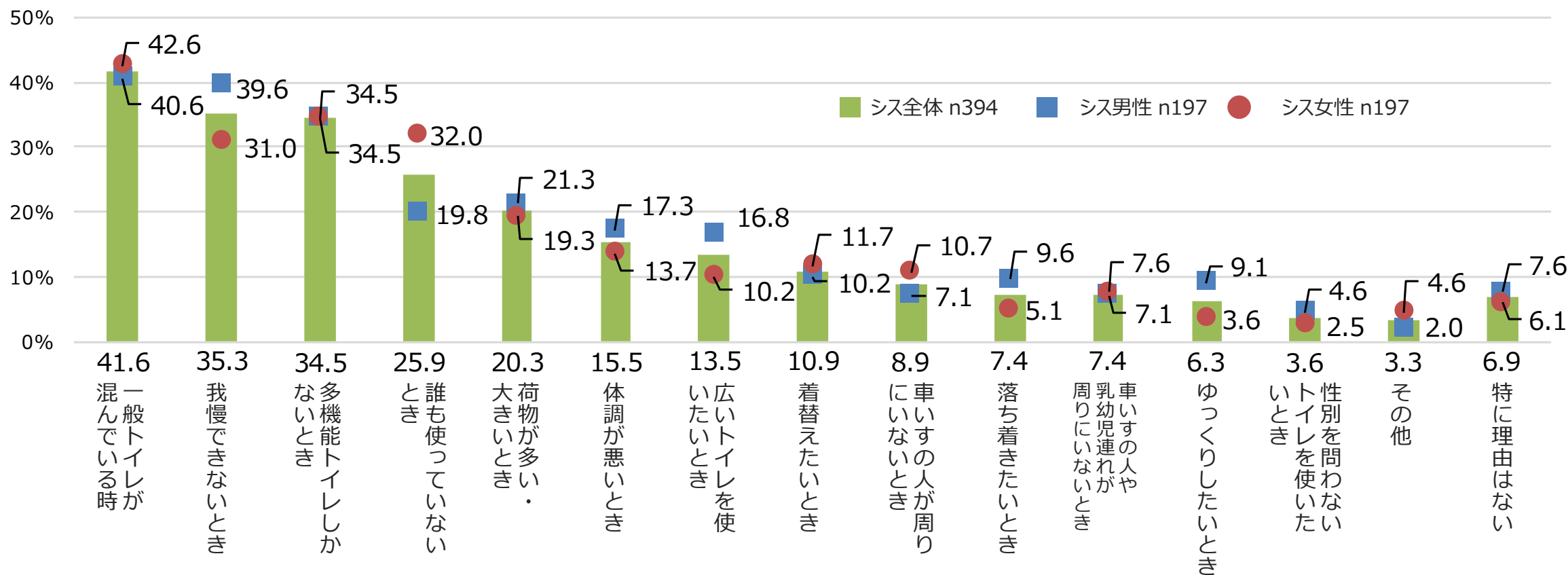
Q.多機能トイレを「状況によって利用することがある」と回答した方にお聞きます。多機能トイレを利用する状況として、あてはまるものをすべてお知らせください。（MA） ※「職場には多機能トイレがない」と回答した人を除く



「多機能トイレ」を利用する状況：公共施設（シス全体・シス男女）

- 上位3位の項目はオフィスと同じだが、1位と2位が入れ替わり「一般トイレが混んでいるとき」がトップであった。割合もオフィスの33.2%より8.4ポイント高い41.6%であった。
- 2位の「我慢できないとき」は、女性はオフィスとほぼ同率だが、男性は12.6ポイント上昇、4位の「誰も使っていないとき」は男性はオフィスとほぼ同率だが、女性は11.5ポイント上昇したことから、男女間の差が開いた。

Q.多機能トイレを「状況によって利用することがある」と回答した方にお聞きます。多機能トイレを利用する状況として、あてはまるものをすべてお知らせください。（MA）



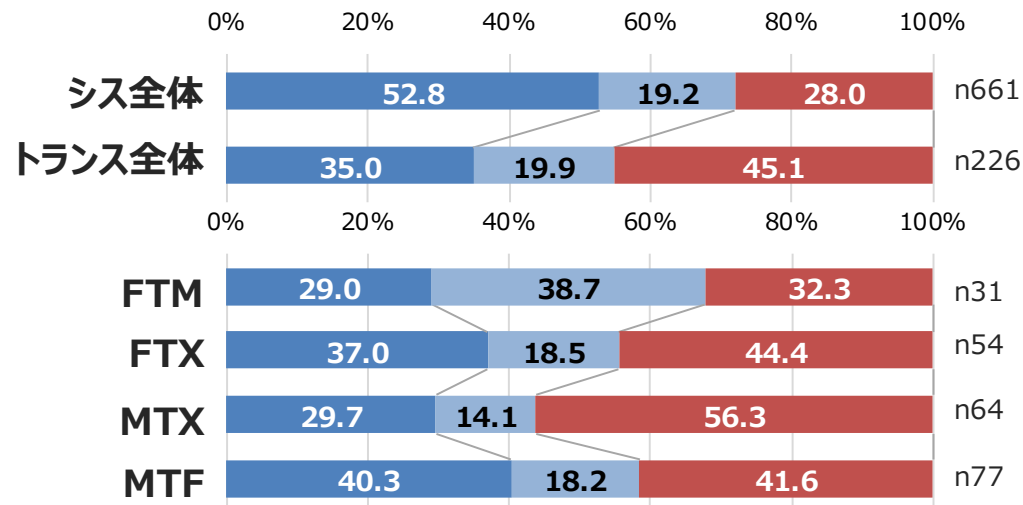
「多機能トイレ」を「利用しにくい」「気まずい」と感じるか否か：オフィス・公共施設（シス・トランス・トランス4区分）

- シス・トランス共に、オフィスよりも公共施設の方が多機能トイレに対して「利用しにくさ」や「気まずさ」を感じている人の割合が高い。
- シスよりもトランスの方が多機能トイレに「利用しにくさ」や「気まずさ」を感じている人の割合が高く、オフィスでは45.1%、公共施設では55.7%であった。
- トランスは、オフィスの場合はジェンダーによりバラつきがみられ、「利用しにくさ」を感じている割合はMTXが最も高く半数以上であった。一方公共施設では、どのジェンダーでも半数以上が「利用しにくさ」を感じている。

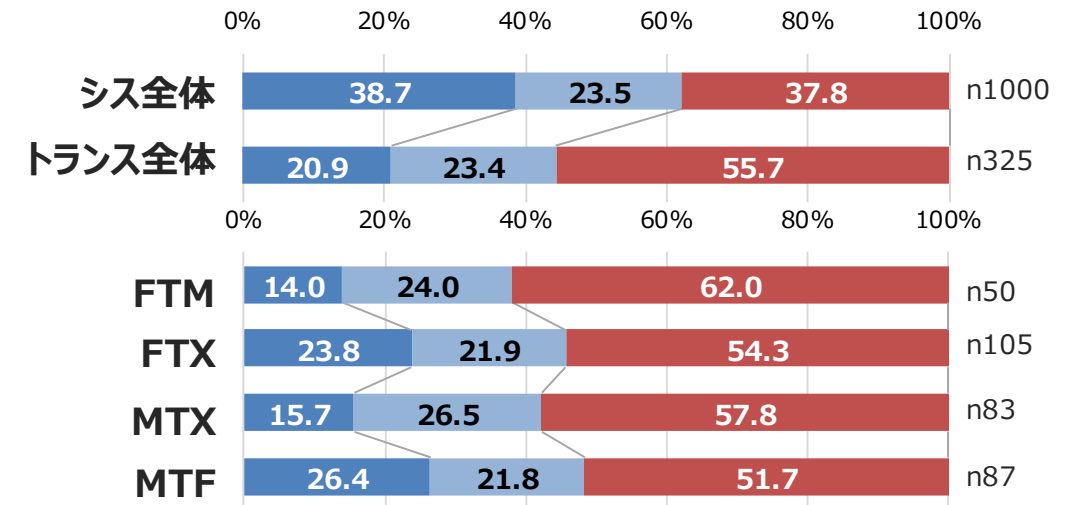
Q.あなたは、多目的トイレを利用する際に、「利用しにくい」「気まずい」と感じたことはありますか？ ある場合は、その理由としてあてはまるものをすべてお知らせください。／職場（MA）

オフィス

※「職場には多機能トイレがない」と回答した人を除く



公共施設



■ 多機能トイレを利用しようと思ったことはない*1

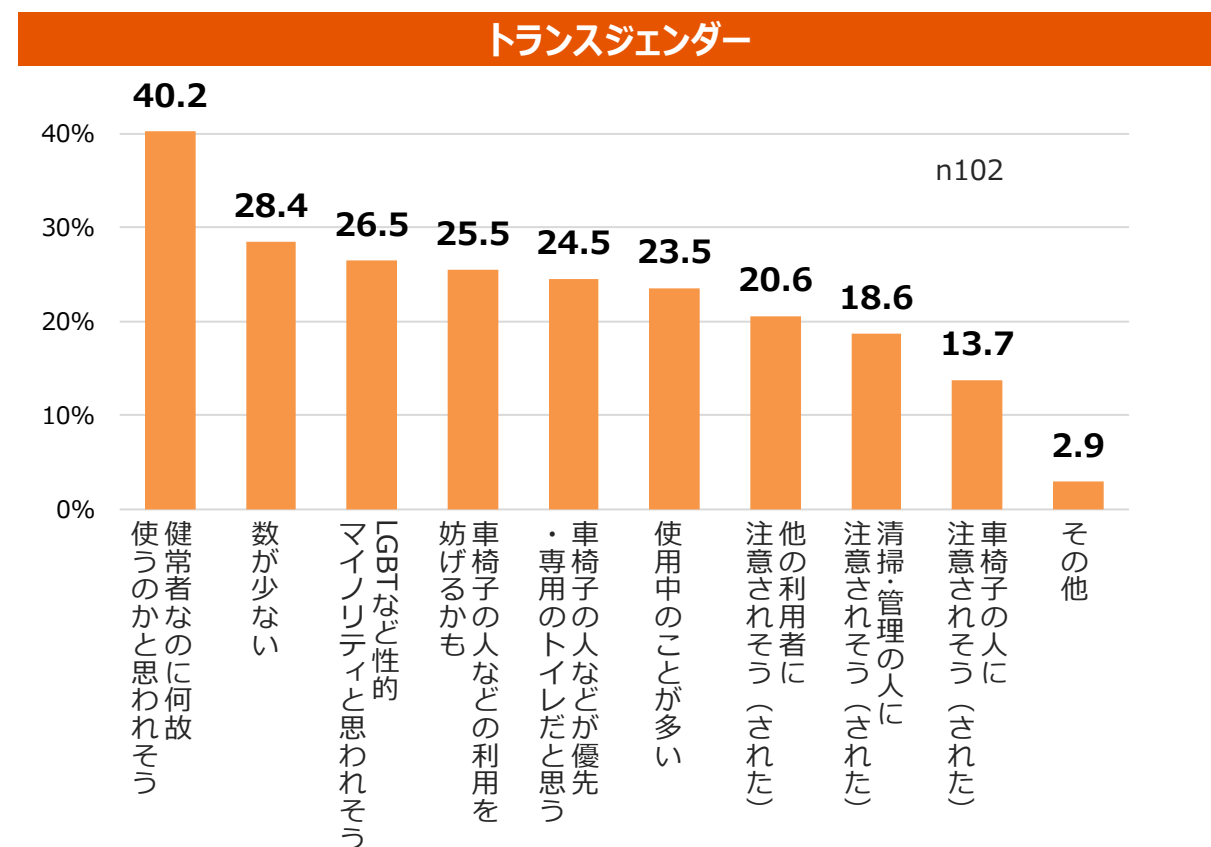
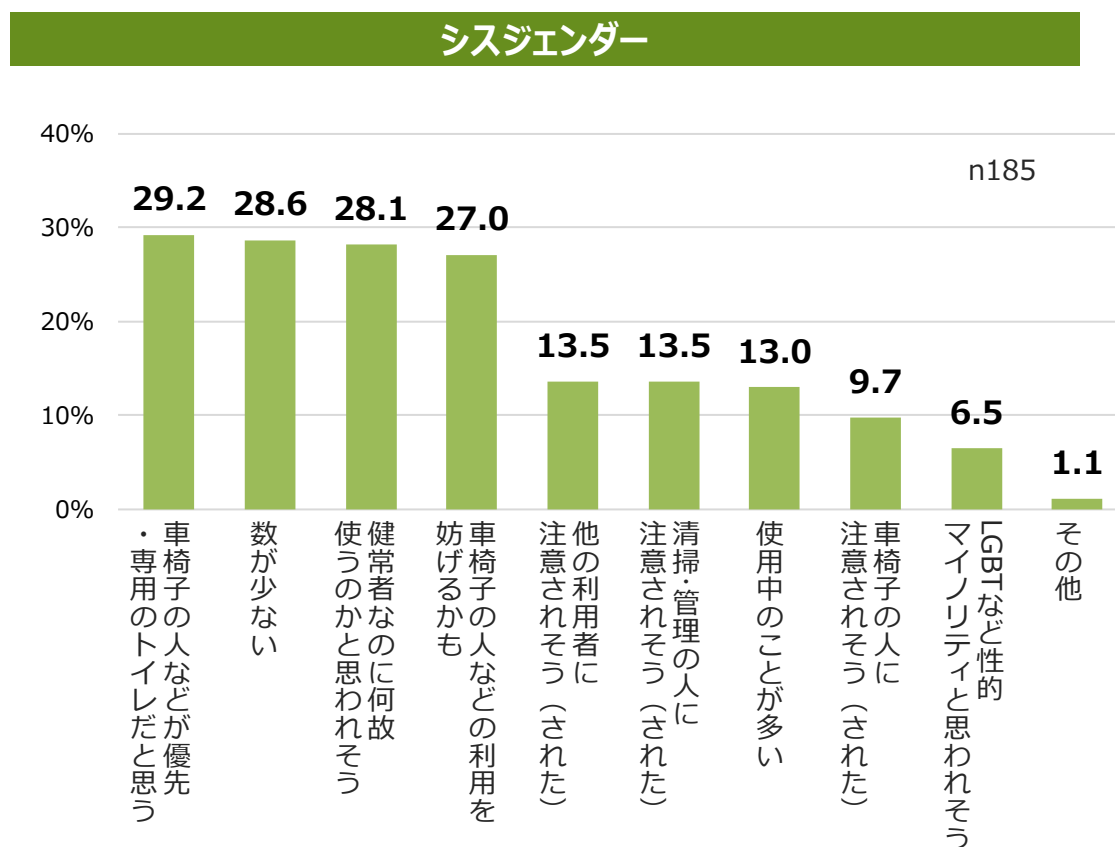
■ 多機能トイレを利用する際に、「利用しにくい」「気まずい」と思ったことはない*2

■ 多機能トイレの利用に何らかの利用しにくさ、気まずさを感じる*3

「多機能トイレ」を利用する際、「利用しにくい」、「気まずい」と感じる理由：オフィス（シス・トランス）

- トランスは「健常者なのに何故使うのかと思われそう」が約40.2%でトップであった。シスは28.1%で、その差は12.1ポイントであった。また、トランスは「性的マイノリティと思われそう」が26.5%で3位であったのに対し、シスは6.5%で「その他」を除く最下位であった。トランスは、「周囲からどう見られるか」をシスよりも気にしていることがうかがえる。
- シス・トランス共に、「数が少ない」が28%程度で2位であった。

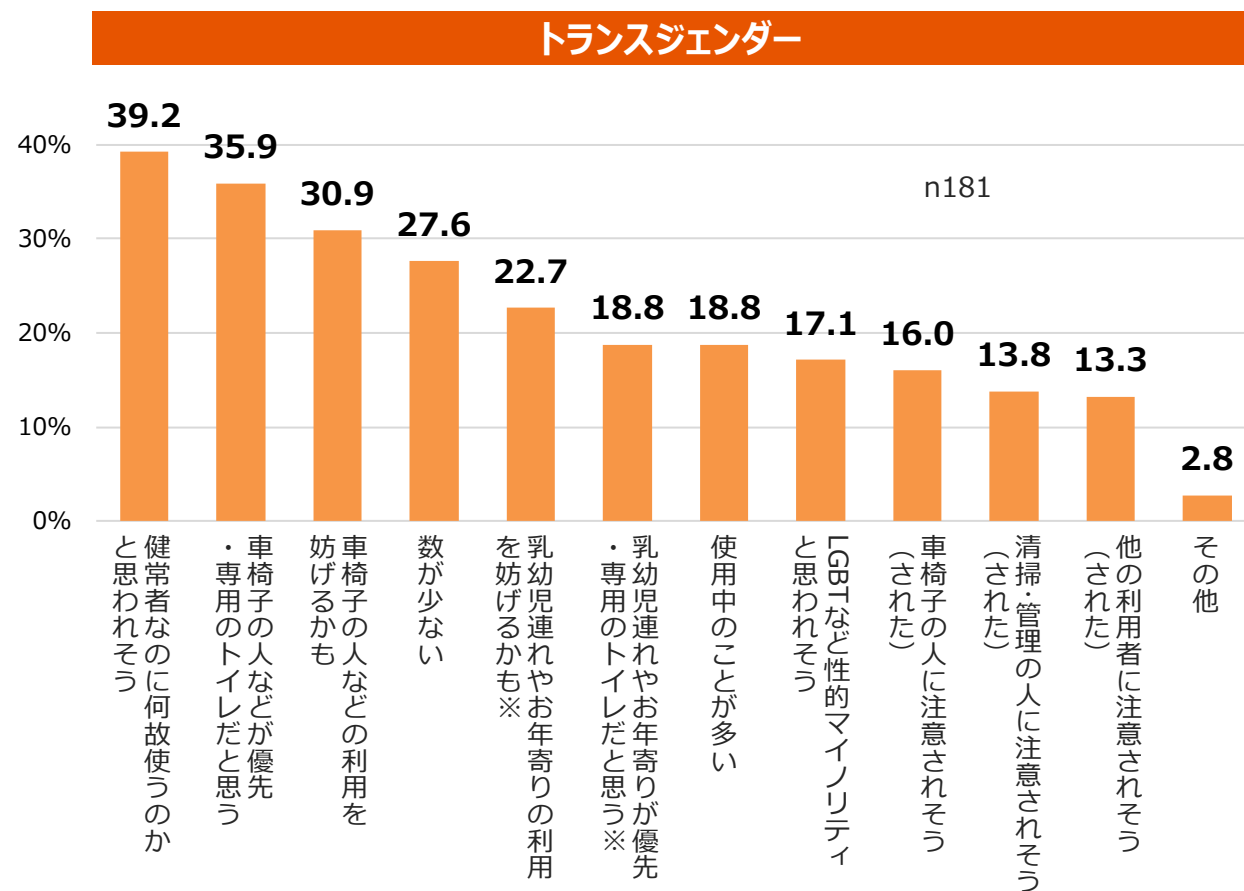
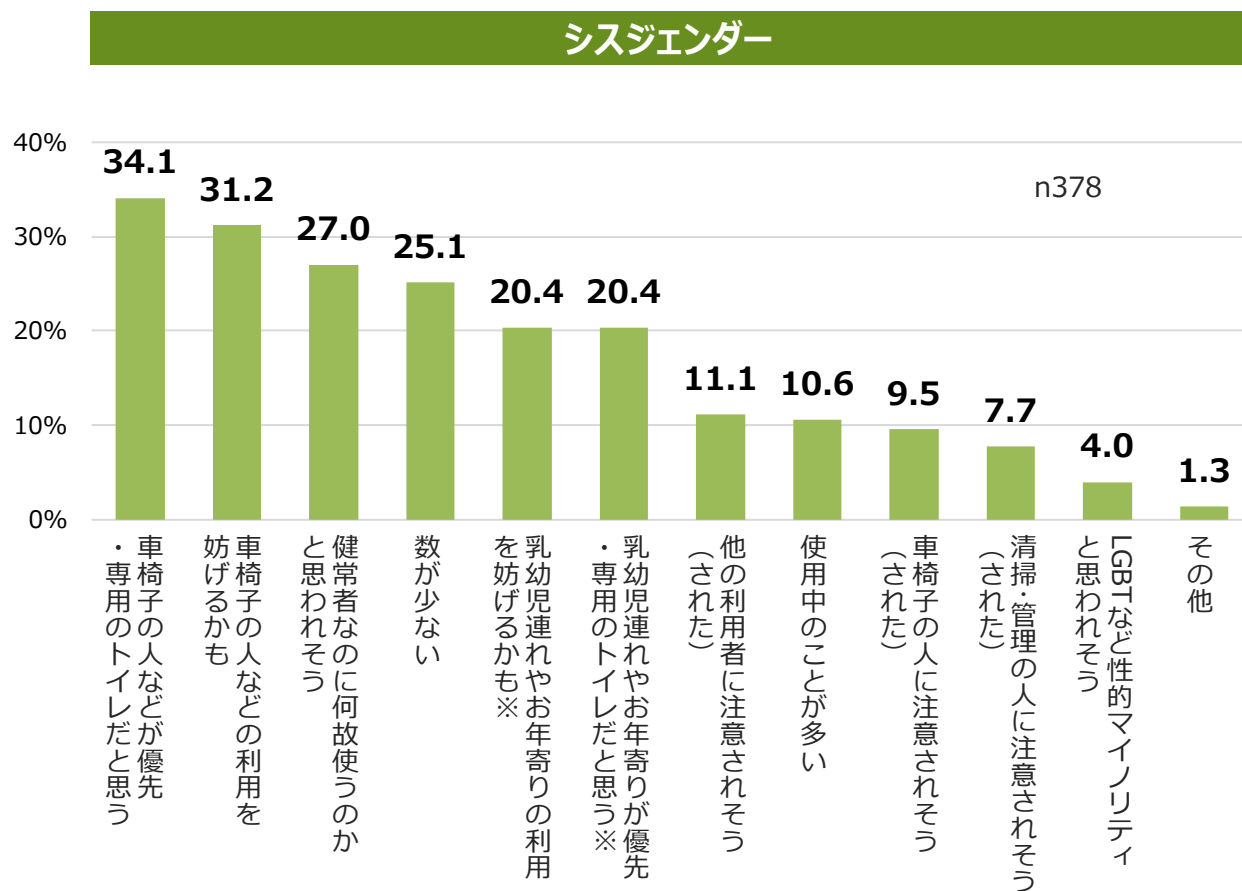
Q. 多機能トイレを「利用しにくい」、「気まずい」と感じる理由として、あてはまるものをすべてお知らせください。（MA）※「利用しにくい」、「気まずい」と感じる理由を1つ以上選択した人ベース



「多機能トイレ」を利用する際、「利用しにくい」、「気まずい」と感じる理由：公共施設（シス・トランス）

- オフィスより全体的に各項目の割合が高いが、「性的マイノリティと思わそう」は、トランスではオフィスよりも9.4ポイント低く、順位も3位から8位に下がった。オフィスは特定の人が利用するのに対し、公共施設は不特定多数の人が利用することが要因のひとつと考えられる。
- オフィスと比べて設置されていることが多い公共施設においても、「数が少ない」はシス・トランス共にオフィスと大きな差はなく3割弱であった。

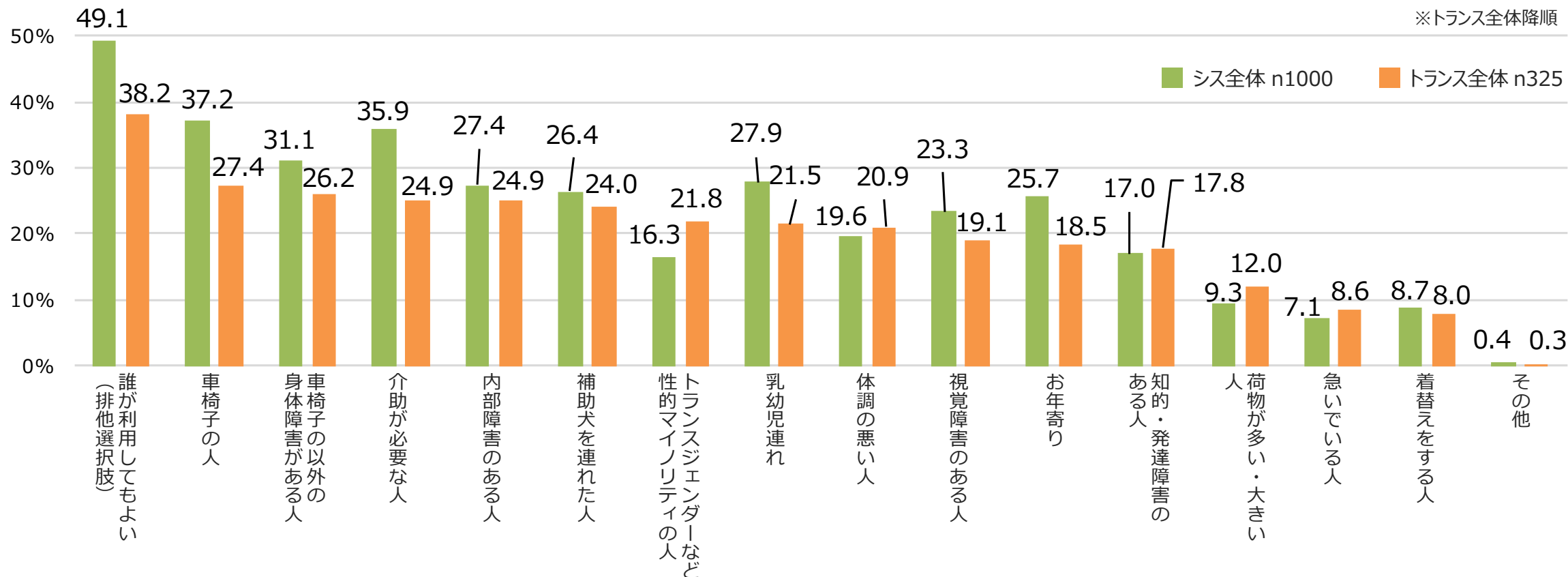
Q. 多機能トイレを「利用しにくい」、「気まずい」と感じる理由として、あてはまるものをすべてお知らせください。（MA）※「利用しにくい」、「気まずい」と感じる理由を1つ以上選択した人ベース



「多機能トイレ」を「利用してもよい人」とは？：施設用途問わず（シス・トランス）

- 「誰が利用してもよい」がシスでは49.1%、トランスでは38.1%で共にトップであった。
- トランスよりもシスの方が全体的に割合が高い傾向がみられるが、「トランスジェンダーなど性的マイノリティの人」はトランスの方がシスよりも5.5ポイント高かった。

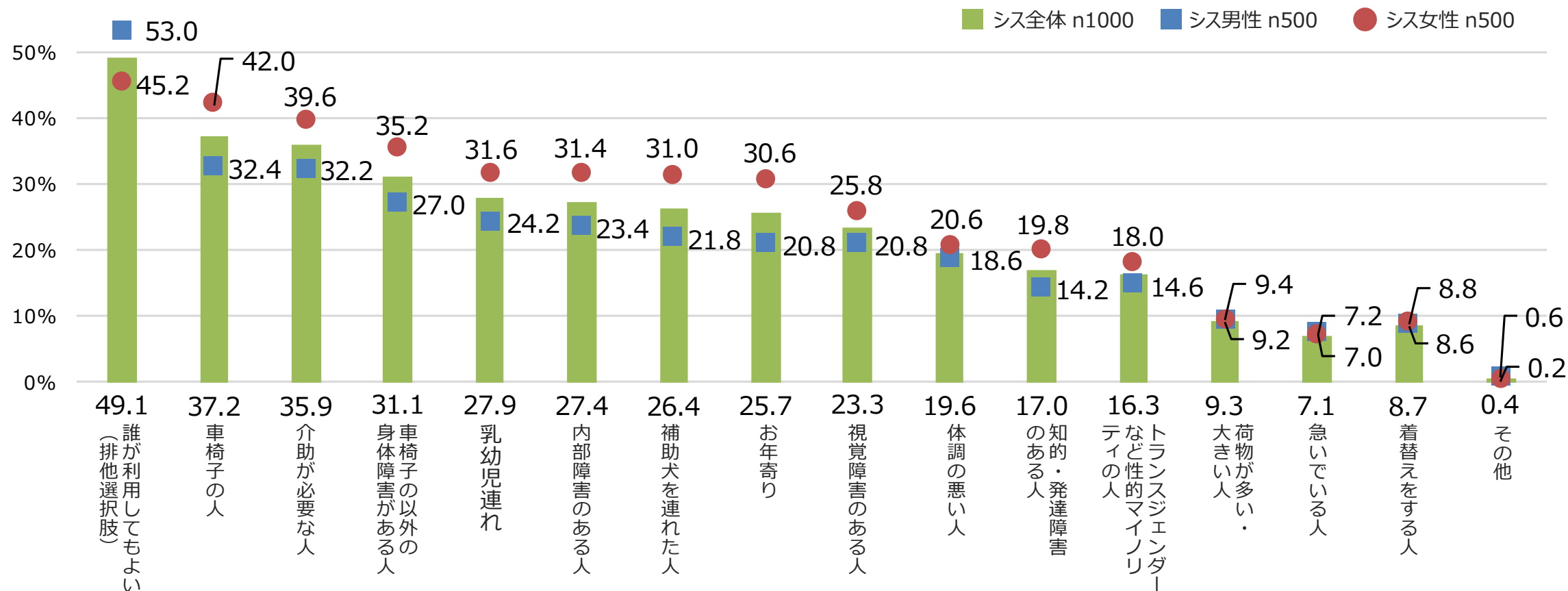
Q.あなたは、「多機能トイレ」はどのような人が利用すべき、あるいは利用してもよいと思いますか？ あてはまるものをすべてお知らせください。（MA）



「多機能トイレ」を「利用してもよい人」とは？：施設用途問わず（シス全体・男女）

➤ どの項目においても男性より女性の方が割合が高いが、「誰が利用してもよい」は男性の方が7.8ポイント高く53.0%で半数を超えた。

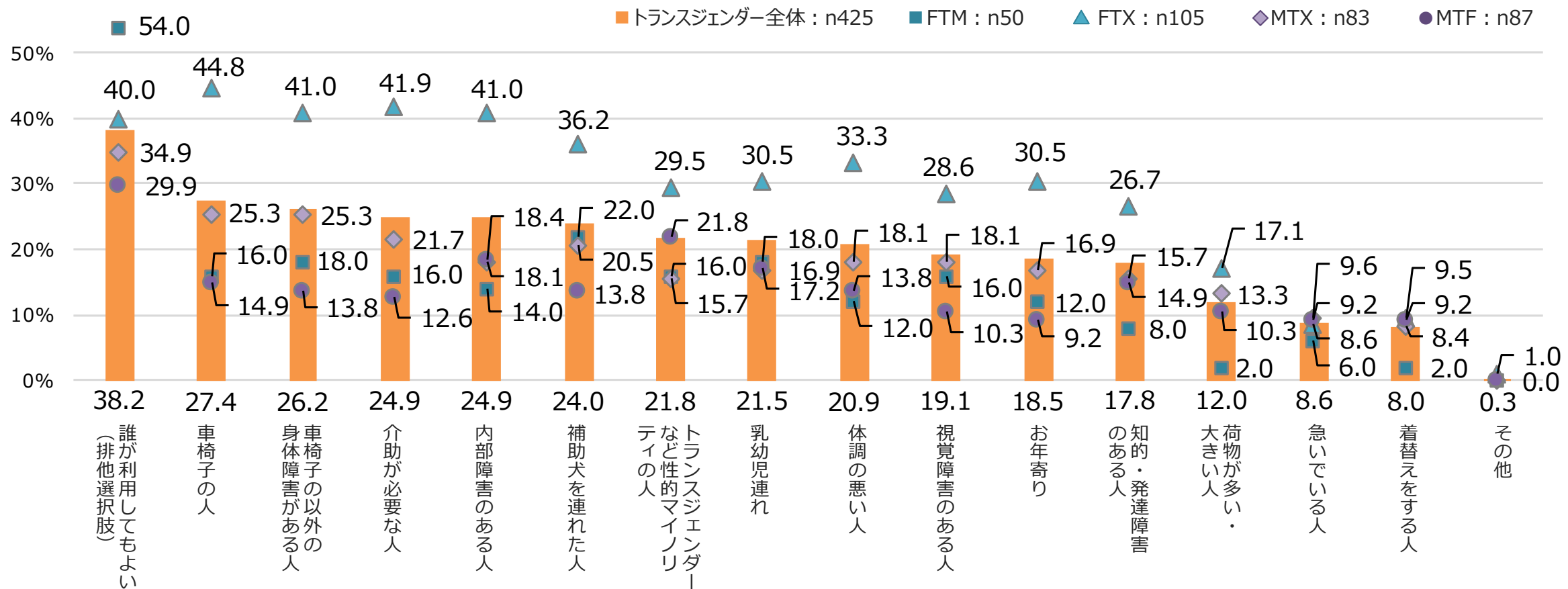
Q.あなたは、「多機能トイレ」はどのような人が利用すべき、あるいは利用してもよいと思いますか？ あてはまるものをすべてお知らせください。（MA）



「多機能トイレ」を「利用してもよい人」とは？：施設用途問わず（トランス全体・4区分）

- 「誰が利用してもよい」は他のジェンダーと比較してFTMが突出しており、54.0%であった。
- FTXは全体的に割合が高い傾向にあった。

Q.あなたは、「多機能トイレ」はどのような人が利用すべき、あるいは利用してもよいと思いますか？ あてはまるものをすべてお知らせください。（MA）



3. 調査結果報告

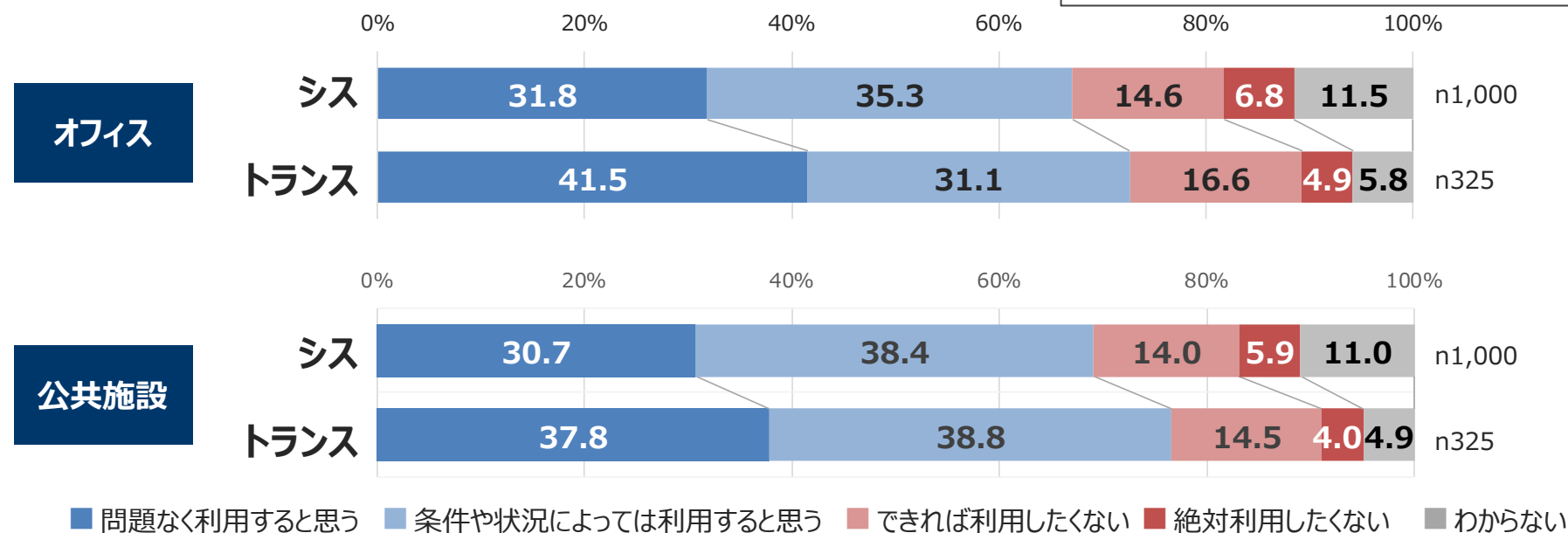
3-7. 「男女共用個室トイレ」の利用に関する意識（オフィス・公共施設）

「男女共用個室トイレ」の利用意向：オフィス・公共施設（シス／トランス）

- シス・トランス共に、全体的に利用意向は高く、「問題なく利用すると思う」と「条件や状況によっては利用すると思う」を合わせると、オフィス・公共施設共にシスでは7割弱、トランスでは7割以上にのぼる。
- 「問題なく～」は、シスでは両施設共約3割、トランスでは約4割で施設用途による大きな差はみられない。「条件や状況によっては～」はいずれも3割を超えるが、シス・トランス共にオフィスよりも公共施設の方がその割合が高い傾向にあった。
- シスでは、オフィス・公共施設共に約1割が「わからない」と回答。現状として「男女共用個室トイレ」が普及しているとはいえ、自身が利用するイメージができなかった可能性がある。

Q. 男女別トイレや多目的トイレ以外に「男女共用の個室トイレ（手洗い器付き）」があった場合、あなたは利用しますか？

「男女共用の個室トイレ（手洗い器付き）」とは、用足してから手洗いまで完結できる、壁で仕切られた個室のトイレをイメージしてください。



アンケート画面提示画像

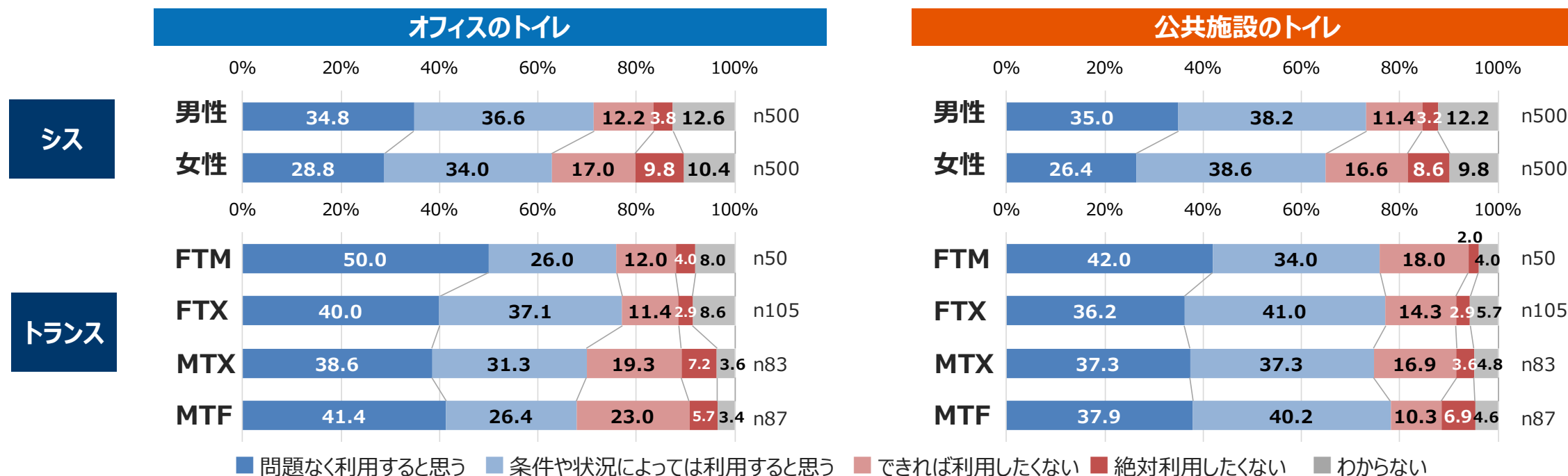


「男女共用個室トイレ」の利用意向：オフィス・公共施設（シス・トランス／ジェンダー別）

- ジェンダー別にみると、シスでは女性より男性の方が利用意向は高い。男女共に「問題なく利用すると思う」よりも「条件や状況によっては利用すると思う」の方が割合が高く、その傾向はオフィスよりも公共施設の方がやや強い。
- 「絶対利用したくない」と回答したシス男性が3%台であったのに対し、女性は1割弱であった。「わからない」はシス男女共に1割前後であるが、女性よりも男性の方がやや割合が高い傾向にあった。
- トランスは、オフィスでは「問題なく～」と回答した人がどのジェンダーでも最も多く、FTMでは5割を占めた。公共施設では「条件や状況によっては～」と回答した人がオフィスより多かった。

Q. 男女別トイレや多目的トイレ以外に「男女共用の個室トイレ（手洗い器付き）」があった場合、あなたは利用しますか？

「男女共用の個室トイレ（手洗い器付き）」とは、用足してから手洗いまで完結できる、壁で仕切られた個室のトイレをイメージしてください。



【参考】「男女共用個室トイレ」の利用意向：オフィス 2017年・2022年の比較（シス全体・シス男女）

- 設問文と選択肢が異なるため参考ではあるが、オフィスにおけるシスの調査結果を2017年と2022年で比較すると、2017年では「日常的に利用すると思う」はシス全体では 1 割未満であったのに対し、2022年では「問題なく利用すると思う」が約3割と大きく伸びている。
男性より女性の方が利用意向は低いものの、利用意向は高まっており、男女共用トイレへの意識の変化がうかがえる。
- 2017年の「利用しないと思う」はシス全体では34.7%、シス男性では25.7%、シス女性では43.7%であったのに対し、2022年の「できれば／絶対利用したくない」の合計は、順に21.4%、16.0%、26.8%であった。
特にシス女性の変化が大きく、2017年よりも2022年の方が16.9ポイント低くなっている

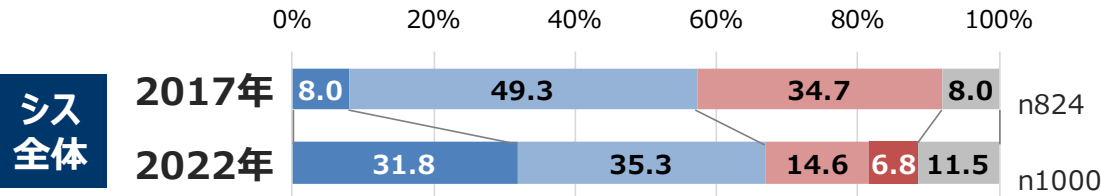
設問文と前提

2017年 Q. あなたのオフィスに男女別のトイレ以外に、「男女共用の個室トイレ」があったら利用しますか？

2022年 Q. 男女別トイレや多機能トイレ以外に「男女共用の個室トイレ（手洗い器付き）」があった場合、あなたは利用しますか？（職場）

男女共用の個室トイレは、多機能トイレとは異なり、小規模な飲食店やコンビニにあるような「男女共用の独立した個室トイレ」をイメージしてください。

「男女共用の個室トイレ（手洗い器付き）」とは、用足してから手洗いまで完結できる、壁で仕切られた個室のトイレをイメージしてください。



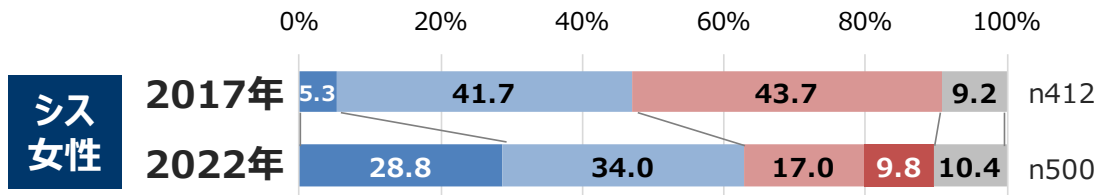
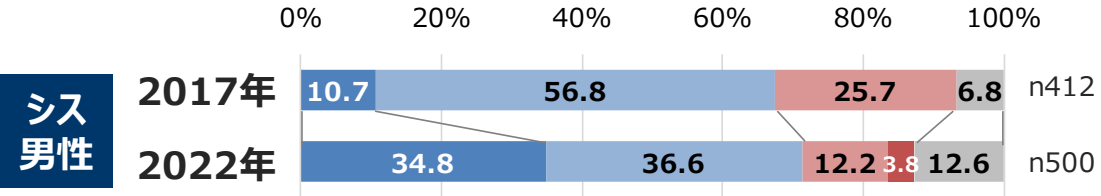
選択肢

2017年

- 日常的に利用すると思う
- 条件や状況によっては利用すると思う
- 利用しないと思う
- わからない

2022年

- 問題なく利用すると思う
- 条件や状況によっては利用すると思う
- できれば利用したくない
- 絶対利用したくない
- わからない



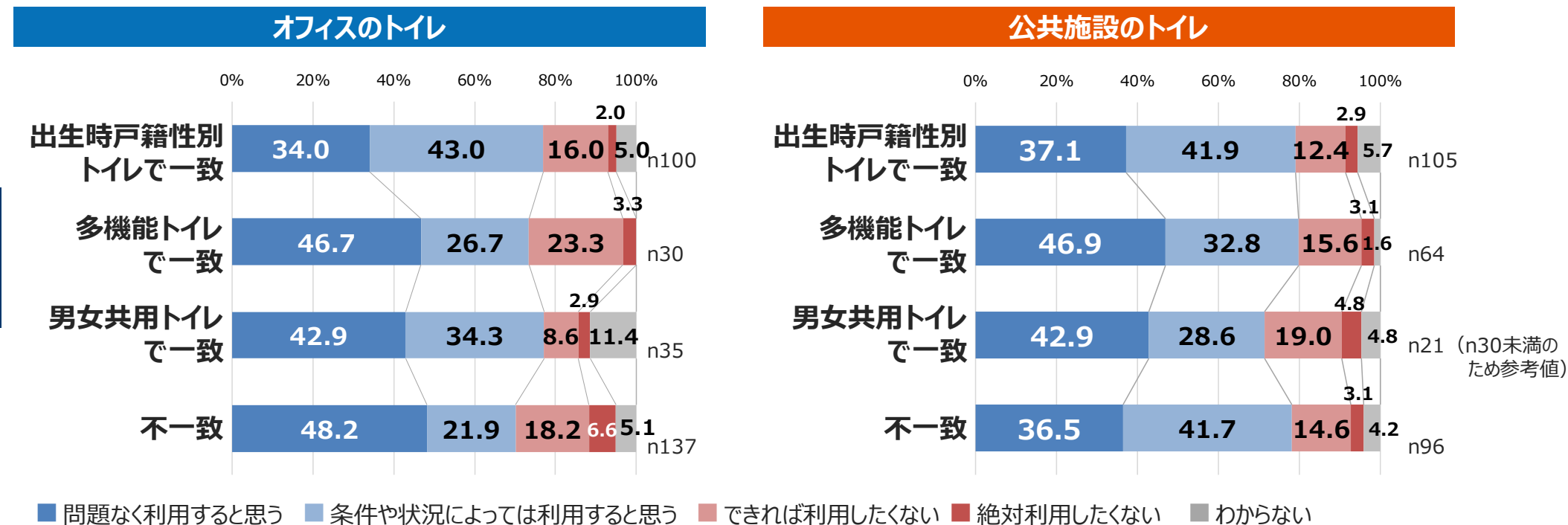
「男女共用個室トイレ」の利用意向：オフィス・公共施設（トランス／トイレ利用の実態と希望：一致状況別）

- トイレ利用の実態と希望の一致状況に関わらず、オフィスでは7割以上が「問題なく／条件や状況によっては利用する」と回答。
- 公共施設では、参考値である「男女共用トイレで一致」を除き、「問題なく／条件や状況によっては利用する」は約8割で、公共施設の方が利用意向が高い。

Q. 男女別トイレや多機能トイレ以外に「男女共用の個室トイレ（手洗い器付き）」があった場合、あなたは利用しますか？

「男女共用の個室トイレ（手洗い器付き）」とは、用足してから手洗いまで完結できる、壁で仕切られた個室のトイレをイメージしてください。

トイレ利用
希望と実態の
一致状況による違い



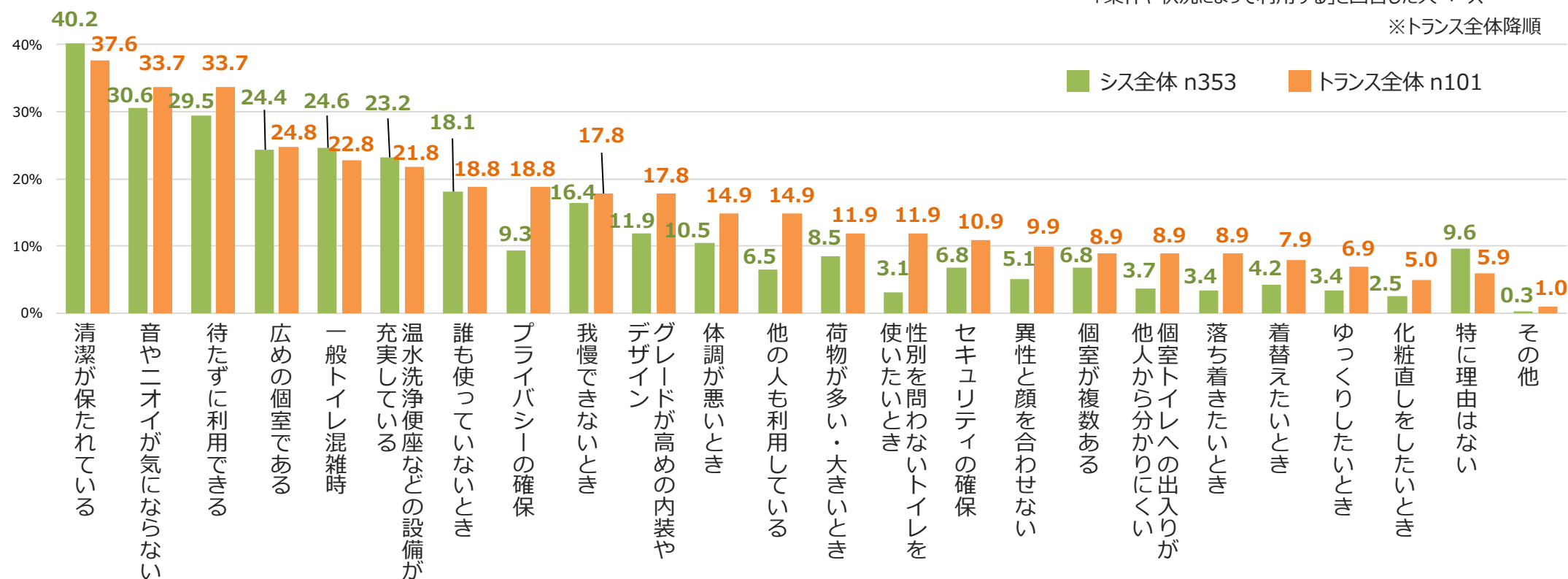
「男女共用個室トイレ」を利用する条件・状況：オフィス（シス・トランス）

- シス・トランス共に、「清潔」「音やニオイ」「待たずに利用できる」といったトイレの基本的条件が上位3位を占め、「広めの個室」「設備の充実」など、付加要素があることが上位に挙がっている。
- 「他の人も利用している」は、シスの6.5%に対しトランスは14.9%であった。トランスは、「男女共用個室トイレ」をトランスジェンダー以外の人も利用することを望んでいる。
- その他、「プライバシーの確保」「性別を問わないトイレを使いたいとき」もシスよりもトランスの方が高かった。

Q. 「男女共用の個室トイレ（手洗い器付き）」を利用する条件・状況としてあてはまるものをすべてお知らせください。（MA）／オフィス

※オフィスの「男女共用の個室トイレ（手洗い器付き）」を「条件や状況によって利用する」と回答した人ベース

※トランス全体降順

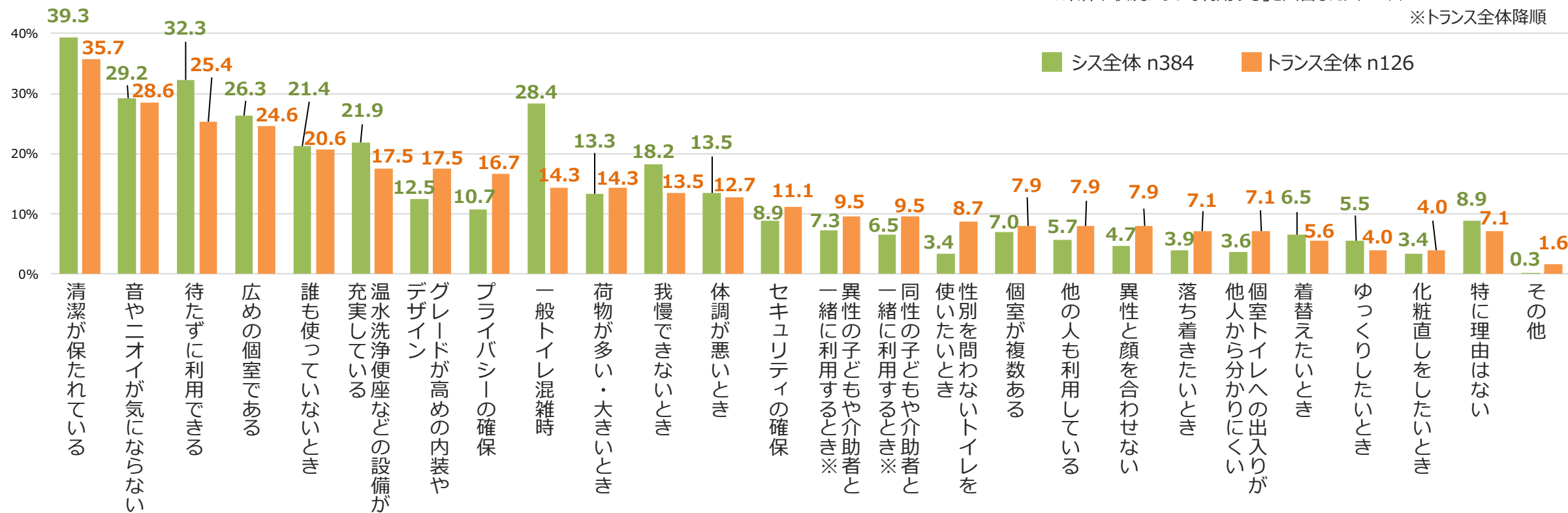


「男女共用個室トイレ」を利用する条件・状況：公共施設（シス・トランス）

- オフィス同様、「清潔」「音やニオイ」「待たずに利用できる」といったトイレの基本的条件が上位3位を占め、「広めの個室」「設備の充実」など、付加要素があることが上位に挙がっている。
- シスでは、「待たずに利用できる」「一般トイレ混雑時」がトランスより高い。

Q. 「男女共用の個室トイレ（手洗い器付き）」を利用する条件・状況としてあてはまるものをすべてお知らせください。（MA）／公共施設 ※公共施設の「男女共用の個室トイレ（手洗い器付き）」を「条件や状況によって利用する」と回答した人ベース

※トランス全体降順



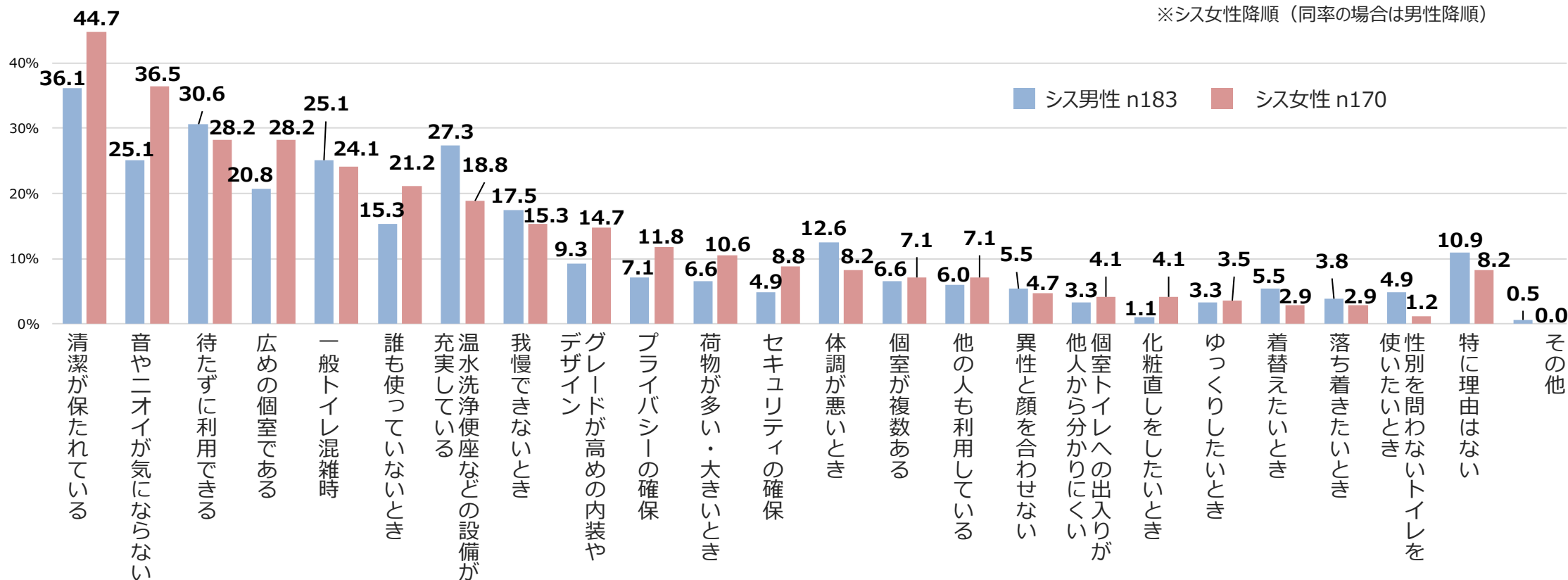
「男女共用個室トイレ」を利用する条件・状況：オフィス（シス男女）

- 男女共に1位は「清潔が保たれている」であり、特に女性の割合が高い。
- 女性の2位は「音やニオイ」、3位は同率で「待たずに利用できる」と「広めの個室」であった。
- 男性の2位は「待たずに利用できる」、3位は「温水洗浄便座などの設備が充実」であった。

Q. 「男女共用の個室トイレ（手洗い器付き）」を利用する条件・状況としてあてはまるものをすべてお知らせください。（MA）／オフィス

※オフィスの「男女共用の個室トイレ（手洗い器付き）」を「条件や状況によって利用する」と回答した人ベース

※シス女性降順（同率の場合は男性降順）



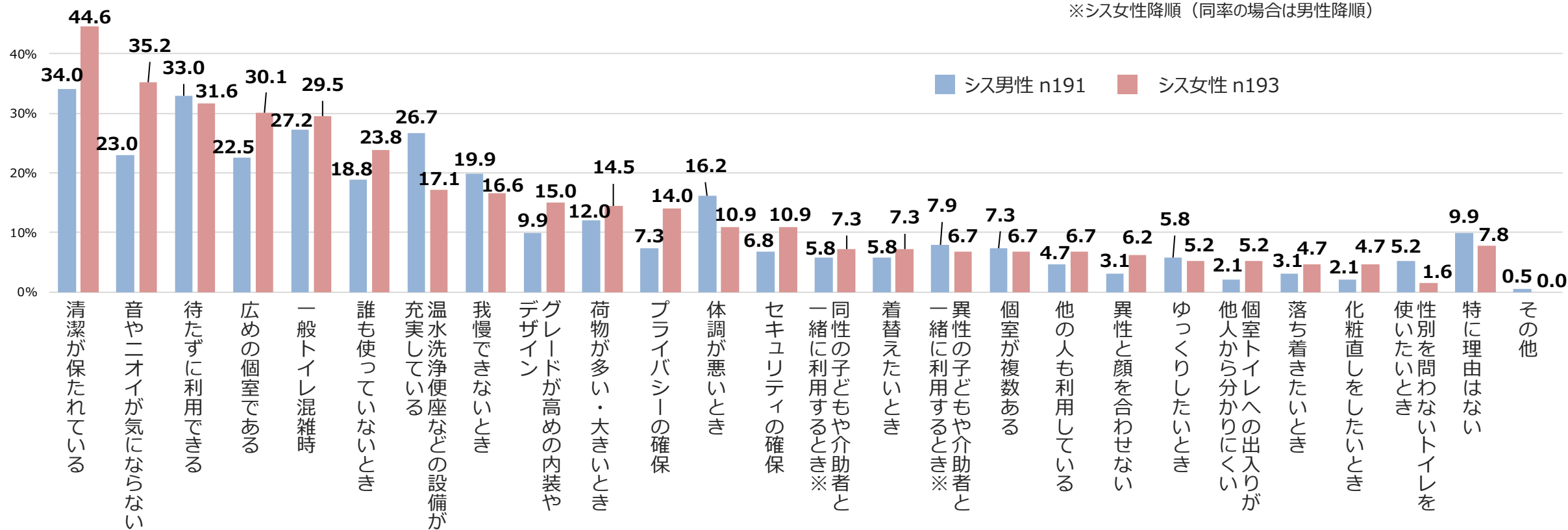
「男女共用個室トイレ」を利用する条件・状況：公共施設（シス男女）

➤ シス男女共に、順位・割合共にオフィスとほぼ同じ傾向であった。

Q. 「男女共用の個室トイレ（手洗い器付き）」を利用する条件・状況としてあてはまるものをすべてお知らせください。（MA）／公共施設

※公共施設の「男女共用の個室トイレ（手洗い器付き）」を「条件や状況によって利用する」と回答した人ベース

※シス女性降順（同率の場合は男性降順）



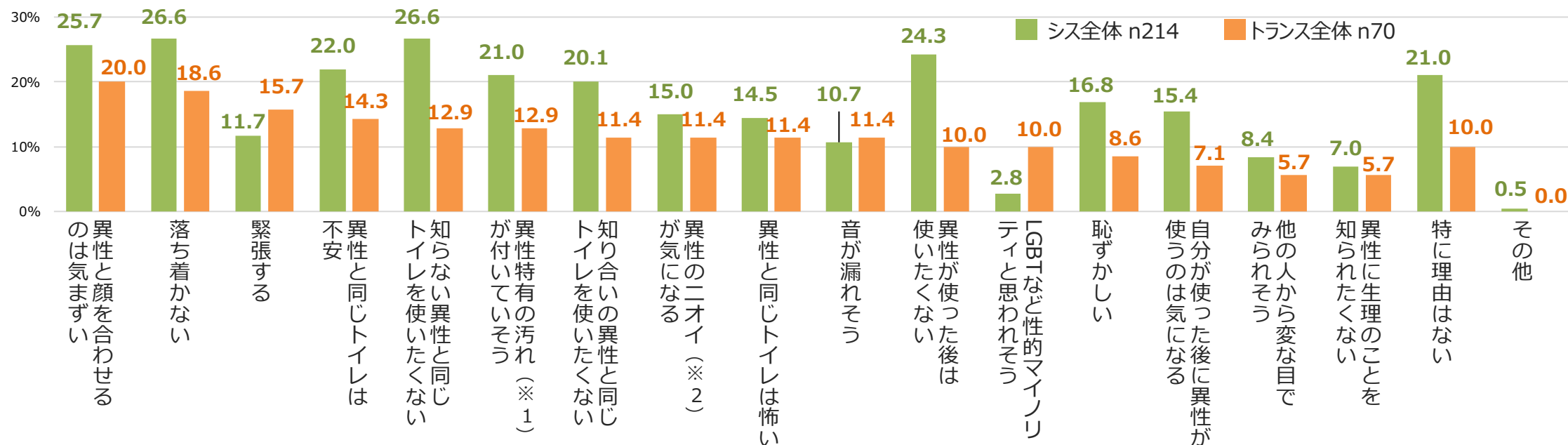
「男女共用個室トイレ」を利用したくない理由：オフィス（シス・トランス）

- 全体的に、トランスよりもシスの方が割合が高いが、「性的マイノリティと思われそう」はトランスの方が高い。
- 上位3位は、シスでは「落ち着かない」「知らない異性と同じトイレを使いたくない」「異性と顔を合わせるのは気まずい」であり、トランスでは「異性と顔を合わせるのは気まずい」「落ち着かない」「緊張する」であった。

Q. 「男女共用の個室トイレ（手洗い器付き）」を利用したくない理由としてあてはまるものをすべてお知らせください。（MA）／オフィス

※オフィスの「男女共用の個室トイレ（手洗い器付き）」を「できれば利用したくない」、「絶対利用したくない」と回答した人ベース

※トランス全体降順



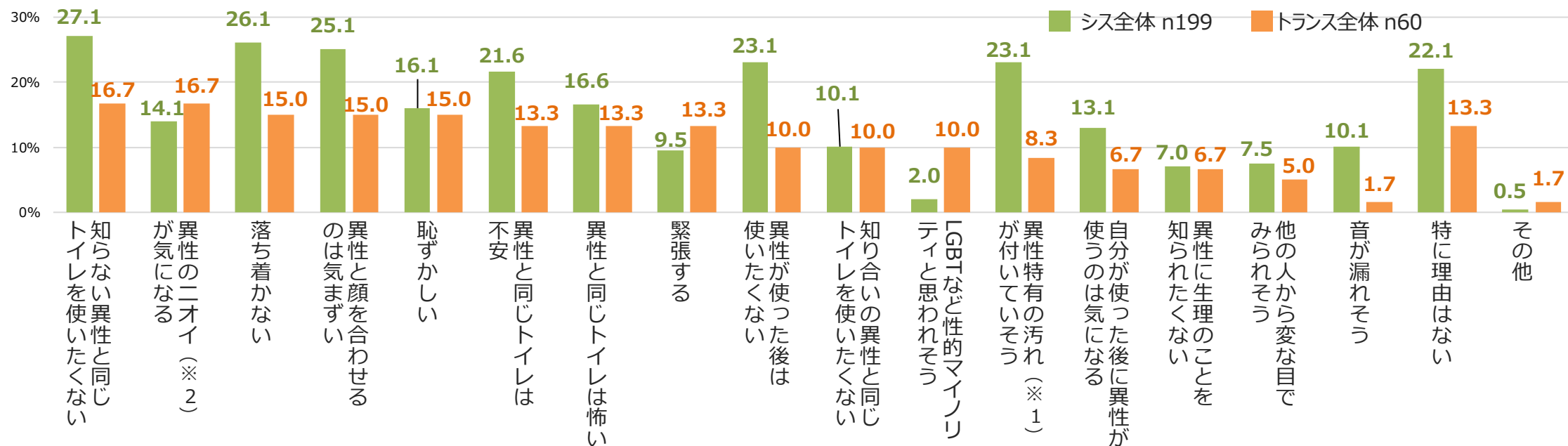
「男女共用個室トイレ」を利用したくない理由：公共施設（シス・トランス）

- オフィス同様、全体的にトランスよりもシスの方が割合が高く、シスの上位3位は、順位は異なるものの「落ち着かない」「知らない異性と 同じトイレを使いたくない」「異性と顔を合わせるのは気まずい」であった。
- トランスの上位は、「知らない異性と 同じトイレを使いたくない」「異性のニオイが気になる」「落ち着かない」であった。
- 「性的マイノリティと思われそう」はトランスの方がシスよりも高く、トランスの10%に対し、シスは2.0%であった。

Q.「男女共用の個室トイレ（手洗い器付き）」を利用したくない理由としてあてはまるものをすべてお知らせください。（MA）／公共施設

※公共施設の「男女共用の個室トイレ（手洗い器付き）」を「できれば 利用したくない」、「絶対利用したくない」と回答した人ベース

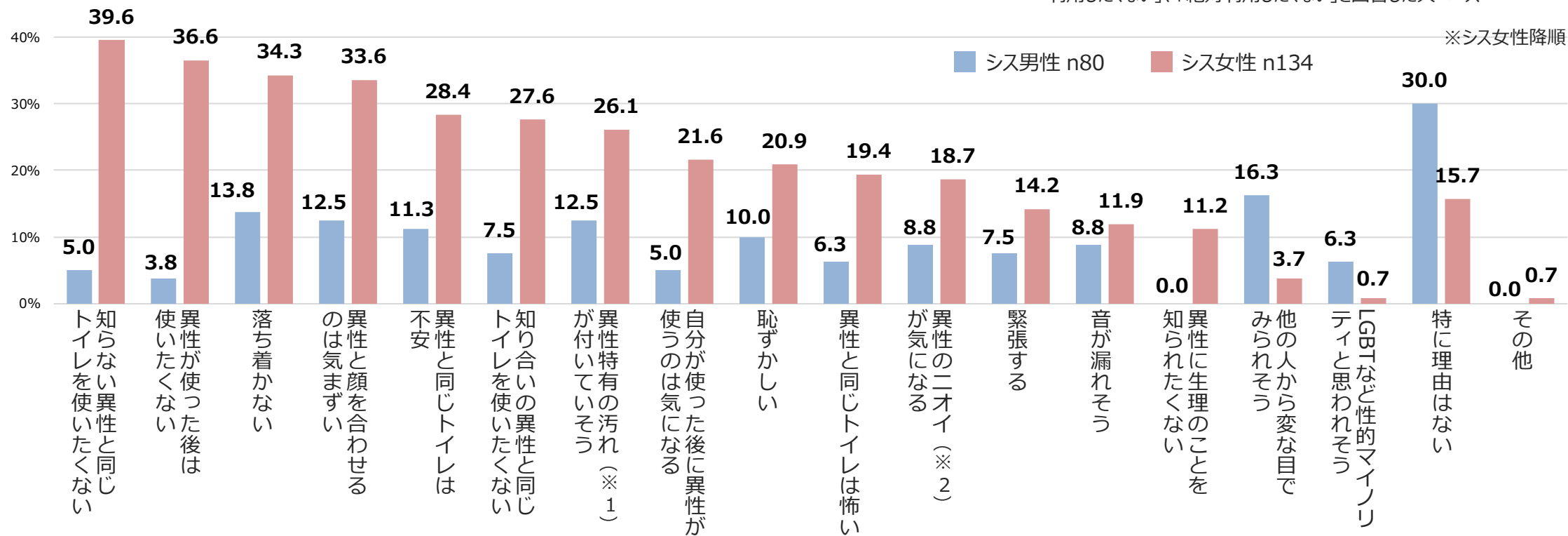
※トランス全体降順



「男女共用個室トイレ」を利用したくない理由：オフィス（シス男女）

- シスでは、ほとんどの項目で男女に顕著な差がみられ、女性の方が男性よりも高い。
- 「他の人から変な目でみられそう」「性的マイノリティと思われそう」のみ、男性の方が女性より高い。男性の方が、他人からどう見られるかを気にしていることがうかがえる。

Q. 「男女共用の個室トイレ（手洗い器付き）」を利用したくない理由としてあてはまるものをすべてお知らせください。（MA）／オフィス ※オフィスの「男女共用の個室トイレ（手洗い器付き）」を「できれば利用したくない」、「絶対利用したくない」と回答した人ベース

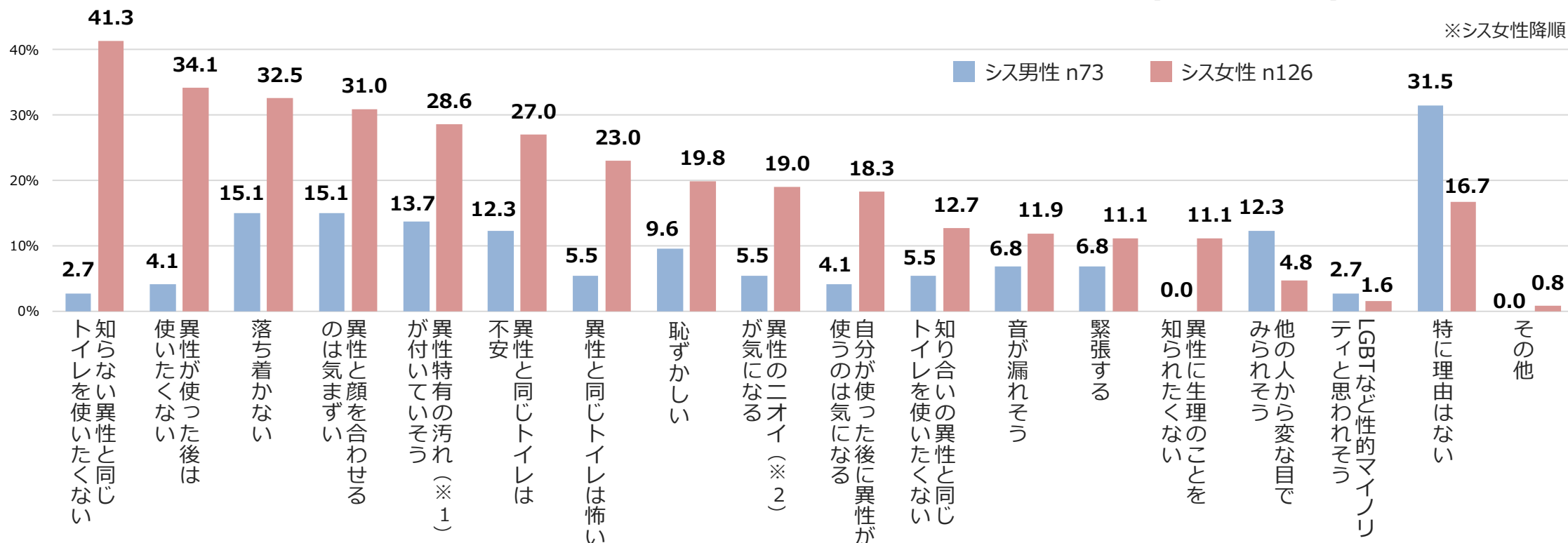


「男女共用個室トイレ」を利用したくない理由：公共施設（シス男女）

- オフィス同様、ほとんどの項目で男女に顕著な差がみられ、女性の方が男性よりも高く、特に「知らない異性と同じトイレを使いたくない」「異性が使った後は使いたくない」が、シス男性との差が大きい。
- 「他の人から変な目でみられそう」「特に理由はない」は、シス男性の方が高い。
- 「知り合いの異性と同じトイレを使いたくない」は、シス女性はオフィスでは27.6%、公共施設では12.7%と14.9ポイント低い。これは、オフィスでは「職場関係者」、公共施設では家族等の「私的關係者」を想定しているためと考えられる。

Q. 「男女共用の個室トイレ（手洗い器付き）」を利用したくない理由としてあてはまるものをすべてお知らせください。（MA）／公共施設

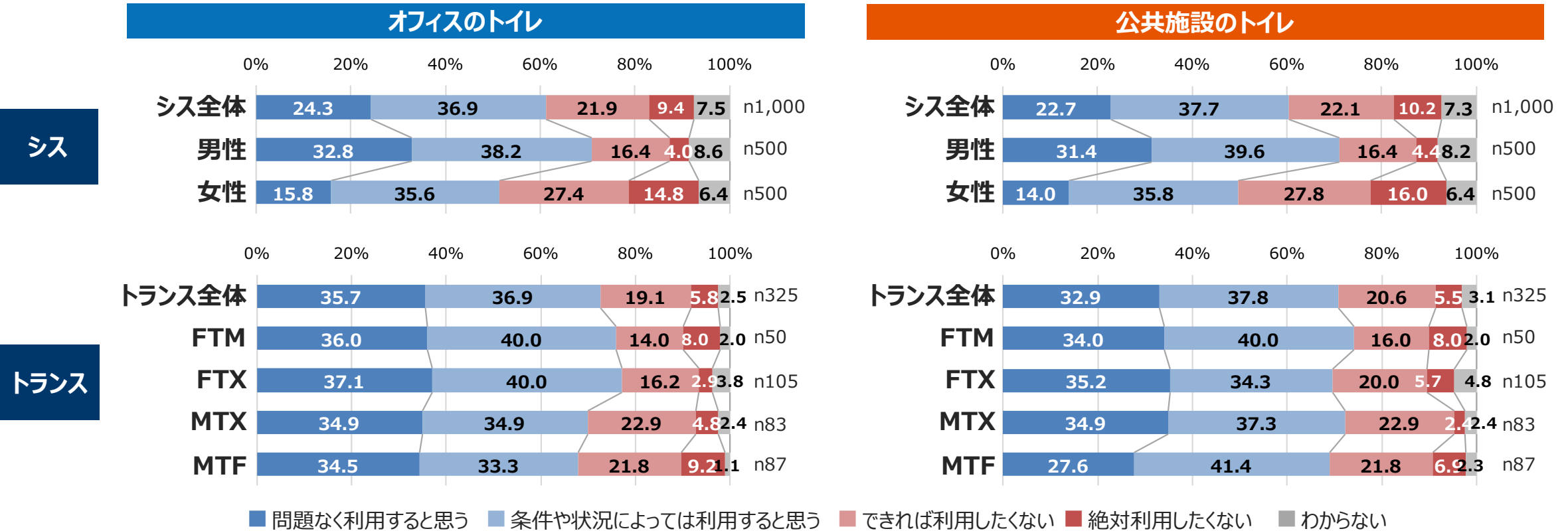
※公共施設の「男女共用の個室トイレ（手洗い器付き）」を「できれば利用したくない」、「絶対利用したくない」と回答した人ベース



トイレがすべて「男女共用」だったらどう思う？：オフィス・公共施設（シス・トランス／ジェンダー別）

- オフィスと公共施設共に「問題なく利用すると思う」はシス全体では2割以上、トランス全体では3割以上であり、施設間での傾向の差はみられなかった。
- ジェンダー別ではシス女性の利用意向が最も低く、「問題なく利用すると思う」はオフィス15.8%、公共施設14.0%であった。

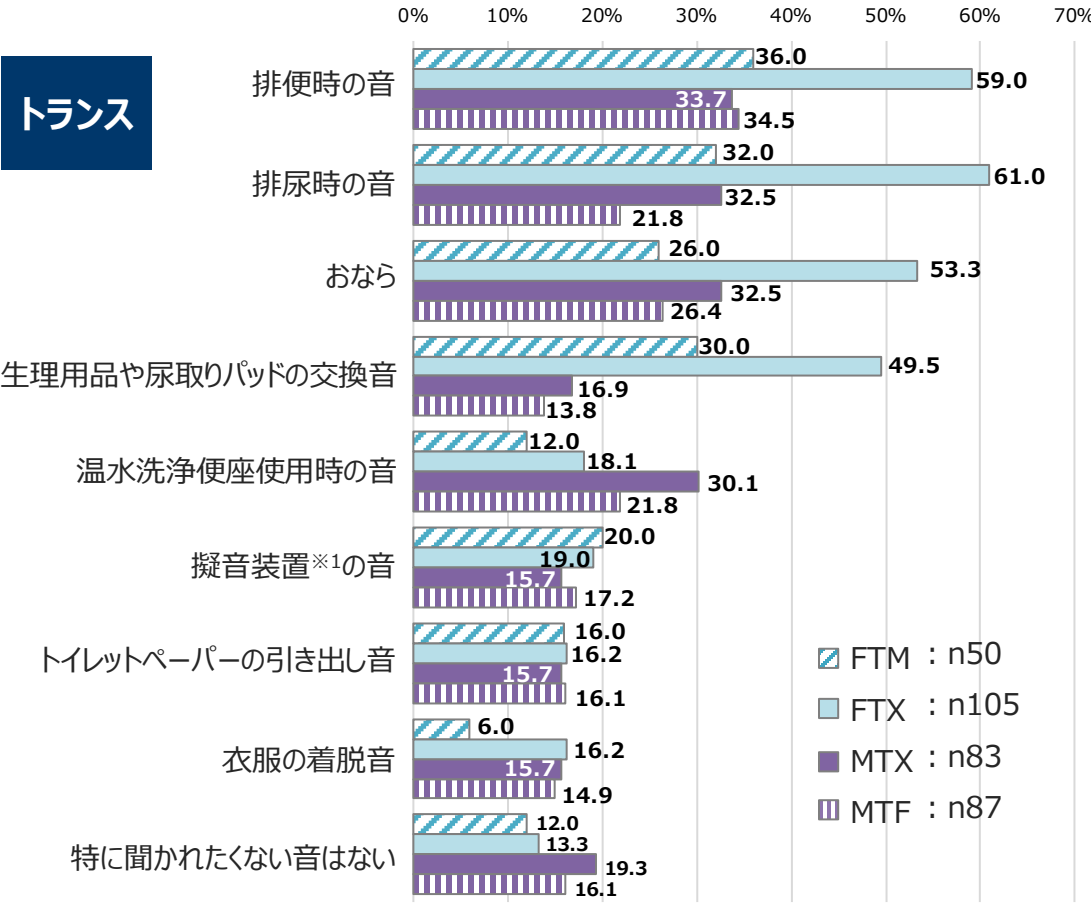
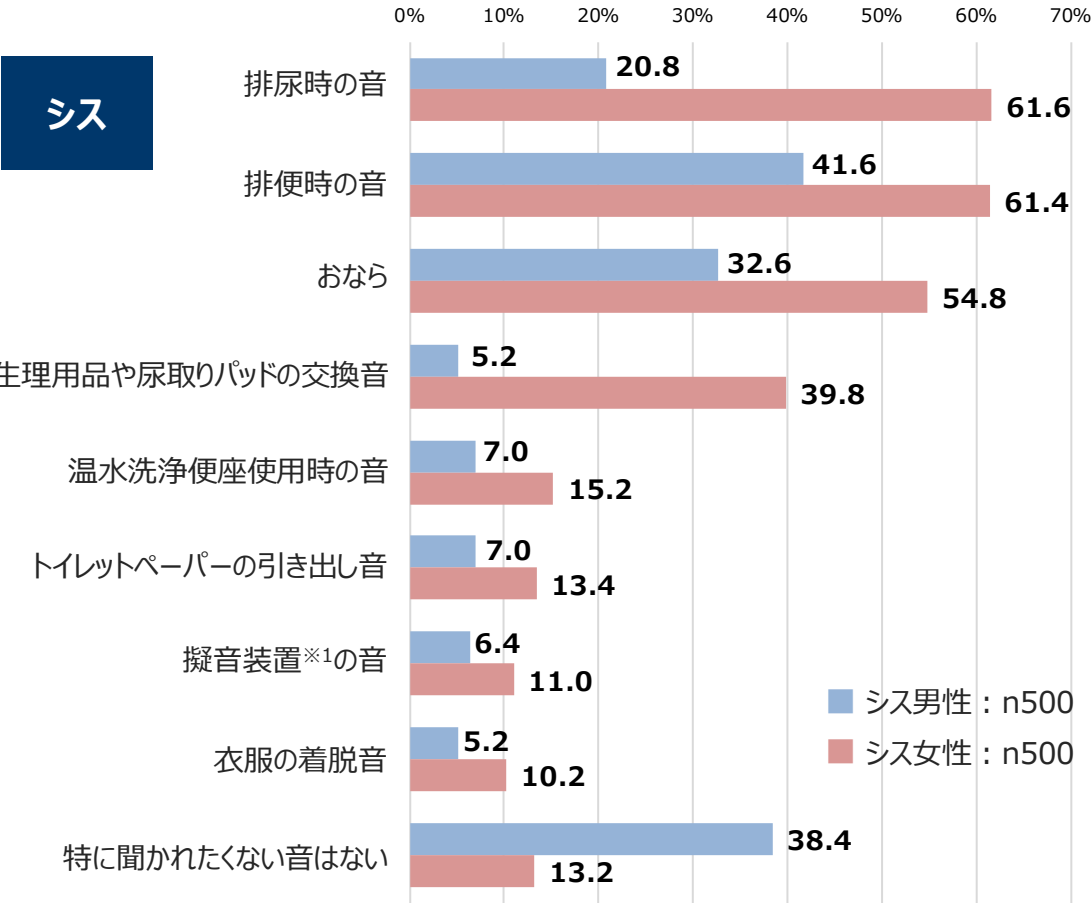
Q. オフィス、および駅・ショッピングセンターなどの公共施設のトイレが「すべて男女共用」になった場合、どのように思いますか？（SA）



男女共用トイレの利用時に聞かれない音（シス・トランス／ジェンダー別）

- シスでは女性、トランスではFTXが音を気にする傾向が高い。
- 「特に聞かれない音はない」は、シス女性やトランスは1割台であるのに対し、シス男性は38.4%であった。

Q.あなたが外出時にトイレを利用する際、「他の人に聞かれない音」としてあてはまるものをすべてお知らせください。（MA）／男女共用トイレ



3. 調査結果報告

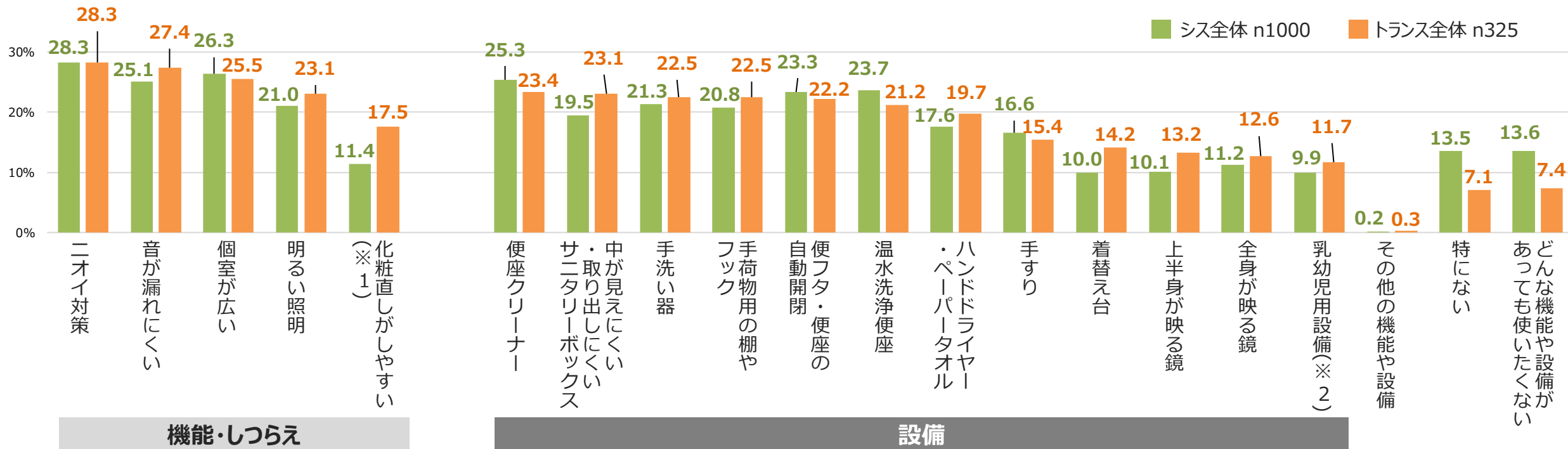
3-8. 「男女共用個室トイレ」の設備・機能（オフィス・公共施設）

「男女共用個室トイレ」にあったらよい機能・設備：オフィス（シス・トランス）

- 機能・しつらえでは、シス・トランス共に「ニオイ対策」がトップ。次いで、「音が漏れにくい」「個室が広い」が上位で、シスとトランスで大きな差はみられない。「化粧直しがしやすい」は、他の項目に比べてシスよりトランスが高い。
- 設備では、シス・トランス共に「便座クリーナー」がトップ。シスの次点は「温水洗浄便座」「便フタ・便座の自動開閉」。トランスの次点は「中が見えにくい・取り出しにくいサニタリーボックス」、同率で「手洗い器」「手荷物用の棚やフック」が続く。
- 「特にない」「どんな機能や設備があっても使いたくない」は、トランスよりシスの方が6ポイント程度高い。

Q.性別を問わず利用できる「男女共用の個室トイレ」があった場合、個室の中にどのような機能や設備があったら使いますか？（MA）／オフィス

※トランス全体降順

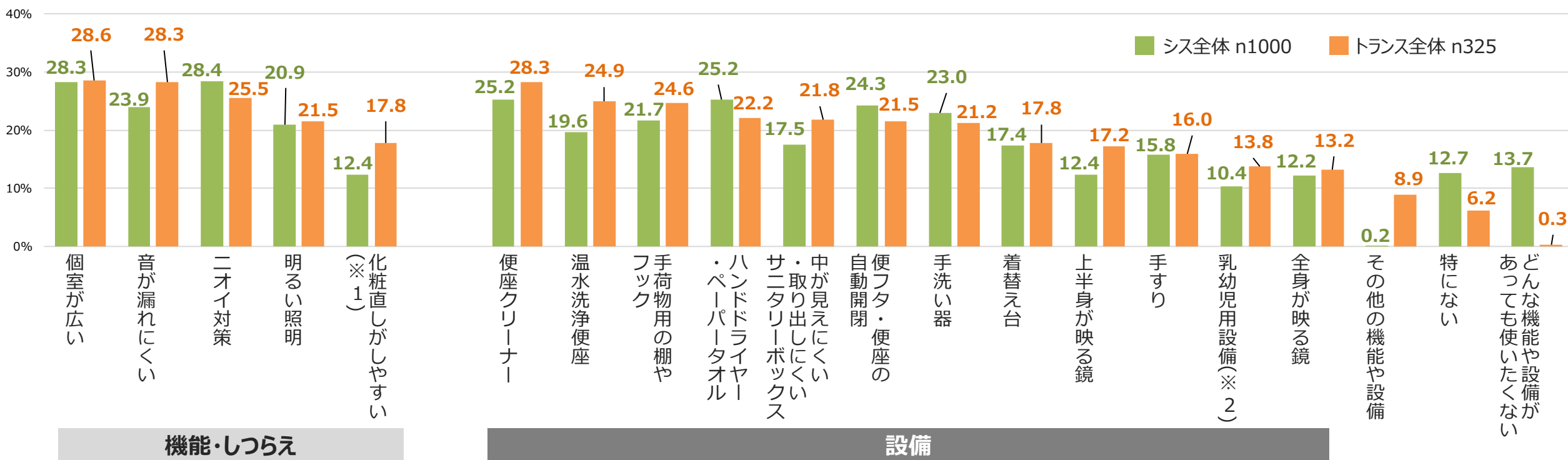


「男女共用個室トイレ」にあったらよい機能・設備：公共施設（シス・トランス）

➤ 「機能・しつらえ」、「設備」共に、順位の差はみられるものの、オフィスと大きな傾向の差はみられない。

Q.性別を問わず利用できる「男女共用の個室トイレ」があった場合、個室の中にどのような機能や設備があったら使いますか？（MA）／公共施設

※トランス全体降順

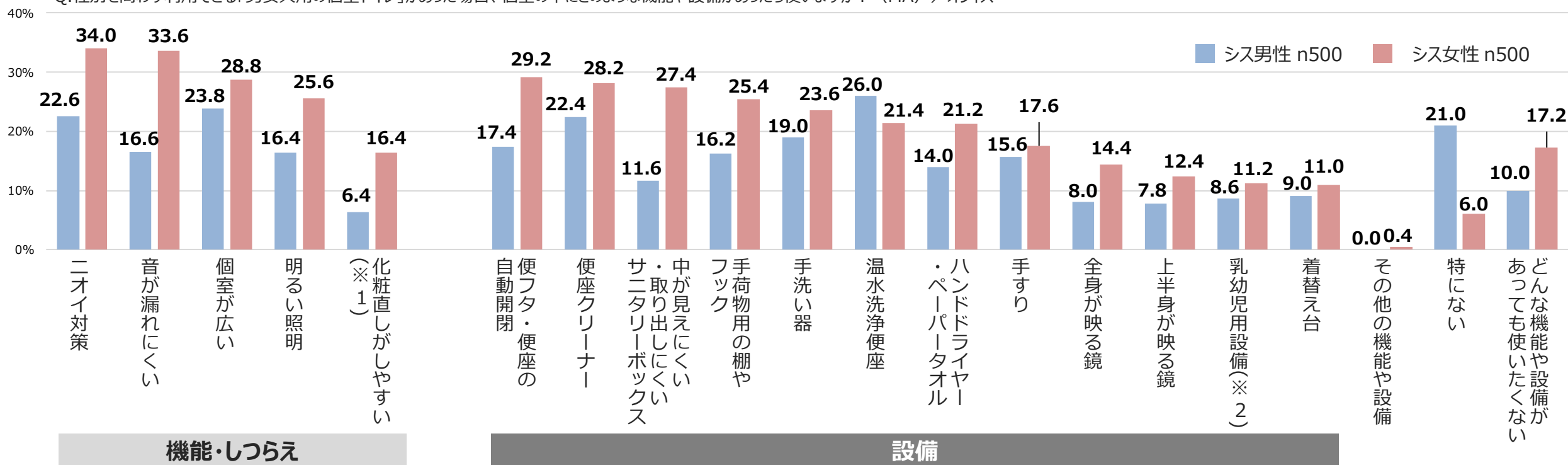


「男女共用個室トイレ」にあったらよい機能・設備：オフィス（シス男女）

- 「機能・しつらえ」「設備」共に、全体的にシス男性よりもシス女性の方が割合が高い。
- 「機能」では、シス女性は「ニオイ対策」がトップ、次点は僅差で「音が漏れにくい」、次いで「個室が広い」であった。シス男性は、「個室が広い」がトップであった。
- 「設備」では、シス女性は衛生に関する「便フタ・便座の自動開閉」「便座クリーナー」が上位であり、シス男性は「温水洗浄便座」がトップで女性よりも唯一割合が高い。
- 「特にない」は男性21.0%、女性6.0%、「どんな機能や設備があっても使いたくない」は、男性10.0%、女性17.2%、であった。「男女共用トイレ」に対する抵抗感は、男性の方が低いことがうかがえる。

Q. 性別を問わず利用できる「男女共用の個室トイレ」があった場合、個室の中にどのような機能や設備があったら使いますか？（MA）／オフィス

※シス女性降順（同率の場合は男性降順）



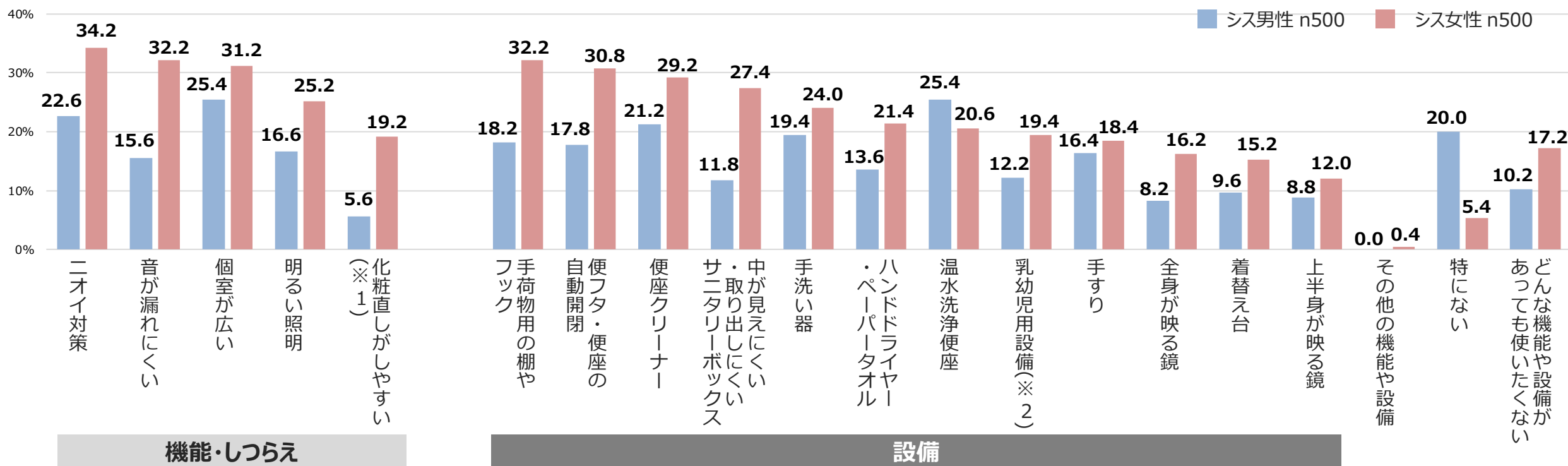
「男女共用個室トイレ」にあったらよい機能・設備：公共施設（シス男女）

- オフィスとほぼ同じ傾向であるが、「設備」ではシス女性の「手荷物用の棚やフック」がオフィスでは25.4%で4位であったのに対し、公共施設では32.2%でトップであった。次いで、衛生に関する項目である「便フタ・便座の自動開閉」「便座クリーナー」であった。
- シス男性のトップは、「機能・しつらえ」では「個室が広い」、「設備」では「温水洗浄便座」であり、共に25.4%であった。

Q.性別を問わず利用できる「男女共用の個室トイレ」があった場合、個室の中にどのような機能や設備があったら使いますか？（MA）／公共施設

※シス女性降順（同率の場合は男性降順）

■ シス男性 n500 ■ シス女性 n500

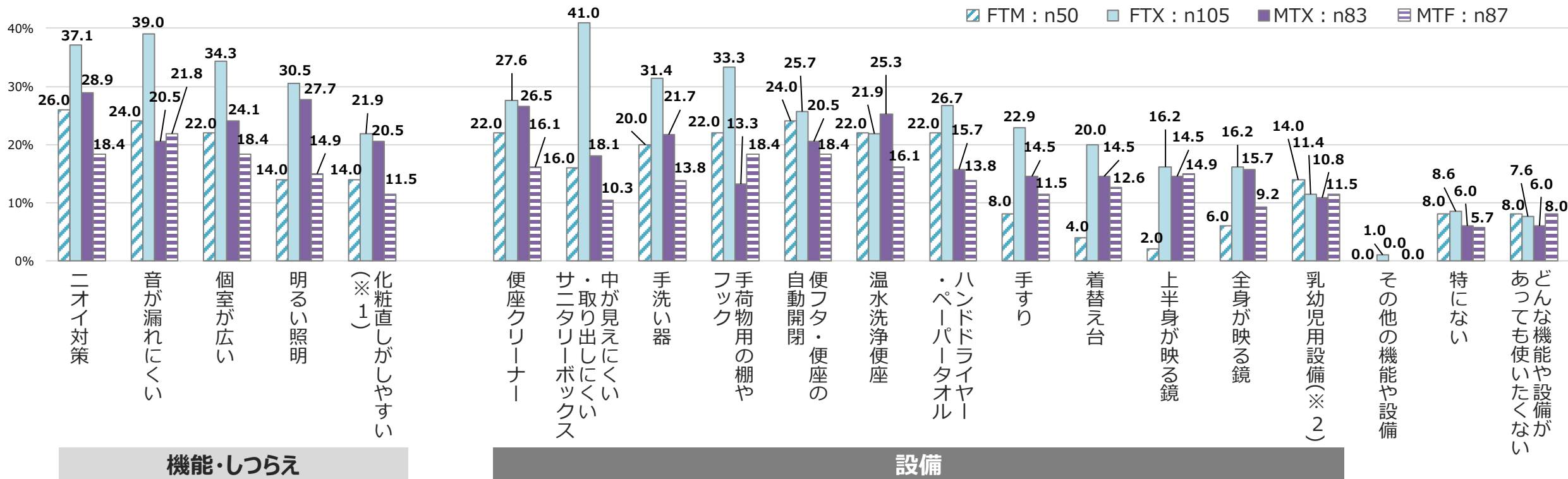


「男女共用個室トイレ」にあったらよい機能・設備：オフィス（トランス・ジェンダー別）

- 全体的にFTXの割合が高い。
- 「機能・しつらえ」では、どのジェンダーも「ニオイ対策」と「音が漏れにくい」のどちらかがトップであった。
- 「設備」のトップは、FTMでは「便フタ・便座の自動開閉」24.0%、FTXでは「中が見えにくい・取り出しにくいサニタリーボックス」41.0%、MTXでは「便座クリーナー」26.5%、MTFでは「手荷物用の棚やフック」と「便フタ・便座の自動開閉」が同率で18.4%であった。

Q.性別を問わず利用できる「男女共用の個室トイレ」があった場合、個室の中にどのような機能や設備があったら使いますか？（MA）／オフィス

※トランス全体降順

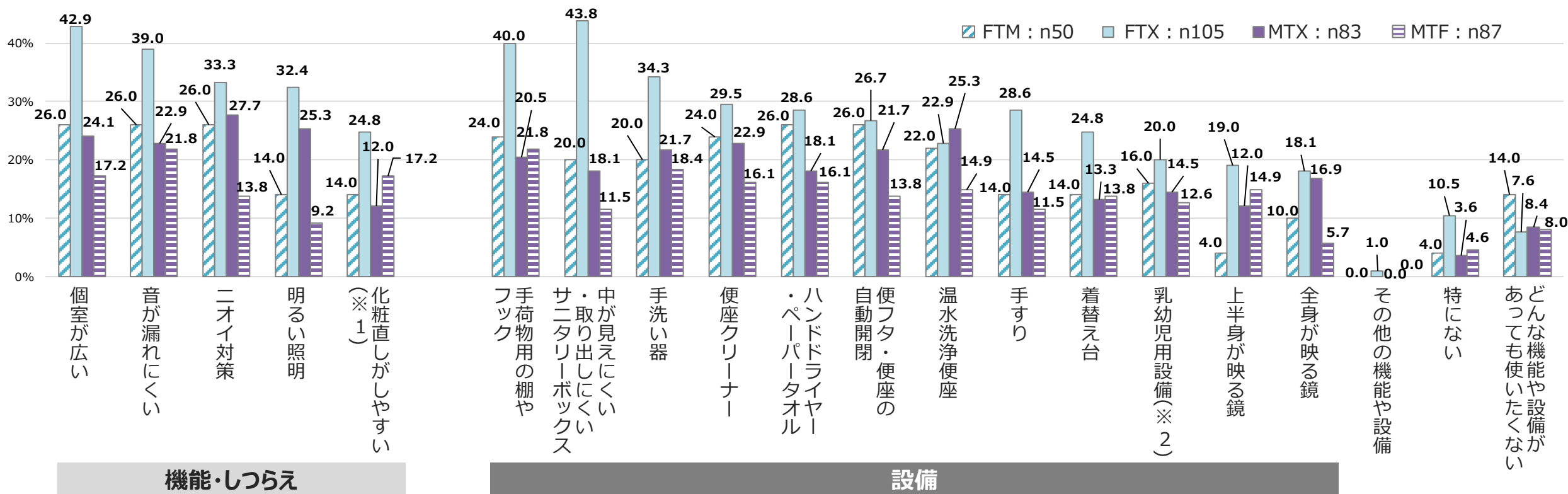


「男女共用個室トイレ」にあったらよい機能・設備：公共施設（トランス・ジェンダー別）

➤ 全体的に、FTXの割合が他のジェンダーに比べて突出して高い項目が目立つ。

Q.性別を問わず利用できる「男女共用の個室トイレ」があった場合、個室の中にどのような機能や設備があったら使いますか？（MA）／公共施設

※トランス全体降順



3. 調査結果報告

3-9. 「男女共用個室トイレ」のレイアウト（オフィス・公共施設）

① 「男女共用個室トイレ」を含むレイアウト：5パターン比較

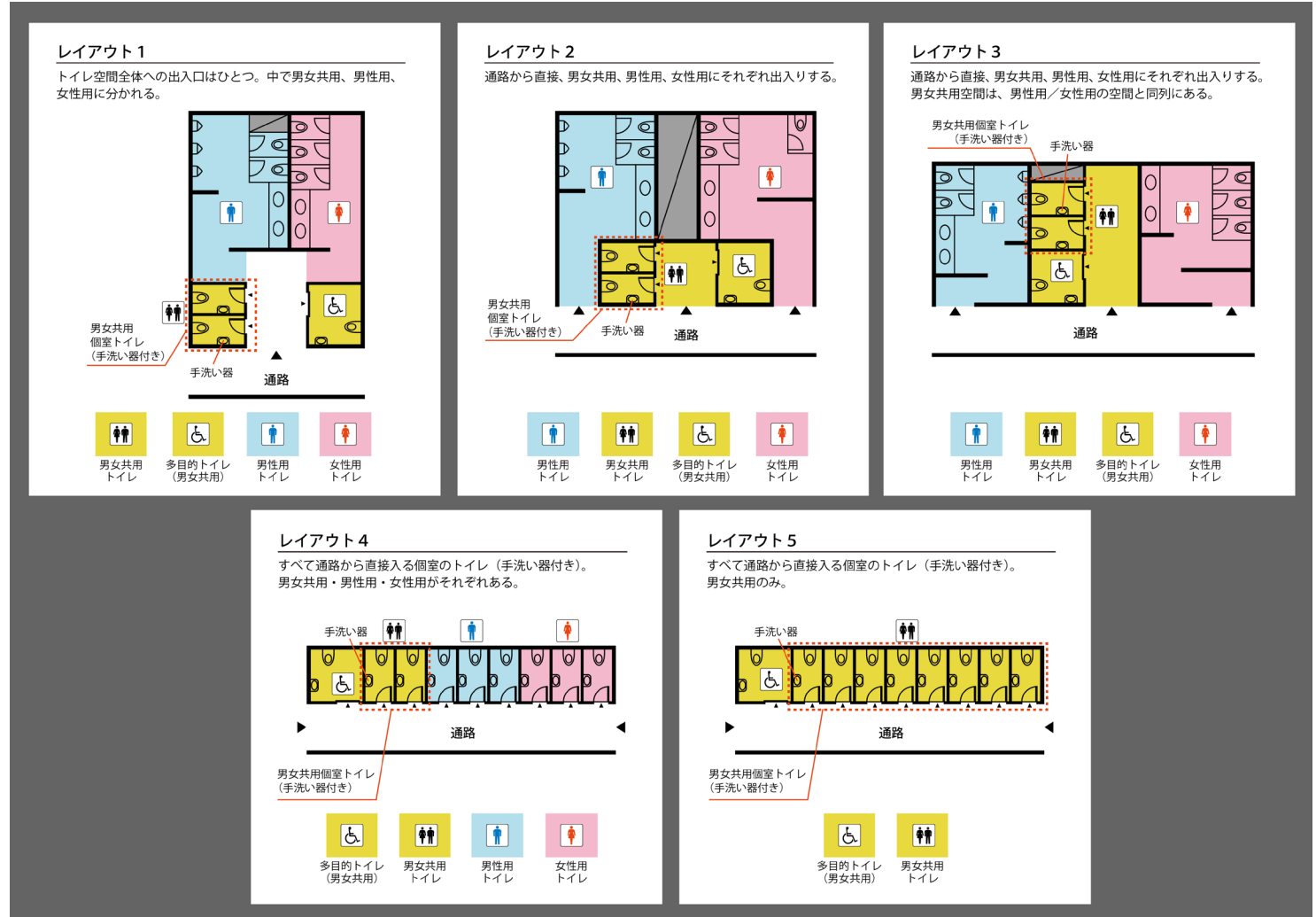
アンケート画面での提示画像：「男女共用個室トイレ」を含むトイレのレイアウト図（5パターン）と説明

Q. 次にお示しする、「男女共用個室トイレ」を含むトイレのレイアウト図（5種類）と説明をご覧ください。
その上で、以降の質問にお答えください。

➤ 「男女共用個室トイレ」を含むレイアウトの パターン1～5を提示し、以下を尋ねた。

- ✓ 回答者が「男女共用個室トイレ」を利用すると仮定した場合の利用意向。
- ✓ 最も良い／悪いと思ったパターンと
そう思った理由。

※各レイアウトは、想定され得る主な配置を単純化して作成。



レイアウト別「男女共用個室トイレ」の利用意向：オフィス・公共施設（シス男女／トランス）

- 「問題なく利用する」と回答した人は、オフィスの【レイアウト5】を除きシス男性が最も割合が高く3割以上、シス女性はすべてのレイアウトで最も低く2割前後であった。
- 「条件や状況によっては利用する」と回答した人は、シス男女、トランスいずれもすべてのレイアウトで最も割合が高く、3～4割程度であった。
- 「絶対利用したくない」と回答した人は、シス男性は公共施設の【レイアウト5】を除き5%未満、トランスはすべてのレイアウトで1割未満、シス女性は1～2割程度であった。

Q. 5つのレイアウトにある「男女共用個室トイレ（手洗い器付き）」（図中の赤い点線で囲ったトイレ）を、あなたは利用しますか？／オフィス・公共施設

※データバーセル幅最大値50%

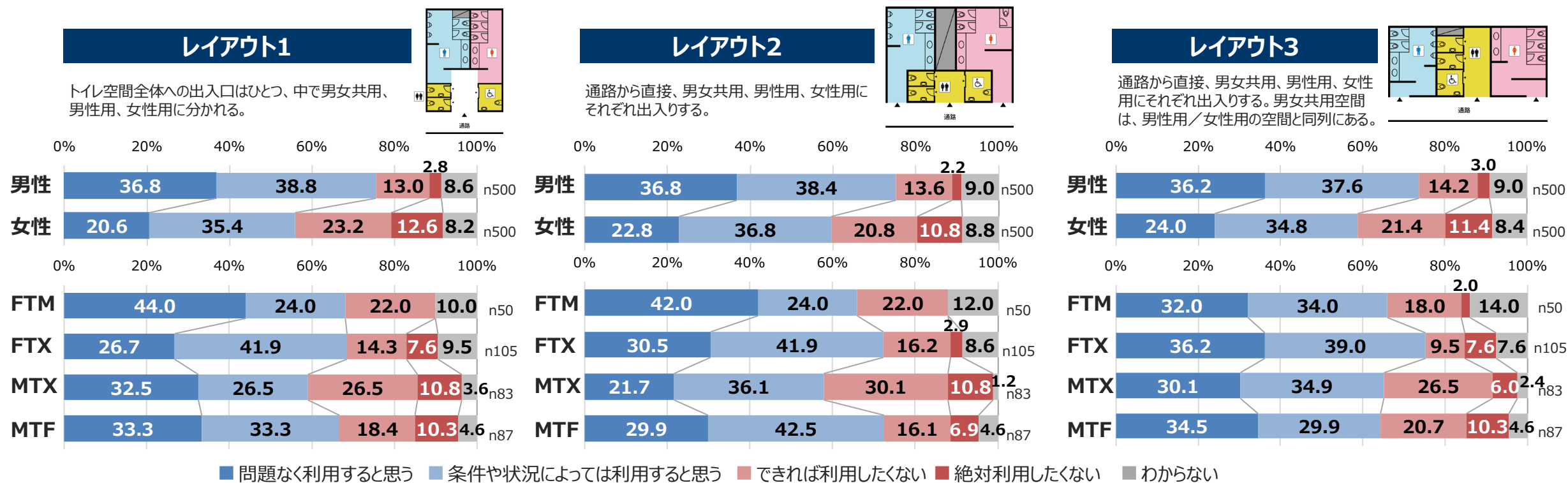
オフィスのトイレ						
レイアウト No.	ジェンダー	利用意向 (%)				
		問題なく利用する	条件や状況によっては利用する	できれば利用したくない	絶対利用したくない	わからない
1	シス男	36.8	38.8	13.0	2.8	8.6
	シス女	20.6	35.4	23.2	12.6	8.2
	トランス	32.6	32.9	19.7	8.0	6.8
2	シス男	36.8	38.4	13.6	2.2	9.0
	シス女	22.8	36.8	20.8	10.8	8.8
	トランス	29.8	37.8	20.6	5.5	6.2
3	シス男	36.2	37.6	14.2	3.0	9.0
	シス女	24.0	34.8	21.4	11.4	8.4
	トランス	33.5	34.8	18.2	7.1	6.5
4	シス男	31.8	40.0	15.4	4.2	8.6
	シス女	16.6	33.0	24.4	17.0	9.0
	トランス	30.5	34.2	18.2	10.5	6.8
5	シス男	31.8	40.0	15.4	4.2	8.6
	シス女	17.0	32.2	23.0	18.6	9.2
	トランス	33.5	32.9	19.4	7.7	6.5

公共施設のトイレ						
レイアウト No.	ジェンダー	利用意向 (%)				
		問題なく利用する	条件や状況によっては利用する	できれば利用したくない	絶対利用したくない	わからない
1	シス男	35.2	40.4	12.8	2.8	8.8
	シス女	19.4	38.0	22.8	12.2	7.6
	トランス	28.6	40.6	19.1	7.4	4.3
2	シス男	36.2	40.8	11.0	2.6	9.4
	シス女	21.4	40.6	18.8	11.2	8.0
	トランス	27.7	42.8	19.4	5.8	4.3
3	シス男	35.6	39.4	12.8	2.6	9.6
	シス女	23.2	38.2	19.0	11.8	7.8
	トランス	30.8	40.3	17.8	6.5	4.6
4	シス男	32.0	38.4	16.6	4.0	9.0
	シス女	15.4	34.2	25.0	16.6	8.8
	トランス	28.3	36.6	22.2	7.7	5.2
5	シス男	37.8	32.4	14.6	5.6	9.6
	シス女	16.2	31.8	24.0	18.8	9.2
	トランス	29.8	35.7	20.9	8.6	4.9

「男女共用個室トイレ」の利用意向：オフィス／レイアウト1～3比較（シス・トランス／ジェンダー別）

- シスは、レイアウトによる利用意向に大きな差は見られないが、男女差が大きい。「問題なく利用する」は、シス男性の36%台に対しシス女性は20～24%、「絶対利用したくない」は、シス男性は3.0%以下であるのに対し、シス女性は10%超であった。
- トランスは、レイアウトによりジェンダーのバラつきがみられた。「問題なく利用する」の割合が最も高かったのは、FTMとMTXは【レイアウト1】で、それぞれ44.0%、32.5%、FTXとMTFは【レイアウト3】で、それぞれ36.2%、34.5%であった。
- MTXは、どのレイアウトでも他のジェンダーに比べて「できれば／絶対利用したくない」の合計割合が高く、特に【レイアウト1・2】は約4割であった。

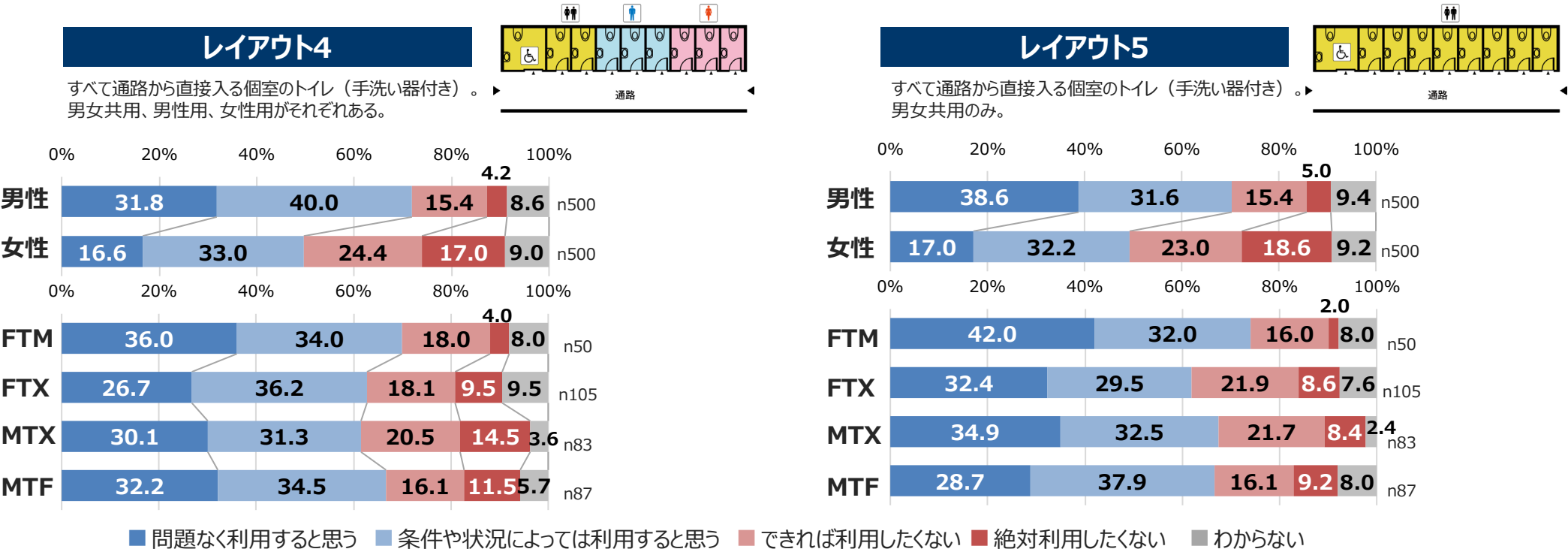
Q.次にお示した、5つのレイアウトにある「男女共用個室トイレ（手洗い器付き）」（図中の赤い点線で囲ったトイレ）を、あなたは利用しますか？／オフィス



「男女共用個室トイレ」の利用意向：オフィス／レイアウト4～5比較（シス・トランス／ジェンダー別）

- シスは、【レイアウト1～3】同様、【4・5】の利用意向に大きな差は見られず、男女差が大きい。
- 「問題なく利用する」は、シス男性では【レイアウト4】は31.8%で5つのレイアウトのうち最も低く、【レイアウト5】は38.6%で5つのレイアウトのうち最も高かった。シス女性は【レイアウト4・5】は共に17%程度で、【レイアウト1～3】より低い傾向にあった。「絶対利用したくない」は、シス男性が5.0%以下であるのに対し、シス女性は18%前後であった。
- トランスは、同じ横並びのレイアウトでも、男女・共用を分けた【レイアウト4】の方が、すべて共用の【レイアウト5】よりも「絶対利用したくない」の割合が高い。FTM・FTXよりもMTX・MTFの方がその傾向がより強い。また、5つのレイアウトの中でも最も高い。

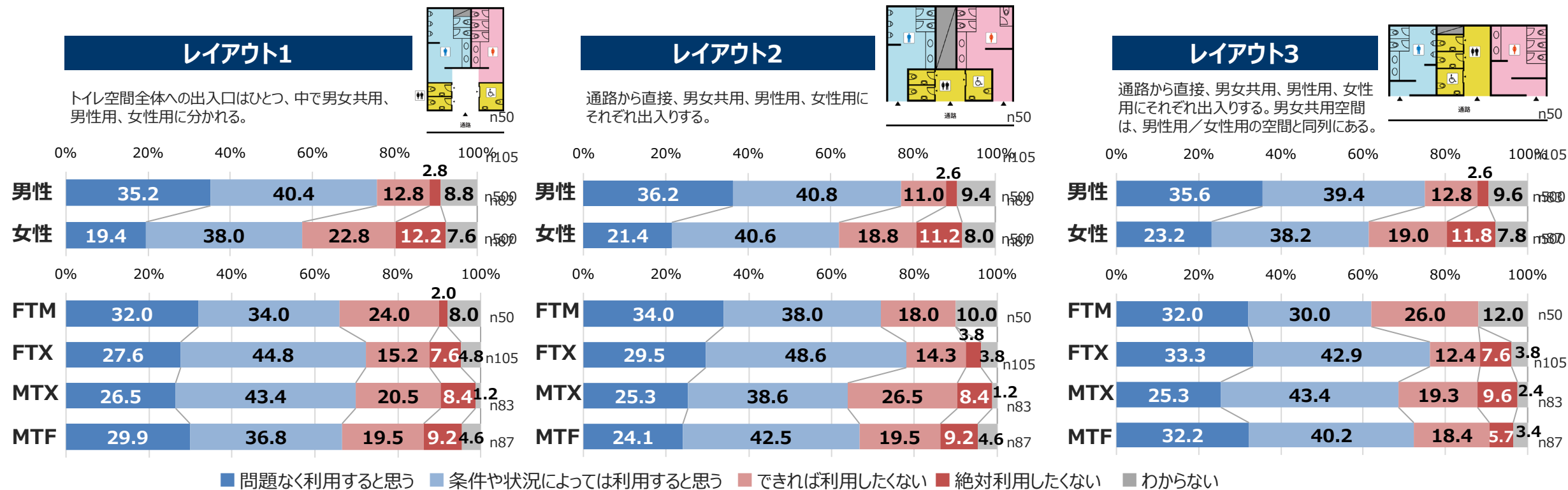
Q.次にお示した、5つのレイアウトにある「男女共用個室トイレ（手洗い器付き）」（図中の赤い点線で囲ったトイレ）を、あなたは利用しますか？／オフィス



「男女共用個室トイレ」の利用意向：公共施設／レイアウト1～3比較（シス・トランス／ジェンダー別）

- オフィス同様、シスは男女差が大きい。「問題なく利用する」は、シス男性の35%程度に対しシス女性は20%程度、「絶対利用したくない」は、シス男性は3.0%未満であるのに対し、シス女性は12%程度であった。
- トランスは、レイアウトによるジェンダーのバラつきは、オフィスほどにはみられなかった。「問題なく利用する」の割合は、FTM・FTX・MTXでは【レイアウト1～3】で差がないが、MTFでは【レイアウト1・3】は3割程度であるのに対し、【レイアウト2】は24.1%でやや低かった。

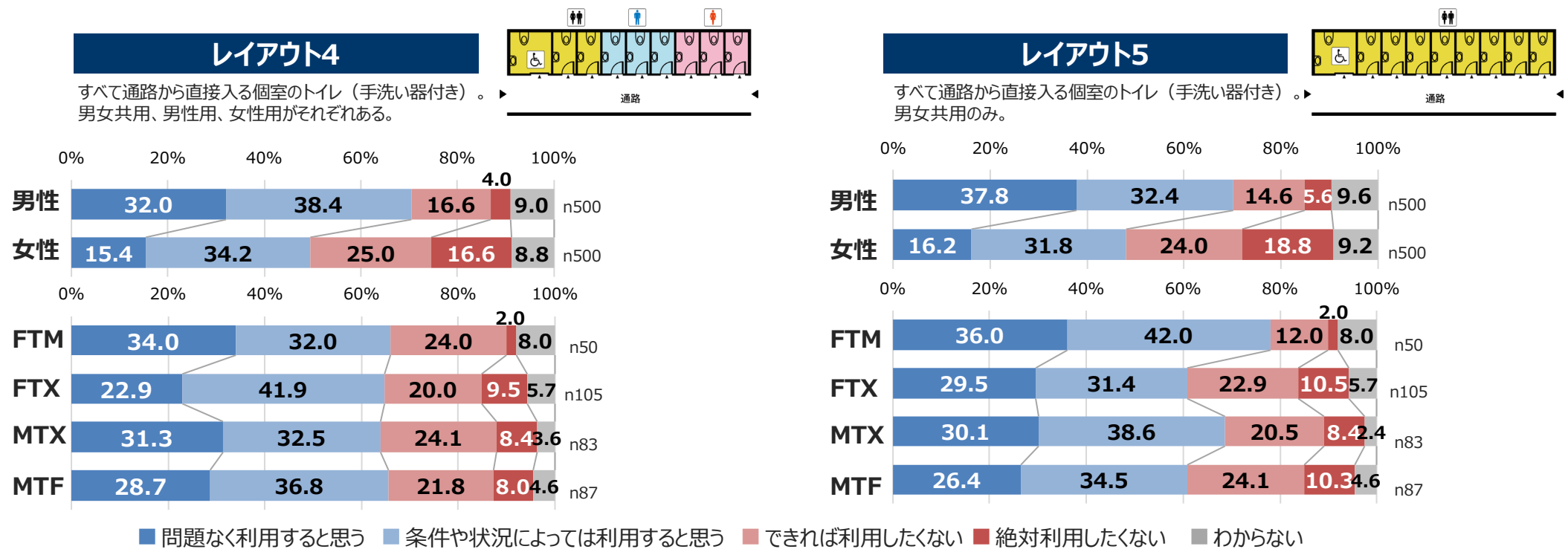
Q.次にお示した、5つのレイアウトにある「男女共用個室トイレ（手洗い器付き）」（図中の赤い点線で囲ったトイレ）を、あなたは利用しますか？／公共施設



「男女共用個室トイレ」の利用意向：公共施設／レイアウト4～5比較（シス・トランス／ジェンダー別）

- シスは、【レイアウト1～3】同様、【4・5】の利用意向に大きな差は見られず、男女差が大きい。
- 「問題なく利用する」は、シス男性では【レイアウト4】は32.0%で5つのレイアウトのうち最も低く、【レイアウト5】は37.8%で5つのレイアウトのうち最も高かった。シス女性は【レイアウト4・5】は共に16%程度で、【レイアウト1～3】より低い傾向にあった。「絶対利用したくない」は、シス男性が6.0%未満であるのに対し、シス女性は2割弱であった。
- トランスのうち、FTMは【レイアウト5】において「できれば利用したくない」が12.0%、「絶対利用したくない」が2.0%、計14.0%であり、他のレイアウト、ジェンダーと比較して特に低い。

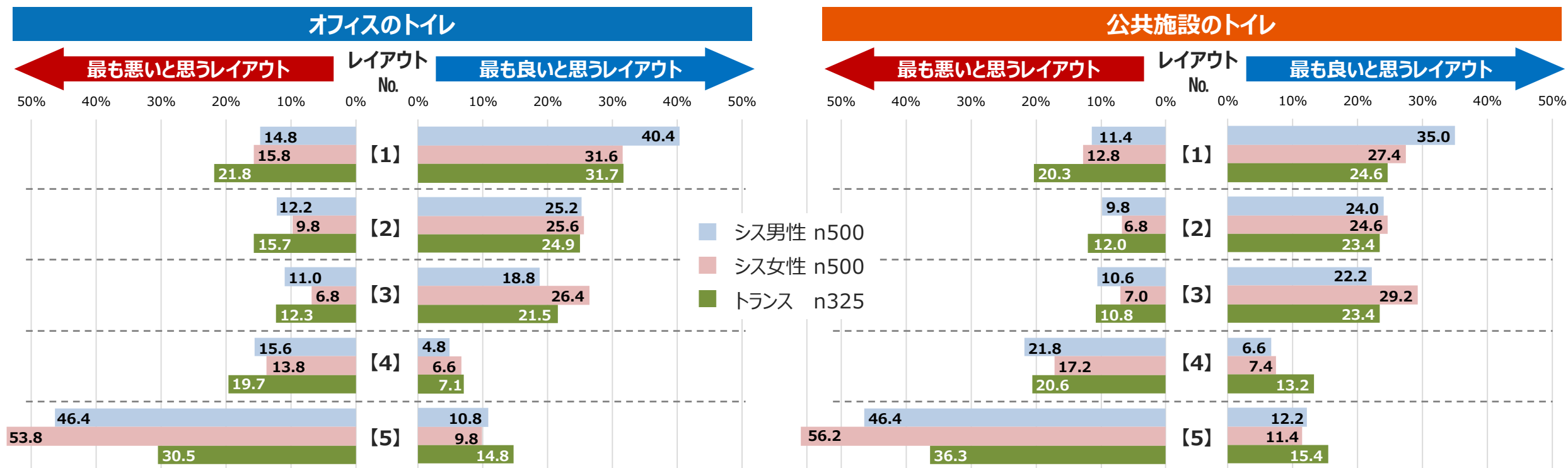
Q.次にお示した、5つのレイアウトにある「男女共用個室トイレ（手洗い器付き）」（図中の赤い点線で囲ったトイレ）を、あなたは利用しますか？／公共施設



「男女共用個室トイレ」を利用する場合、最も良い／悪いと思ったレイアウト：オフィス・公共施設（シス男女・トランス）

- レイアウト 1 ～ 3 が比較的受容されやすく、レイアウト 4・5 が受容されにくい傾向がみられた。
- 「最も良いと思うレイアウト」は、オフィスではシス男女・トランス共に【レイアウト 1】が最も高い。公共施設では、シス男性とトランスは【レイアウト 1】、シス女性は【レイアウト 3】が最も高いが、シス女性とトランスはレイアウト 1 ～ 3 に大きな差はみられない。
- 「最も悪いと思うレイアウト」は、オフィス・公共施設、シス男女・トランス共に【レイアウト 5】が最も高く、特にシス女性ではオフィス53.8%、公共施設56.2%で半数を超えた。
- 【レイアウト 1】を「最も悪い」と回答したシス男女はオフィスでは15%程度、公共施設では1割強、トランスでは両施設共に2割程度であった。5つのレイアウトのうち、【レイアウト 2・3】を「最も悪い」と回答した人は相対的に低く、特にシス女性ではいずれも1割未満であった。

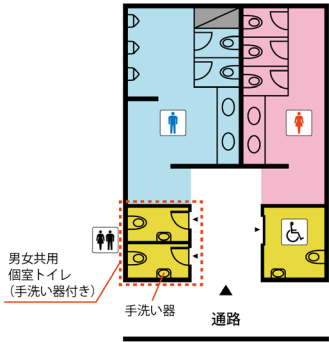
Q. あなたが「男女共用個室トイレ（手洗い器付き）」を利用すると仮定した場合、先にお示した5つのレイアウトのうち、最も「よい」または「悪い」と思ったレイアウトの番号をお知らせください。（オフィス／公共施設）



自身が「男女共用個室トイレ」を利用する場合、「レイアウト1」が最も良い／悪いと思った理由：オフィス

レイアウト1

トイレ空間全体への出入口はひとつ、中で男女共用、男性用、女性用に分かれる。



最も「良い」
(肯定派)

シス男性：40.4%
シス女性：31.6%
トランス：31.7%

最も「悪い」
(否定派)

シス男性：14.8%
シス女性：15.8%
トランス：21.8%

シス男性 n500, シス女性 n500, トランス n325

【凡例】

男女共用個室トイレ (手洗い器付)

多機能トイレ

男性用トイレ

女性用トイレ

- 肯定派の割合が最も高く、特にシス男性での評価が高い。共通の評価理由として「男性／女性トイレの混雑時に利用しやすそう」があった。
- 入口がひとつであることにに対し肯定派は「どのトイレに入るかわかりにくい」、「気にせず入れる」と評価している。
- 男女共用が手前にあることにに対し、肯定派は「気兼ねなく利用できる」と評価、否定派は「出入りが気まづくなりそう」、「多くの人の目に触れる」との懸念がみられた。
- シス女性からは、共用個室が「男性側にある」ことに対する忌避感がみられた。

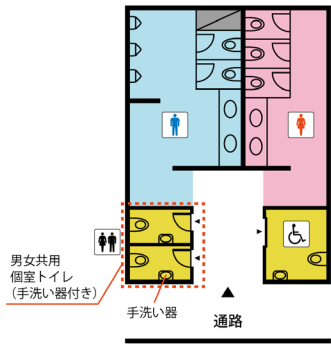
Q. あなたが「男女共用個室トイレ（手洗い器付き）」を利用すると仮定した場合、5つのレイアウトのうち最も「よい」または「悪い」と思ったレイアウトの番号と、それを選んだ理由をお知らせください。

		レイアウト1が最も「良い」と思った理由（オフィス・代表例）		レイアウト1が最も「悪い」と思った理由（オフィス・代表例）
シス	男性	どのトイレに向かっているか一見わかりにくく、男女共用に何気なく入れそう。	男性	男女に分かれている手前に共用があると、入るときや出るときに気まづくなりそう。
		手前にある方が気兼ねなく利用できる。		音が外に聞こえそう。
	女性	みんなが共用トイレが利用しやすい。女性トイレが混んでいたら利用すると思う。	女性	男性トイレに寄っているので入りづらい。
		女性トイレが混んでいた時に一番入りやすそう。		入る時に目立ちそう。
トランス		男女どちらか、または共用のどれに入るか遠目ではわからないから。	トランス	共用が手前にあると入りづらい。
		男子トイレが空いてなければすぐに入れる。		男性トイレに近い入口はなんとなく怖い。
		入口が一つなので、気にせず入れる。		沢山の人の目の目に触れるから。

自身が「男女共用個室トイレ」を利用する場合、「レイアウト1」が最も良い／悪いと思った理由：公共施設

レイアウト1

トイレ空間全体への出入口はひとつ、中で男女共用、男性用、女性用に分かれる。



最も「良い」 (肯定派)

シス男性：35.0%
シス女性：27.4%
トランス：24.6%

シス男性 n500, シス女性 n500, トランス n325

最も「悪い」 (否定派)

シス男性：11.4%
シス女性：12.8%
トランス：20.3%

【凡例】

男女共用
個室トイレ
(手洗い器付)

多機能
トイレ

男性用
トイレ

女性用
トイレ

- 肯定派、否定派共にオフィスよりも割合がやや低くなるが、選好理由はオフィスとほぼ同様の傾向であったが、否定派からは、公共施設で多くの人がすれ違うことを気にする声がみられた。
- 肯定派のトランスからは、「利用トイレの分かりにくさ」と「衆人監視によるトラブル発見」が同時に叶えられている点を評価する声があった。
- 否定派のトランスからは、「男女共用の主張が強すぎる」との声もみられた。

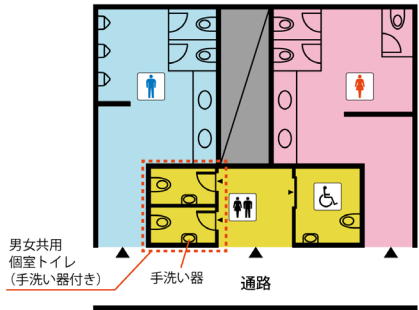
Q. あなたが「男女共用個室トイレ（手洗い器付き）」を利用すると仮定した場合、5つのレイアウトのうち最も「よい」または「悪い」と思ったレイアウトの番号と、それを選んだ理由をお知らせください。

		レイアウト1が最も「良い」と思った理由（公共施設・代表例）		レイアウト1が最も「悪い」と思った理由（公共施設・代表例）
シス	男性	急な便意がある時に使えそう。	男性	入口で（異性と）すれ違うと気まずい。
		どのトイレを利用したのかがわからないから利用しやすい。		どこに入るか直前までわからないし、出てくる時も鉢合わせしやすい。
	女性	出入口が全員一緒なので利用しやすいと思った。	女性	出入口で多くの人とすれ違う。
		女性用がいっぱいだった場合に一番入りやすそう。		排尿などの音が聞こえやすそう。
トランス	共用が手前にあるので入りやすい。		トランス	共用が手前にあると入りづらい。
	通路から誰がどこに入ったか見えにくい、人通りもあるためトラブル時はすぐ発見される。			男女共用の主張が強すぎて逆に使いにくそう。
	入口が一つなので、男性か女性かバレにくいから入りやすい。			共用トイレを利用する時に、男女が前を通るのが嫌だから。

自身が「男女共用個室トイレ」を利用する場合、「レイアウト2」が最も良い／悪いと思った理由：オフィス

レイアウト2

通路から直接、男女共用、男性用、女性用にそれぞれ出入りする。



最も「良い」
(肯定派)

シス男性：25.2%
シス女性：25.6%
トランス：24.9%

最も「悪い」
(否定派)

シス男性：12.2%
シス女性：9.8%
トランス：15.7%

シス男性 n500, シス女性 n500, トランス n325

【凡例】

男女共用
個室トイレ
(手洗い器付)

多機能
トイレ

男性用
トイレ

女性用
トイレ

- 男女共用エリアの配置や空間に関して、肯定派は「共用トイレまでの距離の短さ」や「他人（異性）とのすれ違いの少なさ」、「死角のなさ」、否定派は「特別感がある」、「共用トイレに一直線で気が引ける」ことへの忌避感がみられた。
- 男性・女性・共用で入口が明確に分かれている点については、シス・トランス共に「共用トイレに入りやすい」と「共用利用が他人にわかる」と評価が分かれた。プライバシーに関しても、「守られている」、「守られていない」と評価が二分した。
- シス女性の「共用個室が男性側」への忌避感はレイアウト1と同様であり、女性側にあれば利用しやすいと感じる可能性がある。
- 否定派のトランスからは「誰でも使いそう」との声があり、多くの人が使うことで返って使いづらいことも考えられる。

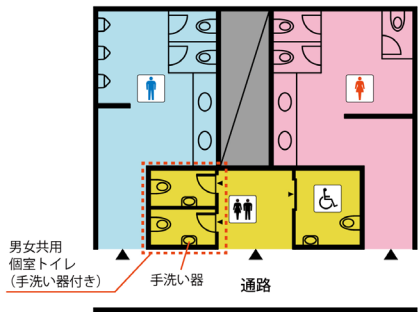
Q. あなたが「男女共用個室トイレ（手洗い器付き）」を利用すると仮定した場合、5つのレイアウトのうち最も「よい」または「悪い」と思ったレイアウトの番号と、それを選んだ理由をお知らせください。

		レイアウト2が最も「良い」と思った理由（オフィス・代表例）			レイアウト2が最も「悪い」と思った理由（オフィス・代表例）
シス	男性	たどり着くまでが短く、他人とすれ違わずに済みそう。	トランス	男性	特別感があって入りにくい。
		共用部分の入口が分かれている、かつ異性との対面エリアが狭い。			プライバシーが守られていない感じがする。
	女性	男女の間にあるから入りやすそう。		女性	共用エリアに一直線なので気が引ける。
		死角がなく安全そう。			男性側に個室があるから。
トランス		男女の入口が離れており、共用トイレに入りやすい。	トランス		入口が完全に分かれている。
		入る時に周りが気になりにくそう。			共用利用が明らかに外部からわかる。
		一番プライバシーが守られている。			誰でも使いそう。

自身が「男女共用個室トイレ」を利用する場合、「レイアウト2」が最も良い／悪いと思った理由：公共施設

レイアウト2

通路から直接、男女共用、男性用、女性用にそれぞれ出入りする。



最も「良い」 (肯定派)

シス男性：24.0%
シス女性：24.6%
トランス：23.4%

最も「悪い」 (否定派)

シス男性：9.8%
シス女性：6.8%
トランス：12.0%

シス男性 n500, シス女性 n500, トランス n325

【凡例】



男女共用
個室トイレ
(手洗い器付)



多機能
トイレ



男性用
トイレ



女性用
トイレ

- 否定派の割合がやや減る傾向にあった。選好理由はパターン1同様、オフィスとの差はあまり見られない。
- 設問では「自身が男女共用トイレを利用する場合」と仮定して尋ねたが、性別ごとのエリアが一番分かれていることを評価する声がトランスにもみられ、男女共用エリアの配置や空間についても「共用への賛否両者の意見が取り入れられている」点を評価する声もあった。
- 否定派では、オフィス同様「みんなが一番に使いそう」であることを気にする声があった。

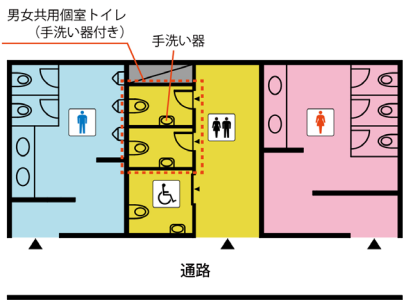
Q. あなたが「男女共用個室トイレ（手洗い器付き）」を利用すると仮定した場合、5つのレイアウトのうち最も「よい」または「悪い」と思ったレイアウトの番号と、それを選んだ理由をお知らせください。

		レイアウト2が最も「良い」と思った理由（公共施設・代表例）			レイアウト2が最も「悪い」と思った理由（公共施設・代表例）
シス	男性	気安さがある。	トランス	男性	プライバシーが守られていないので安心感がない。
		入口が分かれていて間違えて入ることがない。			通路から直接共用エリアに入るのは何となく嫌。
	女性	男女の間にあるので入りやすい。		女性	他も選べるのに共用に入るのは気が引ける。
		共用エリアはこのくらいコンパクトな方が入りやすい。			共用個室が男性トイレ側に寄って入りにくい。
トランス		スムーズだし、プライバシーが守られている。			みんなが一番に使いそう。
		共用トイレの設置に対する賛成・反対両者の意見が取り入れられている。			共用利用が一見して他人に気づかれる。
		性別ごとのエリアが一番分かれているから。			周りの目が気になる。

自身が「男女共用個室トイレ」を利用する場合、「レイアウト3」が最も良い／悪いと思った理由：オフィス

レイアウト3

通路から直接、男女共用、男性用、女性用にそれぞれ出入りする。男女共用空間は、男性用／女性用の空間と同列にある。



最も「良い」
(肯定派)

シス男性：18.8%
シス女性：26.4%
トランス：21.5%

最も「悪い」
(否定派)

シス男性：11.0%
シス女性：6.8%
トランス：12.3%

シス男性 n500, シス女性 n500, トランス n325

【凡例】

男女共用
個室トイレ
(手洗い器付)

多機能
トイレ

男性用
トイレ

女性用
トイレ

- シス女性の肯定派割合がオフィスでは最も高いが、シス男性の否定派はレイアウト2とほぼ同程度であった。トランスの否定派の割合はレイアウト2よりやや低い。
- 共用空間が男女別空間と同等にあることについては、トランスでも評価が分かれ、肯定派からは「個室を占領する罪悪感がない」、否定派からは「露骨な特別扱い」との声があった。
- 共用への忌避感が最も高いシス女性でも「共用トイレが奥にあるので安心」という声がある一方で、「助けを求めにくい」との声もみられた。

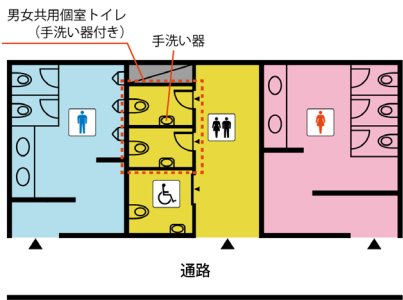
Q. あなたが「男女共用個室トイレ（手洗い器付き）」を利用すると仮定した場合、5つのレイアウトのうち最も「よい」または「悪い」と思ったレイアウトの番号と、それを選んだ理由をお知らせください。

		レイアウト3が最も「良い」と思った理由（オフィス・代表例）		レイアウト3が最も「悪い」と思った理由（オフィス・代表例）
シス	男性	車椅子用より奥に共用トイレがあるので、目につきにくそう。	男性	なんとなく差別感がある。
		男女が明確に分かれており、共用トイレも同列に配置されている。		共用ゾーンに入っていくのが明らかになりやすい。
	女性	それぞれの入口が別なので、あまり気にせずに済みそう。	女性	内部で何か起きても助けを求めにくい。
		共用トイレが奥にあることで使用中は安心できると思った。		密閉空間で異性と同じなのは抵抗がある。
トランス		出入口が分かれているから入りやすい。	トランス	分かれ過ぎていて入りづらい。
		共用の個室が男女と同じ位の数があり、個室を占領している罪悪感なく使えそう。		わざわざ選んで共用に入ったとわかりやすい。
		共用が真ん中であって目立たない。		露骨な特別扱いをしている。

自身が「男女共用個室トイレ」を利用する場合、「レイアウト3」が最も良い／悪いと思った理由：公共施設

レイアウト3

通路から直接、男女共用、男性用、女性用にそれぞれ出入りする。男女共用空間は、男性用／女性用の空間と同列にある。



最も「良い」
(肯定派)

シス男性：22.2%
シス女性：29.2%
トランス：23.4%

最も「悪い」
(否定派)

シス男性：10.6%
シス女性：7.0%
トランス：10.8%

シス男性 n500, シス女性 n500, トランス n325

【凡例】

男女共用
個室トイレ
(手洗い器付)

多機能
トイレ

男性用
トイレ

女性用
トイレ

- オフィスよりも肯定派の割合が高くなり、否定派もやや減る傾向にあった。シス女性の肯定派割合はオフィス同様公共施設でも最も高く、トランスでも公共施設の中では肯定派割合が最も高い。
- トランスでの肯定派からは「男性用・女性用のみの場合と同じ感覚で利用できそう」、「周囲の目を気にせずに利用できそう」という声の一方で、否定派からは、共用に入ると「バレル」、「わざわざ選んだことがわかりやすい」という声があった。どのレイアウトでも同様だが、同じレイアウトに対する感じ方の個人差により評価が二分する傾向にある。
- 3つのエリアが明確に分かれていることに対し、トランスの肯定派では「誰もが使いやすそう」、否定派のシス男性では「入りづらい」と意見が分かれた。

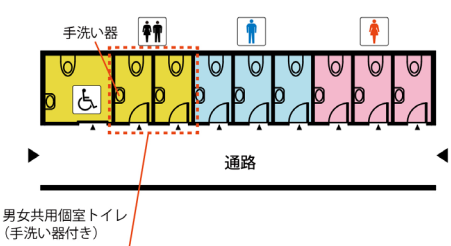
Q. あなたが「男女共用個室トイレ（手洗い器付き）」を利用すると仮定した場合、5つのレイアウトのうち最も「よい」または「悪い」と思ったレイアウトの番号と、それを選んだ理由をお知らせください。

		レイアウト3が最も「良い」と思った理由（公共施設・代表例）		レイアウト3が最も「悪い」と思った理由（公共施設・代表例）
シス	男性	時間に追われて急いでいるときに気軽に利用できそう。 プライバシーがある程度守られそう。	男性	通路を通る方向によって、（共用を）使うことがはっきりと周りの人にわかる。 明確に区別され入りづらい。
	女性	それぞれの個室が奥にあるし、緊急時などに自分で入る場所を選択できそうと思った。 真ん中に利用率の少ない共用個室があるので使いやすそう。	女性	入るところを他人に見られる可能性があり、他人の目が気になる。 中で異性と鉢合わせするのが怖い。奥なので何かあっても気づかれなさそうで不安
トランス		男性用・女性用のみだった時と同じ感覚で違和感なく利用できそう。 周囲の目を気にせずに利用しやすそう。	トランス	（トランスであることが）バレル。 わざわざ選んで共用に入ったとわかりやすい。
		完全に3つに分かれていて誰もが使いやすそう。		人目を気にしながらトイレに入らなければならない。

自身が「男女共用個室トイレ」を利用する場合、「レイアウト4」が最も良い／悪いと思った理由：オフィス

レイアウト4

すべて通路から直接入る個室のトイレ（手洗い器付き）。男女共用、男性用、女性用がそれぞれある。



最も「良い」
（肯定派）

シス男性： 4.8%
シス女性： 6.6%
トランス： 7.1%

最も「悪い」
（否定派）

シス男性： 15.6%
シス女性： 13.8%
トランス： 19.7%

シス男性 n500, シス女性 n500, トランス n325

【凡例】



- すべてのジェンダー区分で肯定派の割合が最も低い。特に男性は5%に満たない。しかし、否定派の割合は、レイアウト1と大きな差はない。
- 横並びかつ男女に分かれている点について、肯定派ではシス男女・トランス共に「入る時に目立たなそう」「人目が気にならなそう」、否定派では「あえて共用に入ること」を他人からどう見られるかを気にする声があった。
- シス女性とトランスでは、共用が「男性トイレの隣にある」ことへの忌避感を示す声がみられた。

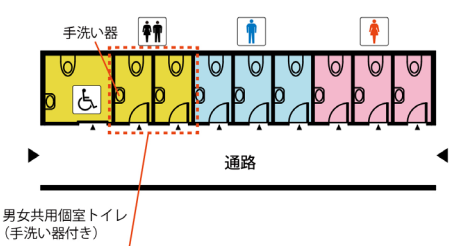
Q. あなたが「男女共用個室トイレ（手洗い器付き）」を利用すると仮定した場合、5つのレイアウトのうち最も「よい」または「悪い」と思ったレイアウトの番号と、それを選んだ理由をお知らせください。

		レイアウト4が最も「良い」と思った理由（オフィス・代表例）		レイアウト4が最も「悪い」と思った理由（オフィス・代表例）
シス	男性	男性トイレが空いていない時に利用しやすい。	男性	あえて共用に入るかどうか通路から丸見えだから。
		入る時に目立たなそう。		通路から直接は抵抗がある。
	女性	横並びなので、どれがどういうトイレか分かりづらいのが良い。	女性	男子トイレの隣は嫌だ。
トランス		入る時に目立たなそう。		男女別が空いているのに共用に入るところを見られたら妙な勘繰りをする人がいそう。
		人目が気にならなそう。	トランス	誰がどのトイレを使ったのかわかってしまう。
		通路の段階で男女が判別されない。		男性用の近くにあるのが嫌。
		個室だけで通路にあるから入りやすい。		入る人の性別がはっきりとわかりやすい。

自身が「男女共用個室トイレ」を利用する場合、「レイアウト4」が最も良い／悪いと思った理由：公共施設

レイアウト4

すべて通路から直接入る個室のトイレ（手洗い器付き）。男女共用、男性用、女性用がそれぞれある。



最も「良い」 (肯定派)

シス男性： 6.6%
シス女性： 7.4%
トランス： 13.2%

シス男性 n500, シス女性 n500, トランス n325

最も「悪い」 (否定派)

シス男性： 21.8%
シス女性： 17.2%
トランス： 20.6%

【凡例】



男女共用
個室トイレ
(手洗い器付)



多機能
トイレ



男性用
トイレ



女性用
トイレ

- オフィスよりも、すべてのジェンダー区分で肯定派・否定派共に割合がやや増加する。特にトランスは肯定派が7.1%から13.2%になった。
- 横並びかつ男女に分かれている点について、肯定派の意見はオフィスと同様の傾向がみられたが、否定派では「見知らぬ男性」との共有や「公共の場所では嫌」のように、オフィスでは許容した人も公共施設では拒否するケースがみられた。

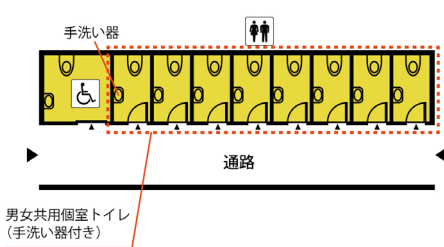
Q. あなたが「男女共用個室トイレ（手洗い器付き）」を利用すると仮定した場合、5つのレイアウトのうち最も「よい」または「悪い」と思ったレイアウトの番号と、それを選んだ理由をお知らせください。

		レイアウト4が最も「良い」と思った理由（公共施設・代表例）			レイアウト4が最も「悪い」と思った理由（公共施設・代表例）
シス	男性	すべて個室なので気軽に利用しやすいと思う。	トランス	男性	区切り方が中途半端。
		共用が男子トイレ側にあるから。			左右どちらから入るかで共用までの距離が変わる。
	女性	どこに入っているかわからない。		女性	見知らぬ男性がすぐ隣の便器を使っているのは嫌だ。
		自然に入れる。			共用を使うのがモロにバレる。
トランス		横並びで性別が分かれていて分かりやすく、入りやすい。			女性トイレ側から入る時に気まずい。
		性的マイノリティ以外の人も自然に利用できるから。			周りが気になりそう。
		わざわざ選んで共用に入ったとわからないから。			公共の場所では嫌。

自身が「男女共用個室トイレ」を利用する場合、「レイアウト5」が最も良い／悪いと思った理由：オフィス

レイアウト5

すべて通路から直接入る個室のトイレ（手洗い器付き）。男女共用、男性用、女性用がそれぞれある。



最も「良い」
(肯定派)

シス男性：10.8%
シス女性：9.8%
トランス：14.8%

最も「悪い」
(否定派)

シス男性：46.4%
シス女性：53.8%
トランス：30.5%

シス男性 n500, シス女性 n500, トランス n325

【凡例】



- すべてのジェンダー区分で否定派の割合が突出して高い。特にシス男女は5割前後であった。しかし、肯定派の割合は、男女の区別があるレイアウト4より高く、シス男女で1割前後、トランスでは15%程度であった。
- 横並びかつすべてが男女共用である点について、肯定派では「人目を気にせず利用できる」という声が共通でみられた。シス女性では「職場なら受け入れられる」という声もあった。一方、否定派のトランスからは「区分けがないから逆に不安」、「共用トイレ賛同者への同調圧力」を感じて忌避する声もみられた。
- 否定派では、シス女性やトランスでは職場は「顔見知り同士」で利用することへの抵抗がみられた。

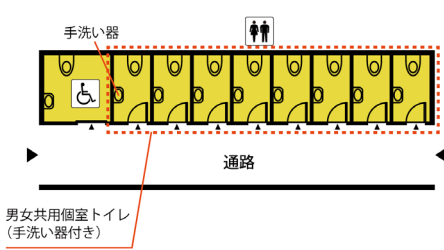
Q. あなたが「男女共用個室トイレ（手洗い器付き）」を利用すると仮定した場合、5つのレイアウトのうち最も「よい」または「悪い」と思ったレイアウトの番号と、それを選んだ理由をお知らせください。

		レイアウト5が最も「良い」と思った理由（オフィス・代表例）			レイアウト5が最も「悪い」と思った理由（オフィス・代表例）
シス	男性	男女共用のみなので、利用するのに躊躇することがない。	トランス	男性	プライバシー配慮が足りない。
		どのブースも同じ条件で使うことができる。			男女がランダムに入りそうだから気まずい。
	女性	誰の目も気にしないで入れる。		女性	職場は皆顔見知りなので、非常に気を遣う。隣が空いている個室を選ぶ必要がある。
		すべて共用だから無駄がない。職場ならそれほど混まないし受け入れられる。			職場では顔や名前が知られているから、自分の後に入られるのに抵抗がある。
トランス		すべて共用なので気にすることなく使用することができる。	トランス		完全に区分けがなく、逆に不安。
		わざわざ選んで入ったとわからない。			利用者が知り合いだと気まずい。
		共用しかないのでは不審に思われない。			共用トイレ賛同者への同調を強制されている。

自身が「男女共用個室トイレ」を利用する場合、「レイアウト5」が最も良い／悪いと思った理由：公共施設

レイアウト5

すべて通路から直接入る個室のトイレ（手洗い器付き）。男女共用、男性用、女性用がそれぞれある。



最も「良い」
(肯定派)

シス男性：12.2%
シス女性：11.4%
トランス：15.4%

最も「悪い」
(否定派)

シス男性：46.4%
シス女性：56.2%
トランス：36.3%

シス男性 n500, シス女性 n500, トランス n325

【凡例】

- 否定派の割合はオフィスよりも高めであるが、肯定派もやや高めとなっている。
- 横並びかつすべてが男女共用である点について、肯定派のシス男女では「選択肢がないから使うしかない」、「共用しかない」という消極的賛同がみられ、トランスでは「特別感がない」「差別がない」など積極的肯定意見がみられた。
- 否定派では、公共施設であることに対し、「不特定多数が利用することへの抵抗」がみられ、シス女性では「生理用品用のごみ箱をすべての個室に設置することへの不安」、トランスからも「盗撮」や「男女が混ざりすぎる」とへの恐怖の声がみられた。

Q. あなたが「男女共用個室トイレ（手洗い器付き）」を利用すると仮定した場合、5つのレイアウトのうち最も「よい」または「悪い」と思ったレイアウトの番号と、それを選んだ理由をお知らせください。

レイアウト5が最も「良い」と思った理由（公共施設・代表例）		レイアウト5が最も「悪い」と思った理由（公共施設・代表例）	
シス	男性	男性	異性が同時にドアから出てきて気まずい思いをしそう。
		男性	不特定多数の人が使うのは抵抗がある。
	女性	女性	生理用品のごみ箱をすべての個室に設置するのは不安。
トランス		女性	全く見知らぬ人と利用する男女共用トイレは使えない。
		トランス	盗撮などの仕掛けがされそうで入るのが怖い。
		トランス	男女が混ざりすぎていて怖い。
さりげなく入れる。		できれば共用は使いたくない。	

3. 調査結果報告

3-9. 「男女共用個室トイレ」のレイアウト（オフィス・公共施設）

②「男女共用個室トイレ」の並列レイアウト：3パターン比較

アンケート画面での提示画像：「個室トイレ」並列レイアウト（3パターン）と説明

➤ 個室トイレが横並びに配置されたパターン1～3のレイアウトに関し、「男女共用個室トイレ」を利用する場合のA／Bの選好を尋ねた。

Q. AとB、2つのトイレのレイアウトパターンについて、あなたが利用するならどちらがよいと思いますか？ ※職場や駅・ショッピングセンターなど、施設の種類を限定せずにお考え下さい。

パターン1

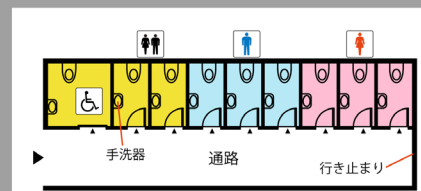
通路通り抜け
状況の違い

- ✓ 男女共用、男性用、女性用がそれぞれある。
- ✓ 個室に手洗い器がある（外にはない）。

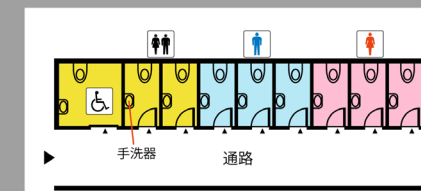
A：通路の奥は行き止まり。
B：通路は通り抜けができる。

パターン1：共通事項

- ✓ 男女共用、男性用、女性用がそれぞれある。
- ✓ 個室の中に手洗い器がある。



A：通路の奥は行き止まり



B：通路は通り抜けができる

パターン2

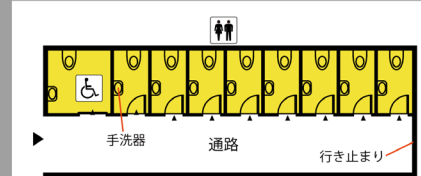
通路通り抜け
状況の違い

- ✓ すべて男女共用。
- ✓ 個室に手洗い器がある（外にはない）。

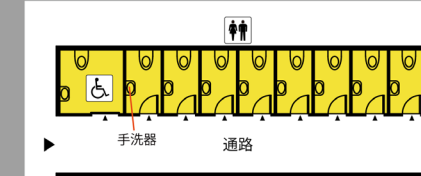
A：通路の奥は行き止まり。
B：通路は通り抜けができる。

パターン2：共通事項

- ✓ すべて男女共用。
- ✓ 個室の中に手洗い器がある。



A：通路の奥は行き止まり



B：通路は通り抜けができる

パターン3

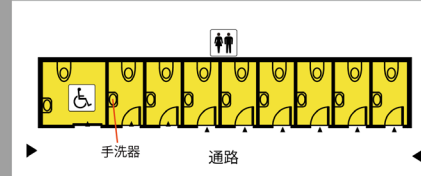
手洗い器設置
場所の違い

- ✓ すべて男女共用。
- ✓ 通路は通り抜けができる。

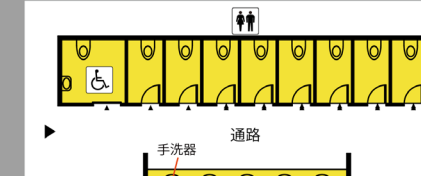
A：個室の中に手洗い器がある。
B：個室の外に手洗い器がある。

パターン3：共通事項

- ✓ すべて男女共用。
- ✓ 通路は通り抜けができる。



A：個室の中に手洗い器がある

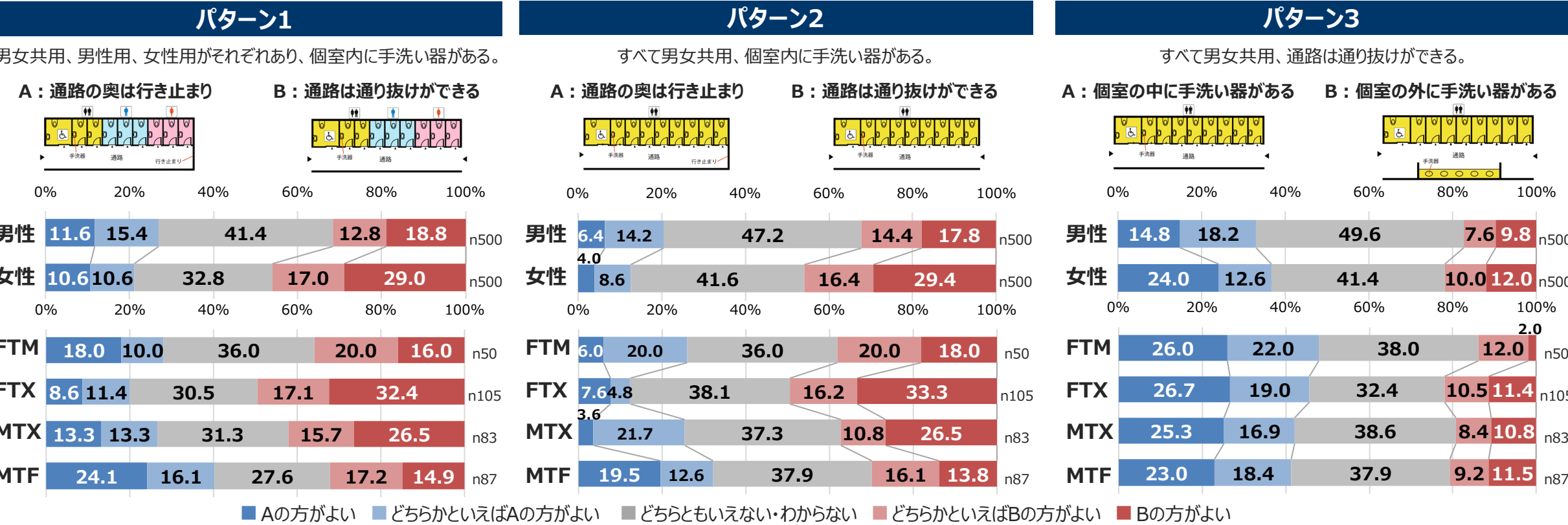


B：個室の外に手洗い器がある

個室トイレ横並び配置パターンの選好：通路の通り抜け状況／手洗い器の設置位置（オフィス・公共施設）

- パターン1と2では、MTFを除き、行き止まりのAよりも通り抜けができるBの方が「よい」と回答した人の割合が高い。
シス女性とFTXではその傾向が強く、特にパターン2でのAの支持が低い。
- パターン3では、手洗い器が個室内部にあるAの方が、個室外部にあるBよりも「よい」と回答した人の割合が高く、シスよりもトランスの方がその傾向が強い。
- どのパターンおよびジェンダーでも、「どちらともいえない・わからない」と回答した人が3～5割存在する。

Q. AとB、2つのトイレのレイアウトパターンについて、あなたが利用するならどちらがよいと思いますか？※職場や駅・ショッピングセンターなど、施設の種類を限定せずにお考え下さい。



個室トイレ横並び配置パターンの選好理由：総括

Q. AとB、2つのトイレのレイアウトパターンについて、あなたが利用するならどちらがよいと思いますか？ ※職場や駅・ショッピングセンターなど、施設の種類を限定せずにお考え下さい。

上記を尋ねた後、そのように思った理由を尋ねた。

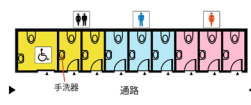
パターン1

男女共用、男性用、女性用がそれぞれあり、個室内に手洗い器がある。

A：通路の奥は行き止まり



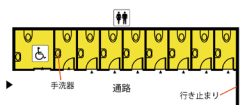
B：通路は通り抜けができる



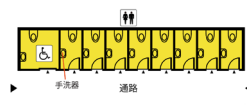
パターン2

すべて男女共用、個室内に手洗い器がある。

A：通路の奥は行き止まり



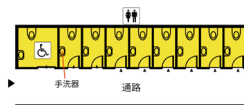
B：通路は通り抜けができる



パターン3

すべて男女共用、通路は通り抜けができる。

A：個室の中に手洗い器がある



B：個室の外に手洗い器がある



共通事項

- 最も多いコメントは「特になし」「なんとなく」であり、馴染みのないレイアウトから想像しづらかった、あるいはそれほど関心がないことも考えられる。
- 3パターンのコメントとも大きくは“利便性”、“安心感”、“防犯性”に分けられる。“防犯性”については、通路が「行き止まり」か「通り抜け」であることに対し、それぞれ不安または安心の意見があり、感じ方に個人差がみられた。

パターン1

- Aの選好理由として、シス男性とトランスでは「男女共用が手前にある方がよい」という意見が、シスは男女共に「奥に女性用がある方が男性が近づきにくい」点を評価する意見が目立った。
- シス女性では、Aを選択した人（21.2%）に対し、Bを選択した人（46.0%）は倍以上だが、Bの選好理由では、“防犯性”で「何かあったときに逃げられる」という意見が目立った。また、「通り抜けできる方が便利だし共用トイレも利用しやすい」との“利便性”をあげる意見もあった。

パターン2

- “防犯性”に関するAとBの選好理由はパターン1とほぼ同じであった。
- “利便性”では、すべて男女共用であるため、Aは「1列に並びやすい」、Bは「流れがスムーズ」といった点が評価された。“安心感”では、AとBでどちらが「異性とのすれ違い」が少ないと考えるかで評価が分かれた。
- Bでは、通り抜けられる方が「他人の目が気にならない」ことを評価する意見がシス女性とトランスでみられた。

パターン3

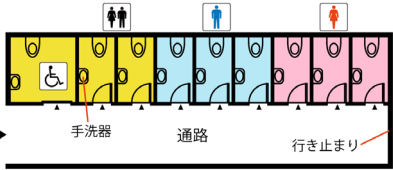
- シス・トランス共通のA選好理由として、「人目を気にせず手を洗える」、「男女が顔を合わせる機会が減る」などの“安心感”に関するものが目立った。
- “利便性”に関しては、「個室で手洗いまで完結できる」、「手洗い時に待たない」ことを評価する人はAを、「個室に手洗いがあると回転率が下がる」と捉える人はBを選択している。“衛生面”に関しては、「汚れた手でドアを触りたくない」と考える人はAを、「手を洗った後にドアを触りたくない」と考える人はBを選択している。

パターン1：通路通り抜け状況の違いによる選好理由（自由回答）／ALL個室並列型（共用・男女別）

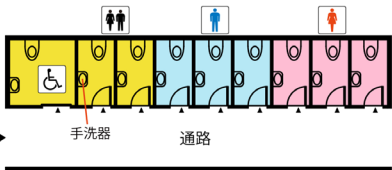
パターン1
共通事項

男女共用、男性用、女性用がそれぞれあり、個室に手洗い器がある。

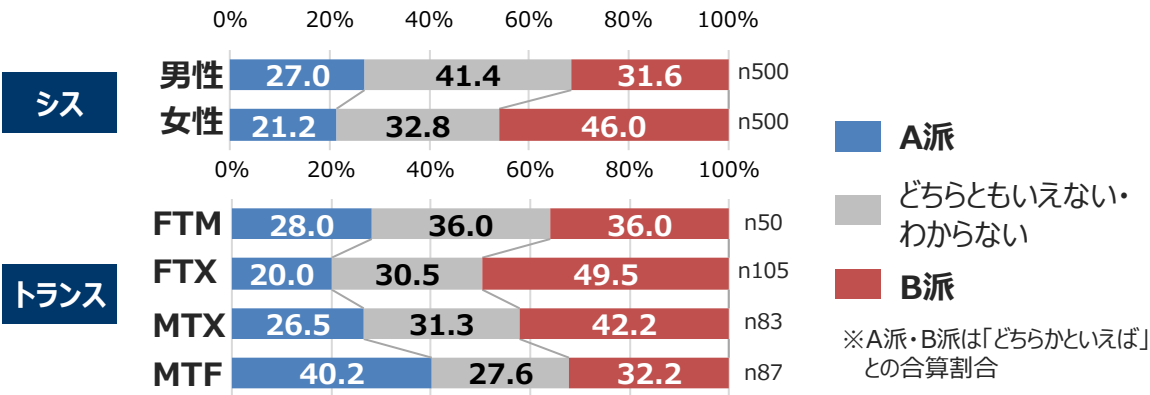
A：通路の奥は行き止まり



B：通路は通り抜けができる



- B派の方が多数派であり、特にシス女性とFTXは半数近い。MTFはA派が約4割であるが、他のジェンダーのA派は2割台であった。
- Aの選好理由として、シス男性とトランスでは「男女共用が手前にある方がよい」という意見があり、「手前にあること」は共用の利用し易さのポイントといえる。
- 「防犯性」では、A派は「男性が女性トイレの方まで来にくい」、B派は「危険時に逃げやすい」が上がり、性別分けする際には男性が女性トイレに近づきにくい配置が求められる。



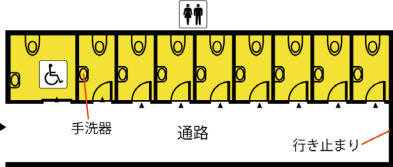
カテゴリ			A（通路行き止まり）の方がよいと思った理由（代表例）		カテゴリ			B（通路通り抜け可）の方が良いと思った理由（代表例）	
シス	男性	利便性	男女共用が手前にある方がわかりやすい。		男性	利便性	通り抜けができた方が便利だから。		
		安心感	異性とすれ違うことが少なくなりそう。			安心感	男性・女性両方の側から入ると、異性に会わずに済む可能性が高い。		
		防犯性	女性トイレが奥の方が男性が近づきにくい。			防犯性	何かあったらすぐその場から逃げられる。		
	女性	安心感	女性トイレが奥にある方が安心。		女性	利便性	通り抜けができた方が便利だし、共用トイレも利用しやすい。		
		防犯性	女子トイレに異性が近づきにくそう。			安心感	通り抜けられる方が閉塞感がない。		
			Bのように女性トイレの前を通り抜けられるようにしないでほしいから。			防犯性	危険なことがあってもすぐ逃げられる。		
トランス	利便性	男女共用の個室が出入りに近いので利用しやすい。		トランス	安心感	どちらからも通れるほうが周りの目が気にならなそう。			
	安心感	（共用トイレ利用時に）あまり多くの人の目にさらされないから。				閉塞感がなくストレスが少なくて済みそう。			
	防犯性	Bは犯罪者が逃走しやすいから。			防犯性	通り抜け出来た方が安全面でもよい。			

パターン2：通路通り抜け状況の違いによる選好理由（自由回答）／ALL個室並列型（共用のみ）

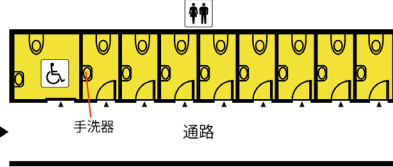
パターン2
共通事項

すべて男女共用、
個室に手洗い器がある。

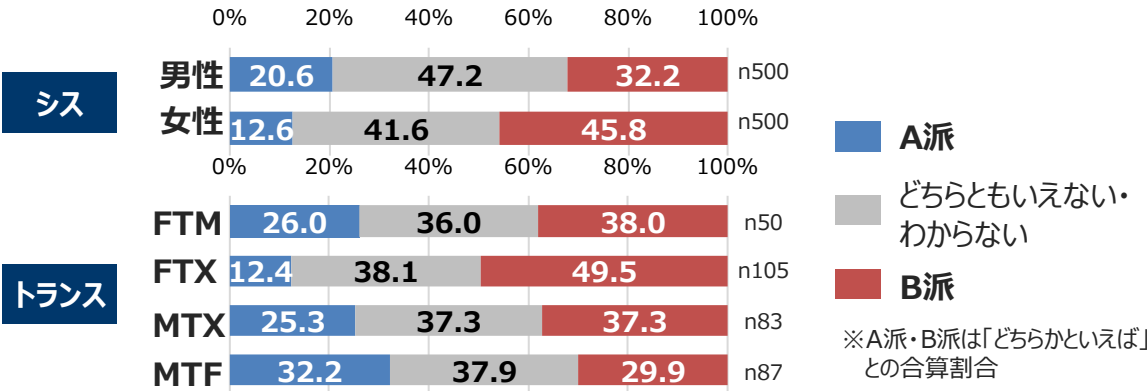
A：通路の奥は
行き止まり



B：通路は通り抜け
ができる



- パターン1同様B派の方が多数派であり、特にシス女性とFTXは半数近い。A派はシス女性とFTXは1割強、他は2～3割であった。
- Aの選好理由として、「並びやすい」、「Bは並び方がわからない」があり、「トイレに並ぶこと」が前提となっている。
- B派は、「通り抜けできること」に対し、人の流れをスムーズにする利便性や、異性のすれ違いを減らす安心感、危険時に逃げられる防犯性などを感じている。



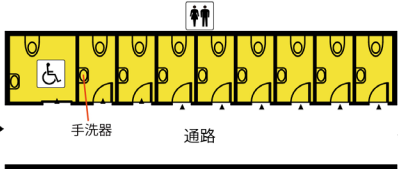
		カテゴリ	A（通路行き止まり）の方がよいと思った理由（代表例）		カテゴリ	B（通路通り抜け可）の方が良いと思った理由（代表例）
シス	男性	利便性	すべて誰でも入れるなら一列に並びやすい。	男性	利便性	通り抜け出来る方が人の流れがスムーズにいくと思う。
			Bはどちらに並べばよいかわかりづらそう。		安心感	異性とすれ違う機会を少なくできる。
		安心感	男女がすれ違う可能性が低い。		防犯性	行き止まりが無い方が犯罪が減りそう。
	女性	利便性	通り抜け出来ない方が同じ方向に向かって並びやすい。	女性	利便性	男女共用ならどちらかでも通ることができた方が便利。
			Bは並び方がわからない。		安心感	通り抜け出来た方が、異性とのすれ違いを少なくできそう。
		防犯性	Bのように通り抜けられると犯罪者が逃げやすい。		防犯性	危険なことがあってもすぐ逃げられる。
トランス	利便性	車椅子用トイレが手前にある方がよい。	トランス	利便性	通り抜け出来る方が気軽に利用し易い。自然に個室に入れる印象。	
		Bは並んでもどちらが先かわからなくなる。		安心感	どちらからも通れる方が周りの目が気にならなさそう。	
	防犯性	Bは犯罪者が逃走しやすい。		防犯性	Aのように行き止まりだと何かあったときに逃げられない。	

パターン3：手洗い器の設置位置による選好理由（自由回答）／ALL個室並列型（共用のみ）

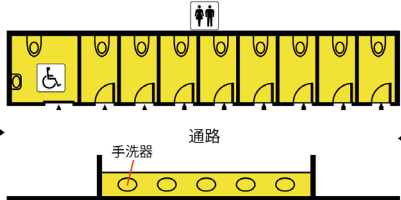
パターン3
共通事項

すべて男女共用、
通路は通り抜けができる。

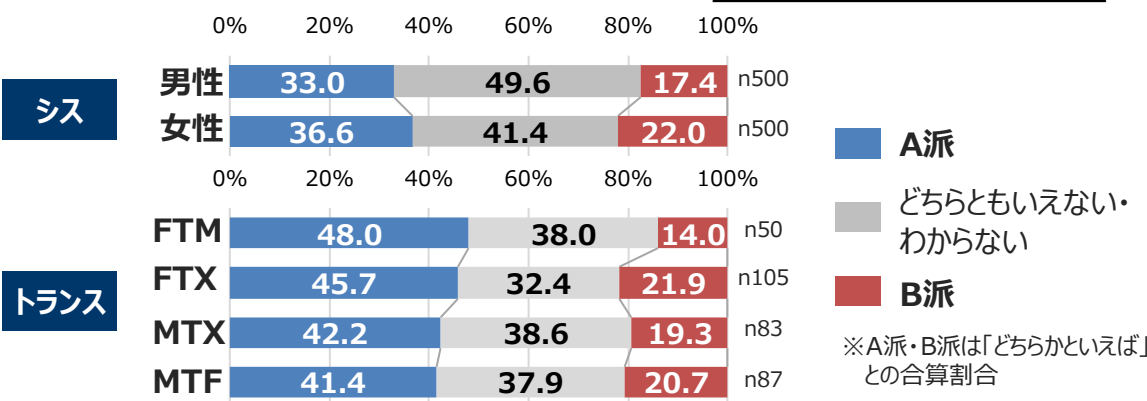
A：個室の中に
手洗い器がある



B：個室の外に
手洗い器がある



- すべてのジェンダーでA派が多数派であるが、シス男女の3割台に対し、トランスは4割台であり、トランスの方がAを支持する人の割合が高い。
- Aの選好理由では、個室内で行為が完結できる利便性のほか、人目を気にせずに手を洗える安心感が主であった。
- Bの選好理由では、回転率の高さや、個室に手洗い器があると汚れる、個室から出た後に手を洗いたいなど衛生面に関する意見が目立った。
- 男女共用トイレでは、個室に手洗い器を設置することを基本とし、外にも手洗い器を設置することが望ましいといえる。



		カテゴリ	A（個室に手洗い器がある）の方がよいと思った理由（代表例）			カテゴリ	B（個室外に手洗い器がある）の方が良いと思った理由（代表例）
シス	男性	利便性	個室ですべてを完結することができる	トランス	男性	利便性	手洗い場だけ使いたい必要があるはず。
		安心感	手洗いを他人（同性・異性ともに）に見られたくない。 人目を気にせず手が洗える。			衛生面	個室の回転率がよくなるので効率的。
	女性	利便性	個室の中にあつた方が他の人を待たずに手を洗える。		女性	利便性	手洗いが外の方が個室の占有時間が減り、待ち時間が減る。
		安心感	プライバシーが守れる。すべて共用なら個室で化粧直しができる方がよい。 手洗い場で異性と顔を合わせたくない・男女一緒はありえない。			衛生面	個室を出るときにドアを触るため、出てから手を洗いたい。 個室に手洗いがあると床や壁が水しぶきで汚れるので清潔感がない。
トランス	安心感		人目を気にせずに手洗いを済ませられる。 他人との接触時間がほとんどなくストレスにならない。 Bだと手洗いの時に異性があると気まずい。	トランス		利便性	個室の利用時に待たされる時間が減りそう。 トイレを利用しない時も手を洗うことができる。
						衛生面	個室から出る際に扉に触れるため、最後に手を洗いたい。

3. 調査結果報告

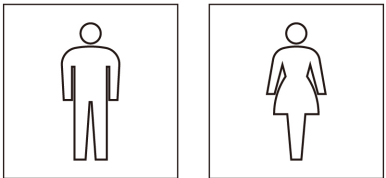
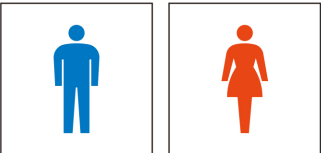
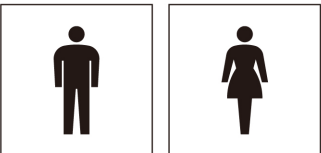
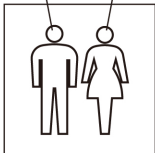
3-10. トイレのサイン：男女別トイレ・男女共用トイレ（オフィス・公共施設）

「男女別トイレ」、「男女共用トイレ」のサインにおけるピクト形状と色の評価：回答者に示した図

➤ ピクト形状と色について下記の図を提示し、「よいと思うもの」を複数回答で尋ねた（形状は図以外は選択肢の文言で尋ねた）

Q.「男女別トイレ」の入り口まわりのサインの「形」および「色」について、あなたが「よいと思うもの」をすべてお知らせください。

※「男女別トイレ」とは、男性用・女性用に分かれたトイレのことをさします。 ※職場、および駅・ショッピングセンターなどの公共施設について、それぞれお知らせください。

	男女別トイレ	男女共用トイレ
ピクト形状	 男女を表す人の形 ※1	 男女を表す人の形 ※2
サインの色	 A.「男女を表す人の形」に、「男性が青系・女性が赤系」の色をつける  背景が青系の色 背景が赤系の色 B.「男女を表す人の形」には色をつけず、「背景」の方に「男性が青系・女性が赤系」の色をつける  C.「男女を表す人の形」の色を「黒などのモノトーン」で統一する  青系の色を添える 赤系の色を添える D.「男女を表す人の形」の色を「黒などのモノトーン」で統一し、「男性が青系・女性が赤系」の色を添える	 A.「男女を表す人の形」に、「男性が青系・女性が赤系」の色をつける  背景に色をつける B.「男女を表す人の形」には色をつけず、「背景（斜線部分）」の方に色をつける  C.「男女を表す人の形」の色を「黒などのモノトーン」で統一する  青系以外の色 赤系以外の色 D.「男女を表す人の形」の色を「男性が青系・女性が赤系」以外の色にする

トイレサインの「ピクト形状」と「色」の評価（総評）：オフィス・公共施設（シス男女・トランス4区分）

全体傾向

- オフィス・公共施設共に、従来型（図A：男女の人の形に青系・赤系の着色）の支持が最も高いが、回答者の属性により支持するデザインの傾向に違いがみられた。
- オフィスと公共施設の回答傾向に大きな差は見られず、施設用途によりトイレサインに求められるデザインは大きく変わらないことが示唆される。

属性による傾向の違い

- シスは、トイレのタイプ（男女別トイレ／男女共用トイレ）、施設用途（オフィス／公共施設）に関わらず、従来型デザイン（図A）を支持する人が最も多く4～5割であった。一方で、「こだわらない」と回答した人も2～3割弱存在する。
- トランスは、ジェンダーにより選好の偏りがみられたが、従来型デザインを支持する人も3～4割程度存在する。
- トランスは、シスと比較して「ピクト形状」において「性差を強調しすぎない人の形」や「便器などの設備を表す形」を支持する人が相対的に多い。
「色」については、「男女の人の形に青系・赤系の着色」よりも、「背景に同様の着色」、「人の形を黒とするモノトーン配色」、「人の形を黒とし、青系・赤系の色を添える」デザインがシスよりも支持される傾向にあった。
- トランスの中でも、トイレサインのデザインに意見や関心を持つ人の割合は、FTM・FTXよりもMTX・MTFの方が高い。

まとめ

- シスは、馴染みのある分かり易い「従来型デザイン」を支持する傾向が、トランスは「従来型デザイン」を支持する人も多いが、シスと比較して性差を強く意識し過ぎないデザインを支持する傾向がみられる。
- 「性差を強調しすぎない人の形＋背景に着色」は、シス・トランス双方に受容されやすいデザインのひとつであると考えられる。

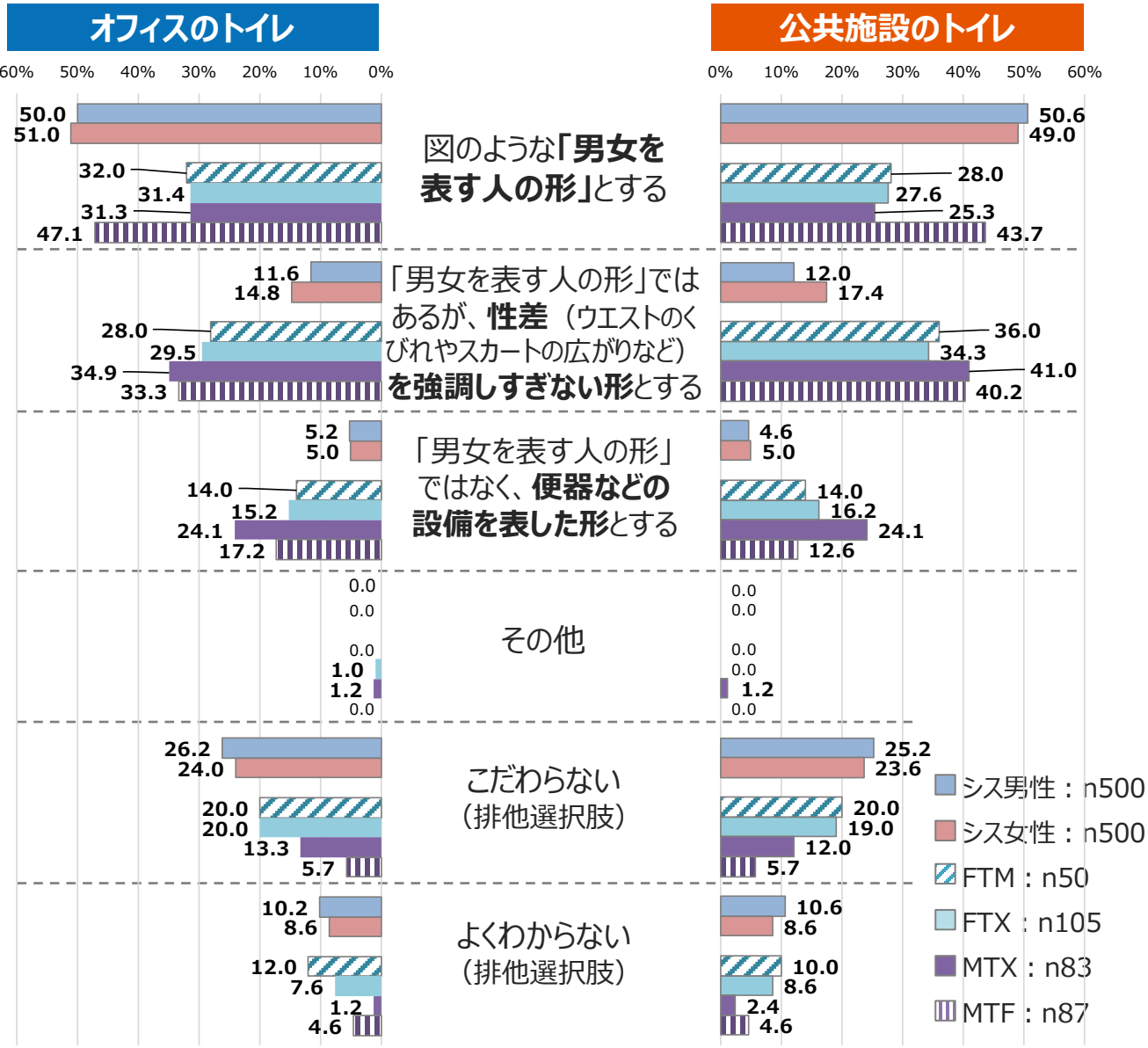
「男女別トイレ」サインの「ピクト形状」評価：オフィス・公共施設（シス男女・トランス4区分）

Q. 「男女別トイレ」の入口まわりのサインの「形」について、あなたが「よいと思うもの」をすべてお知らせください。（複数回答）

※「男女別トイレ」とは、男性用・女性用に分かれたトイレのことをさします。
※職場、および駅・ショッピングセンターなどの公共施設について、それぞれお知らせください。



- シス・トランス共に、オフィス・公共施設で大きな傾向の差は見られなかった。
- シス・トランス共に、「便器などの設備を表した形」よりも、「男女を表す人の形（性差を強調しすぎないものを含む）」の方が支持が高い。
- 「こだわらない」と回答した人は、オフィス・公共施設共にシスでは25%程度であったのに対し、FTM・FTXは約2割、MTXは1割強、MTFは5.7%であった。
サイン形状に対し意見や関心を持つ人は、シスよりもトランス、トランスの中ではFTM・FTXよりもMTX・MTFの方が多くことが示唆される。
- シス男女では、図に示した典型的な「男女を表す人の形」を「よい」と回答した人が約5割で突出していた。
- トランスでは、図に示した典型的な「男女を表す人の形」と、「性差を強調しすぎない形」の割合に大差はないが、「性差を強調しすぎない形」は、オフィスよりも公共施設の方がやや支持が高い。



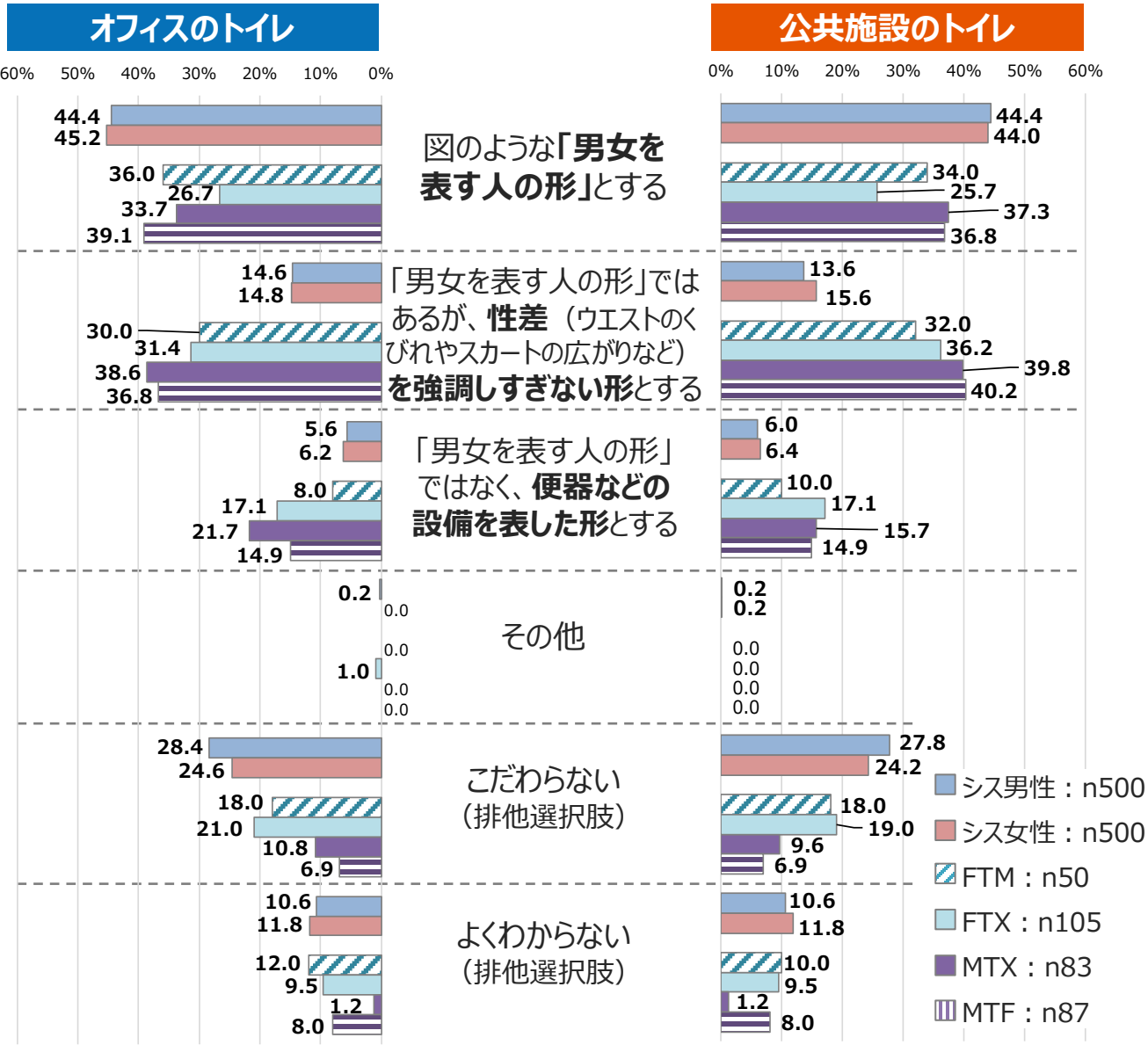
「男女共用トイレ」サインの「ピクト形状」評価：オフィス・公共施設（シス男女・トランス4区分）

Q. 「男女共用トイレ」の入口まわりのサインの「形」について、あなたが「よいと思うもの」をすべてお知らせください。
(複数回答)

※職場、および駅・ショッピングセンターなどの公共施設について、それぞれお知らせください。



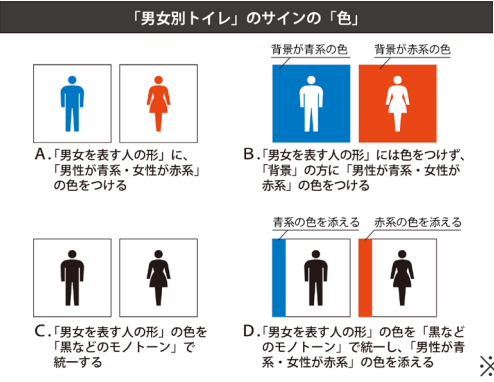
➤ シス・トランス共に「男女別トイレ」と大きな差はみられず、オフィスと公共施設の傾向差もみられなかった。



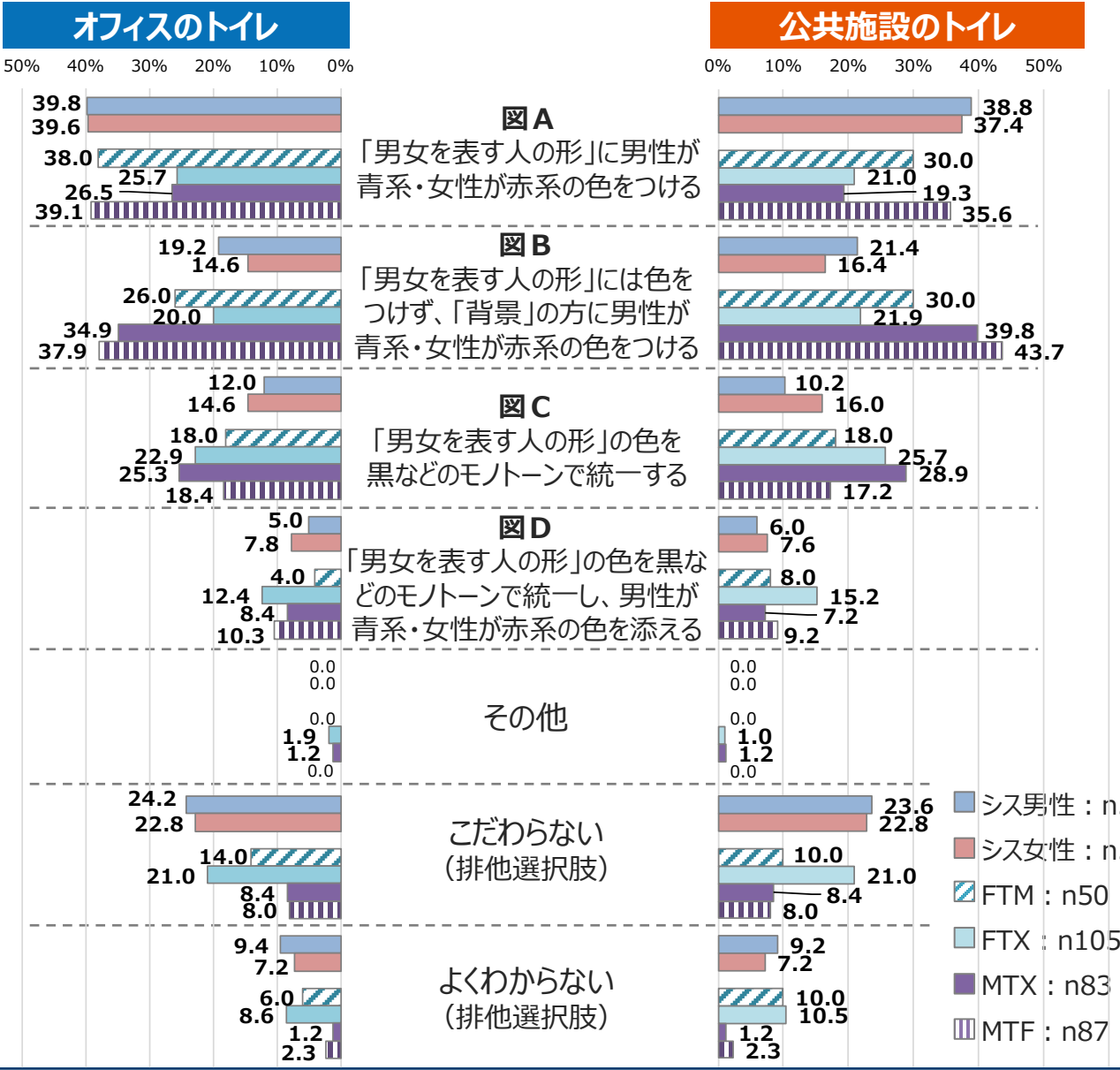
「男女別トイレ」サインの「色」評価：オフィス・公共施設（シス男女・トランス4区分）

Q. 「男女別トイレ」の入口まわりのサインの「形」について、あなたが「よいと思うもの」をすべてお知らせください。（複数回答）

※「男女別トイレ」とは、男性用・女性用に分かれたトイレのことをさします。
※職場、および駅・ショッピングセンターなどの公共施設について、それぞれお知らせください。



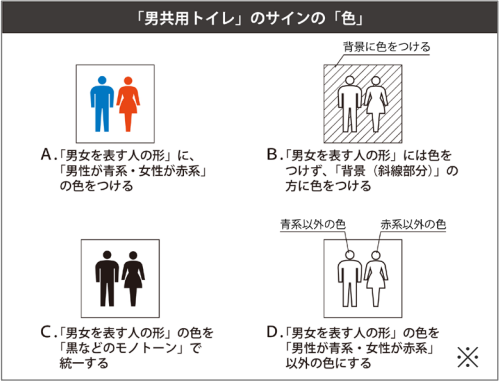
- ピクト形状同様、シス・トランス共にオフィスと公共施設で回答傾向に大きな違いはみられない。
- シスは、オフィス・公共施設共に、図A（人の形：男性青系・女性赤系に着色）の割合が約4割で突出して高い。
- トランスは、図A～Cでジェンダーによる選好の違いが見られた。図AはFTM・MTFの支持が高く、Xジェンダーの支持が低い傾向にあり、図B（背景に男性青系・女性赤系の着色）はFTM・FTXよりもMTX・MTFの支持が高い。図C（人の形：モノトーン）はXジェンダーの支持が高い。
- 「こだわらない」と回答した人は、オフィス・公共施設共にシスでは2割強であった。トランスは、FTXのみ2割強でシスと同程度であったが、MTX・MTFでは1割未満であり、トイレサインの色に対する意見や関心を持つ人が多いことが示唆される。



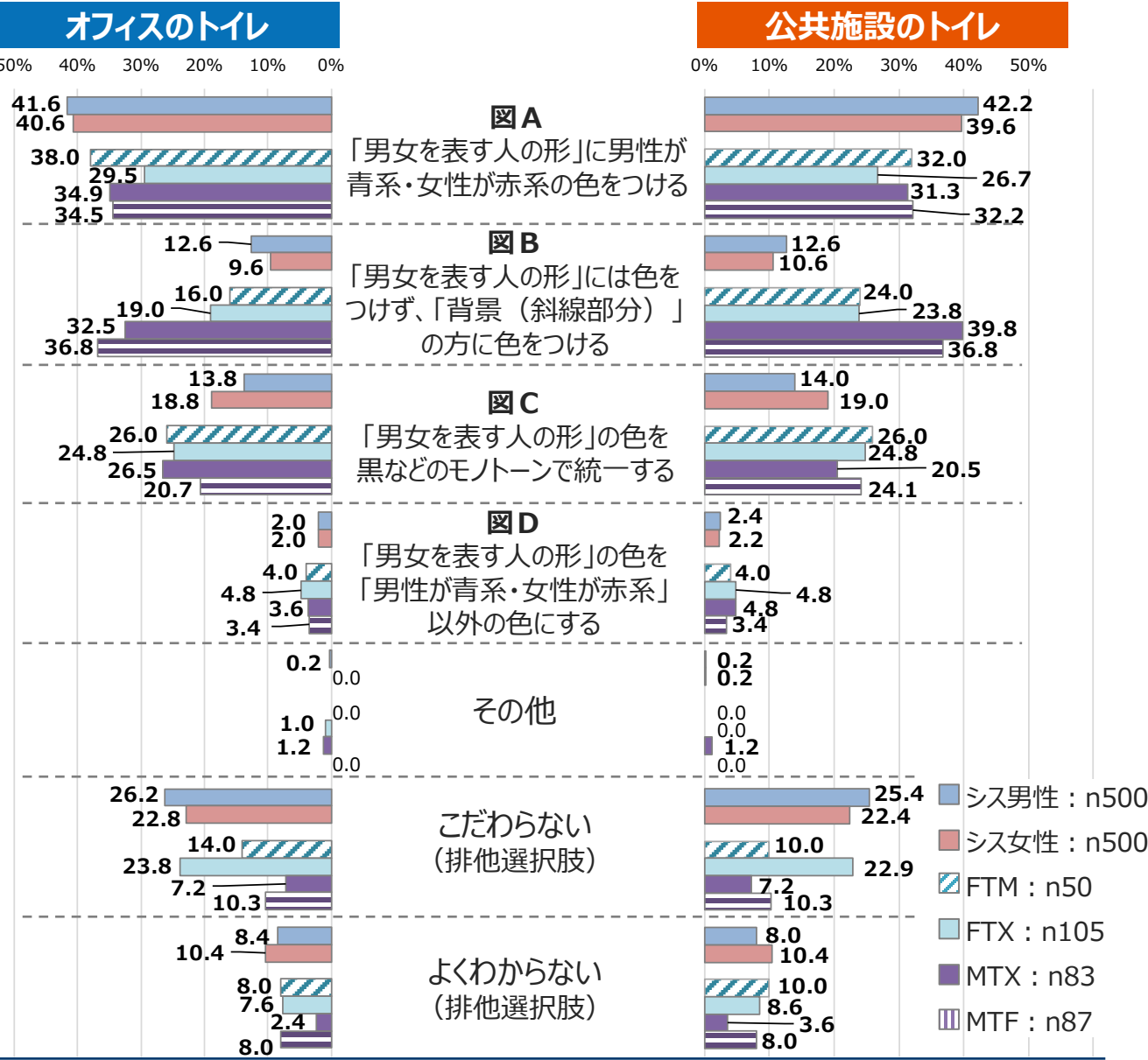
「男女共用トイレ」サインの「色」評価：オフィス・公共施設（シス男女・トランス4区分）

Q. 「男女別トイレ」の入口まわりのサインの「色」について、あなたが「よいと思うもの」をすべてお知らせください。（複数回答）

※職場、および駅・ショッピングセンターなどの公共施設について、それぞれお知らせください。



- オフィスと公共施設で全体的な傾向の差はみられない。
- シスは男女共に図A（人の形：男性青系・女性赤系に着色）が約4割で最も支持が高い。トランスでは、図AはFTXの割合が相対的に低いものの、どのジェンダーでも3～4割であり、全体的な支持は高い。
- 図B（人の形：背景に着色）は、MTX・MTFは3～4割であり、FTM・FTXよりも評価が高い傾向がみられた。
- 図C（人の形：モノトーンで統一）を「よい」と回答したトランスは、20～25%程度で、ジェンダーによる大きな差はない。FTM・FTXは、図Bよりも図Cを評価する人が多い傾向がみられた。
- 「こだわらない」と回答した人は、シス男性は25%以上、シス女性とFTXは23%前後で同程度であった。FTM・MTFは約1割、MTXは1割未満であり、色に関する意見や関心を持つ人が相対的に多いことが示唆される。



3. 調査結果報告

3-11. トランスジェンダーに対するシスジェンダーの意識（オフィス・公共施設）

シスジェンダーの意識を調べるための質問項目

シスジェンダーのトランスジェンダーに対する意識や偏見の実態を調べるため、以下の質問を実施

① 自分の周囲における「存在認識」について（職場／家族・知人）

Q.あなたの周りには、LGBT等性的マイノリティの人がいますか？

② 「職場にいること」について（個人的感情）

Q.あなたの職場の同僚に、トランスジェンダーの人がいたら、どう思いますか？（主に働いている職場について）

③ 「自認する性別のトイレ」を利用することについて（オフィス／公共施設）

Q.あなたが利用しているトイレと同じトイレを、トランスジェンダーの人が性自認（心の性別）に沿って利用することについて、どう思いますか？

④ 「職場での支援取り組み」について

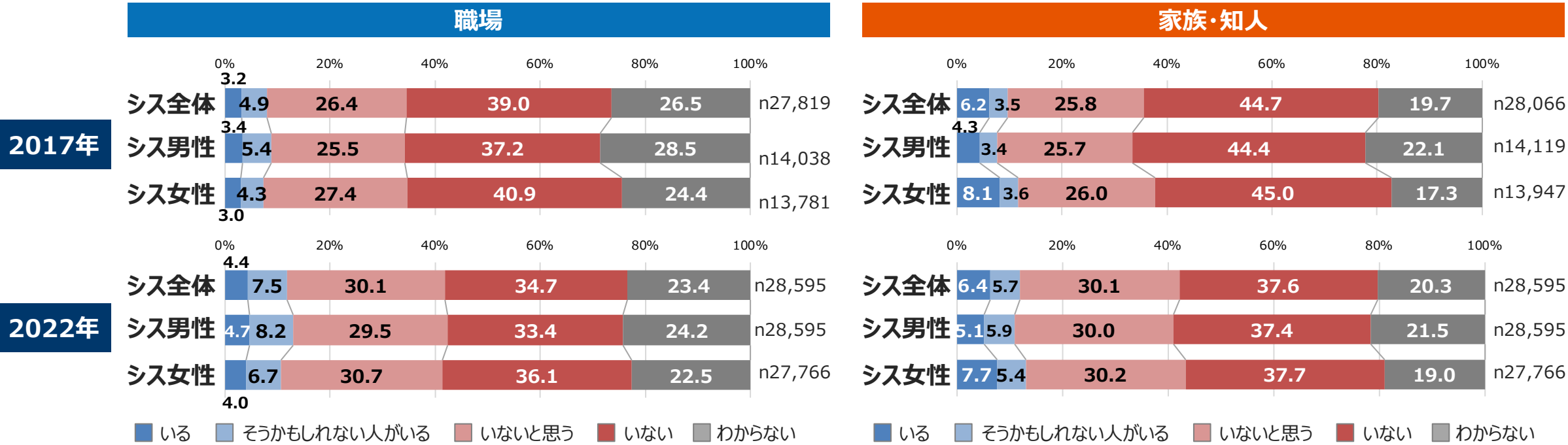
Q.これからの会社・組織・職場は、「LGBT等性的マイノリティの人たち」に対して何等かの支援をしたり、制度を整えたりすべきだと思いますか？

シスジェンダーの意識：①自分の周囲における「存在認識」／職場、家族・知人（シス男女）2017年・2022年比較

- 2017年と比較して2022年は、シス男女共に職場、家族・知人共に「自分の周りにはいない」と断言する人が減っている。
- LGBT等性的マイノリティの人の存在認知が広まった可能性がある。

Q.あなたの周りには、LGBT等性的マイノリティの人がいますか？

※2017年の20代には18歳・19歳を含む



シスジェンダーの意識：①自分の周囲における「存在認識」／職場、家族・知人（シス年代） 2017年・2022年比較

- 2017年は、20代・30代と比べて40代・50代は「いない」と回答する人が多かったが、2022年では年代による差が縮まっている。
- LGBT等性的マイノリティの人の存在認知が幅広い年代に広がっていると考えられる。

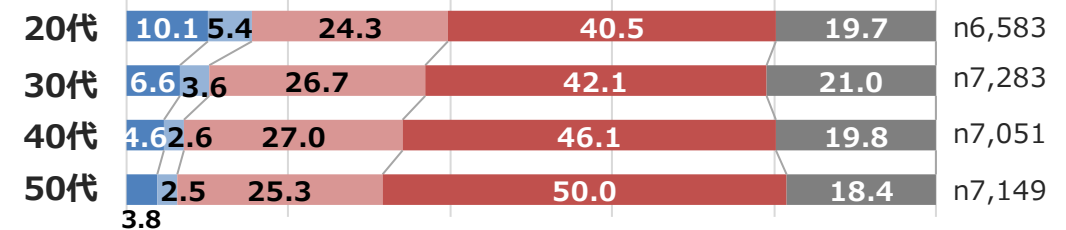
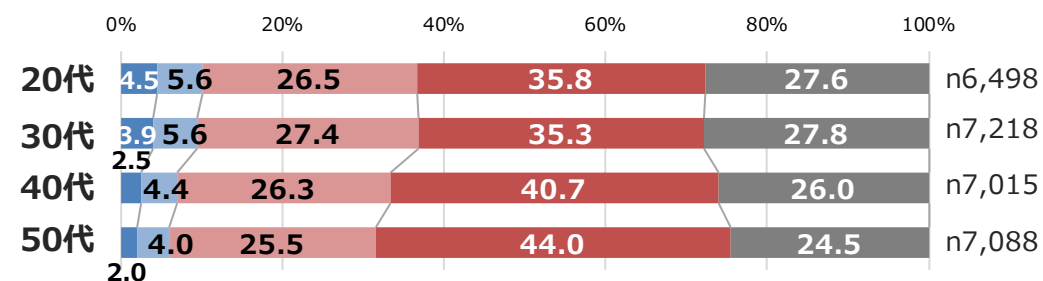
Q.あなたの周りには、LGBT等性的マイノリティの人がいますか？

※2017年の20代には18歳・19歳を含む

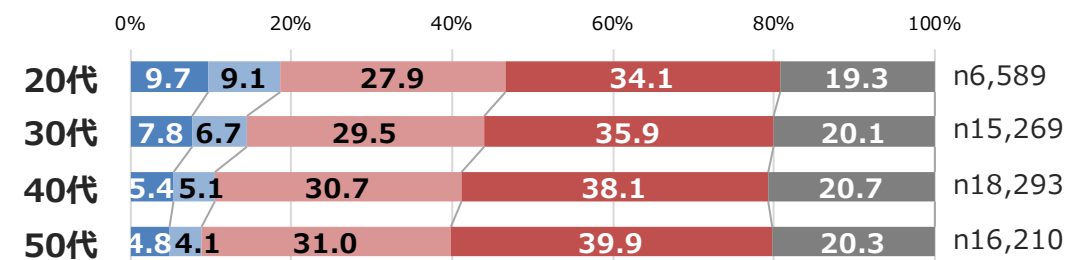
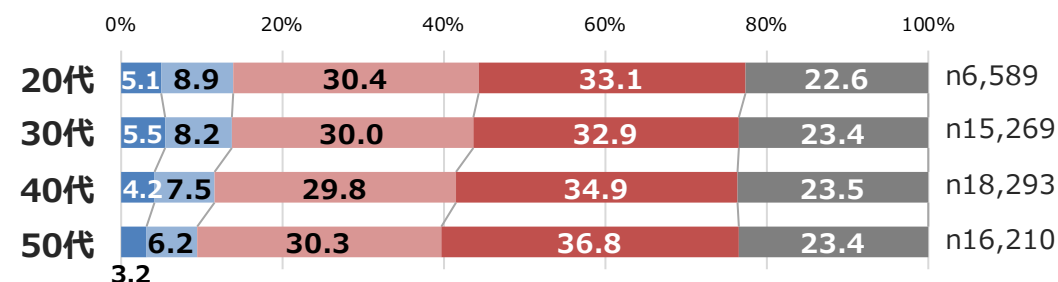
職場

家族・知人

2017年



2022年



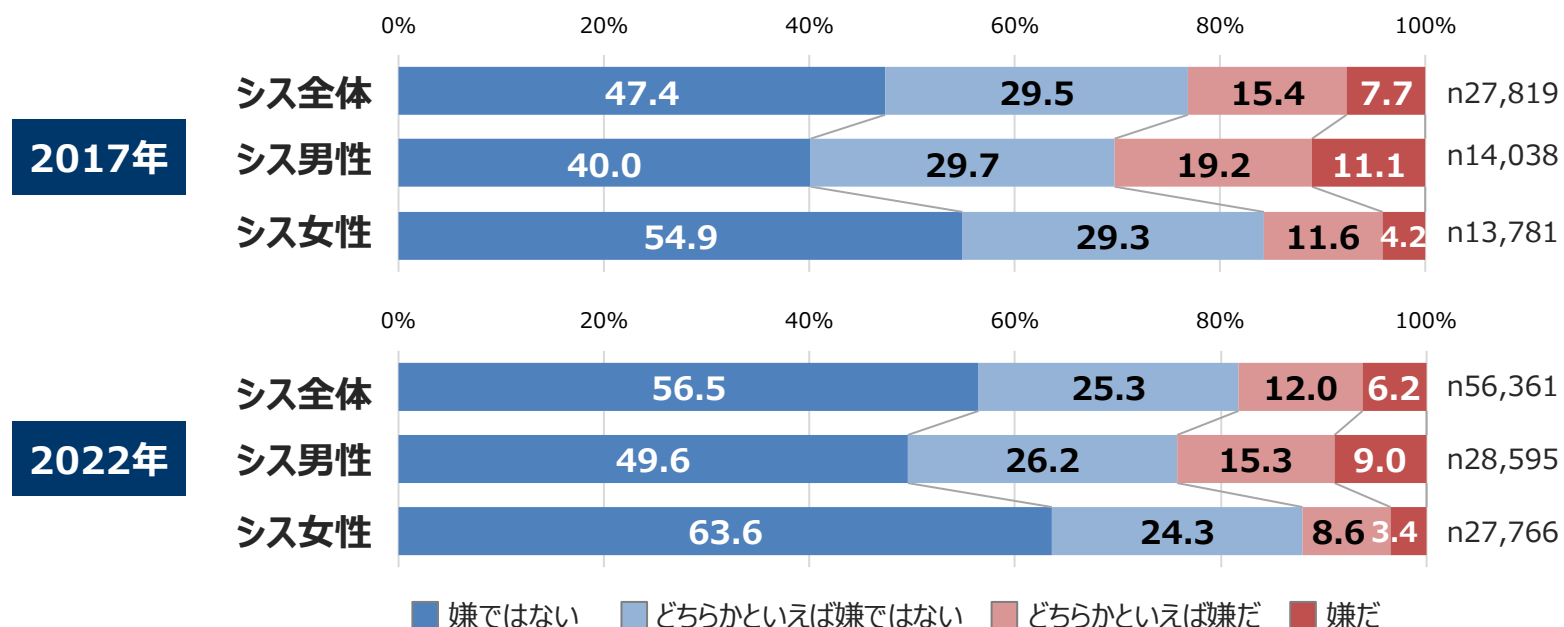
■ いる ■ そうかもしれない人がある ■ いないと思う ■ いない ■ わからない

■ いる ■ そうかもしれない人がある ■ いないと思う ■ いない ■ わからない

シスジェンダーの意識：②「職場にいること」への個人的感情（シス：全体・男女）2017年・2022年比較

- 2022年は、2017年に比べ「嫌ではない」と回答する人が男女共に10ポイント近く高くなっている。
- 男性よりも女性の方が「嫌ではない」と回答する人の割合が高いことは変わらない。

Q. 「LGBT等性的マイノリティ」について、あなたの感じ方や考え方についてお知らせください。
あなたの職場の同僚に、T（トランスジェンダー）の人がいたら、どう思いますか？ ※主に働いている職場についてお答えください。

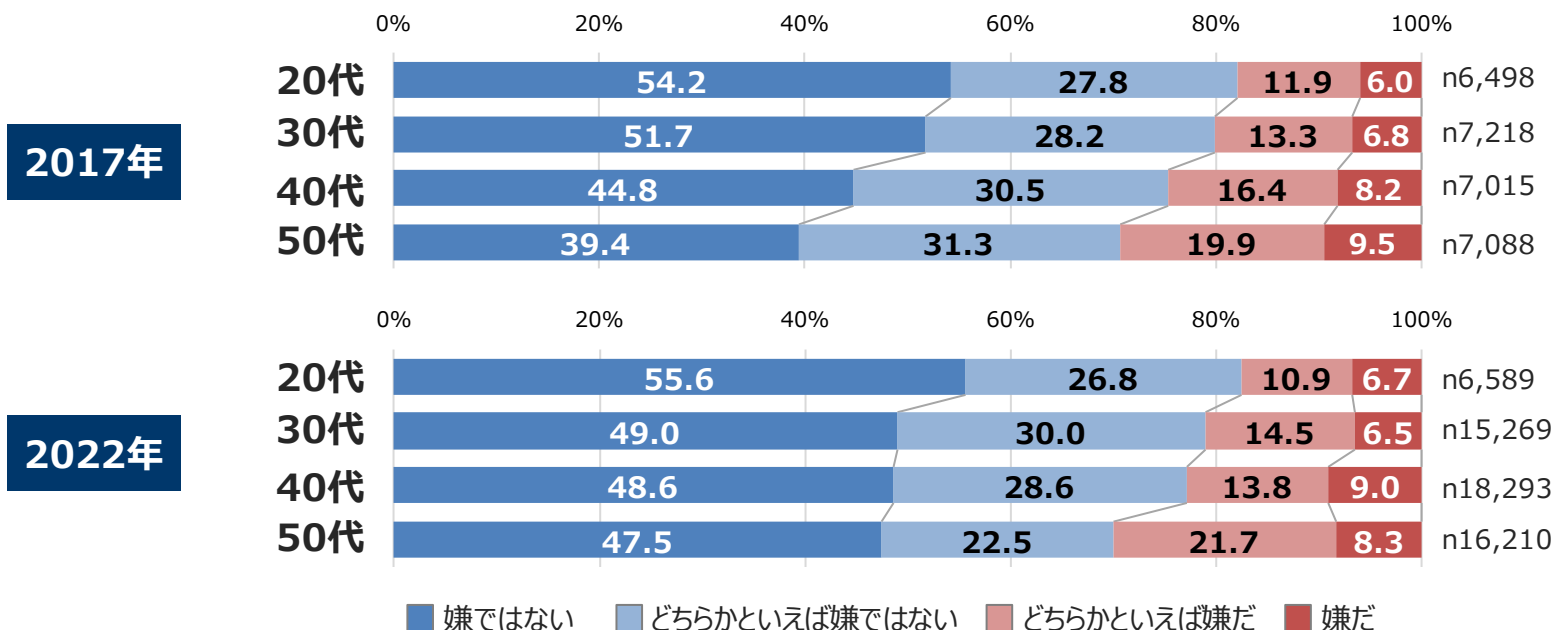


シスジェンダーの意識：②「職場にいること」への個人的感情（シス年代） 2017年・2022年比較

- 2017年と2022年を比較すると、20代、30代では大きな変化はみられないが、40代、50代では「嫌ではない」と回答する人の割合が伸びた。特に50代で顕著である。

Q. 「LGBT等性的マイノリティ」について、あなたの感じ方や考え方についてお知らせください。

あなたの職場の同僚に、T（トランスジェンダー）の人がいたら、どう思いますか？ ※主に働いている職場についてお答えください。

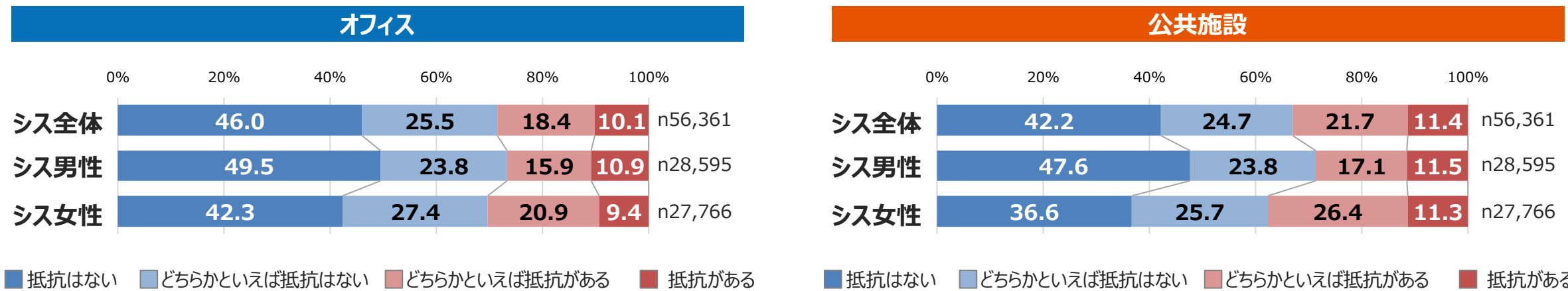


※2017年の20代には18歳・19歳を含む

シスジェンダーの意識：③自認性別のトイレ利用／オフィス・公共施設（シス：全体・男女）2022年

- シス全体の約7割が、“どちらかといえば”を含めて「抵抗はない」と回答しており、オフィスでは71.5%、公共施設では66.9%であった。
- “どちらかといえば”を含めて「抵抗はない」と回答した女性は、男性よりも低いものの両施設共6割以上で、オフィスでは69.7%、公共施設では62.3%であった。
- 施設間の比較では、不特定多数が利用する公共施設よりも、特定の人が利用するオフィスの方が「抵抗はない」と回答する人の割合がやや高く、男性よりも女性の方がその傾向が強い。

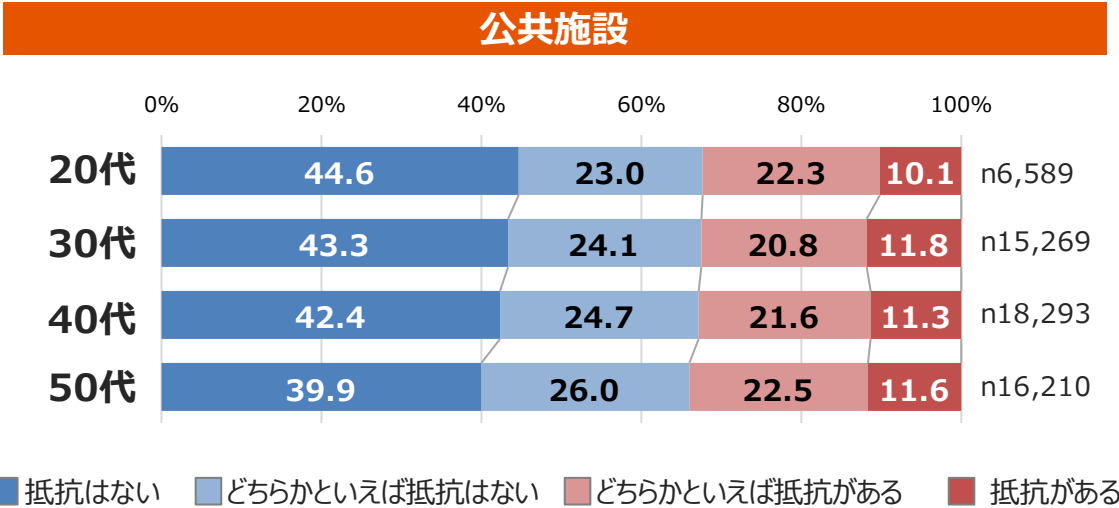
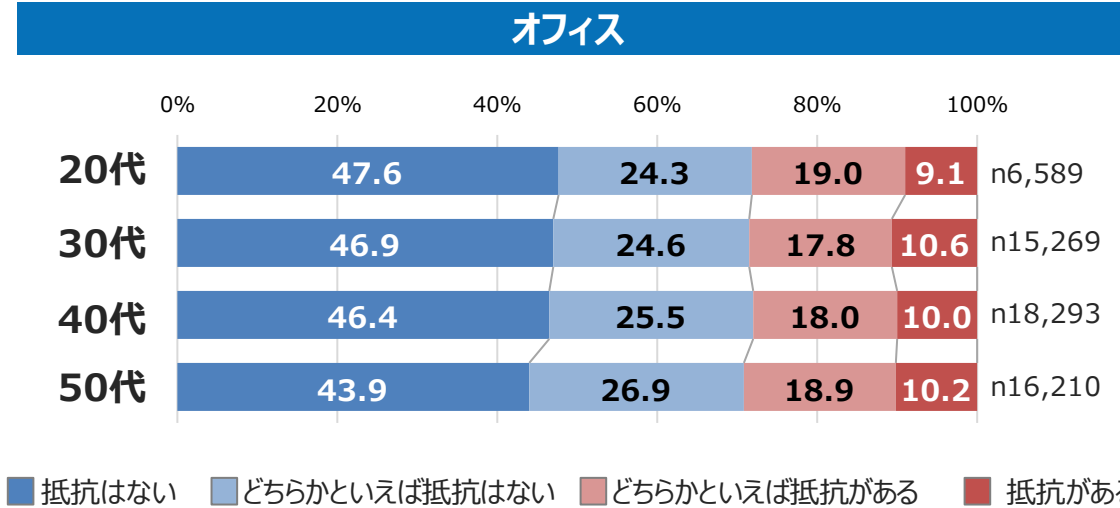
トランスジェンダー（出生時に戸籍や住民票に記載された性別と性自認が一致しない人の総称。）の中には、性自認（心の性別）に沿った男女トイレを利用したい人もいます。
Q. 上記を踏まえたうえで聞きます。あなたが利用しているトイレと同じトイレを、トランスジェンダーの人が性自認（心の性別）に沿って利用することについて、どう思いますか？



シスジェンダーの意識：③自認性別のトイレ利用／オフィス・公共施設（シス年代）2022年

- オフィス・公共施設共に、「抵抗はない」と回答した人の割合は年代が上がるほど下がる傾向がみられたが、大きな差はなかった。
- どの年代においても、不特定多数が利用する公共施設よりも、特定の人が利用するオフィスの方が「抵抗はない」と回答する人の割合がやや高い。

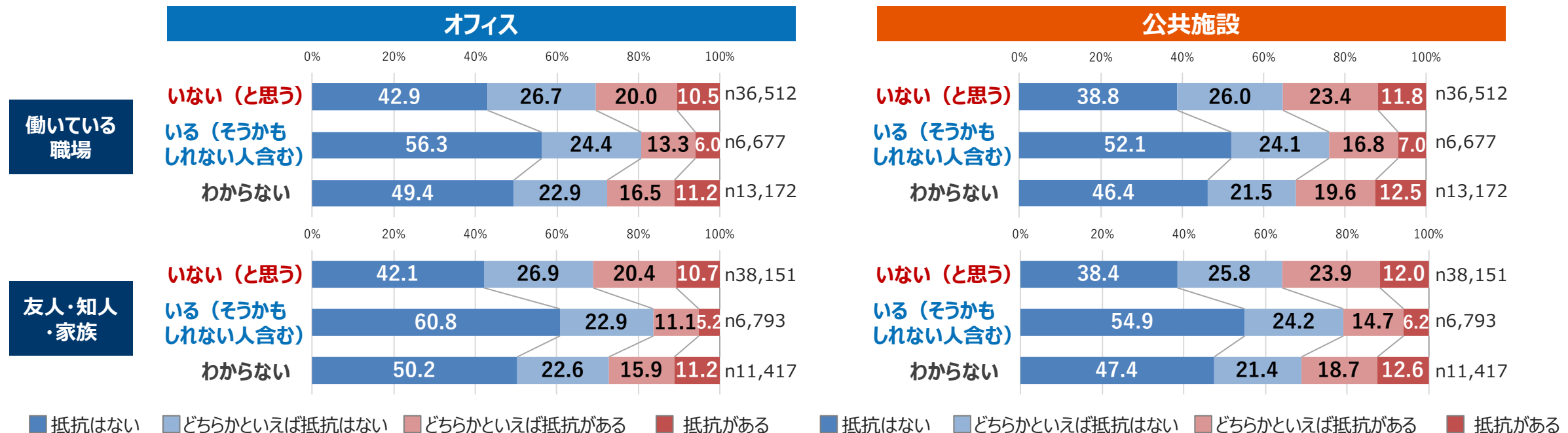
トランスジェンダー（出生時に戸籍や住民票に記載された性別と性自認が一致しない人の総称。）の中には、性自認（心の性別）に沿った男女別トイレを利用したい人もいます。
Q.上記を踏まえたうえで聞きます。あなたが利用しているトイレと同じトイレを、トランスジェンダーの人が性自認（心の性別）に沿って利用することについて、どう思いますか？



シスジェンダーの意識：③自認性別のトイレ利用／オフィス・公共施設（身近なトランスジェンダーの存在） 2022年

- トランスジェンダーが自認性別トイレを利用することについて、「抵抗はない」と回答した人は、「働いている職場」、「友人・知人・家族」にLGBT等性的マイノリティの人が「いる（そうかもしれない人も含む）」と回答した人が最も割合が高い。
- 「抵抗はない」と回答した人の割合は、「いない（と思う）」と回答した人の方が「わからない」と回答した人よりも低い。
- 「いる（そうかもしれない人も含む）」と回答した人では、「働いている職場」の場合よりも「友人・知人・家族」の場合の方が「抵抗はない」と回答した人の割合が高い。
- オフィスの方が、公共施設よりも「抵抗はない」と回答した人の割合が高い。

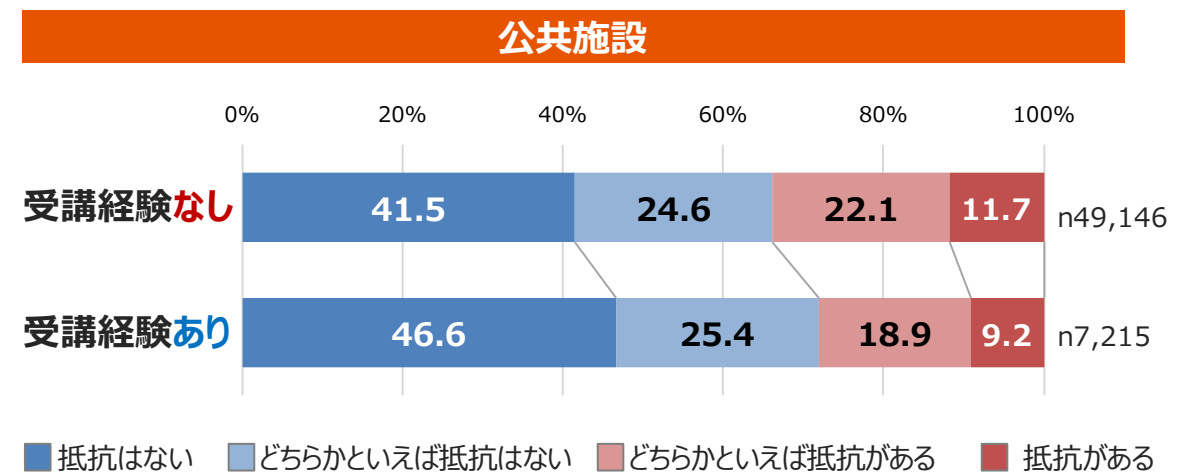
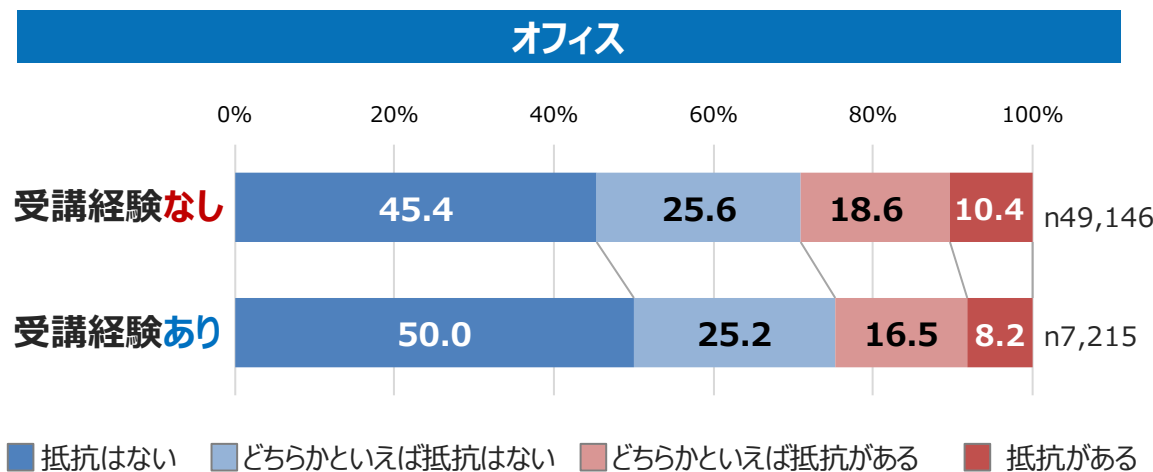
Q. あなたの周りには、LGBT等性的マイノリティの人がいますか？ × トランスジェンダー（出生時に戸籍や住民票に記載された性別と性自認が一致しない人の総称。）の中には、性自認（心の性別）に沿った男女別トイレを利用したい人もいます
Q. 上記を踏まえたうえでお願いします。あなたが利用しているトイレと同じトイレを、トランスジェンダーの人が性自認（心の性別）に沿って利用することについて、どう思いますか？



シスジェンダーの意識：③自認性別のトイレ利用／オフィス・公共施設（シス全体×研修受講経験の有無）2022年

- トランスジェンダーが自認性別トイレを利用することについて、「抵抗はない」と回答した人は、LGBT等性的マイノリティに関する研修やセミナー等の受講経験が「ない人」よりも「ある人」の方が「抵抗はない」と回答した割合が高い。「受講経験なし」よりも「あり」の方が、オフィスでは4.6ポイント、公共施設では5.1ポイントの差がある。
- 研修等の受講経験の有無にかかわらず、オフィスの方が公共施設よりも抵抗がない人の割合が高い。

Q. あなたの周りには、LGBT等性的マイノリティの人がいますか？ × トランスジェンダー（出生時に戸籍や住民票に記載された性別と性自認が一致しない人の総称。）の中には、性自認（心の性別）に沿った男女別トイレを利用したい人もいます
Q. 上記を踏まえたうえでお願いします。あなたが利用しているトイレと同じトイレを、トランスジェンダーの人が性自認（心の性別）に沿って利用することについて、どう思いますか？

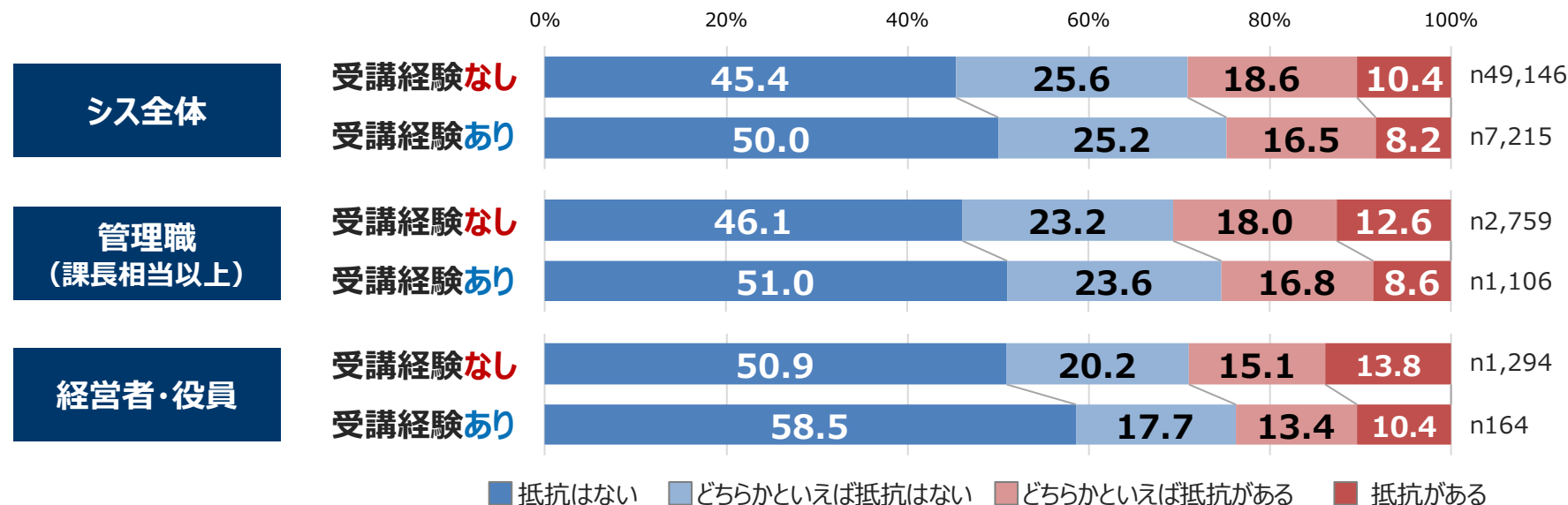


シスジェンダーの意識：③自認性別のトイレ利用／オフィス（シス全体・役職×研修受講経験の有無）2022年

- 研修等の受講経験の有無を職場での役職別にみると、トランスジェンダーの自認性別トイレ利用に「抵抗はない」と回答した人の割合は、シス全体と管理職（課長相当以上）では差がみられないが、経営者・役員になると受講経験なしでも50.9%、ありでは58.5%と最も高い。
- 受講経験の有無による「抵抗はない」の割合差も、経営者・役員が最も高く、7.6ポイントであった。
- 経営者・役員の意識および研修の効果が比較的高いことがうかがえる。ただし、その意識が管理職以下の社員に浸透していないという見方もある。

Q. あなたは、「LGBT等性的マイノリティ」に関する研修やセミナー等を受けたことがありますか？

× トランスジェンダー（出生時に戸籍や住民票に記載された性別と性自認が一致しない人の総称。）の中には、性自認（心の性別）に沿った男女別トイレを利用したい人もいます
Q. 上記を踏まえたうえでお願いします。あなたが利用しているトイレと同じトイレを、トランスジェンダーの人が性自認（心の性別）に沿って利用することについて、どう思いますか？

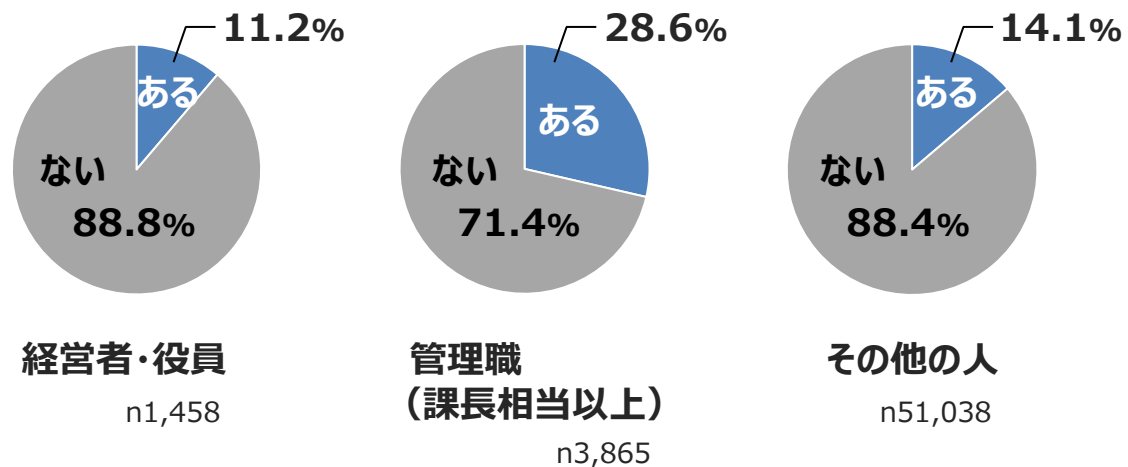


シスジェンダーの意識：LGBT等性的マイノリティに関する受講経験の割合（シス全体・役職）

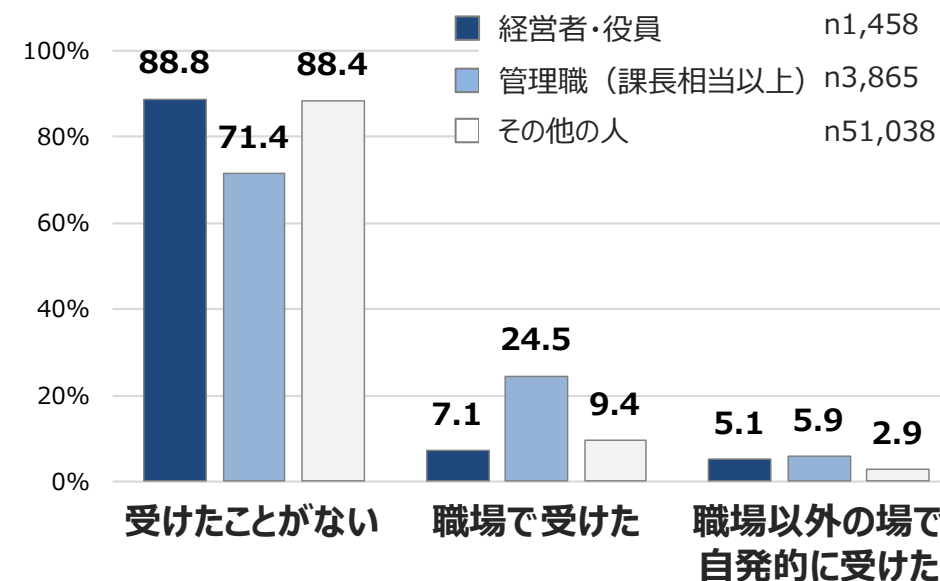
- LGBT等性的マイノリティに関する研修やセミナーを受講したことがある人の割合は、管理職（課長相当以上）が最も高く28.6%、経営者・役員およびその他の人では1割台であった。
- 職場で研修を受けたことがある人の割合も、管理職が最も高く24.5%、経営者・役員よりもその他の人がわずかに高いが1割未満。
- 職場以外で自発的に受けたことがある人は、経営者・役員、管理職が5%台、その他の人は2.9%であった。

研修受講経験の有無：役職による違い

Q. あなたは、「LGBT等性的マイノリティ」に関する研修やセミナー等を受けたことがありますか？



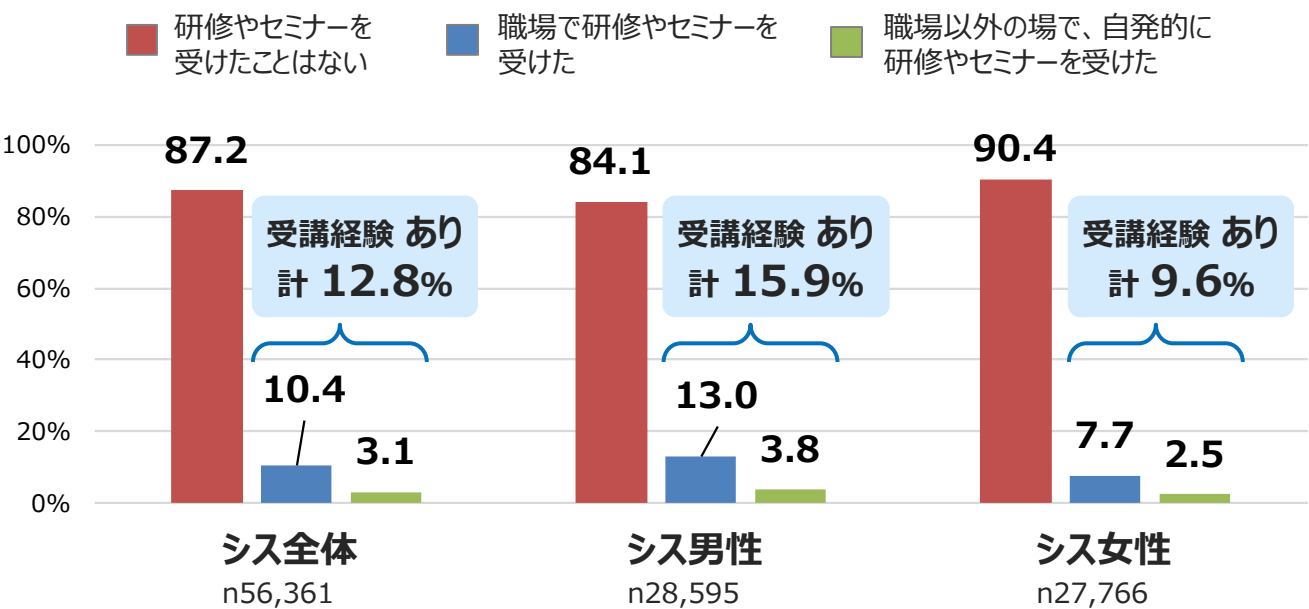
Q. あなたは、「LGBT等性的マイノリティ」に関する研修やセミナー等を受けたことがありますか？



シスジェンダーの意識：LGBT等性的マイノリティに関する受講経験の割合（シス：全体・男女）

- LGBT等性的マイノリティに関する研修やセミナーの「受講経験あり」は12.8%、9割近くが「受けたことはない」と回答。「受講経験あり」の場合、職場で受けた人は10.4%、職場以外で自発的に受けたことがある人は3.1%に留まった。
- 男女別では、女性よりも男性の方が受講経験がある人の割合が高く、男性15.9%に対し女性は9.6%で1割未満であった。特に職場での受講は5.3ポイントの差がある。
- 職場での役職では、男性のうち12.2%が管理職（課長相当以上）であるのに対し、女性は1.3%、経営者・役員では男性4.0%に対し女性は1.1%であり、管理職以上の男女の割合差が職場での研修受講経験の差に影響していることが示唆される。

Q. あなたは、「LGBT等性的マイノリティ」に関する研修やセミナー等を受けたことがありますか？



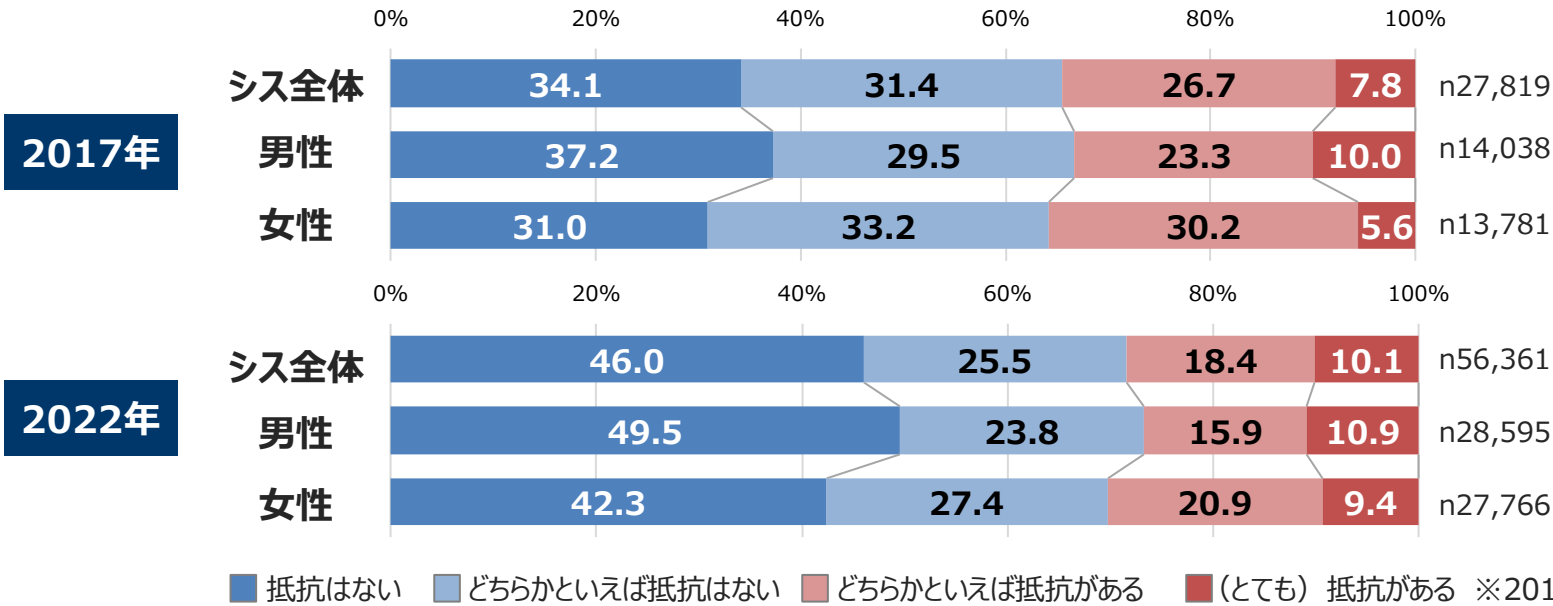
職種で「管理職以上」が占める割合

	経営者・役員	管理職 (課長相当以上)	n
男性	4.0%	12.2%	28,595
女性	1.1%	1.3%	27,776

シスジェンダーの意識：③自認性別のトイレ利用／オフィス（シス：全体・男女）2017年・2022年比較

- オフィスでトランスジェンダーが自認性別トイレを利用することについて「抵抗はない」と回答した人の割合は、シス全体では2017年では34.1%であったのに対し、2022年は11.9ポイント上昇し、46.0%であった。
“どちらかといえば”も含めると、「抵抗はない」は2017年は65.5%、2022年は71.5%で6.0ポイント増加した。この5年で自認性別によるトイレ利用に対する意識の変化がみられる。
- 男女別では、男女共に2017年よりも2022年の方が「抵抗はない」と回答した人の割合は高くなっており、特に2022年は男性が半数近い49.5%であった。
- 「職場にいること」への意識と男女が逆転しており（p.133）、女性の場合は当事者への個人的感情とトイレ利用への抵抗は別であることがうかがえる。

トランスジェンダー（出生時に戸籍や住民票に記載された性別と性自認が一致しない人の総称。）の中には、性自認（心の性別）に沿った男女別トイレを利用したい人もいます。
Q.上記を踏まえたうえでお願いします。あなたが利用しているトイレと同じトイレを、トランスジェンダーの人が性自認（心の性別）に沿って利用することについて、どう思いますか？

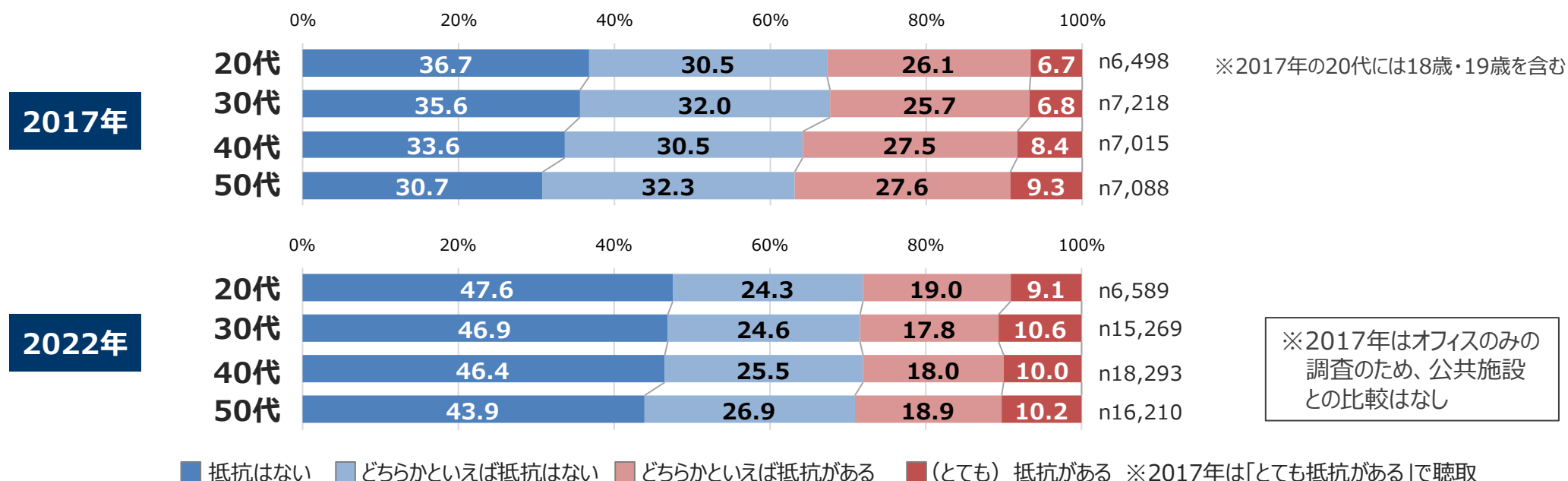


※2017年はオフィスのみの調査のため、公共施設との比較はなし

シスジェンダーの意識：③自認性別のトイレ利用／オフィス（シス年代）2017年・2022年比較

- オフィスでトランスジェンダーが自認性別トイレを利用することについて、2017年と2022年を年代別で比較すると、「抵抗はない」と回答した人はどの年代でも増加しており、2017年では3割台であったのに対し、2022年では4割台であった。
- 2017年では、若年層ほど「抵抗はない」の割合が高くなる傾向がみられた。2022年でも若干その傾向がみられたものの、年代による差は縮まっている。
- 「どちらかといえば」も含めて「抵抗はない」と回答した人は、どの年代でも2017年と比較して増加しており、7割以上であった。

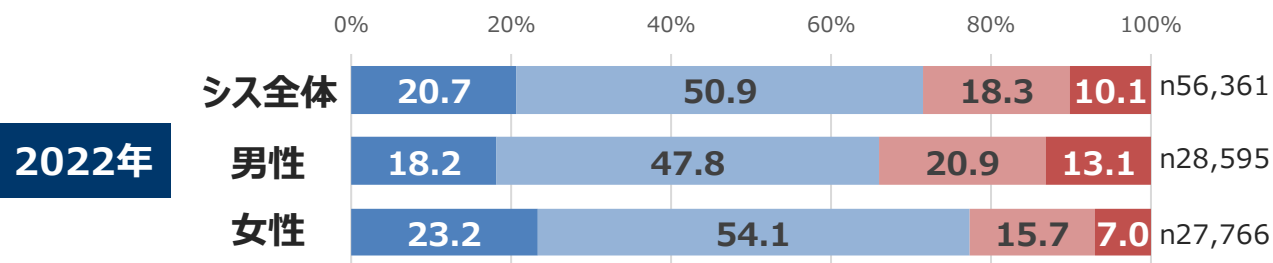
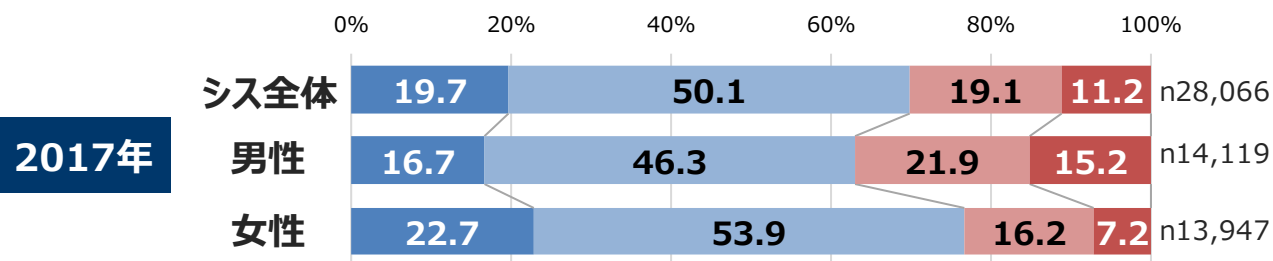
トランスジェンダー（出生時に戸籍や住民票に記載された性別と性自認が一致しない人の総称。）の中には、性自認（心の性別）に沿った男女別トイレを利用したい人もいます。
Q.上記を踏まえたうえでお願いします。あなたが利用しているトイレと同じトイレを、トランスジェンダーの人が性自認（心の性別）に沿って利用することについて、どう思いますか？



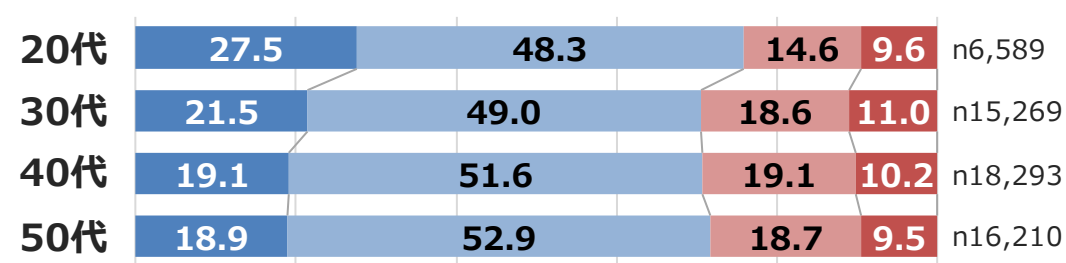
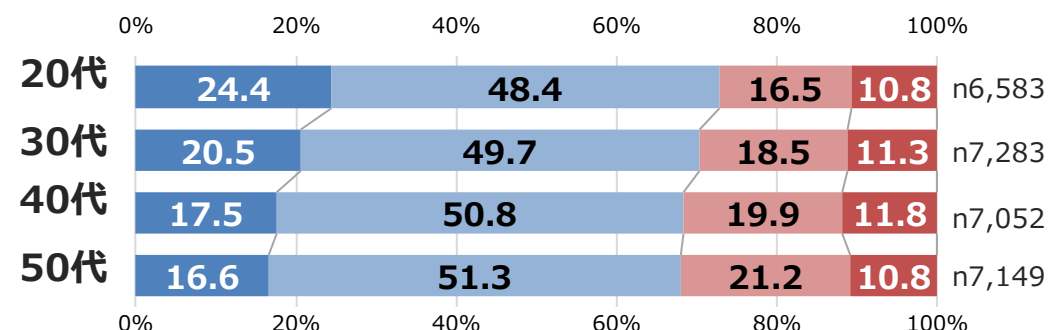
シスジェンダーの意識：④「職場での支援取り組み」について（シス：全体・男女・年代）2017年・2022年比較

- これからの会社・組織・職場は「LGBT等性的マイノリティの人たち」に対して何らかの支援をしたり、制度を整えたりすべきだと思うかについては、2017年より2022年の方が「そう思う」が微増しているものの、シス全体、男女、年代いずれにおいても大きな差はみられなかった。
- 「どちらかといえばそう思う」についても調査年による違いはほとんどみられず、全体として支援や制度を整えるべきと考える人の割合にはあまり変化がみられなかった。

Q. これからの会社・組織・職場は、「LGBT等性的マイノリティの人たち」に対して何らかの支援をしたり、制度を整えたりすべきだと思いますか？
※あなたの働いている会社・組織。職場に限らず、一般的な考え方としてお知らせください。



■ そう思う ■ どちらかといえばそう思う ■ どちらかといえばそう思わない ■ そう思わない



■ そう思う ■ どちらかといえばそう思う ■ どちらかといえばそう思わない ■ そう思わない

シスジェンダーの意識：トランスジェンダーに対する「会社支援賛同度×個人感情」

トランスジェンダーに対する「理解度・寛容度」による回答傾向をみるため、「**会社の支援に対する賛同度**」と「**トランスジェンダーに対する個人感情**」の組み合わせにより、シスジェンダーを**4種類に分類**した。

①トランスジェンダーが職場にいることに対する個人感情

Q.あなたの職場の同僚に、T（トランスジェンダー）の人がいたら、どう思いますか？
※2017年は「とても抵抗がある」、2022年は「抵抗がある」で聴取

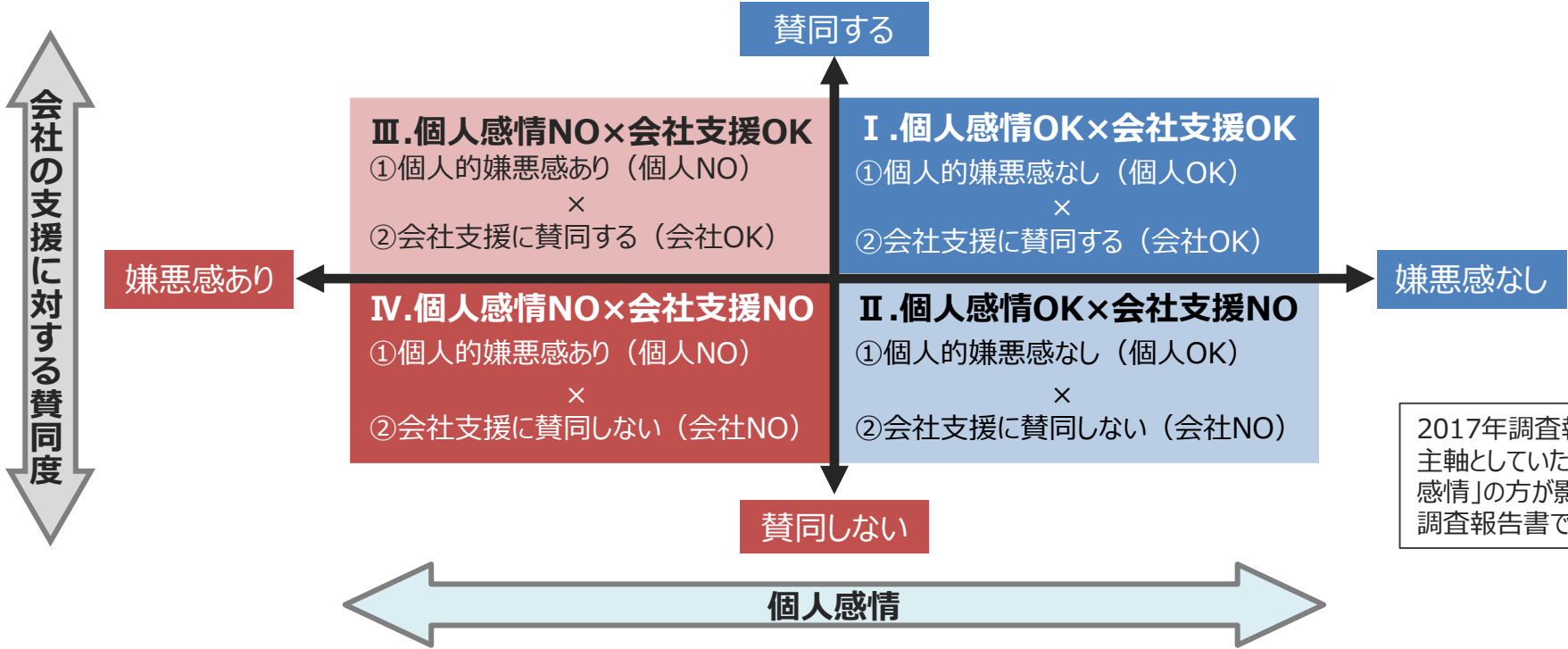
抵抗はない／どちらかといえば抵抗はない = 個人感情OK
(とても) 抵抗がある／どちらかといえば抵抗がある = 個人感情NO



②会社が性的マイノリティに対して支援することに対する賛同度合

Q.これからの会社・組織・職場は、「LGBTの人たち」に対して何等かの支援をしたり、制度を整えたりするべきだと思いますか？ ※あなたの働いている会社・組織・職場に限らず、一般的な考え方として。

そう思う／どちらかといえばそう思う = 会社支援OK
そう思わない／どちらかといえばそう思わない = 会社支援NO



2017年調査報告書では「会社支援への賛同度」を主軸としていたが、「会社支援賛同度」よりも「個人感情」の方が影響が強く出た結果を踏まえ、2022年調査報告書では「個人感情」を主軸に変更。

シスジェンダーの意識：トランスジェンダーに対する「会社支援賛同度×個人感情」（シス：全体・男女・年代）2017年・2022年比較

- 「Ⅰ.個人感情OK×会社支援OK層」の割合は、2017年はシス全体で6割未満であったのに対し、2022年は64%に増加。女性よりも男性の方が伸び率が高く、49.6%から6.8ポイント増の56.4%であった。
年代別では全年代でⅠ層は増加し、2017年では5割台であった40代以上も2022年には6割を超えた。特に50代の伸び率が高く、54.5%から7.7ポイント増の62.2%であった。
- 「Ⅳ.個人感情NO×会社支援NO層」の割合は、2017年より2022年の方が男女、年代別共に減少傾向。2022年は男性が14.6%に対し、女性は6.6%。年代別では20代が6.9%と最も低いが、30代以上も約1割であり、年代による差はあまりみられない。

Q.あなたの職場の同僚に、T（トランスジェンダー）の人がいたら、どう思いますか？

※2017年は「とても抵抗がある」、2022年は「抵抗がある」で聴取。

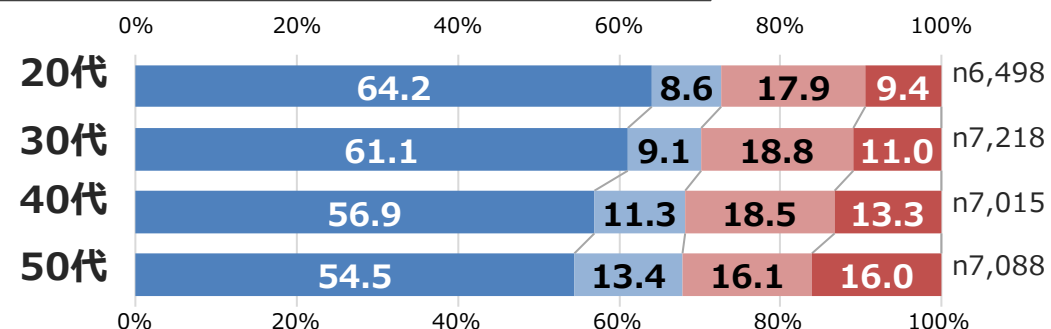
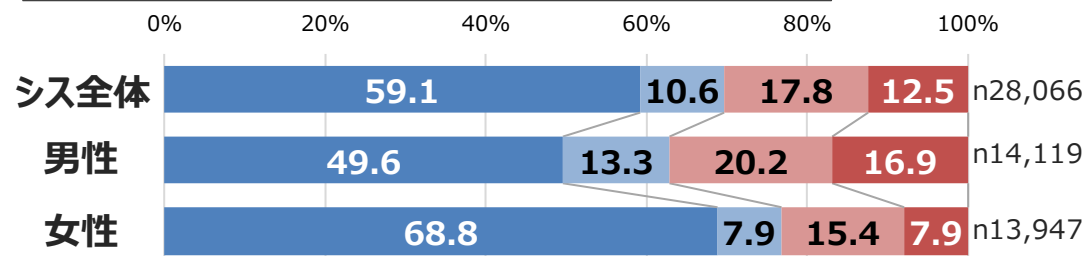
抵抗はない／どちらかといえば抵抗はない = 個人感情OK
(とても) 抵抗がある／どちらかといえば抵抗がある = 個人感情NO

×

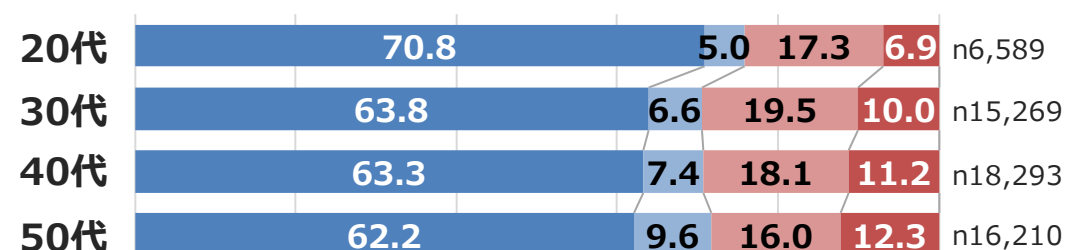
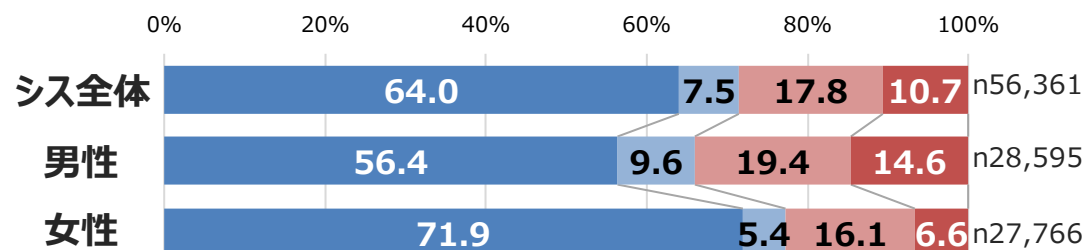
Q.これからの会社・組織・職場は、「LGBTの人たち」に対して何等かの支援をしたり、制度を整えたりするべきだと思いますか？ ※あなたの働いている会社・組織・職場に限らず、一般的な考え方として。

そう思う／どちらかといえばそう思う = 会社支援OK
そう思わない／どちらかといえばそう思わない = 会社支援NO

2017年



2022年



■ Ⅰ.個人感情OK×会社支援OK

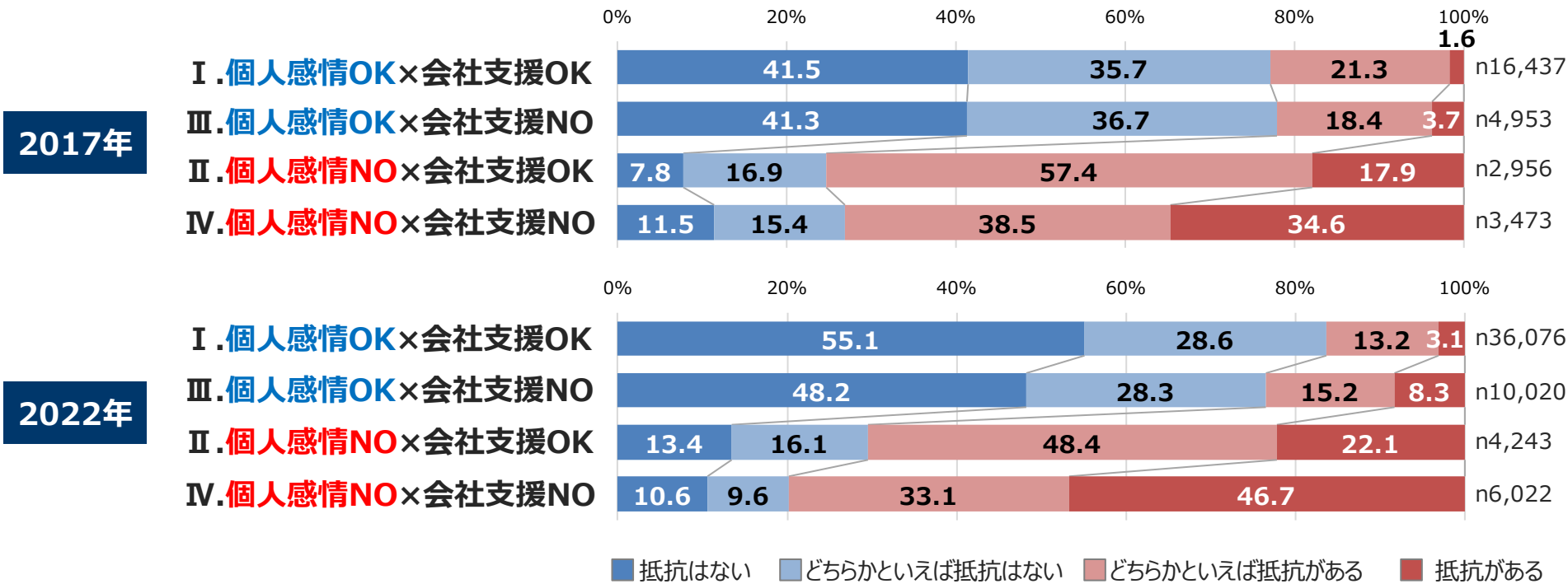
■ Ⅱ.個人感情OK×会社支援NO

■ Ⅲ.個人感情NO×会社支援OK

■ Ⅳ.個人感情NO×会社支援NO

シスジェンダーの意識： ③自認性別のトイレ利用／オフィス（トランスへの会社支援賛同度×個人感情） 2022年

- 「自認する性別のトイレ利用」の抵抗の有無については、2017年・2022年共に、「会社支援への賛同度」よりも、トランスジェンダーへの「個人的感情（職場にいることに対する抵抗感）」の方が強く影響している。
- 「Ⅰ.個人感情OK×会社支援OK層」では、自認性別のトイレ利用に「抵抗はない」と回答した人が41.5%から13.6ポイント増の55.1%で過半数であるのに対し、「Ⅳ.個人感情NO×会社支援NO層」では、「抵抗がある」と回答した人が34.6%から12.1ポイント増の46.7%で半数近い。
- 「個人的嫌悪感」と「トイレ利用への抵抗感」の関連性がより強化され、二極化傾向がみられる。



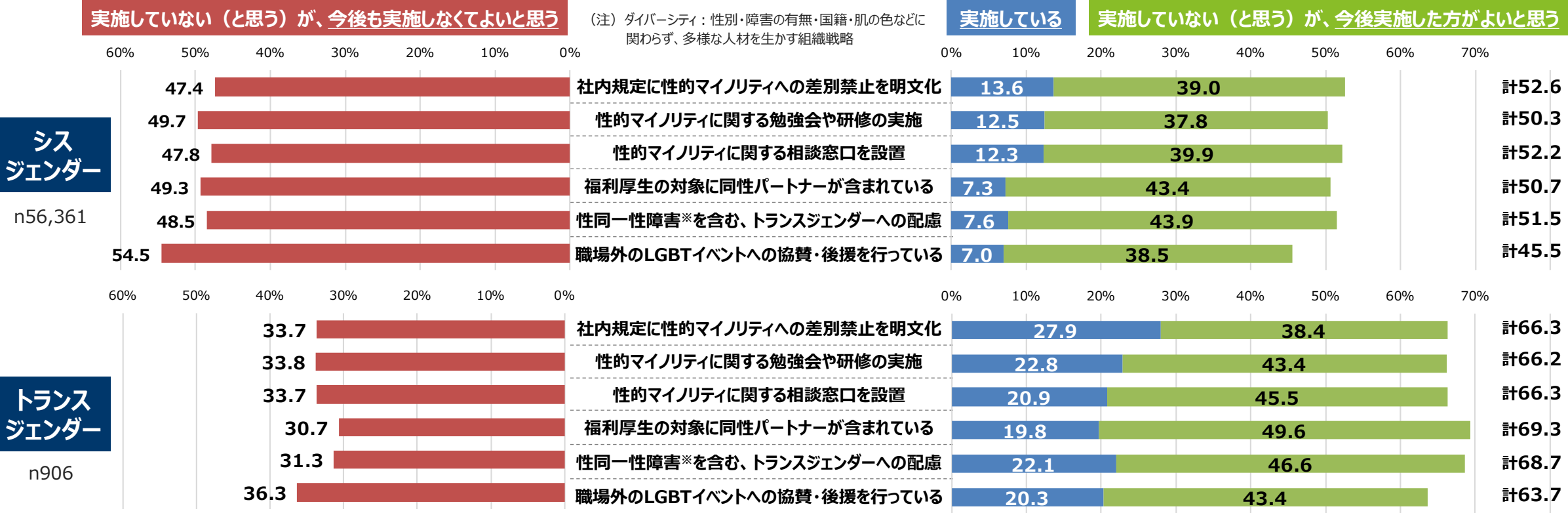
3. 調査結果報告

3-12. ダイバーシティに対する企業の取り組みへの意識

「LGBT等性的マイノリティ」に対するダイバーシティへの取り組み状況と意識（シス・トランス）

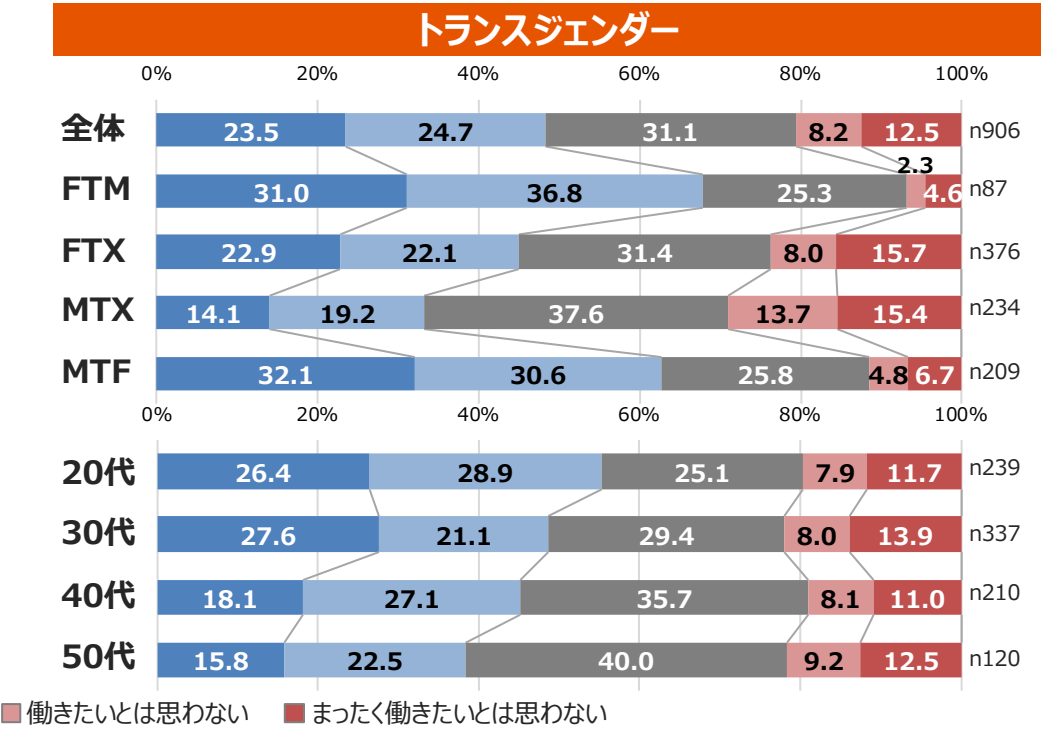
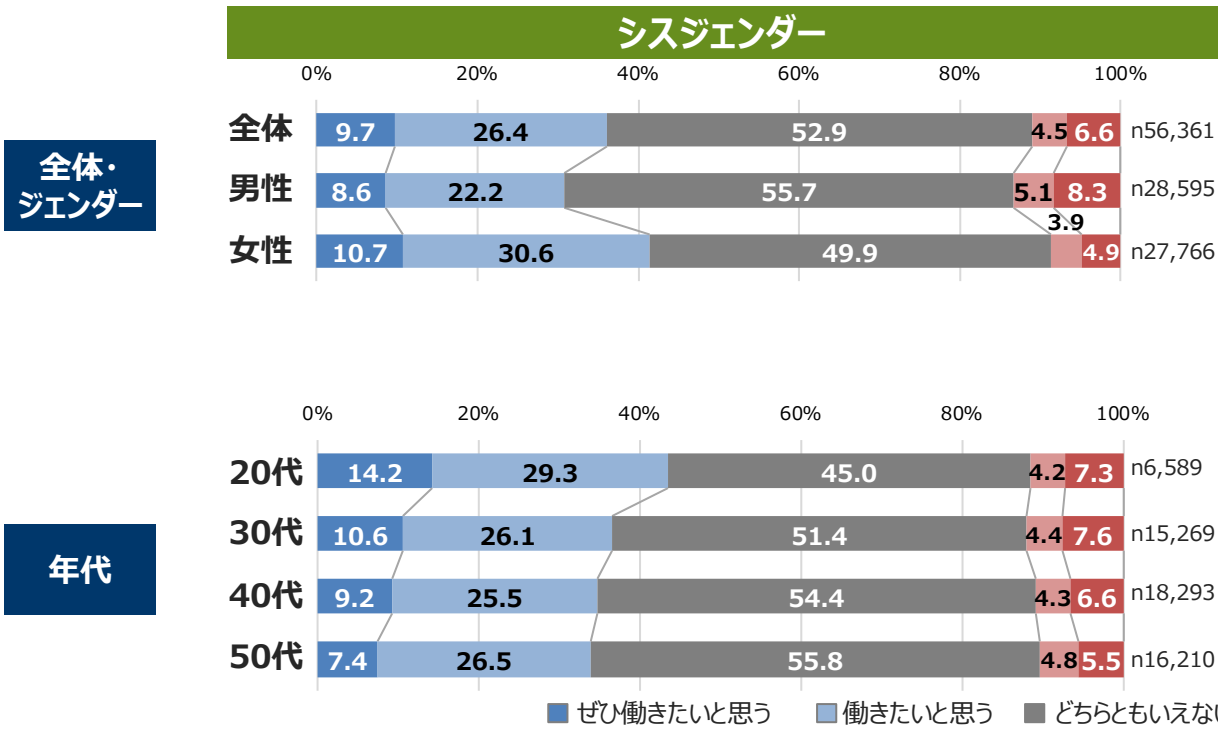
- 職場で取り組みを「実施している」と回答した人は、全項目でシスは1割前後であるのに対し、トランスは2割前後であった。実際に制度が存在しても、シスは認識していない可能性もある。
- 「今後実施した方がよいと思う」と回答した人は、全項目でシスは4割前後、トランスは4～5割弱であった。最も割合の高い項目は、シスでは「性同一性障害※を含むトランスジェンダーへの配慮」の43.9%、トランスでは「福利厚生の対象に同性パートナーが含まれている」の49.6%。
- 「今後も実施しなくてよいと思う」と回答したシスは、全項目で5割前後であった。イベント協賛や後援がシス・トランス共に最も割合が高く、シスは54.5%で半数超え、トランスは36.3%であった。トランスのその他の項目は3割程度であり、シスとの差が大きい。

Q. 「LGBT等性的マイノリティ」に対するダイバーシティ注) への取り組みについて、あなたの所属する会社・組織・職場での実施状況をお知らせください。



LGBT等性的マイノリティも含むダイバーシティ対応企業への就労意向（シス・トランス・年代）

- LGBT等性的マイノリティも含むダイバーシティ対応企業で「ぜひ働きたい」と回答した人は、シス全体では9.7%、トランス全体では23.5%であった。
ジェンダー別では、シスでは男性よりも女性の方がやや割合が高く、トランスではFTM・MTFが約3割、FTXが22.9%、MTXは14.1%で最も低かった。年代別では、シス・トランス共に20代・30代の方が40代・50代よりも割合が高い。
- 「まったく働きたくない」と回答した人は、シス全体では6.6%、トランス全体では12.5%でシスよりもトランスの方が割合が高い。
ジェンダー別ではシスは女性より男性の方がやや高く、トランスはFTM・MTFの数%に対し、Xジェンダーは15%程度であった。
- 「どちらともいえない」の割合はシスでは最も高く、女性と20代を除き過半数を占めた。トランスでは年代と比例して増加傾向にある。



4. 補足資料（用語解説、参考文献等）

補足資料：用語解説

ことば	意味
性自認（Gender identity）	自分の性別をどう認識しているか？という概念。「性同一性」ということもある。
自認する性別	自分自身が認識している性別。男性、女性だけでなく、中性、無性、Xジェンダー、決めたくないなどさまざま。
出生時に付けられた性別 （Assigned gender at birth）	出生時の生物学的な性をもとに判断された性別。男性/女性の二者択一で、日本では出生届をもとに、戸籍や住民票などに記載される。 ※今回の調査では、「出生時の戸籍の性別」を使用。近年では「出生時に割り当てられた性別」が使用されることが増えた。
性別違和（Gender dysphoria）	出生時に付けられた性別に対し、不一致・違和感を覚えること。
トランスジェンダー（Transgender）	出生時に付けられた性別と性自認が一致しない人の総称。
シスジェンダー（Cis gender）	出生時に付けられた性別と性自認が一致し、それに従って生きる人。トランスジェンダーではない人。
性同一性障害 （Gender Identity Disorder）	トランスジェンダーの中でも、性別違和が非常に強く、苦悩する人に対して使われる医学的な「診断名」。GIDはGender Identity Disorderの略称。 2018年6月、世界保健機関（WHO）は、国際疾病分類の第11回改訂版（ICD-11）にて精神疾患から除外し、Gender Incongruence に置換えを決定（邦訳は「性別不合」）。2019年5月正式承認、2022年1月発効。
Xジェンダー（X-gender）	出生時に付けられた性別にかかわらず、性自認が男性／女性に二分できない人、男女の枠にとらわれない性のあり方の人。性自認は中性や、男女どちらにも属さない無性、どちらにも属する両性など、さまざま。Xジェンダーは日本独特の表現で、英語圏ではノンバイナリー（Nonbinary）という。
FTM（Female To Male）*	出生時に付けられた性別は女性だが、性自認は男性である人。トランス（ジェンダー）男性ともいう。
MTF（Male To Female）*	出生時に付けられた性別は男性だが、性自認は女性である人。トランス（ジェンダー）女性ともいう。
FTX（Female To X-gender）*	出生時に付けられた性別が女性である、Xジェンダー。
MTX（Male To X-gender）*	出生時に付けられた性別が男性である、Xジェンダー。
自認する性別のトイレ	自分自身が認識している性別のトイレのこと。男性用トイレまたは女性用トイレ。ただし、「Xジェンダー用トイレ」はない。
出生時戸籍性別のトイレ	出生時に付けられた戸籍の性別のトイレのこと。男性用トイレまたは女性用トイレ。
性別不問のトイレ	男女共用トイレなど、性別を限定しないトイレのこと。
LGBT（エルジービーティー）	レズビアン(女性同性愛者)、ゲイ(男性同性愛者)、バイセクシュアル(両性愛者)、トランスジェンダーのそれぞれの英語の頭文字を組み合わせたことばで、性的マイノリティ（性的少数者）の総称のひとつ。LGBは性的指向（どのような性別の人を好きになるか/ならないか、ということ。）に関するマイノリティ、Tは性自認に関するマイノリティ。
SOGI（ソジ）	性的指向（Sexual Orientation）と性自認(Gender Identity)の頭文字を組み合わせたことば。性的指向（SO）や性自認（GI）は、すべての人に関わる属性。性表現（Gender Expression）と性的特徴（生物学的・解剖学的性別：Sex Characteristics）とあわせて「SOGIESC（ソジエスク）」ということもある。

補足資料：参考文献 ※著者名50音順

- 1) 池田官司 2013.「性同一性障害当事者数の推計」『産婦人科の実際』 62: pp.2105-2109.
- 2) 大島義孝・佐藤俊樹 2016.「性別違和の受診状況と人口割合」『こころの科学』 189: pp.28-32.
- 3) 佐藤俊樹・齋藤利和ほか 2014.「『性同一性障害に関する委員会』による性同一性障害症例数と国内性別適合手術例数の推定調査」『GID(性同一性障害)学会雑誌』 7: pp.73-75.
- 4) 寺原真希子編集代表、弁護士法人東京表参道法律事務所編著 2018.
「自認する性別に基づくトイレ・更衣室利用の可否」『ケーススタディ職場のLGBT』 ぎょうせい pp.84-88.
- 5) 永野靖 2018.「事例紹介：経産省事件（性同一性障害者の職場における処遇）」『ジェンダーと法』 No.15: pp.132-136.
- 6) 日本労働組合連合会 2016.「LGBTに関する職場の意識調査 報道発表資料」
<https://www.jtuc-rengo.or.jp/info/chousa/data/20160825.pdf>
- 7) 針間克己 2017.「『性同一性障害に関する委員会』による性別違和が主訴の症例数と国内外性別適合手術例数の推定調査 第2回」『GID (性同一性障害)学会雑誌』 10: pp.145-146.
- 8) 東優子 2016.「トランスジェンダー概念と脱病理化をめぐる動向」『こころの科学』 189 : pp.66-72.
- 9) 東優子 2018.「トランスジェンダーの医療と人権」『ジェンダーと法』 No.15: pp.120-131.
- 10) 柳沢正和、村木真紀、後藤純一 2015.『職場のLGBT読本』 実務教育出版
- 11) 株式会社LIXIL・NPO法人虹色ダイバーシティ 2016.『性的マイノリティのトイレ問題に関するWEB調査結果』
https://newsrelease.lixil.co.jp/user_images/2016/pdf/nr0408_01_01.pdf
- 12) Health Policy Project, Asia Pacific Transgender network, United nations Development Programme. 2015.
Blueprint for the Provision of Comprehensive Care for Trans People and Trans Communities. Washington, DC: Futures Group, Health Policy Project.
- 13) 釜野さおり・石田仁・岩本健良・小山泰代・千年よしみ・平森大規・藤井ひろみ・布施香奈・山内昌和・吉仲崇：2019.『大阪市民の働き方と暮らしの性の多様性と共生にかんするアンケート報告書（単純集計結果）』JSPS科研費 16H03709「性的指向と性自認の人口学－日本における研究基盤の構築」・「働き方と暮らしの多様性と共生」研究チーム（代表 釜野さおり）編 国立社会保障・人口問題研究所 内

補足資料：国内調査におけるトランスジェンダーの構成比、割合について

前ページの参考文献におけるトランスジェンダーの構成比および割合については、下記のとおり

- ・参考文献 1) : 性同一性障害の受診者数 全国で推定約4万6千人
- ・参考文献 3) : 2012年末までの国内医療機関受診者数合計は15,105例。
FTM : MTFの構成比は1.83 : 1 (FTM64.7%、MTF35.3%)
(日本精神神経学会「性同一性障害に関する委員会」による、性同一性障害・性別違和の受診者が多数いると推測される機関への調査 ; 7)も同様)
- ・参考文献 7) : 2015年末までの国内医療機関の受診者数合計22,435例のうち、FTM 14,747例 (65.7%)、MTF 7,688例 (34.3%)
診断書数合計4671例のうち、性別不明813例を除き、FTM 2,929例 (75.9%)、MTF 929例 (24.1%)
- ・参考文献 11) : 出生時戸籍性別が女性のトランスジェンダー FTM・FTX : 62.5% (n270)
出生時戸籍性別が男性のトランスジェンダー MTF・MTX : 37.5% (n162)
FTM、MTFに限定した構成は、FTM 54.7% (n128)、MTF 45.2% (n106)
- ・参考文献13) : 出生時の性別が男で、現在の認識が「女」である人は6人、「その他」と回答した人は6人。これらの回答を「トランスジェンダー」とみなすと、出生時男性1,754人の中の「トランスジェンダー」割合は0.7% (12人)。
出生時の性別が女で、現在の認識が「男」と回答した人は4人、「その他」と回答した人は16人。これらの回答者を「トランスジェンダー」とみなすと、出生時女性2,517人の中の「トランスジェンダー」割合は0.8% (20人)。

トイレのオールジェンダー利用に関する意識調査 報告書（公開用資料）

Public Report on the “2022 Study of Attitudes Regarding Restrooms for All-Gender Use”

2026年3月31日 第1版第1刷発行

編集・発行 —— トイレのオールジェンダー利用に関する研究会
Research Group on Restrooms for All-Gender Use
(Kanazawa University, COMANY INC., LIXIL Corporation)
国立大学法人 金沢大学内

無断転載禁止 ©トイレのオールジェンダー利用に関する研究会2022（金沢大学、コマニー、LIXIL）

